

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9

契約請求

PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
契約請求 PeopleBook
SKU PM89JCB0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失および故意を含む）のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

契約請求の概要	1
契約請求またはサービス請求の選択	2
システム・インテグレーション	2
システムの機能	7
契約請求テーブル	10
システム・セットアップ・テーブル	10
ワークテーブル管理で使用するテーブル	11
収益認識で使用するテーブル	11
請求書処理で使用するテーブル	11
契約の設定	11
システム・セットアップ	13
ワークテーブル管理	14
取引の処理	14
契約請求のメニュー概要	15
契約情報	16
契約の設定	16
契約の各部について	16
請求タイプ	17
変更オーダー	17
多通貨契約	18
契約マスター情報の設定	18
上限規則の割当て	29
留保金規則の定義	34
請求行への支払後請求条件の定義	40
独立契約請求行の処理	41
契約の一括請求行の定義	41
単価用の契約請求行の定義	53
マイルストーン請求用の契約請求行の定義	61
マイルストーンまたは進捗請求イベントの完了	66
進捗請求用の契約請求行の定義	67
タイム・アンド・マテリアル用の契約請求行の定義	71
依存契約請求行の処理	75
契約の前払の処理	76
契約情報の処理	100

契約情報の検索	100
契約請求情報の状況の検討	101
契約請求行の改訂	103
予算と予定金額の残高調整	104
契約請求行のテキストの入力	104
契約情報の印刷	108
ワークテーブル管理	110
ワークテーブルの生成	110
給与計算の処理	111
間接労務費の処理	111
追加料金の処理	113
ワークテーブルでの親/子関係の定義	113
ワークテーブル取引の表示	113
適格性コードの割当て	114
順序番号の割当て	115
ワークテーブルの生成	116
ワークテーブルの検討	118
ワークテーブル取引の検討	120
ワークテーブル取引の改訂の検討	125
取引合計の検討	125
間接費の取引の検討	126
追加料金取引の検討	128
〈ワークテーブル合計レポート〉の検討	130
〈ワークテーブル取引の例外レポート〉の検討	131
〈契約別ワークテーブル取引〉レポートの検討	131
ワークテーブル取引の検討	132
既存の元帳取引のワークテーブルへの追加	133
ワークテーブル取引の割増しの変更	135
アドホック・ワークテーブル取引の入力	140
保留状況の割当て	145
非タイム・アンド・マテリアルのワークテーブル取引の改訂	146
ワークテーブル取引の分割	147
ワークテーブル取引の再作成	151
ワークテーブル取引のワークテーブル履歴テーブルへの移動	152
ワークテーブル取引の印刷	153
ワークテーブル履歴の処理	155
履歴からの取引の移動	155
請求ワークテーブル履歴の除去	158
請求書の処理	160
請求書の生成のバージョンとモード	163
仕訳の振替	164

関連する総勘定元帳バッチの処理	164
請求書処理の伝票タイプ	165
請求書の自動生成	165
請求書バッチの処理	173
請求書情報の検討	173
請求書バッチ見出し情報の改訂	186
請求書情報の削除	188
タイム・アンド・マテリアル請求書の支払項目からのワークテーブル取引の削除	188
請求書の新しいバッチへの移動	190
請求書情報の手動作成	191
タイム・アンド・マテリアル請求書へのワークテーブル取引の追加	193
非タイム・アンド・マテリアル請求行の請求金額の改訂	199
クレジット・メモの作成	200
予備的な請求書仕訳の作成	202
一時変更日付の改訂	204
予備的な請求書仕訳の検討	205
最終請求書仕訳の作成	206
請求書バッチと関連する総勘定元帳バッチの転記	211
請求書の印刷	212
請求書の自動印刷	212
請求書の手動印刷	213
請求書履歴の処理	216
履歴からの請求書の印刷	217
〈契約履歴レポート〉の印刷	218
最終請求書を無効にする	219
留保金の処理	221
留保金額の改訂	222
留保金の再計算	223
留保金のリリース	224
収益認識	228
収益認識の理解	229
仕訳の自動作成のバージョンとモードの選択	229
仕訳の自動作成での対話型バージョンの使用	230
収益認識の伝票タイプ	230
仕訳の振替	231
関連する総勘定元帳バッチの処理	231
収益調整	231
収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った場合の調整	232
収益金額と請求金額を別々に割り増した場合の調整	232
契約請求行の収益および請求	233
収益の逆仕訳	233
一括および単価収益レコードのワークテーブルへの追加	234
予備的な総勘定元帳仕訳の生成	236

仕訳の種類	237
総勘定元帳バッチの処理	239
予備的な総勘定元帳仕訳の検討	239
予備的な総勘定元帳仕訳の改訂	240
総勘定元帳最終仕訳の作成	240
総勘定元帳バッチの転記	242
契約収益集計テーブルの再作成	243
システム・セットアップ	244
セットアップ機能	244
請求システム固定情報の設定	244
収益金額と請求金額を別々に割り増した場合の注意点	245
請求料金/割増テーブルの主キー	253
請求料金/割増テーブルの補助キー	255
割増計算	255
複合割増し	256
追加料金情報	256
〈請求料金/割増テーブル一覧〉の印刷	268
〈請求料金/割増テーブル失効日〉レポートの印刷	268
追加料金規則の定義	269
〈追加料金テーブル一覧〉の印刷	274
追加料金規則の既存の割増規則への追加	275
AAI の設定	276
請求 AAI の処理	277
請求 AAI の主キー	277
請求 AAI のキー・タイプとテーブル・キー	280
請求 AAI の補助キー	281
請求書および元帳仕訳生成用の AAI 処理	282
基本規則の定義	286
再配賦規則の定義	295
請求 AAI テーブル情報の検討	301
ユーザー定義コードの理解	302
テスト請求書および最終請求書の番号付け	305
請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定	307
請求書の印刷処理	308
請求書フォーマットの設定	311
請求書フォーマット・テンプレート	311
スマート・フィールドを使用した請求書フォーマット・テンプレートの修正	312
多通貨の設定	317

通貨モード	317
固定金額と非固定金額	317
請求書の通貨モード	318
多通貨取引	318
多通貨固定情報の設定	320
多通貨の請求料金/割増しテーブルの設定	321
多通貨の追加料金の設定	324
多通貨の契約の設定	325
請求書印刷バージョン相互参照の多通貨処理用の設定	325
ワークテーブル生成の多通貨処理	325
ワークテーブル改訂の多通貨処理	326
請求書生成の多通貨処理	327
請求書改訂の多通貨処理	328
請求書印刷の多通貨処理	331
請求書仕訳自動作成の多通貨処理	331
売掛金仕訳/総勘定元帳仕訳の作成の多通貨処理	331
転記プログラムの多通貨処理	331
請求書無効化の多通貨処理	331

請求時の会計処理	332
基本規則	332
再配賦規則	345
請求料金/割増規則の検索	358
主キーの値	358
補助キーの値	359
給与計算取引	359
設備用の非給与計算取引	361
その他のすべての取引	362
請求書の設計	364
スマート・フィールド	366
多通貨の時間会計処理	372
留保金の例	383
留保金テーブル	383
契約の設定	383
請求書の生成	384
留保金の計算	384
テーブル	385
サービス請求ワークテーブル(F4812)	385
請求書集計ワークテーブル(F4822)	386
請求明細仕訳テーブル(F48S910)	386
集計済み仕訳テーブル(F48S911)	386
売掛金仕訳の作成	387
顧客元帳	387
留保金テーブル	388
契約の設定	388
請求書の生成	388
留保金の計算	389

税額の計算	389
仕訳編集レジスタ(R48300)	389
テーブル	390
サービス請求ワークテーブル(F4812)	390
請求書集計ワークテーブル(F4822)	390
請求明細仕訳テーブル(F48S910)	390
集計済み仕訳テーブル(F48S911)	390
売掛金仕訳の作成	391
顧客元帳	391
留保金テーブル	392
契約の設定	392
請求書の生成	392
留保金の計算	392
税額の計算	393
仕訳編集レジスタ(R48300)	393
テーブル	393
サービス請求ワークテーブル(F4812)	393
請求書集計ワークテーブル(F4822)	393
請求明細仕訳テーブル(F48S910)	394
集計済み仕訳テーブル(F48S911)	394
売掛金仕訳の作成	394
顧客元帳	394
留保金テーブル	395
契約の設定	395
請求書の生成	395
留保金の計算	396
税額の計算	396
仕訳編集レジスタ(R48300)	396
テーブル	397
サービス請求ワークテーブル(F4812)	397
請求書集計ワークテーブル(F4822)	397
請求明細仕訳テーブル(F48S910)	397
集計済み仕訳テーブル(F48S911)	398
売掛金仕訳の作成	398
顧客元帳	398
留保金テーブル	399

契約の設定	399
請求書の生成	399
留保金の計算	399
税額の計算	400
留保金テーブル.....	400
契約の設定	401
請求書の生成	401
留保金の計算	401
税額の計算	402
留保金テーブル.....	402
契約の設定	403
請求書の生成	403
留保金の計算	403
税額の計算	404
留保金テーブル.....	404
契約の設定	405
請求書の生成	405
留保金の計算	405
税額の計算	406
留保金テーブル.....	406
契約の設定	407
請求書の生成	407
留保金の計算	407
税額の計算	408
留保金テーブル.....	409
契約の設定	409
請求書の生成	409
税額の計算	409
留保金の計算	410
留保金テーブル.....	410

契約の設定	410
請求書の生成	411
税額の計算	411
留保金の計算	411
請求明細ワークテーブル(F4812)のフィールド導出	413
WorldSoftware から EnterpriseOne 8.9 へのアップグレード	430
変換されない契約請求のテーブル	431
WorldSoftware A7.3 契約請求からのテーブル変換プログラム	431
WorldSoftware A8.1 契約請求からのテーブル変換プログラム	483
Vertex 社の Quantum Sales & Use Tax	545

契約請求の概要

EnterpriseOne 契約請求システムを使用し、顧客に提供したサービスや商品の請求処理を行います。契約請求システムには、煩雑な部門間請求と顧客への請求に対応するように設計された一連の機能が用意されています。

どの契約請求処理も、2つの当事者、つまり顧客とサービスや商品の提供者(契約者)の間に締結される契約から始まります。作業やプロジェクトの所有者である顧客は、製品やサービスを要求します。提供側である会社は、契約に基づいて提供する製品やサービスについて、顧客に請求します。契約は、顧客のニーズの変化に応じて随時修正できます。

契約請求システムを使用すると、契約の条件に従って請求書を作成できます。また、契約請求システムでは、当初契約に対する複数の変更オーダー(改訂)の同時請求処理もサポートしています。

各契約には次のような情報が含まれます。

- 次のような、契約の請求条件
 - タイム・アンド・マテリアル(T&M)、一括または単価などの請求タイプ
 - 予定値に基づく請求金額
 - 当初契約の修正状況または変更オーダー
 - 請求通貨
- 次のような、請求先の顧客に関する情報
 - 請求先となる顧客
 - 支払条件
 - 割引条件

EnterpriseOne 契約請求システムを使用すると、次の処理を実行できます。

- 商品やサービスのタイム・アンド・マテリアルに関連する原価の計上
- 収益計上のための原価の割増し
- 手数料の計算
- 契約条件に基づく請求
- 費用の請求事由を示す証明書の提供
- 契約請求金額の会計仕訳の作成
- 部門間請求における収益の認識

契約請求またはサービス請求の選択

契約請求で使用する処理とテーブルの多くは、サービス請求で使用するものと同じですが、サービス請求では使用できない処理とテーブルによる機能も追加されています。

契約請求は、一般的に長期契約と長期プロジェクトに使用され、次の機能を用意しています。

- 非タイム・アンド・マテリアル原価の請求書の生成
- 定期固定金額の請求
- 請求限度
- 最低請求金額

サービス請求は、一般的に、短期契約と大量の小規模作業に使用されます。サービス請求では次の機能を用意しています。

- タイム・アンド・マテリアル原価の請求書の生成
- サービス管理取引の請求書の生成

システム・インテグレーション

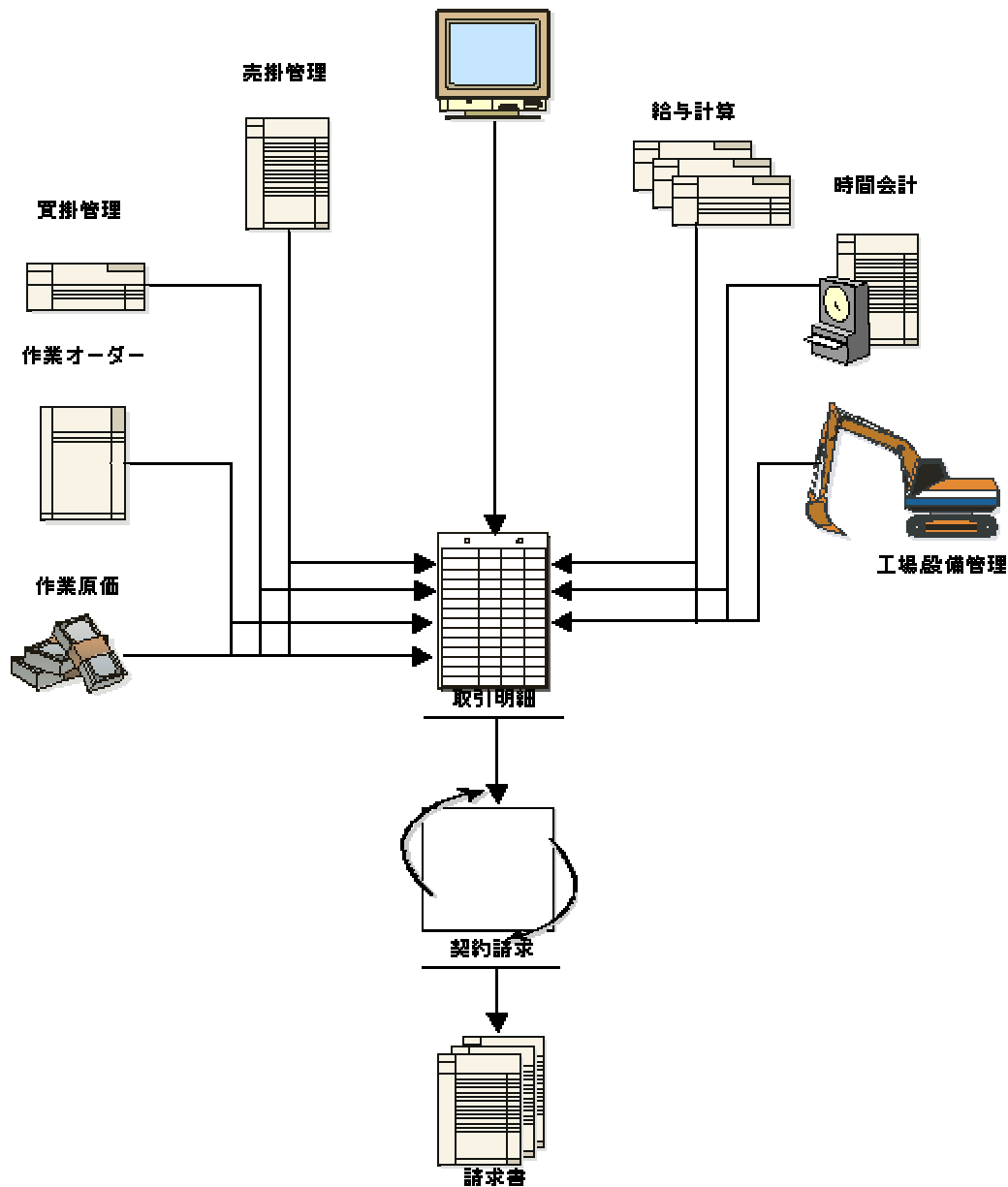
契約請求システムでは、一般会計システムの取引明細テーブル(F0911)に情報が保管されているすべてのシステムから請求に必要な原価を取り込むことができます。原価は、給与計算ベースまたは非給与計算ベースとして分類できます。給与計算ベースの原価とは、従業員と設備の労務関連原価です。非給与計算ベースの原価とは、外注業者、資材、および旅費交通費などの原価です。

保管される情報は次のとおりです。

- 追加給付や給与関連税など、給与計算システムと時間会計システムからの労務費および関連間接費
- 設備/工場管理システムからの設備の運用保全費
- 旅費交通費など、買掛管理システムから作業に直接賦課できるその他費用

次の図は、契約請求システムとその他の J.D. Edwards のシステムのインテグレーションを示します。

契約請求システムと他システムとのインテグレーション



サービス請求

契約請求システムでは、次の処理を通じてサービス請求システムとリソースおよび機能が共有されます。

- 請求固定情報
- ワークテーブル管理
- 柔軟な割増機能

- 支払から請求までの機能
- 請求書のフォーマット設定
- 請求 AAI
- 収益認識
- 仕訳処理

一般会計

契約請求システムでは、勘定科目マスター(F0901)の情報と取引明細テーブル(F0911)の取引を使用して、取引がシステムでの処理に適格であるかどうかを確定します。

勘定科目マスター	勘定科目マスター(F0901)の[請求可能(Y/N)]フィールドで、サービス請求システムによる勘定科目の請求が可能かどうかを指定します。
取引明細	<p>取引明細テーブル(F0911)の[請求コード]フィールドでは、契約請求システムでタイム・アンド・マテリアル取引が処理されているかどうかを示します。サービス請求システムに関連するコードは、次のとおりです。</p> <p>ブランク 処理可能。</p> <p>N 勘定科目マスター(F0901)の[請求可能(Y/N)]フィールドが N またはブランクに設定されているため請求外である。</p> <p>Z 処理済みで、請求明細ワークテーブル(F4812)に含まれている。</p>

勘定科目マスター(F0901)の[請求可能(Y/N)]フィールドと、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで指定した値に基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードが割り当てられます。

給与計算と時間会計

給与計算ベースの原価には、次の金額を含めることができます。

- 控除前の従業員に対する実績支払金額と実績労働時間数
- 実績または固定(予想)間接費金額
- 従業員と関連時間数に関する割増労務費の請求配賦金額
- 従業員が設備を使用した実績時間数と、設備に関する請求レート
- 労務費および設備費配賦用の勘定科目コード

給与計算情報は、日次または給与計算サイクルに基づいて処理できます。給与計算システムにより次のテーブルが更新されます。

- 従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)
- 従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)
- 間接費配賦テーブル(F0724/F07241)
- 取引明細(F0911)

契約請求システムでは取引明細テーブルの取引が処理され、次に従業員トランザクション履歴テーブルと従業員トランザクション詳細テーブルから給与情報が読み込まれます。この後でサービス請

求ワークテーブル(F4812)に対応する取引が作成されます。取り込まれる取引は、次の伝票タイプで識別されます。

- T2 - 給与計算の労務費配賦
- T3 - 間接費配賦
- T4 - 労務費請求配賦
- T5 - 設備費配賦

間接費配賦取引(T3)は、対応する給与計算の労務費配賦取引(T2)に常にリンクされています。間接費は、会社が従業員を雇用した結果として負担する賃金や給与に伴う原価です。この種の原価には、税や保険料を含めることができます。契約請求システムの固定情報の設定内容によっては、これらの間接費取引をサービス請求ワークテーブル内の関連労務費取引と連動して処理できます。

間接費には、次の2つの計算方法があります。

- 従業員の実績時間数と支払レートと共に実績間接労務費レートおよびパーセンテージを使用します。
- 固定(予想)間接費率を使用します。

通常の給与計算サイクル中に、固定間接費金額と実績間接費金額を計算できます。給与計算サイクルを完了させずに、給与計算仕訳を日次で処理する場合は、固定間接費のみが計算されます。

契約請求システムで給与計算情報が処理された後に、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)または従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)、および取引明細テーブル(F0911)の取引が処理済みとして更新されます。

設備/工場管理

通常、作業やプロジェクト、作業オーダーの実施には設備が必要になります。たとえば、警備員は会社所有の車を使ってオフィス・ビルの敷地を見回ります。警備会社とビル管理会社で交わす契約には、警備員が車を使用する時間に対して時間あたりのレートで請求をする内容が規定してあります。

別の例としては、クレーンを使って重い資材を作業場で動かす場合です。業者と顧客との契約には、クレーンをプロジェクトに使用した期間について時間単位で請求することが規定されています。

契約請求システムでは、設備/工場管理システムからの伝票タイプ TE の取引が処理されます。契約請求システムでは、次の情報を使用して設備取引を処理します。

- 請求対象の設備を識別する設備番号
- 従業員が設備を使用した時間数

作業オーダー

作業オーダーを使用して、プロジェクトの原価を列挙します。作業オーダー情報が存在するのは、取引明細テーブル(F0911)の取引に補助元帳タイプ W の補助元帳番号が含まれている場合です。請求可能な作業オーダーからの情報は、作業オーダーの状況が「請求可能」の時に、タイム・アンド・マテリアル取引の割増し、税、および会計規則に影響する場合があります。

作業原価

契約に割り当てられたプロジェクトを使用して、ビジネスユニットマスター(F0006)から次のデフォルト情報が取り込まれます。

- 顧客番号

- 契約タイプ
- 税目、税率、税域
- 国内通貨コード(通貨がオンの場合)

一括請求行の場合は、金額の計算中にプロジェクトからの最終予測金額を使用できます。

単価請求行の場合は、請求行に設定された単価とプロジェクトからの数量が、請求金額の計算に使用されます。

レポート・カテゴリ・コード 11 および 12 など、F0006 テーブルからのその他の情報は、タイム・アンド・マテリアル取引の割増規則と会計規則に反映させることができます。

売掛管理

契約請求システムでは、顧客マスター(F0301)を使用して次の情報を識別します。

- 支払条件
- 税目、税率、税域
- 会計基準

請求データを生成したら、請求書の情報を売掛金元帳テーブル(F03B11)に転記します。顧客からの支払の入金後は、それを顧客の売掛勘定と消し込みます。

住所録

契約請求システムでは、契約にある住所番号を使用して次の情報を識別します。

- 担当者、会社または事業所など、請求先として使用する住所録マスター(F0101)と住所録 - 人名録テーブル(F0111)内の名称
- F0101 テーブルおよび日付別住所テーブル(F0116)内の請求書郵送先住所

買掛管理

契約請求システムでは、買掛管理システムに記録した原価取引が累計されます。請求システムは、取引明細テーブル(F0911)の買掛管理取引からの情報を使用して、次の情報を識別します。

- 仕入先番号
- 仕入先請求書番号
- 仕入先サービス日付
- 実績金額
- 担当ビジネスユニット
- 作業オーダー番号

システムの機能

契約請求システムには、複数のソースから大量の情報を受け入れる機能が必要です。また、この情報を該当するテーブルに対して更新する機能も必要です。Enterprise One 契約請求システムは、次の機能を提供するように設計されています。

- 柔軟性と効率
- 大量の請求書取引処理
- タイムリーな情報
- 規則基準の処理
- 複数の請求計算タイプ
- Vertex(バーテックス)Tax インターフェイス
- 柔軟な割増し
- ワークテーブル管理
- 請求書のフォーマット設定
- 請求 AAI
- 収益認識
- 仕訳処理
- 多通貨

複数の請求計算タイプ

契約請求システムでは、次のタイプの請求計算を実行します。

- タイム・アンド・マテリアル(T&M)。プロジェクトの完了までに使用した商品やサービスの実績原価に基づいて、請求条件を定義します。
- 一括(固定金額)。プロジェクトの完了までに発生した実績原価に関係なく、固定請求書金額を定義します。この金額を手動で計算するか、次のいずれかの方法により請求金額を自動計算できます。完了率、原価割増率、定義済み元帳、この3つのうち最も大きいもの、またはこの3つのうち最も小さいもの。
- 単価。数量と事前定義済みの単価に基づく請求タイプを定義します。この金額を手動で計算するか、システムで請求金額を計算できます。
- 定期。週次や月次など、事前に定義した定期頻度で計算される固定請求金額を定義します。
- 手数料行(定額)。顧客に対して他の請求金額に加えて請求する金額を定義します。手数料の基準として、発生した原価に対する割合または契約の請求金額を使用できます。
- 出来高。顧客への請求時点となるマイルストーン・イベントを定義します。この値には、作業の完了率または契約総額のうち一定金額を使用できます。
- 進捗状況。作業工程での作業の完了率を定義します。
- 前払(前渡金の相殺)。顧客に要求できる前払保証金を定義します。システムは、この請求行について2つの計算方法をサポートしています。その計算方法は、固定金額とパーセントです。

- 追加料金。請求金額の他に顧客への請求に追加する料金のタイプを定義します。
- 間接費雇用の結果として発生する費用を定義します。

Vertex Tax インターフェイス

Vertex は、売上税と使用税を回収して各種管轄局に報告する必要のある会社に売上税準拠システムを提供するソフトウェア会社です。Vertex Quantum Sales and Use Tax 製品を J.D. Edwards の税テーブルと併用すると、請求費用に売上税を適用できます。

柔軟な割増し

請求対象時間数、CAD 時間数、コピー費用、電話料金など、あらゆる費目について、調整済み、顧客または契約特有の割増用に柔軟な乗数を設定できます。柔軟な割増しには、次の利点があります。

- 原価計算用の割増規則をサポートします。直接原価として記録するか、部門間請求や原価再配賦のために一時的に間接労務費として記録できます。
- 収益金額とは関係なく金額を請求できます。
- 複数の従業員請求レートがサポートされるため、産業別、分野別、所在地別、または他のユーザー定義基準に基づいて請求処理を行うことができます。
- 高度な乗数と移動価格設定を使用して、設備費に関してプロジェクト特有の内部および外部請求処理がサポートされます。

ワークテーブル管理

ワークテーブル管理では、次の機能が提供されます。

- 監査可能なワークテーブル取引のグループ。変更前のワークテーブル取引のコピーを、請求ワークテーブル履歴(F4812H)に保存します。
 - 取引レベルの制御。ワークテーブル取引レベルで値を割り当てて請求プロセスを制御できます。これらの値は[適格性コード]フィールドに保管され、ワークテーブル取引が特定の請求処理に適格かどうか確定され、ワークテーブル取引に保管された各種金額フィールドの表示が制御されます。[適格性コード]フィールドには次の値が割り当てられます。
- | | |
|---|--|
| 0 | ワークテーブル取引は請求、収益認識、および原価計算処理に適格です。 |
| 1 | ワークテーブル取引は請求および原価計算処理に適格です。 |
| 2 | ワークテーブル取引は収益認識および原価計算処理に適格です。 |
| 3 | ワークテーブル取引は請求外です。 |
| 4 | ワークテーブル取引は原価処理にのみ適格です。 |
| 5 | ワークテーブル取引は買掛伝票の入力にのみ適格です(サービス請求のサービス管理ワークテーブル取引の場合のみ)。 |
- 取引分割。複雑な取引を請求対象項目と請求対象外項目に分割できます。
 - 高度なエラー修正。顧客の情報や、割引、税および割増しの計算用に設定した最新の規則など、ワークテーブル取引の請求情報を「再適用」または「再拡張」できます。
 - 仕訳の再分類。請求システムから勘定科目コード構造に修正を加え、これらの変更を入力元のシステムに自動的に適用できます。

請求書のフォーマット設定

契約請求システムには、請求書フォームをカスタマイズできるようにフォーマット設定機能が組み込まれています。あらかじめ用意された請求書印刷バージョンをそのまま使用するか、独自に顧客に固有の請求書バージョンを設計できます。顧客ごとにニーズが大幅に異なる場合も、自社と各顧客の条件に合わせて調整することが可能です。

請求 AAI

〈請求 AAI〉では、請求プロセスの会計規則を定義できます。収益および未請求分の会計処理には次のような高度な機能があります。

- 部門間収益共有。リソースを部門間で共有し、収益と原価をトラッキングできます。
- 移動価格設定。複数部門、複数会社内で、労務費と資材の配賦に関する会計規則を定義します。
- 売上税の勘定科目情報。売上税を収益に含めるか、または別の未払税勘定科目に入力するかを選択できます。
- マージン。収益率を予測を実行するために請求や収益のマージンを分析します。

収益認識

収益認識は、現金に限らず商品やサービスのやりとりにおいて、収益を資産の流入として定義する会計基準です。収益を発生前ではなく発生時点で認識する必要があります。収益認識を使用して、請求書を生成せずに取引明細テーブル(F0911)に収入に関する仕訳を作成します。

一般に、収益認識は次の状況で使用します。

- 作業が完了し、収入が発生したが、顧客に請求する必要がない場合。
- 損益計算書と貸借対照表に、会社の現在の財務状況を示すために金額を反映させる必要がある場合。

仕訳処理

請求システムでは、それぞれの会計業務の条件に最適なモードを選択できるように、多様な仕訳処理が用意されています。これらのモードは、請求固定情報で次のように制御されます。

請求処理のみ	収益を請求処理から切り離して認識する必要がない場合に選択します。
収益処理のみ	部門間の請求処理のみを行い、売掛金元帳で顧客の売掛金を更新する必要がない場合に選択します。
収益を伴う請求	収益を請求処理から切り離して認識できるようにする場合に選択します。
収益調整を伴う請求	見越収益を請求処理から切り離して認識できるようにする場合に選択します。見越収益は、請求書の生成時に実績収益として調整されます。

注:

いずれの仕訳モードでも、内部の原価再配賦と仕訳の再分類がサポートされます。

多通貨:機能

EnterpriseOne の多通貨機能を使用すると、国内通貨および外貨建ての勘定残高や請求書を維持管理することができます。

システムのセットアップ時に、会社、顧客および仕入先の通貨を定義します。システムでは、会社に対して定義した通貨が国内通貨として認識されます。会社の通貨とは異なる顧客通貨や仕入先通貨は、外貨として認識されます。国内通貨金額と外貨金額は、特定の有効日付の範囲に対して定義した為替レートに基づいて確定されます。

契約請求の多通貨機能

グローバルな顧客ネットワークを構築することで、EnterpriseOne 契約請求システムを使用して、多通貨環境における請求処理を最適化できます。契約請求システムで多通貨を使用する場合は、次の機能を実行できます。

- 割増金額を国内通貨または外貨で原価に適用します。
- 請求書を国内通貨または外貨建てで作成します。

参照

- 組織の多通貨処理については、『多通貨処理』ガイドの「Multicurrency Overview(多通貨処理の概要)」

契約請求テーブル

次に、契約請求システムの主要なテーブルの一覧を示します。

システム・セットアップ・テーブル

契約請求システムでは、次のシステム・セットアップ・テーブルを使用します。

- 勘定科目マスター(F0901)
- 取引明細(F0911)
- 請求システム固定情報(F48091)
- 請求料金/割増テーブル(F48096)
- 請求 AAI 情報テーブル(F48S95)
- 契約マスター(F5201)
- 契約請求行明細テーブル(F5202)
- T&M 相互参照勘定科目テーブル(F5212)
- 手数料請求行相互参照詳細テーブル(F5213)
- 追加料金コード/間接労務費相互参照テーブル(F5214)
- 追加料金/間接労務費請求行相互参照詳細(F5215)
- マイルストーン/進捗請求行明細(F5216)

ワークテーブル管理で使用するテーブル

ワークテーブル管理時には次のテーブルが使用されます。

- 請求明細ワークテーブル(F4812)。このテーブルでは、収益認識と請求書処理の情報が提供されます。
- 請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)

収益認識で使用するテーブル

収益認識時には次のテーブルが使用されます。

- 給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)
- 従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)
- 請求 AAI 情報テーブル(F48S95)
- 請求明細仕訳テーブル(F48S910)
- 集計済み仕訳テーブル(F48S911)
- 取引明細(F0911)。

請求書処理で使用するテーブル

請求書の処理時には次のテーブルが使用されます。

- 請求書集計ワークテーブル(F4822)
- 給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)
- 従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)
- 請求明細仕訳テーブル(F48S910)
- 集計済み仕訳テーブル(F48S911)
- 取引明細(F0911)
- 売掛金元帳(F03B11)

契約の設定

次のテーブルは、契約の設定に適用されます。

契約マスター(F5201)

次の契約情報が保管されます。

- 契約番号別の契約詳細情報
- 顧客情報
- 契約記述
- 税情報
- プロジェクトおよび担当ビジネスユニット
- 親契約番号
- 通貨モードおよびコード

契約請求行明細テーブル(F5202)

契約の請求条件を保存します。このテーブルには次の情報が含まれます。

- 契約または変更オーダー別の請求行明細
- 複数の請求タイプ
- 請求行別の予定値
- 数量
- 定期請求額および頻度
- 請求行別の税情報

T&M 相互参照勘定科目テーブル(F5212)

タイム・アンド・マテリアル、一括および単価請求行の相互参照情報が保存されます。

タイム・アンド・マテリアル請求行の場合は、ワークテーブルの生成時に、勘定科目コードと関連情報により請求原価が契約請求行に関連付けられます。〈ワークテーブル再計算〉プログラム(R481202)の実行時に、情報が再適用されます。

一括請求行と単価請求行の場合は、請求書の生成時に請求書の支払項目取引が計算される時に、勘定科目コードと関連情報により原価が契約請求行に関連付けられます。

その他、次の情報が含まれます。

- 勘定科目コード
- 補助元帳およびタイプ
- 作業タイプ
- 職階
- 支払タイプ
- 従業員番号
- 設備番号
- 料金グループ

手数料請求行相互参照詳細テーブル(F5213)

手数料の契約請求行について相互参照情報が保管されます。その他、次の情報が含まれます。

- パーセントまたはレート・コードで定義された手数料レート
- 手数料計算用の金額基準
- 手数料計算の基礎となる特定の契約請求行

レート・コード定義情報(F52131)	<p>手数料請求行の計算に使用できるレート・コードのユーザー定義情報が保存されます。レート・コードの定義は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 記述 • 率 • 有効日付
追加料金コード/間接労務費相互参照テーブル(F5214)	<p>間接労務費請求行の DBA(損金、福利厚生、見越)または税タイプ、および追加料金請求行の追加料金コードを保管します。</p>
追加料金/間接労務費請求行相互参照詳細(F5215)	<p>追加料金コードや間接労務費と相互参照している請求行を識別するデータを保存します。</p>
マイルストーン/進捗請求行明細(F5216)	<p>請求書の作成用に事前に定義したイベントまたはパーセンテージの情報が保存されます。</p> <p>このタイプの請求行の場合は、完了フラグとイベントに関連付けられたパーセントを使用して、請求書の生成時に請求書の支払項目取引が計算されます。</p> <p>その他、次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 請求イベント • 完了率または金額 • 完了日付 • 完了フラグ
マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細(F52161)	<p>請求に影響するマイルストーン請求行または進捗請求行の相互参照情報が保存されます。前払請求行(按分相殺または直接相殺)および進捗請求行を他の進捗請求行と相互参照できます。</p>

システム・セットアップ

次の表に、システム・セットアップ・テーブルの詳細を示します。

請求システム固定情報(F48091)	<p>次のグローバル処理を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 請求費用 • 間接費の処理 • 有効日付 • 顧客情報 • 仕訳処理 • デフォルトの割増率
請求料金/割増テーブル(F48096)	<p>選択した取引に対する割増しの方法を確定します。次の割増規則が単独か組み合わせて使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 単位レート • 原価パーセント • 原価に対して固定金額を追加 • 上記の規則の組合せ • 割増しなし

追加料金テーブル・マスター (F4860)	追加料金テーブルを識別するデータを保存します。この情報は、請求料金/割増テーブルで正しいレコードを検索して、追加料金ワークテーブルの取引を作成する際に使用します。
追加料金明細テーブル (F4861)	追加料金ワークテーブルの取引作成で、請求取引に適用される請求料金および割増しを確定します。次の計算規則が単独か組み合わせて使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 数量ベース • 金額ベース
追加料金相互参照 (F4862)	複合追加料金の計算で使用する相互参照情報を保存します。
請求書印刷バージョン相互参照テーブル (F48S58)	請求書の印刷に使用するデータを保存します。このテーブルは、特定の顧客や作業、作業オーダーに請求書のフォーマット設定を割り当てる際に使用します。
請求 AAI 情報テーブル (F48S95)	次の項目の仕訳を制御する会計規則が保管されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 実績収益 • 税 • 原価 • マージン • 見越し収益 (未請求) • 見越し売掛 (未請求)

ワークテーブル管理

次の表に、ワークテーブル管理で使用するテーブルの詳細を示します。

サービス請求ワークテーブル (F4812)	ワークテーブル取引を請求費用のグループとして保存します。ワークテーブル取引は、他のシステムで生成されたり、契約請求システムに手入力された費用取引と相互に対応しています。このデータは請求プロセスの開始点となります。この情報を使用して、請求書に明細を印刷したり、売掛元帳や取引明細、買掛元帳に項目を作成します。
請求ワークテーブル履歴 (F4812H)	処理が終わったワークテーブル取引の情報を保存します。この情報によって、個々のワークテーブル取引に関連する変更の監査証跡が得られます。

取引の処理

サービス請求バッチ見出しテーブル (F48011)	バッチ状況や現在の活動など、契約請求システム内で作成された請求書や元帳バッチの情報を保存します。
請求書集計ワークテーブル (F4822)	この情報を使用して次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • 請求書の印刷 • 売掛元帳の情報の作成
削除済み請求書監査テーブル (F48229)	削除した請求書番号の監査証跡を提供します。

請求書集計アクセス (F48520)	請求書に請求累計額を表示する場合など、報告用に使用できる請求書の累計情報を保管します。ここには〈請求書集計〉プログラム(P03B111)よりも詳細な請求累計データが保管されます。この契約請求システムの任意テーブルは、請求固定情報のオプション設定により制御されます。請求累計額は、元帳日付、従業員または仕入先、原価勘定、契約請求行ごとに保管されます。
請求明細仕訳テーブル(F48S910)	ワークテーブル取引が仕訳の生成時に請求 AAI(自動仕訳)に対して処理されるときに、作成される明細仕訳の取引を一時保管します。
集計済み仕訳テーブル(F48S911)	請求明細仕訳テーブル(F48S910)に保管される明細仕訳取引の集計データを一時保管します。集計は元帳タイプ、通貨コード、元帳日付、ビジネスユニット、主科目、補助科目、補助元帳に基づいて行われます。これらは、取引明細テーブル(F0911)に最終仕訳レコードを作成する際に使用されます。
元帳リンク(F48S912)	ワークテーブル取引からの主要な情報およびそれらによって取引明細テーブルに作成される仕訳を保管します。このテーブルは、報告および監査目的で使用します。
給与計算仕訳振替 ワークテーブル (F48S0618)	給与計算システムで発生したワークテーブル取引の原価勘定を契約請求システムで変更した場合に、システムで作成された当初仕訳および訂正仕訳を一時保管します。これらの項目は、〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)または〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行する際に、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)に書き込まれます。

契約請求のメニュー概要

EnterpriseOne システムは、メニューを選択してアプリケーションを実行します。メニューは機能と使用頻度に応じて編成されています。契約請求のメニューには、〈契約請求〉メニュー(G52)からアクセスします。

日次処理

- 日次処理 (G5210)
- ワークテーブルの処理 (G5211)

定期処理

- 請求書の処理 (G5221)
- 収益計上 (G5222)

上級/技術的操作

- 上級技術操作 (G5231)
- J.D. Edwards からの契約請求テーブル変換 (G5232)

セットアップ

- システム・セットアップ (G5240)
- テーブル情報 (G5241)
- ユーザー定義コード (G5242)

契約情報

契約は、顧客と業者（契約者）の間で取り交わされる契約書です。作業やプロジェクトの所有者である顧客は、製品やサービスを要求します。提供側である会社は、契約に基づいて提供する製品やサービスについて、顧客に請求します。契約には作業の請求条件が明記され、支払に関して顧客に送付する請求書の基礎となります。

契約の設定

すべての作業またはプロジェクトに対して新規契約を作成し、いつ誰がどのように請求するかを定義します。

契約情報を検討および分析して契約の状況を追跡し、請求サイクルの正確なプランを作成します。

契約の各部について

契約に基づいて請求が正確に行われるように、契約の各部分を理解しておく必要があります。契約は、次のタイプの情報で構成されます。

マスター情報	マスター情報は、顧客や契約日付など、契約全体に関連する一般情報です。この情報は、契約マスター (F5201) に保存されます。
変更オーダー情報	変更オーダー情報は、顧客から要求された当初の契約に含まれない追加作業を表します。変更オーダーには、追加作業の新規請求条件を定義する 1 行または複数の請求行が含まれています。変更オーダー情報は、契約請求行明細テーブル (F5202) に保存されます。
請求行情報	請求行情報は、タイム・アンド・マテリアル、一括または単価など、請求対象となる商品やサービスに関する行別の明細（請求行）です。この情報は、契約請求行明細テーブル (F5202) に保存されます。
マイルストーン/ 進捗請求情報	この情報は、請求行の基準となるイベントとパーセント、金額からなります。この情報は、マイルストーン/進捗請求行明細テーブル (F5216) に保存されます。
相互参照情報	相互参照情報を使用して請求処理が実行されます。次の情報が検索されます。 <ul style="list-style-type: none">勘定科目相互参照詳細。費用勘定科目を適切な請求行に関連付けます。この相互参照テーブルは、タイム・アンド・マテリアル、一括および単価の各請求行に使用されます。この情報は、T&M 相互参照勘定科目テーブル (F5212) に保存されます。手数料請求行相互参照詳細。手数料計算の基準となる請求行を識別します。この情報は、手数料請求行相互参照詳細テーブル (F5213) に保存されます。マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細。マイルストーン請求行または進捗請求行の計算に使用される請求行を識別します。この情報は、マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細テーブル (F5216) に保管されます。追加料金コード/間接労務費相互参照。間接労務費の請求行の DBA や税タイプ、追加料金の請求行の追加料金コードを識別します。この情報は、追加料金コード/間接労務費相互参照テーブル (F5214) に保存されます。追加料金/間接労務費請求行相互参照。追加料金コードや間接労務費と相互参照している請求行を識別するデータを保管します。この情報は、追加料金/間接労務費相互参照詳細テーブル (F5215) に保存されます。

請求タイプ

契約請求行では、契約の請求情報を定義します。契約の各請求行には、特定の請求条件が定義されています。各請求行を使用して、顧客請求書の請求金額が計算されます。

契約には独立請求行と依存請求行を設定できます。請求行タイプにより、独立請求行であるか依存請求行であるかが決まります。たとえば、作業完了までに発生する実績原価に基づいて、タイム・アンド・マテリアルを顧客に請求するとします。タイム・アンド・マテリアル請求行を独立請求行として設定し、請求する原価を含む勘定科目を指定します。契約に対する請求書の作成時には、請求行に基づいて請求金額が計算され、請求書には指定金額の 1 行が作成されます。

契約に依存請求行を設定するのは、請求書の請求金額を構成する追加明細を含める場合です。依存請求の場合は、請求金額が他の請求行に依存して計算されます。

たとえば、タイム・アンド・マテリアルに関する請求金額に間接組合費が含まれる場合、その手数料について依存請求行を設定します。依存請求行は、請求金額のうち、間接組合費であるタイム・アンド・マテリアル部分を表します。間接組合費の依存請求行を、合計請求金額のうち、この情報を含むタイム・アンド・マテリアルの独立請求行に関連付けます。その後、請求書の作成時には、依存請求行と独立請求行の関係に基づいて請求金額が計算されます。独立タイム・アンド・マテリアル請求行と間接組合費の依存請求行の請求金額は、請求書の別個の 2 行として作成されます。

契約請求システムには、請求書計算を制御できるように複数の請求行タイプが用意されています。これらの方法を使用して、顧客と交渉済みの請求条件を満たすことができます。これらの請求タイプは独立請求行と依存請求行に分かれており、次の 8 種類で構成されています。

- タイム・アンド・マテリアル
- 単価
- 一括
- 手数料
- 出来高
- 進捗状況
- 金額差引請求
- パーセント差引請求
- 追加料金
- 間接労務費

変更オーダー

作業の進捗につれて、会社と顧客が契約の請求情報を改訂することに同意する場合があります。基本契約の整合性を維持するために、基本契約に対する改訂ごとに修正条項を作成します。各修正条項は、変更オーダーと呼ばれます。

変更オーダーには、作業の所有者である顧客から要求された、当初の契約に含まれない追加作業が含まれています。変更オーダーには、追加作業の新規請求条件を定義する 1 行または複数の請求行が含まれています。

各修正条項から基本契約がトラッキングできるように、基本契約の変更オーダーには番号 000 が常に割り当てられます。その後の変更オーダーは、番号 001、002 というように割り当てることができます。

多通貨契約

多通貨環境で作業している場合は、多通貨契約を作成できます。多通貨契約には、会社の通貨（国内通貨）または顧客通貨（外貨）が反映されます。

グローバルな顧客ネットワークを構築することで、EnterpriseOne 契約請求システムを使用して、多通貨環境における収益認識および請求処理を最適化できます。たとえば、次の処理を実行できます。

- 従業員の作業時間に対して支払賃金など、複数の通貨で発生する請求対象の原価を累計する。
- 割増金額を国内通貨または外貨で原価に適用します。
- 契約とは異なる通貨（外貨）で顧客に対する請求書を生成する。

契約を担当する会社の通貨が国内通貨として認識されます。顧客に対して定義した通貨が契約に対して設定した通貨と異なる場合がありますが、契約の管理には国内通貨を使用します。これにより、契約に対する請求書の生成時には、顧客の通貨（外貨）を使用して請求書が作成されます。

多通貨契約の作成後は、契約を国内通貨または外貨で検討できます。多通貨契約に関連する金額を改訂できるのは、作成時の通貨モードで契約にアクセスしている場合のみです。1 件の契約に外貨金額と国内通貨金額の両方を入力することはできません。

契約マスター情報の設定

契約請求システムで保守して請求する契約ごとに、契約マスターを設定します。契約マスター情報は、契約マスター（F5201）に保存されます。契約マスターを使用して、システム内で個々の契約を識別します。

契約情報の他の部分を入力する前に、契約マスター・レコードを作成します。次の情報を指定して、契約マスター情報を設定します。

- 契約番号、顧客番号、関連作業またはプロジェクトなどの識別情報
- 割引条件や支払期日など、契約全体に影響する支払条件
- 税情報（該当する場合）
- 作業またはプロジェクトの実施場所、契約関係者の名称と住所、担当ビジネスユニットおよび開始日付と完了日付など、追加の詳細
- 通貨の指定
- 留保金規則
- 上限金額規則
- 契約の分類に使用できる 10 個のユーザー定義カテゴリ・コード

契約マスター情報の設定に関する考慮事項

契約へのカテゴリ・コードの割当て	カテゴリ・コードを割り当てて、契約を詳細に識別、追跡し、レポートを作成できます。
顧客と契約タイプの割当て	システムでは、契約のプロジェクト情報を使用して、契約に顧客番号と契約タイプが自動的に割り当てられます。この情報は手作業で一時変更できます。
親子関係	<p>契約(子)を主契約(親)に従属させることができます。親子関係を使用して関連契約を管理できます。</p> <p>たとえば、会社が空港建設の請負業者であるとします。空港建設プロジェクトには、次のような建設作業が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">• メイン・ターミナル• 出入道路• 自動トランジット・システム• コンコース <p>顧客は、建設作業ごとに個別の契約を締結します。この場合は、空港プロジェクトの主契約を設定し、各フェーズの子契約を親契約に関連付けて、親子関係を設定できます。</p> <p>[親契約]フィールドを使用して、契約間の関係を設定します。また、[親契約]フィールドの値を使用して、請求料金/割増テーブルおよび請求 AAI(自動仕訳)テーブルのキー値を定義することもできます。キー値は、子契約に自動的に入力されます。</p>
契約への請求書フォーマット・コードの割当て	<p>請求書の印刷に、どのプログラムおよびバージョンを使用するかを指定できます。そのためには、[請求書フォーマット]フィールドで有効な請求書フォーマット・コードを指定します。このコードは、この契約の請求書を印刷するときに使用されます。</p> <p>注:</p> <p>これはデフォルトのコードで、処理オプション:〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)を使用して一時変更するか、請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)で項目を設定することにより一時変更できます。</p>
上限金額規則の定義	上限金額規則を指定すると、顧客と合意した請求金額を超過した場合に収益を認識しないか、請求書を生成しないようにすることができます。上限金額規則によって、収益の認識および請求書の処理で、収益および請求書の金額が契約の範囲内にあるかどうかที่กำหนดされます。
契約留保金の定義	<p>留保金とは、作業の完了後に支払われる請求金額のパーセンテージです。留保金用に仕訳は、売掛金レコードの作成時に別レコードとして作成されます。契約留保金は次の情報により定義します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 留保金規則。作業が完了するまで留保扱いまたは保留にする請求金額の割合を確定します。• RETN AAI で定義された留保金勘定。これを使用して〈売掛金仕訳の作成〉プログラムの実行時に留保金を計上する勘定科目レコードが作成されます。• 制御フラグ。これにより、留保金を売掛管理と一般会計システムのどちらに保存するかを確定します。また、このフラグによって、留保金も含めた課税対象額を基準して税を計算するか、契約の留保金がリリースされるまで留保金の税計算を保留にするかどうか決まります。• RTVATD AAI に定義された繰延勘定。これを使用して〈売掛金仕訳の作成〉プログラムの実行時に繰延税を計上する勘定科目レコードが作成されます。

契約の変更

契約がアクティブな請求書または収益バッチに存在する場合、記述およびその契約に割り当てられた請求書フォーマット・コード、ユーザー住所 1 から 4、契約カテゴリ・コード 1 から 5 を変更できます。その他の情報を変更するには、次のいずれかを実行してください。

- 契約に割り当てられた請求書または収益のバッチ（片方または両方）を削除する。
- 売掛金仕訳と元帳仕訳を作成して請求処理を完了する。

契約の削除

次の契約は削除できません。

- 親契約
- 変更オーダーが定義されている契約
- 請求書処理済みの契約
- アクティブな請求書または収益バッチにある契約

契約マスター(F5201)にある契約と、相互参照テーブルに対応するレコードを持つすべての関連請求行が削除されます。

変更オーダーを伴う契約の削除

変更オーダーが関連付けられている契約を削除するには、基本契約を削除する前に、変更オーダーを削除する必要があります。一度に削除できる変更オーダーは 1 つだけです。関連する変更オーダーを持つ次の契約は削除できません。

- 変更オーダーが請求処理済みの契約
- アクティブな請求書バッチにある契約
- 親契約

相互参照が設定されている契約の削除

契約や変更オーダー、請求行を削除すると、次のテーブルにある関連レコードもすべて削除されます。

- 追加料金コード/間接労務費相互参照テーブル(F5214)
- 追加料金/間接労務費請求行相互参照詳細(F5215)
- T&M 相互参照勘定科目テーブル(F5212)
- 手数料請求行相互参照詳細テーブル(F5213)
- レート・コード定義情報(F52131)
- マイルストーン/進捗請求行明細(F5216)
- マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細(F52161)

参照

- 子契約に自動的に入力される、親契約の請求料金/割増テーブルのキー値の設定については、『契約請求』ガイドの「請求料金/割増規則の定義」
- 子契約に自動的に入力される、親契約の請求 AAI の設定については、『契約請求』ガイドの「請求 AAI の処理」
- 請求書印刷プログラムを選択するための請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)の設定については、『請求管理』ガイドの「請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定」

はじめる前に

- 契約マスター情報を入力する前に、次の情報が設定されているかどうかを確認します。
 - 該当する場合は、各ビジネスユニット（プロジェクトまたは作業）あるいは顧客の税情報。『Tax Reference(税リファレンス)』ガイドの「Setting Up Tax Information(税情報の設定)」を参照してください。

- 住所録テーブル(F0101)の顧客住所情報。『住所録』ガイドの「Address Book Maintenance(住所録の管理)」を参照してください。
- 顧客マスター(F0301)の各顧客のマスター情報。『売掛管理』ガイドの「顧客レコードの作成」を参照してください。
- 複数の通貨を使用して請求書进行处理する場合は「多通貨」。『多通貨処理』ガイドの「Checklist: Multicurrency Setup for Accounts Receivable(チェックリスト: 売掛管理の多通貨設定)」を参照してください。
 - ビジネスユニット・マスター(F0006)内の各ビジネスユニット(作業)のマスター情報。次のいずれかを参照してください。『作業原価』ガイドの「作業マスター情報の入力」『一般会計』ガイドの「ビジネスユニットの設定」
- 契約対象の顧客を自動的に取り込む場合は、プロジェクトの顧客番号を割り当てたかどうかを確認します。
- タイム・アンド・マテリアル請求行进行处理できるように、勘定科目表にすべての請求勘定科目を定義します。
- 一括請求行进行处理できるように、原価勘定科目と予算を定義します。
- 請求固定情報が設定されているかどうかを確認します。
- 必要な場合は留保金規則を定義します。『契約請求』ガイドの「留保金規則の定義」を参照してください。

▶ 契約マスター情報を設定するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約マスターの改訂〉を選択します。

1. 〈契約マスターの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

契約マスターの改訂

OK キャンセル フォーム ツール

契約 5350 R2 00050 記述 Wet and Willy Wilderness Ride

請求書バッチ

OLBバッチNo.

一般 追加詳細 日付/住所 カテゴリ・コード 上段/下段金額 通帳

プロジェクト作業 5350 Wet and Willy Wilderness Ride

親契約 R2

担当ビジネスユニット

顧客 4245 Cloud Nine Inc.

顧客参照No. 56-8889

請求書フォーマット・コード

支払条件 004

税率税域 CO

税目コード V

2. 〈契約マスターの改訂〉の見出し域で、次のフィールドに情報を入力します。

- 契約
このフィールドを空白にして[OK]をクリックすると、自動採番を使用して番号が割り当てられます。
- 契約会社
このフィールドを空白にすると、ビジネスユニット・マスター(F0006)でプロジェクトや作業に割り当てた会社番号が取り込まれます。
- 記述
記述フィールドの 1 行目に記述を入力してください。

3. [一般]タブで、次のフィールドに情報を入力します。

- プロジェクト/作業
- 顧客
このフィールドを空白にすると、ビジネスユニット・マスター(F0006)でプロジェクトや作業に割り当てた顧客の住所番号が取り込まれます。プロジェクトまたは作業の顧客番号を入力しない場合は、〈契約マスターの改訂〉の[顧客]フィールドに情報を入力する必要があります。

4. 次のうち必要な任意フィールドに値を入力します。

- 親契約
- 担当ビジネスユニット

注:

請求 AAI 4811 により作成されたビジネスユニットが*HOST に設定されている場合、収益認識時に、[担当ビジネスユニット]フィールド(JMCU)を使用して収益が担当ビジネスユニットに記録されます。*HOST は、再配賦にも使用できます。

請求処理時に、担当ビジネスユニットは、売掛管理にも使用できます。会社による RC AAI が取得され、RC AAI で指定されたビジネスユニット、オブジェクト、および補助科目が使用されます。RC AAI に空白のビジネスユニットがある場合、担当ビジネスユニットが、RC AAI 売掛管理入力に使用されます。担当ビジネスユニットが契約マスターにない場合は、契約のプロジェクト番号が売掛管理入力に使用されます。

- 顧客参照 No.
- 請求書フォーマット・コード
- 支払条件
このフィールドを空白にすると、顧客マスター(F0301)から顧客の支払条件が取り込まれます。

- 税率/税域
- 税目コード

[税目コード]フィールドと[税率/税域]フィールドをblankにすると、ビジネスユニット・マスター(F0006)でプロジェクトや作業に割り当てた税情報が取り込まれます。プロジェクトの税情報を入力しない場合は、顧客マスター(F0301)から顧客の税情報が取り込まれます。

注:

[税率/税域]と[税目コード]フィールドの表示は、処理オプションで制御します。税情報のフィールドを非表示にすると、プロジェクトや顧客の税情報は取り込まれません。

5. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- サード・パーティ
- サード・パーティ参照 No.
- 状況
- タイプ

このフィールドをblankにすると、ビジネスユニット・マスター(F0006)からプロジェクトのタイプが取り込まれます。

- 支払後に請求

この値は、この契約に関連する請求行によって読み込まれます。ただし、個々の請求行についてはこの値を一時変更することができます。請求行のこのフィールドの値は、契約マスターの値より常に優先して使用されます。

6. 契約の留保金を定義するには、次のフィールドに値を入力します。

- 留保規則/留保相殺/制御フラグ

7. [日付/住所]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 予定開始日付
- 予定完了日付
- 実際開始日付
- 実際完了日付
- ユーザー日付 3
- ユーザー日付 4
- 送金先

- 送付先
 - 代替請求
 - ユーザー住所 1
 - ユーザー住所 2
 - ユーザー住所 3
8. [カテゴリ・コード]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。
- カテゴリ・コード 1
 - カテゴリ・コード 2
 - カテゴリ・コード 3
 - カテゴリ・コード 4
 - カテゴリ・コード 5
 - カテゴリ・コード 11
 - カテゴリ・コード 12
 - カテゴリ・コード 13
 - カテゴリ・コード 14
 - カテゴリ・コード 15
9. 〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で上限金額制御のオプションを指定していない場合は、[上限/下限金額]タブの次の任意フィールドに値を入力します。
- 最低金額
10. 〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で上限金額制御のオプションを指定した場合は、[上限/下限金額]タブの次の任意フィールドに値を入力します。
- 最低金額
 - 上限規則
 - 上限金額
 - 上限外貨金額

注:

[上限金額]フィールドと[上限外貨金額]フィールドのどちらに値を入力するかは、契約の通貨モードに依存します。

11. [通貨]タブをクリックします。

通貨モードは、請求固定情報テーブル(F48091)から取り込まれます。基本(国内)通貨コードが請求(外貨)通貨コードと異なる場合は、この設定を一時変更できます。

12. 通貨モード設定を一時変更するには、[国内通貨]オプションまたは[外貨]オプションをクリックします。

プロジェクト会社の基本通貨コードは、会社固定情報テーブル(F0010)から取り込まれます。

13. 顧客の請求通貨コードを一時変更するには、次のオプション・フィールドに入力します。

- 通貨コード

顧客の請求通貨コードは、顧客マスター(F0301)から取り込まれます。このコードは、顧客のニーズに合わせて任意の有効な通貨コードに一時変更できます。

14. [OK]をクリックします。

〈契約請求行明細の処理〉フォームが表示されます。引き続き請求行詳細を入力するか、プログラムを終了して後で請求行を追加できます。

フィールド記述

記述	用語解説
契約	システム上でこの契約を固有に識別する番号。契約の入力時に、この番号をブランクのままにしておいた場合、割当てのために自動採番(システム 52、インデックス 01)機能が使用されます。
記述	ユーザー定義名称または備考。
プロジェクト/作業	この契約と関連するプロジェクトまたは作業を識別する番号。 プロジェクトまたは作業の設定は作業原価システムで行います。 契約検索フォームで、プロジェクトまたは作業番号を検索条件として使用できます。
顧客	請求書と売掛取引の転記先住所番号。一般的には、得意先の住所番号です。 この番号は、契約マスター(F5201)から取り込まれます。
親契約	この契約が添付される親契約番号
担当ビジネスユニット	作業を担当するビジネスユニット。これは転送価格設定時に特に便利です。
顧客参照 No.	所有者帳簿に記録されている契約番号。この番号を契約マスター改訂画面で入力すると、契約検索画面で検索条件として使用できます。この番号は、請求用の買掛金レコードの参照フィールド(VR01)で更新します。
請求書フォーマット・コード	請求書のフォーマットを識別するための判断するコード。

支払条件	<p>請求書が割引期日内に支払われた場合に適用される割引率など、支払条件を指定するコード。ブランクのコードは、最も使用頻度の高い支払条件を示します。各支払条件タイプは「支払条件の改訂」フォームで定義します。支払条件には次のようなものがあります。</p> <p>ブランク 15 日以内支払</p> <p>001 30 日以内支払 (10 以内に支払った場合 1%割引)</p> <p>002 30 日以内支払 (10 以内に支払った場合 2%割引)</p> <p>003 各月 10 日支払</p> <p>006 請求書受領時払い。このコードは顧客の請求書に印刷されます。</p>
税率/税域	<p>税率その他の指定が同じ税域を識別するコード。 税率／税域を定義する時に、納税先(都道府県、市区町村など)と税率を指定してください。 このコードは、税率／税域テーブル(F4008)で設定します。</p>
税目コード	課税方法および収益勘定と費用勘定への計上方法を指定するユーザー定義コード(00/EX)
サード・パーティ	契約またはプロジェクトの建築士の住所番号。
サード・パーティ参照 No.	オーナーの帳簿に記録された通りの建築士の契約番号。この情報は参照用となるもので、契約の検索で使用するために保存されます。
状況	契約に関する状況を示す 2 字のコード。この状況は、ユーザー定義コード(52/CS)に対して編集されます。
タイプ	契約タイプを識別するユーザー定義コード(51/CT)
支払後に請求	<p>買掛管理から発生する時間/資材請求詳細取引が、いつ請求可能となるかを制御するオプション。このオプションは、契約レベルまたはオーナー支払項目レベルで管理されます。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 支払済買掛請求のみ契約オーナーに対して請求可能。</p> <p>注: このオプションは請求詳細取引に対して一時変更できます。会計/内部制御情報用フィールドが支払済みの場合には、逆請求に N を入力してください。</p>
留保規則/留保相殺/制御フラグ	<p>契約の留保金額を計算するのに使用される規則。たとえば次のように設定します。</p> <p>留保率 10.00; 完了率 50.00 留保率 5.00; 完了率 95.00</p> <p>この場合、作業の 50%が完了するまでは留保金は 10%、その後作業の 95%が完了するまでの 45%に対する留保金は 5%になります。作業の 95%が完了すると、留保金はゼロになります。</p>
予定開始日付	契約に関する作業の開始予定日付。

予定完了日付	契約に関する作業の完了予定日付。
実際開始日付	契約の作業を実際に開始した日付
実際完了日付	契約の作業を実際に完了した日付
ユーザー日付 3	ユーザー定義ユリウス日付3。
ユーザー日付 4	ユーザー定義ユリウス日付4。
送金先	住所番号-送金先
送付先	ユーザー定義の住所録番号。これは、住所録に対して検査されます。
代替請求	所有者が請求書(書類)の送付を希望する代替所在地の住所番号。
ユーザー住所 1	ユーザー定義の住所録番号。これは住所録に対して正しいかどうかを検査されます。
ユーザー住所 2	ユーザー定義の住所録番号。これは住所録に対して正しいかどうかを検査されます。
ユーザー住所 3	住所番号3-ユーザー
カテゴリ・コード 1	これはユーザー定義カテゴリ・コード(システム 52、コード 01)で、契約の特定の条件に合わせるように使用できます。
カテゴリ・コード 2	これはユーザー定義カテゴリ・コード(システム 52、コード 01)で、契約の特定の条件に合わせるように使用できます。
カテゴリ・コード 3	これはユーザー定義カテゴリ・コード(システム 52、コード 01)で、契約の特定の条件に合わせるように使用できます。
カテゴリ・コード 4	これはユーザー定義カテゴリ・コード(システム 52、コード 01)で、契約の特定の条件に合わせるように使用できます。
カテゴリ・コード 5	これはユーザー定義カテゴリ・コード(システム 52、コード 01)で、契約の特定の条件に合わせるように使用できます。
最低金額	契約に必要な最低金額。請求金額がこのフィールドの金額より少ないと、請求書は生成されません。
上限規則	<p>契約の上限(NTE)規則をどのように適用するかを指定するコード。このコードは、契約レベル、変更オーダー・レベル、請求行レベル、またはこれら3つのレベルの組合せで定義できます。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 適用しない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 収益処理と請求書処理に関して上限(NTE)規則から除外する。 このコードは変更オーダー・レベルまたは請求行レベルでのみ有効です。 2 このレベルの請求書金額および収益金額にのみ適用する。 3 このレベルの収益金額に適用する。請求書処理が上限を超えた場合は、警告が表示されます。 4 このレベルの請求書金額に適用する。収益処理が上限を超えた場合は、警告が表示されます。
上限金額	<p>請求限度額。上限金額は、次の3つの契約レベルで定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 契約。契約全体および関連変更オーダーすべてに適用されます。 ○ 変更オーダー。特定変更オーダーにのみ適用されます。 ○ 請求行。個々の請求行にのみ適用されます。
通貨コード	請求通貨コード。顧客の通貨コードが使用されます。

処理オプション:〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)

表示タブ

税情報の表示を制御できます。

1. 税情報の表示

ブランク = 表示する(デフォルト)

1 = 表示しない

税情報を表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 表示する(デフォルト)

1 = 表示しない

編集タブ

NTE 規則または NTE 金額が変更されたときに警告を発行するかどうかを制御します。

1. NTE 規則/金額の変更時に警告を表示する

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

上限(NTE)規則および/または上限(NTE)金額が変更されたときに警告を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

デフォルト・タブ

留保金の相手科目を指定します。

1. 留保金の元帳クラス

留保金の相手科目を指定します。

AAI(自動仕訳)コードと同じ値を指定してください。

通貨タブ

外貨金額の警告を表示するかどうかを制御します。

1. 通貨金額警告の表示

ブランク = 表示しない(デフォルト)

1 = 表示する

通貨金額警告を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

1 表示する

ブランク 表示しない

印刷タブ

契約の印刷(R5201)のバージョンを指定します。

1. 契約の印刷(R5201)のバージョン

ブランク = XJDE0001

<契約の印刷>プログラム(R5201)のバージョンを指定します。

ブランクにした場合、XJDE0001 が使用されます。

上限規則の割当て

契約に対して上限金額規則を指定すると、顧客と合意した請求金額を超過した場合に、請求書を作成しないようにすることができます。また、ある金額を超えた場合に収益を認識しないようにすることも可能です。

変更オーダーや請求行を契約に追加するにあたって、請求条件により異なる上限規則が必要になる場合があります。次の項目について上限規則を定義できます。

契約マスター

契約マスターに上限規則を定義すると、基本契約(変更オーダー000)と関連の請求行すべてに規則が適用されます。

契約マスターに上限規則を定義しない場合、契約全体について収益や請求金額のチェックは行われません。

変更オーダー

特定の変更オーダーに上限規則を定義すると、変更オーダーに関連するすべての請求行の合計請求金額に規則が適用されます。

変更オーダー000(基本契約)の上限金額が、契約マスターに定義した規則に基づいてチェックされます。

契約請求行

契約タイム・アンド・マテリアル請求行に上限規則を定義すると、そのタイム・アンド・マテリアル請求行にのみ規則が適用されます。

上限規則を設定するには、次の項目を指定してください。

- 超過禁止または上限金額
- 限度を適用するプロセス(収益計上や請求)

たとえば、顧客への請求合計金額にのみ適用され、契約について計上する収益には適用されない上限規則を設定することがあります。また、特定の請求行を変更オーダーに設定した上限規則の対象外とすることもできます。

上限金額規則によって、収益の認識および請求書の処理で、収益および請求書の金額が契約の範囲内にあるかどうかを確認されます。収益または請求金額が上限規則で指定した範囲にない場合、収益は限度額まで認識され、超過分については相殺レコードが作成されます。請求処理では請求書が作成されますが、限度額を超える理由となった取引は含まれません。収益認識や請求処理では、指定した金額を超過するレコードについて、上限規則の値を手作業で一時変更できます。

注:

上限規則および金額を契約または変更オーダーのレベルで定義すると、収益認識の処理時に上限金額を超過しているかどうかを判断する際に、タイム・アンド・マテリアルの請求行のみが対象になります。

▶ 契約マスターに上限規則を割り当てるには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約マスターの改訂〉を選択します。

1. 〈契約マスターの処理〉で、次のうち必要なフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 顧客
 - プロジェクト作業
 - 親契約
 - 顧客参照 No.
2. グリッド行の契約を選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

契約マスターの改訂

OK キャンセル フォーム ツール

契約 5350 R2 00050 記述 Wet and Willy Wilderness Ride

請求書バッチ

GLバッチNo.

一般 請求明細 日付/金額 カテ/バコード 上限/下限金額 通帳

下限金額

最低金額

上限規則/金額

上限規則 2 NTE Subject to Inv & Rev

上限金額 75,000.00

注:

上限規則のフィールドは、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の上限金額制御のオプションを選択した場合にのみ表示されます。契約がアクティブな請求書のバッチにある場合、上限金額のフィールドは表示されません。

3. 〈契約マスターの改訂〉で、[上限/下限金額]タブの次のフィールドに値を入力します。

- 上限規則

注:

上限規則の 1(適用しない)は、変更オーダーおよび請求行レベルでのみ有効です。契約レベルでは適用されません。

請求固定情報で仕訳作成のオプションを「請求書のみ」に設定すると、上限規則 3(収益の処理にのみ適用)と規則 2(収益と請求書の処理に適用)は無効になります。

請求固定情報で仕訳作成のオプションを「収益のみ」に設定すると、上限規則 2(収益と請求書の処理に適用)と規則 4(請求書の処理にのみ適用)は無効になります。

4. 国内通貨を使用した契約の場合、次のフィールドに値を入力します。

- 上限金額

5. 外貨を使用した契約の場合、次のフィールドに値を入力します。

- 上限外貨金額

6. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
上限規則	<p>契約の上限(NTE)規則をどのように適用するかを指定するコード。このコードは、契約レベル、変更オーダー・レベル、請求行レベル、またはこれら 3 つのレベルの組合せで定義できます。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 適用しない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 収益処理と請求書処理に関して上限(NTE)規則から除外する。 このコードは変更オーダー・レベルまたは請求行レベルでのみ有効です。 2 このレベルの請求書金額および収益金額にのみ適用する。 3 このレベルの収益金額に適用する。請求書処理が上限を超えた場合は、警告が表示されます。 4 このレベルの請求書金額に適用する。収益処理が上限を超えた場合は、警告が表示されます。
上限金額	<p>請求限度額。上限金額は、次の 3 つの契約レベルで定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 契約。契約全体および関連変更オーダーすべてに適用されます。 ○ 変更オーダー。特定変更オーダーにのみ適用されます。 ○ 請求行。個々の請求行にのみ適用されます。

▶ 変更オーダーに上限規則を割り当てるには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

契約請求行詳細の改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

契約No. 5350 R2 00050 Wet and Willy Wilderness Ride
 変更オーダー 001 003 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上限 連絡

上限規則 2 NTE Subject to Inv & Rev
 上限金額 110,000.00

グリッドのカスタマイズ

	相互参照	請求行	記述	価格設定	予定値	計量単位	数量	単価	繰上げ数量
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	DESIGN	Design of Wilderness Ride	L	100,000.00		0.0000	

注:

[上限]タブは、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の上限金額制御のオプションを選択した場合にのみ表示されます。

3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、[上限]タブの次のフィールドに情報を入力します。
 - 上限規則
4. 国内通貨を使用した契約の場合、次のフィールドに値を入力します。
 - 上限金額
5. 外貨を使用した契約の場合、次のフィールドに値を入力します。
 - 外貨上限金額
6. [OK]をクリックします。

▶ **契約請求行に上限規則を割り当てるには**

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.

2. 上限規則を割り当てる請求行を含む当初の契約または変更オーダーを選び、[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、特定の契約請求行についてグリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 上限規則
- 上限金額
- 上限数量
- 上限金額外貨

注:

上限規則のフィールドは、タイム・アンド・マテリアルの請求行にのみ使用できます。予定金額は、請求処理の実行中に他の請求行の上限に対して使用されます。

4. [OK]をクリックします。

留保金規則の定義

留保金とは、契約の履行を確実にするために顧客が保留にする支払金額のことです。たとえば、顧客に請求する金額の 10%を保留にするとします。100ドルを請求する場合、顧客は 10ドルを差し引いて 90ドルを支払います。契約事項が完全に満たされた段階で、留保金額をリリースして差し引かれていた 10ドルを請求します。

留保金は完了した作業のパーセンテージを基準とします。請求処理の際に、契約に対して設定した留保金規則を使用して留保金額が計算されます。

留保金のパーセンテージは、作業の完了パーセントと連動します。たとえば、作業の 50%が完了するまでは 10%、95%完了するまでは 5%を留保することもできます。

契約を管理するにあたって、請求条件に従って異なる留保金規則が必要となる場合もあります。次の項目に対して留保金規則を設定できます。

契約マスター	<p>契約マスターに留保金規則を定義すると、基本契約(変更オーダー000)と関連の請求行すべてに規則が適用されます。また、契約マスターの留保金規則は、変更オーダーのレベルで一時変更しない限り、すべての変更オーダーに適用されます。契約マスターに留保金規則を定義しないと、留保金は契約レベルでは計算されません。</p> <p>注: 留保金規則を変更オーダーや請求行レベルで定義する場合、〈契約マスターの改訂〉フォームの[留保相殺/制御フラグ]フィールドに値を入力してください。</p>
変更オーダー	<p>特定の変更オーダーに留保金規則を定義すると、変更オーダーに関連するすべての請求行の合計請求金額に規則が適用されます。</p> <p>注: 変更オーダー000(基本契約)の留保金額が、契約マスターに定義した規則に基づいてチェックされます。</p>

契約請求行	<p>契約請求行に留保金規則を定義すると、その請求行にのみ規則が適用されます。</p> <p>前渡金相殺または按分相殺の請求行については、留保金は計算されません。また、前渡金相殺および按分相殺請求行の予定金額は、留保金の計算対象とはなりません。</p> <p>注:</p> <p>変更オーダーに適用する留保金規則を適用しない請求行がある場合、留保金を差し引かない規則をその請求行に割り当てる必要があります。留保のパーセンテージが 0 の留保金規則を定義するか、完了率を 100%とすることができます。</p> <p>この場合、それぞれの請求行について留保金規則のフィールドをブランクにすることはできません。ブランクの場合、変更オーダーの留保金規則が使用されます。</p>
-------	--

契約の留保金が計算される際は、まず請求行の留保金規則が検索されます。次に、契約に関連する変更オーダーの留保金規則が検索されます。契約の留保金規則が最後に検索されます。

例: 留保金の計算

この例では、次の情報が留保金規則情報テーブル(F5204)に設定されています。

留保率	完了率
10%	50%
5%	95%

予定金額の合計は 500,000 で請求金額は 485,000 です。

留保金の計算方法は次のとおりです。

請求金額は予定金額 500,000 の 97%にあたる 485,000 です。

表の 1 行目にある完了率 50%までは、予定金額の 50%にあたる 250,000 の 10%が留保金の計算基準となります。

$$250,000 \times 10\% = 25,000$$

表の 2 行目にある完了率 95%までは、予定金額の 45%にあたる 225,000 の 5%が留保金となります。

$$225,000 \times 5\% = 11,250$$

表にはこれ以上の規定がないため、請求残高 10,000 については留保金は計算されません。

この請求書の留保金の合計は次のように計算されます。

$$25,000 + 11,250 = 36,250$$

変更オーダーの留保金の計算

変更オーダーの完了率は、請求行レベルに特定の留保金規則を持たない累計正味金額を、請求行の予定金額で割ることにより計算されます。請求行に予定金額がない場合、請求行の累計正味金額が予定金額として使用されます。

完了率を使用して、留保金規則が累計正味金額に適用され、変更オーダーから差し引かれる留保金の合計が計算されます。続いて、変更オーダーに対する請求行の割合に応じて、現在の留保金額が各請求行に割り当てられます。

注:

留保金の処理後に留保金規則が変更になった場合、留保予定の合計金額から前回の留保金額を差し引いて変更オーダーの現行の留保金額が計算されます。

▶ 留保金規則を定義するには

〈テーブル情報〉メニュー (G5241) から〈留保金規則テーブル〉を選択します。

1. 〈留保金規則〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

留保金規則テーブルの改訂

OK 削除 キャンセル ツール

留保金規則 R15

記述 15% at 30%, 10% at 60%

グリッドのカスタマイズ

	留保 %	完了 %	
<input checked="" type="checkbox"/>	15.00	30.00	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	10.00	60.00	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>

2. 〈留保金規則テーブルの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して留保金規則を定義します。

- 保証金の留保規則
- 記述

3. グリッドの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 留保%
- 完了%

[完了%]フィールドを空白にすると、契約が 100%完了するまで留保金が計算されます。

フィールド記述

記述	用語解説
保証金の留保規則	<p>契約の留保金額を計算するのに使用される規則。たとえば次のように設定します。</p> <p>留保率 10.00; 完了率 50.00 留保率 5.00; 完了率 95.00</p> <p>この場合、作業の 50%が完了するまでは留保金は 10%、その後作業の 95%が完了するまでの 45%に対する留保金は 5%になります。作業の 95%が完了すると、留保金はゼロになります。</p>
留保%	<p>契約の留保率。この率はパーセントで、そのままの数字で表わされます。例えば、留保パーセントが 10.5 %の場合、10.5 と入力してください。留保パーセントは 99.99 %を越えたり(99.99 と表示)、0 を下回ってはいけません。</p>
完了%	完了した作業全体またはプロジェクトのパーセント。

▶ 契約マスターに留保金規則を割り当てるには

〈日次処理〉メニュー (G5210) から〈契約マスターの改訂〉を選択します。

1. 〈契約マスターの処理〉で、次のうち必要なフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- 顧客
- プロジェクト作業
- 親契約
- 顧客参照 No.

2. グリッド行の契約を選んで[選択]をクリックします。

3. 〈契約マスターの改訂〉で、[追加明細]タブの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 留保規則/留保相殺/制御フラグ

フィールド記述

記述	用語解説
留保規則/留保相殺/制御フラグ	<p>契約の留保金額を計算するのに使用される規則。たとえば次のように設定します。</p> <p>留保率 10.00; 完了率 50.00 留保率 5.00; 完了率 95.00</p> <p>この場合、作業の 50%が完了するまでは留保金は 10%、その後作業の 95%が完了するまでの 45%に対する留保金は 5%になります。作業の 95%が完了すると、留保金はゼロになります。</p>
留保金元帳クラス	<p>留保金の相手科目を指定する AAI コード。たとえば、RETN または 1225 です。</p> <p>このコードを AAI (自動仕訳) で設定します。</p> <p>注: 元帳クラスに 9999 は使用しないでください。これは、仕訳を作成しないように設定されているコードで、転記プログラムにより予約されています。</p>
留保金税計算	<p>留保金額を買掛管理システムと一般会計システムのどちらに保管するか、また税額の計算を留保金額を含む課税額合計に対して行うするか、請求された金額ごとに行うかを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 留保金額は買掛管理システムに保管し、税額は課税額合計に対して計算する。</p> <p>1 留保金額は買掛管理システムに保管し、留保金額の税額を税額合計から差し引く。留保金額の税額は、留保金がリリースされるまで繰り延べられます。</p> <p>2 留保金額は一般会計システムに保管し、税額は課税額合計に対して計算する。</p> <p>3 留保金額は一般会計システムに保管し、留保金額の税額を税額合計から差し引く。留保金額の税額は、留保金がリリースされるまで繰り延べられます。</p>

▶ 変更オーダーに留保金規則を割り当てるには

〈日次処理〉メニュー（G5210）から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. グリッドの変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft

契約請求行詳細の改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

契約No. 5350 R2 00050 Wet and Willy Wilderness Ride

変更オーダー 001 003 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上戻 通知

変更日 05/07/15 記述 Change 留保規則 R15

変更状況

グリッドのカスタマイズ

	相互参照	請求行	記述	価格設定	予定値	計量単位	数量	単価	残上げ数量
<input checked="" type="checkbox"/>	X	DESIGN	Design of Wilderness Ride	L	100,000.00			0.0000	

3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、[一般]タブの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 留保規則

▶ 請求行に留保金規則を割り当てるには

〈日次処理〉メニュー（G5210）から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 請求行を含む契約または変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

契約請求行詳細の改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

契約No. 5350 R2 00050 Wet and Willy Wilderness Ride
 変更オーダー 001 003 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上階 連絡

変更日 05/07/15 記述 Change 留保規則

変更状況

グリッドのカスタマイズ									
	相互参照	請求行	記述	価格設定	予定値	計量単位	数量	単価	繰上げ数量
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	DESIGN	Design of Wilderness Ride	L	100,000.00		0.0000	

3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、留保金規則を割り当てる請求行の次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします

- 留保規則

請求行への支払後請求条件の定義

タイム・アンド・マテリアルに関連する費用を、仕入先に支払うまで顧客に請求しないことがあります。支払後請求機能を使用すると、仕入先伝票への支払を終えるまで、関連するワークテーブル取引は請求対象になりません。

支払後請求条件は、契約全体または契約内の特定の請求行について定義できます。契約全体を支払後請求とした場合、特定のワークテーブル取引の条件を一時変更して、仕入先への支払の前に取引を請求対象とすることができます。同様に、契約全体を支払後請求に設定していない場合も、特定の請求行に支払後請求条件を定義できます。

▶ 請求行に支払後請求条件を定義するには

〈日次処理〉メニュー (G5210) から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。

3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドの値を改訂して[OK]をクリックします。

- 支払後請求額

注:

請求行を追加する際、[支払後請求]フィールドには契約マスターの値が自動的に表示されます。ただし、この値は各請求行について一時変更できます。

参照

- 契約全体の支払後請求条件の定義については『サービス請求』ガイドの「契約マスター情報の設定」

独立契約請求行の処理

契約マスター情報を設定した後、顧客への請求書をシステムで生成するには、契約請求行を定義する必要があります。契約請求行では、契約の請求条件を指定します。契約には独立請求行と依存請求行を設定できます。請求行タイプにより、独立請求行であるか依存請求行であるかが決まります。

独立契約請求行には、システムが請求金額を計算するのに必要なすべての情報が含まれます。次の請求行タイプを使用して、契約に独立請求行を定義できます。

- 一括
- 単価
- マイルストーン(出来高)請求
- 進捗請求
- タイム・アンド・マテリアル(T&M)

はじめる前に

- 契約マスターを設定します。『契約請求』ガイドの「契約マスター情報の設定」を参照してください。

契約の一括請求行の定義

契約の一括請求行では、固定請求金額を定義します。契約について一括請求行を設定するのは、作業が完了するまでに実際に要した費用に関わらず固定金額を請求する契約の場合です。

請求金額を手作業で計算する必要のある一括請求行を定義できます。また、この請求行を使用して請求金額を自動的に計算することもできます。システムによって請求金額を自動的に計算するには、一括請求行を請求対象外勘定科目、複数勘定科目、または勘定科目範囲にリンクする相互参照を定義する必要があります。相互参照先の勘定科目には、システムで一括請求金額の計算に使用される実績費用と最終予測費用の情報が含まれています。

契約の一括請求行を定義する時には、次のデフォルト情報が表示されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金会社

- 所有者の住所情報に基づく売掛金相殺
- 一括請求用 AAI(自動仕訳)BC01 に基づく収益勘定科目

注意:

相互参照テーブルの原価勘定科目が請求対象外ではなく請求対象である場合は、〈ワークテーブルの生成〉プログラム実行時に請求ワークテーブル・レコードが作成されます。また、タイム・アンド・マテリアル請求行と単価/一括請求行で取引が処理され、その結果、同じ原価取引に対して顧客が2回請求されます。

手動計算用の一括の定義

手動で請求金額を計算する必要のある一括請求行を定義できます。

はじめる前に

- 契約について契約マスターを作成します。『契約請求』ガイドの「契約マスター情報の設定」を参照してください。

▶ 手動計算用の一括を設定するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。

2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.

- 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブをクリックして、次の任意フィールドに値を入力します。

- 変更日

このフィールドを空白にすると、現在の日付が入力されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述

この[記述]フィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

- 変更状況

4. [追加明細]タブをクリックして、次の任意フィールドに値を入力します。

- 開始予定日付

- 完了予定日付

- 参照

- 金額以外の変更

- カテゴリ・コード 1

- カテゴリ・コード 2

5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 請求行

- 記述

- 価格設定

[価格設定]フィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されることに注意してください。

- 予定値

- 定期請求金額

- 定期請求コード

6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。

- 適格性一時変更

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳作成の制御オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドをblankにすると、1(請求書のみ)が使用されます。
 〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドをblankにすると、blank(一時変更なし)が使用されます。請求行は請求および収益認識の対象となります。

- 請求 AAI 制御

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドをblankにすると、1 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は原価勘定になります。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドをblankにすると、0 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は収益勘定になります。

- ビジネスユニット

- 補助科目

- 主科目

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)をblankにすると、項目BC01 の AAI 設定から勘定科目コードが割り当てられます。

- 補助元帳

- 補助タイプ

- 元帳クラス

- 留保規則

- 税率

- 税目コード

[税率]および[税目コード]フィールドをblankにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

- 代替順序コード

- プロジェクト/作業

このフィールドをblankにすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。

- 請求一時停止

- カテゴリコード 3
- カテゴリコード 4
- カテゴリコード 5
- Vertex 製品カテゴリ
- Vertex タイプ

次のメッセージが表示されます。

警告:相互参照が設定されていません。

手動計算に一括請求行を使用する場合は相互参照情報を使用しないため、このメッセージは無視してかまいません。

7. [OK]をクリックします。
8. 請求行を受け入れて入力した項目を再度表示するには[OK]をクリックします。
9. [キャンセル]をクリックしてプログラムを終了します。

請求金額計算用の一括の定義

一括請求行を使用して固定請求金額を定義します。契約について一括請求行を設定するのは、作業が完了するまでに実際に要した費用に関わらず固定金額を請求する契約の場合です。

請求金額を自動計算するための一括請求行を定義することができます。請求金額は、〈請求書の生成〉プログラム実行中に計算されます。

請求金額を自動計算するには、契約請求の処理オプション:〈請求書の生成〉プログラム(R52121)で次の項目を設定してください。

完了率または原価率による方法	契約請求行から1つまたは複数の費用勘定科目への相互参照。勘定科目相互参照を使用して、実績費用と最終予測費用が確定されます。
定義済み元帳方式	請求対象外原価勘定科目のみの相互参照。勘定科目相互参照を使用して、指定した元帳タイプの勘定科目に割り当てられている率が確定されます。F%(最終予測費用)以外の元帳タイプを指定して、計算方法を制御できます。

一括用請求行の請求書を作成する場合、請求金額の計算方法は次のうちの1つを指定できます。

- 完了率
- 原価率
- 定義済み元帳タイプ
- 2つ(完了率または原価率)のうちいずれか大きい方または小さい方

完了率方式

完了率方式を指定すると、請求金額は次のように計算されます。

- $\text{完了率} = \text{実績原価累計} / \text{最終予測原価(開始日以降累計)}$

- 請求金額 = 完了率 × 予定値
- 現行の請求金額 = 請求金額 - 前回の請求金額

予定金額は契約の請求行詳細に保存されます。実績費用累計は、AA 元帳にあります。最終予測費用は HA 元帳にあります。

原価率方式

原価率方式を指定すると、請求金額は次のように計算されます。

- 割増金額 = 予定値 - 最終予測原価(開始日以降累計)
- 原価割増率 = 割増金額/最終予測原価(開始日以降累計)
- 現行の請求金額 = 費用割増率 × 現行期間の実績費用

現行期間の実績原価は、契約請求の処理オプション:〈請求書の生成〉プログラム(R52121)で[開始日付]を使用して計算されます。

最終予測原価は、開始日以降累計として計算されますが、年度締めが完了していない場合、勘定残高テーブル(F0902)には年累計情報のみ含まれます。

予定金額は契約の請求行詳細に保存されます。実績費用累計は AA 元帳にあります。最終予測費用は HA 元帳にあります。

定義済み元帳方式

定義済み元帳方式を指定すると、請求金額は次のように計算されます。

- 請求金額 = 予定金額 × 定義済み元帳に割り当てた割合

予定金額は契約の請求行詳細に保存されます。率は指定した定義済み元帳タイプにあります。

▶ 請求金額計算用の一括を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

契約請求行詳細の改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build
変更オーダー 000 請求書バッチ 5984 収益バッチ

一般 追加明細 上戻 過剰

変更日 05/06/01 記述 Original 留保規則

変更状況

レコード 1 - 40 グリッドのカスタマイズ

相互参照	請求行	記述	価格設定	予定値	計量単位	数量	単価	積上げ数量
<input checked="" type="checkbox"/>	X 134X	Labor	T				0.0000	
<input type="checkbox"/>	X 1350-GENERAL	Materials	T				0.0000	
<input type="checkbox"/>	X 1350-SEATING	Seating	U	2,000,000.00	PC	4,000.00	500.0000	
<input type="checkbox"/>	X 1355	Equipment	T				0.0000	
<input type="checkbox"/>	X 1360	Subcontract	L	2,500,000.00			0.0000	
<input type="checkbox"/>	X ADMIN	Administrative	F				0.0000	
<input type="checkbox"/>	X 001	Draw	D	25,000.00			0.0000	
<input type="checkbox"/>	X 002	Progress	P	100,000.00			0.0000	
<input type="checkbox"/>	X 003	Rated Draw	R	1,000.00			0.0000	
<input type="checkbox"/>	X 004	Milestone	M	92,000.00			0.0000	

2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.
- 変更オーダー

このフィールドをブランクにすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日

ブランクの場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述

変更オーダーのこのフィールドをブランクにすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

- 変更状況
4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。
- 開始予定日付
 - 完了予定日付
 - 参照
 - 契約条件のみ
 - カテゴリ・コード 1
 - カテゴリ・コード 2
5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。
- 請求行
 - 記述
 - 価格設定

[価格設定]フィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。
 - 予定値
6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。
- 適格性一時変更

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳作成の制御オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドを空白にすると、1(請求書のみ)が使用されます。
 〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳作成の制御オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドを空白にすると、空白(一時変更なし)が使用されます。請求行は請求および収益認識の対象となります。
 - 請求 AAI 制御

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳作成の制御オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドを空白にすると、1 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は費用勘定になります。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳作成の制御オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドを空白にすると、0 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は収益勘定になります。
 - ビジネスユニット
 - 補助科目
 - 主科目

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)をblankにすると、項目BC01のAAI設定から勘定科目コードが割り当てられます。

- 補助元帳

- 補助タイプ

- 元帳クラス

このフィールドをblankにすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 留保規則

- 税率

- 税目コード

[税率]および[税目コード]フィールドをblankにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

- 代替順序コード

- プロジェクト/作業

[プロジェクト/作業]フィールドをblankにすると、契約マスターのプロジェクトが割り当てられます。

- 請求一時停止

- カテゴリコード 3

- カテゴリコード 4

- カテゴリコード 5

- Vertex 製品カテゴリ

- Vertex タイプ

次のメッセージが表示されます。

注:

請求行の相互参照情報を入力するまでは、[相互参照]フィールドは強調表示されます。

7. [OK]をクリックします。
8. [OK]をクリックして請求行を追加します。
9. [キャンセル]をクリックして〈契約請求行詳細の改訂〉フォームを閉じます。
10. 〈契約請求行明細の処理〉で、[検索]をクリックします。
11. 追加した変更オーダーを選択し、[選択]をクリックします。

12. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、一括請求行を選択して[ロー]メニューから[相互参照]を選択し、相互参照の情報を追加します。

PeopleSoft

タイム・アンド・マテリアル、単価、一括相互参照の改訂

OK キャンセル フォーム ロー ツール

契約No. 5351 R2 Baseball Ballpark Build 請求書バッチ 5984

変更No. 000 収益バッチ

請求行 134X Labor

通貨コード USD U.S. Dollar

ビジネス	補助科目	主科目	補助元帳	補助元帳タイプ	通貨タイプ	金額	支払タイプ	従業員No.	使用設備	所属ビジネス
<input checked="" type="checkbox"/>	5351	*ALL	134*	*						

13. 〈タイム・アンド・マテリアル、単価、一括相互参照の改訂〉で、1 つまたは複数の勘定科目について次のフィールドに値を入力します。

- ビジネスユニット
- 補助科目
- 主科目
- 補助元帳

[補助元帳]フィールドをブランクにすると、すべての補助元帳ではなくブランクの補助元帳が使用されます。

- 補助元帳タイプ

注意:

一括および単価請求行の相互参照で指定する勘定科目は、勘定科目マスター(F0901)で非請求対象である必要があります。請求勘定を指定すると、請求行を二重に請求する恐れがあります。予想外の結果が起こる可能性があります。

14. [OK]をクリックして改訂結果を受け入れ、〈契約請求行詳細の改訂〉に戻ります。

定期請求金額の定義

定期金額を使用して、週次や月次など、固定金額全体を定期的に少しずつ増やしながら請求できます。たとえば、会社が作業現場用にトレーラーを賃借しているとします。総費用は 3,600 ドルです。作業の所有者は、会社に賃貸料として毎月 300 ドルずつを支払うことに同意しています。

はじめる前に

- 定期請求コード(ユーザー定義コード 52/RB)を定義してください。

▶ 定期請求金額を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.
- 変更オーダー

このフィールドをブランクにすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。

- 変更日

ブランクの場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述

変更オーダーのこのフィールドをブランクにすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

- 変更状況

4. [追加詳細]タブで、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。

- 開始予定日付
- 完了予定日付
- 参照
- 金額以外の変更
- カテゴリ・コード 1

- カテゴリ・コード 2

5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 請求行

- 価格設定

[価格設定]フィールドをblankにすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されることに注意してください。

- 定期請求金額

- 定期請求コード

- 予定値

6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。

- 適格性一時変更

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳作成の制御オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドをblankにすると、1(請求書のみ)が使用されます。
〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドをblankにすると、blank(一時変更なし)が使用されます。請求行は請求および収益認識の対象となります。

- 請求 AAI 制御

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドをblankにすると、1 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は原価勘定になります。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドをblankにすると、0 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は収益勘定になります。

- ビジネスユニット

- 補助科目

- 主科目

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)をblankにすると、項目BC01のAAI設定から勘定科目コードが割り当てられます。

- 補助元帳

- 補助タイプ

- 元帳クラス

このフィールドをblankにすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 留保規則
- 税率
- 税目コード
[税率]および[税目コード]フィールドをblankにすると、契約マスターの税情報が使用されます。
- 代替順序コード
- プロジェクト/作業
このフィールドをblankにすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。
- 請求一時停止
- カテゴリコード 3
- カテゴリコード 4
- カテゴリコード 5
- Vertex 製品カテゴリ
- Vertex タイプ

注:

相互参照情報は定期請求の金額およびコードを持つ請求行には不要なため、相互参照のフィールドには X が自動的に入力されます。

7. [OK]をクリックします。
8. [キャンセル]をクリックしてプログラムを終了します。

参照

- 『契約請求』ガイドの「請求書の自動生成」
- 『契約請求』ガイドの「請求書情報の手動生成」

単価用の契約請求行の定義

単価用の契約請求行では、数量と単価に基づく請求条件を定義します。契約について単価用の請求行を設定する時に、会社は顧客に対して、事前に確定された単価で既存数量分を請求することに同意しています。

請求金額を手作業で計算する必要のある単価請求行を定義できます。また、この請求行を使用して請求金額を自動的に計算することもできます。

単価請求行の請求金額を自動的に計算するには、相互参照を設定して、請求計算に使用する数量を含む請求対象外科目と請求行をリンクする必要があります。

単価用の契約請求行を定義する時には、次のデフォルト情報が表示されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金会社
- 所有者の住所情報に基づく売掛金相殺
- 単価用の自動仕訳 BC02 に基づく収益勘定科目

注意:

相互参照テーブルの原価勘定科目が請求対象外ではなく請求対象である場合は、ワークテーブル生成時に請求ワークテーブル・レコードが作成されます。また、タイム・アンド・マテリアル請求行と単価/一括請求行で取引が処理され、その結果、同じ原価取引に対して顧客が 2 回請求されます。

手動計算用の単価の定義

単価用請求行を定義し、一定の数量と事前に決められた単価に基づいて請求書を生成します。

請求書の生成時に単価用の請求金額を計算するには、手動計算用の単価請求行を設定できます。

▶ 手動計算用の単価を設定するには

〈日次処理〉メニュー (G5210) から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.

- 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日

空白の場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述

変更オーダーのこのフィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

- 変更状況

4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 開始予定日付
- 完了予定日付
- 参照
- 金額以外の変更
- カテゴリ・コード 1
- カテゴリ・コード 2

5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 請求行
- 記述
- 価格設定

単価請求行には価格設定タイプ 1 または 2 を使用します。[価格設定]フィールドをブランクにすると、1 (一括) が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。

- 計量単位
- 数量

6. 次のフィールドのうち 1 つに値を入力します。

- 予定値
- 単価

7. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。

- 適格性一時変更

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドをブランクにすると、1 (請求書のみ) が使用されます。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドをブランクにすると、ブランク (一時変更なし) が使用されます。請求行は請求および収益認識の対象となります。

- 請求 AAI 制御

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドをブランクにすると、1 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は原価勘定になります。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドをブランクにすると、0 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は収益勘定になります。

- ビジネスユニット

- 補助科目

- 主科目

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)をblankにすると、項目BC02のAAI設定から勘定科目コードが割り当てられます。

- 補助元帳

- 補助タイプ

- 元帳クラス

このフィールドをblankにすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 留保規則

- 税率

- 税目コード

[税率]および[税目コード]フィールドをblankにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

- 代替順序コード

- プロジェクト/作業

このフィールドをblankにすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。

- 請求一時停止

- カテゴリコード 3

- カテゴリコード 4

- カテゴリコード 5

- Vertex 製品カテゴリ

- Vertex タイプ

次のメッセージが表示されますが、このメッセージは無視してかまいません。

8. [OK]をクリックします。
9. 請求行を受け入れるには[OK]を再度クリックします。
10. [キャンセル]をクリックしてプログラムを終了します。

請求金額計算用の単価の定義

単価用請求行を定義して、請求数量と事前に決められた単価に基づいて請求書を作成します。単価請求行を使用して、請求処理の実行中に請求金額が自動的に計算されます。そのためには、請求行から請求数量を含む勘定科目への相互参照を設定する必要があります。この勘定科目を使用して、AU(実績数量)元帳から実績累計数量が確定されます。

単価請求行に相互参照を設定する際には、次のことに注意してください。

- 請求金額の計算には、相互参照テーブルの 1 行目にある勘定科目のみが使用されます。
- 勘定科目の入力時には、桁数のワイルドカードは使用できません。
- 給与計算情報と設備情報は適用できません。

請求金額は、次の一連の算式に基づいて計算されます。

- 実現数量累計 = 実績数量累計
- 現行数量 = 実現数量累計 - 請求済み数量
- 単価 = 予定金額/予定数量
- 現行請求金額 = 現行数量 x 単価

注:

実現数量累計は開始日以降累計として計算されますが、年度締めが完了していない場合、勘定残高テーブル(F0902)には年累計情報のみ含まれます。

補足事項

作業勘定科目と予算の検証

〈タイム・アンド・マテリアル、単価、一括相互参照の改訂〉フォームで[フォーム]メニューから[当初予算の入力]を選択すると、作業の予算情報を検証し、請求数量について相互参照する正しい勘定科目を確定できます。作業原価システムから〈作業マスターの処理〉フォームが表示されます。このフォームで、[ロー]メニューの[作業予算]を選択することで、予算情報を検討できます。

勘定科目情報の検索

〈タイム・アンド・マテリアル、単価、一括相互参照の改訂〉フォームで契約請求行の相互参照に必要な勘定科目コードが不明な場合は、システムに設定された勘定科目リストから勘定科目を検索して選択できます。そのためには、[ロー]メニューから[勘定科目コードの選択]を選択します。〈勘定科目マスター検索〉フォームが表示されます。

▶ 請求金額計算用の単価の定義

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 契約 No.
 - 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日

空白の場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述

変更オーダーのこのフィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

- 変更状況

4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 開始予定日付
- 完了予定日付
- 参照
- 金額以外の変更
- カテゴリ・コード 1
- カテゴリ・コード 2

5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 請求行
- 記述
- 価格設定

単価行では、[価格設定]フィールドに“U”または“2”を入力します。このフィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。

- 計量単位
- 数量

6. 次のフィールドのうち 1 つに値を入力します。

- 予定値
- 単価

7. グリッドで、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。

- 適格性一時変更

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドをblankにすると、1(請求書のみ)が使用されます。
 〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドをblankにすると、blank(一時変更なし)が使用されます。請求行は請求および収益認識の対象となります。

- 請求 AAI 制御

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドをblankにすると、1 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は原価勘定になります。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドをblankにすると、0 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は収益勘定になります。

- ビジネスユニット

- 補助科目

- 主科目

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)をblankにすると、項目 BC02 の AAI 設定から勘定科目コードが割り当てられます。

- 補助元帳

- 補助タイプ

- 元帳クラス

このフィールドをblankにすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 留保規則

- 税率

- 税目コード

[税率]および[税目コード]フィールドをblankにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

- 代替順序コード

- プロジェクト/作業

このフィールドをblankにすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。

- 請求一時停止
- カテゴリコード 3
- カテゴリコード 4
- カテゴリコード 5
- Vertex 製品カテゴリ
- Vertex タイプ

次のメッセージが表示されます。

注:

請求行の相互参照情報を入力するまでは、[相互参照]フィールドは強調表示されます。

8. [OK]をクリックします。
9. [OK]をクリックして請求行を追加します。
10. [キャンセル]をクリックして〈契約請求行詳細の改訂〉フォームを閉じます。
11. 〈契約請求行詳細の処理〉で、[検索]をクリックします。
12. 変更オーダーを選んで追加し、[選択]をクリックします。
13. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、相互参照の情報を追加するために単価用の請求行を選択し、[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。

PeopleSoft

タイム・アンド・マテリアル、単価、一括相互参照の改訂

OK キャンセル フォーム ロー ツール

契約No. 5351 R2 Baseball Ballpark Build 請求書バッチ 5984
 変更No. 000 収益バッチ
 請求行 134X Labor
 通貨コード USD U.S. Dollar

グリッドのカスタマイズ											
	ビジネス ユニット	補助 科目	主 科目	補助 元帳	補助元帳 タイプ	借方 タイプ	借方 タイプ	支払 タイプ	従業員 No.	使用 設備	所属 ビジネス
<input checked="" type="checkbox"/>		5351	*ALL	134*	*						
<input type="checkbox"/>											

14. 〈タイム・アンド・マテリアル、単価、一括相互参照の改訂〉で、単一の原価勘定科目についてのみ次のフィールドに情報を入力します。

- ビジネスユニット
- 補助科目
- 主科目
- 補助元帳
- 補助元帳タイプ

注意:

一括および単価請求行の相互参照で指定する勘定科目は、勘定科目マスター(F0901)で非請求対象である必要があります。請求勘定を指定すると、請求行を二重に請求する恐れがあります。予想外の結果が起こる可能性があります。

15. [OK]をクリックして改訂結果を受け入れ、〈契約請求行詳細の改訂〉に戻ります。

マイルストーン請求用の契約請求行の定義

マイルストーン(出来高)請求用の契約請求行を定義するのは、作業中に特定の出来高に達するか、請求イベントを完了した後にのみ請求する契約の場合です。

マイルストーン請求用の契約請求行を設定する時には、次のデフォルト情報が表示されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金会社
- 所有者の住所情報に基づく売掛金相殺
- マイルストーン請求用の AAI(自動仕訳)BC04 に基づく収益勘定科目

マイルストーン請求用の請求イベント

請求イベントを、作業の特定フェーズの完了または特定の請求日付として定義できます。そのためには、マイルストーン請求用の請求行を構成する各請求イベントが、特定の日付およびそのイベントについて請求する出来高金額またはパーセンテージを相互参照するように設定します。請求行に関するすべての請求イベントのパーセンテージの合計は、100 にする必要があります。また、すべての請求イベント金額の合計は予定金額と同じにしてください。

完了した請求イベントの請求金額は、次のマイルストーンのパーセントの算式に基づいて計算されます。

予定値 × 出来高のパーセンテージ

金額を基準とする請求イベントの場合は、完了した請求イベントの出来高金額が使用されます。マイルストーン請求の予定金額は、契約全体の請求金額です。

参照

- マイルストーン請求の請求行への前渡金の相殺の相互参照については、『契約請求』ガイドの「契約の前払の処理」

▶ マイルストーン請求用の請求行を定義するには

〈日次処理〉メニュー (G5210) から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.

- 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日

空白の場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述

変更オーダーのこのフィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

- 変更状況

4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 開始予定日付

- 完了予定日付

- 参照

- 金額以外の変更

- カテゴリ・コード 1

- カテゴリ・コード 2

5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 請求行

- 記述

- 価格設定

マイルストーン請求行には、価格設定タイプ M または 6 を使用します。[価格設定]フィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。

- 予定値

6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。

- 適格性一時変更

このフィールドを空白にすると、1(請求のみ)が自動的に割り当てられます。

- 請求 AAI 制御

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳作成の制御オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドを空白にすると、1 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は費用勘定になります。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドを空白にすると、0 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は収益勘定になります。

- ビジネスユニット

- 補助科目

- 主科目

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)を空白にすると、項目 BC04 の AAI 設定から勘定科目コードが割り当てられます。

- 補助元帳

- 補助タイプ

- 元帳クラス

このフィールドを空白にすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 留保規則

- 税率

- 税目コード

[税率]および[税目コード]フィールドを空白にすると、契約マスターの税情報が使用されます。

- 代替順序コード

- プロジェクト/作業

このフィールドを空白にすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。

- 請求一時停止
- カテゴリコード 3
- カテゴリコード 4
- カテゴリコード 5
- Vertex 製品カテゴリ
- Vertex タイプ

次のメッセージが表示されます。

注:

請求行の相互参照情報を入力するまでは、[相互参照]フィールドは強調表示されます。

7. [OK]をクリックします。
8. 請求行を受け入れるには[OK]を再度クリックします。

▶ **マイルストーン請求用の請求イベントを定義するには**

〈日次処理〉メニュー (G5210) から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、グリッドの次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、マイルストーン請求行を選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択し、請求イベントの情報を追加します。

PeopleSoft®

マイルストーン請求行の改訂

OK 検索 削除 キャンセル ロー ツール

契約No. 5352 R2 00050 Light Rail Construction

変更オーダーNo. 000

請求行 STEEL Steel Work

予定値 75,000,000.00 残り配賦% 0.0000

請求書バッチ 収益バッチ

マイルストーン基準

☒ %

☐ 金額

0.0000

グリッドのカスタマイズ

	イベント名	イベント記述 1	2次記述	予定値 %	マイルストーン金額	見積元 1 日付
<input checked="" type="checkbox"/>	Mobil	Mobilization		20.0000	15,000,000.00	08/01/0
<input type="checkbox"/>	Material	Materials		30.0000	22,500,000.00	
<input type="checkbox"/>	Labor	Materials/Labor		30.0000	22,500,000.00	
<input type="checkbox"/>	Completion	Completion		20.0000	15,000,000.00	

4. 〈マイルストーン/進捗請求行の改訂〉で、次の[マイルストーン基準]オプションのいずれかををクリックします。

- %
- 金額

5. 次のフィールドに値を入力します。

- イベント名

6. 選択したマイルストーン基準オプションに応じて、次のフィールドのいずれかに値を入力します。

- 予定値%
- マイルストーン金額

パーセントをマイルストーン基準に選択した場合、[予定金額%]フィールドに値を入力してください。金額をマイルストーン基準に選択した場合、[マイルストーン金額]フィールドに値を入力します。

注:

[予定金額%]フィールドに入力するパーセントの合計は、100%となるようにしてください。

7. 次のうち必要な任意フィールドに値を入力します。

- イベント記述 1
- 2 次記述
- 見積完了日付
- 順序 No.

8. [OK]をクリックして改訂結果を受け入れ、〈契約請求行詳細の改訂〉に戻ります。

マイルストーンまたは進捗請求イベントの完了

契約のマイルストーン完了時にマイルストーン請求行の請求書を生成する、または契約が指定の完了率に達したときに請求書を生成するには、マイルストーンまたは進捗請求イベントの実際完了日付を指定する必要があります。

請求書の生成時には、生成期限が実際完了日付と比較されます。生成日付が完了日付以降であれば、マイルストーン請求行の請求イベントが処理されます。請求処理のこの時点以降は、請求金額を変更できなくなります。

イベントの請求書を生成後、〈マイルストーン請求行の改訂〉フォームまたは〈進捗請求行の改訂〉フォームの[請求済フラグ]フィールドがYに更新されます。請求イベントが保護され、イベントの情報を変更できなくなります。

▶ マイルストーンまたは進捗請求イベントを完了するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、グリッドの次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。

- 契約 No.

2. [フォーム]メニューから[請求イベント完了]を選択します。

3. [マイルストーン/進捗請求イベントの完了]で、マイルストーンが現在のシステム日付以外の日付に完了したことを指定するには、詳細域の次のフィールドに値を入力します。

- 実際完了日付
- 完了フラグ

4. マイルストーンが現在のシステム日付に完了したことを指定するには、請求行を選択し、[ロー]メニューから[完了のマーク/アンマーク]を選択して行を完了済みにします。

[実際完了日付]フィールドがシステム日付で更新され、[完了フラグ]フィールドに“1”が入力されます。

5. [OK]をクリックします。

進捗請求用の契約請求行の定義

進捗請求用の契約請求行を定義するのは、作業中に特定の作業完了率に達した後にのみ請求する契約の場合です。

進捗請求用の契約請求行を設定する時には、次のデフォルト情報が表示されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金会社
- 所有者の住所情報に基づく売掛金相殺
- 進捗請求用の AAI(自動仕訳)BC05 に基づく収益勘定科目

進捗請求用の請求イベント

請求イベントを、予想日付までの累積作業完了率として定義できます。進捗請求用の請求イベントを定義すると、次のようになります。

- 各請求イベントは、作業の累積完了率を表します。
- 最後の請求イベントは、請求行の予定金額全体を請求するために 100 パーセントにする必要がある。

完了したイベントの請求金額は、次の算式に基づいて計算されます。

$$\text{予定値} \times \text{累積完了率} - \text{請求済み金額合計}$$

進捗請求の予定値は、契約全体の請求金額です。

参照

- 進捗請求の請求行への前渡金の相殺の相互参照については、『契約請求』ガイドの「契約の前払の処理」

▶ 進捗請求用の請求行を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.

- 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日

空白の場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述
変更オーダーのこのフィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。
 - 変更状況
4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。
- 開始予定日付
 - 完了予定日付
 - 参照
 - 金額以外の変更
 - カテゴリ・コード 1
 - カテゴリ・コード 2
5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。
- 請求行
 - 記述
 - 価格設定
進捗請求行には価格設定タイプ P または 7 を使用してください。[価格設定]フィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。
 - 予定値
6. グリッドで、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。
- 適格性一時変更
このフィールドを空白にすると、1(請求のみ)が自動的に割り当てられます。
 - 請求 AAI 制御
〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳作成の制御オプションで収益を認識するようにした状態でこのフィールドを空白にすると、1 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は費用勘定になります。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]オプションで収益を認識しないようにした状態でこのフィールドを空白にすると、0 が使用されます。この請求行に関連する勘定科目は収益勘定になります。

- ビジネスユニット

- 補助科目

- 主科目

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)をblankにすると、項目BC05のAAI設定から勘定科目コードが割り当てられます。

- 補助元帳

- 補助タイプ

- 元帳クラス

このフィールドをblankにすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 留保規則

- 税率

- 税目コード

[税率]および[税目コード]フィールドをblankにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

- 代替順序コード

- プロジェクト/作業

このフィールドをblankにすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。

- 請求一時停止

- カテゴリコード 3

- カテゴリコード 4

- カテゴリコード 5

- Vertex 製品カテゴリ

- Vertex タイプ

次のメッセージが表示されます。

7. [OK]をクリックします。

8. もう一度[OK]をクリックします。

▶ 進捗請求用の請求イベントを定義するには

〈日次処理〉メニュー（G5210）から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、グリッドの次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、進捗請求行を選択して[ロー]メニューから[相互参照]を選択し、請求イベントの情報を追加します。

PeopleSoft

進捗請求行の改訂

OK 検索 削除 キャンセル 完了マークをつける/外す ロールバック フォーム ツール

契約 No. 5352 R2 00050 Light Rail Construction

変更オーダー No. 000 請求書バッチ

請求行 FINISH Finishing 収益バッチ

	イベント名	イベント記述 1	2次記述	予定 %
<input checked="" type="checkbox"/>	10 miles	10 Miles completed		30.0
<input checked="" type="checkbox"/>	30 miles	30 Miles completed		60.0
<input checked="" type="checkbox"/>	50 miles	50 Miles completed		100.0

グリッドのカスタマイズ

4. 〈マイルストーン/進捗請求行の改訂〉で、次のフィールドに情報を入力します。
 - イベント名
 - 予定値%
5. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
 - イベント記述 1
 - 2次記述
 - 予定完了日付
6. [OK]をクリックすると、情報が受け入れられ、〈契約請求行詳細の改訂〉に戻ります。

請求後の進捗請求行の変更

進捗請求行が請求された後で、請求行に変更を加えることはできません。変更が必要な場合は、新規請求行を作成する必要があります。この新規請求行は、新規変更オーダーまたは元の進捗請求行と同じ変更オーダーに作成できます。

新規進捗請求行を作成する場合は、完了率のスケジュールを使用して、同じ契約内の定義済み進捗請求行を一時変更できます。これを行うには、次の処理を実行してください。

- 契約の次の変更オーダーまたは元の進捗請求行と同じ変更オーダーに進捗請求を定義する。
- 新規請求行用に請求の予定完了率を定義します。
- 進捗請求用の新規請求行と、以前に進捗請求用に定義した請求行の相互参照を設定します。

相互参照を設定した請求行の残りの未請求パーセンテージについては、〈マイルストーン/進捗請求行の改訂〉フォームの[請求済フラグ]フィールドがI(非活動中)に自動的に設定されます。次の請求行の完了率のスケジュールを使用して、進捗請求の請求金額が作成されます。

タイム・アンド・マテリアル用の契約請求行の定義

タイム・アンド・マテリアル(T&M)用の契約請求行では、作業完了までに使用した商品やサービスの実績原価に基づく請求条件を定義します。契約の実績原価には、労務費や間接費のような給与計算ベース原価と、設備使用費や資材費のような非給与計算ベース原価を含めることができます。

タイム・アンド・マテリアル用の契約請求行を設定するのは、契約関連の商品やサービスの原価と、適用可能な割増金額を請求する契約の場合です。

給与計算ベースの原価は、給与計算システムと時間会計システムを通じて入力します。非給与計算ベースの原価の入力には、保有資産管理、在庫管理、および買掛管理システムを使用します。これらの原価の取引は、一般会計システムの取引明細テーブル(F0911)に転記します。契約請求システムでは、取引がタイム・アンド・マテリアル関連の原価のソースとして使用されます。

タイム・アンド・マテリアル(T&M)用の相互参照

タイム・アンド・マテリアル用の各契約請求行と、関連原価を含む総勘定元帳内の勘定科目との相互参照を設定する必要があります。タイム・アンド・マテリアル請求行の請求金額は、相互参照を設定した勘定科目の情報に基づいて計算されます。

タイム・アンド・マテリアル請求行から請求勘定科目への相互参照を定義できます。勘定科目相互参照を使用して、次の処理が実行されます。

- 契約請求システム用に原価を累計する時に、タイム・アンド・マテリアル関連原価のワークテーブル取引が作成されます。
- 請求 AAI を取り込んで請求および収益認識用の仕訳が作成されます。

各請求金額の勘定科目と関連相互参照情報は、特定の契約および変更オーダーに関連するタイム・アンド・マテリアル請求行に対して固有であることが必要です。

同じ勘定科目コードを、同じ契約のさまざまな変更オーダーに使用できます。その際、最後に定義したタイム・アンド・マテリアル請求行で同じ相互参照情報を持ち、以前に定義したタイム・アンド・マテリアル請求行に関連する先日付原価はすべて請求処理されます。

タイム・アンド・マテリアルの一括請求行を定義する際には、次のデフォルト情報が表示されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金会社
- 顧客の住所情報に基づく売掛金相殺

▶ タイム・アンド・マテリアル用の請求行を定義するには

〈日次処理〉メニュー (G5210) から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.
- 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日

空白の場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述

変更オーダーのこのフィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

- 変更状況

4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 開始予定日付
- 完了予定日付
- 参照
- 金額以外の変更
- カテゴリ・コード 1
- カテゴリ・コード 2

5. グリッドで、次の必須フィールドに情報を入力します。

- 請求行

- 記述

- 価格設定

タイム・アンド・マテリアル請求行では、[価格設定]フィールドに“T”または“1”を入力します。このフィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。

6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。

- 適格性一時変更

- 予定値

- 元帳クラス

このフィールドを空白にすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 留保規則

- 税率

- 税目コード

[税率]および[税目コード]フィールドを空白にすると、契約マスターの税情報が使用されます。

- 代替順序コード

- プロジェクト/作業

このフィールドを空白にすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。

- 請求一時停止

- カテゴリコード 3

- カテゴリコード 4

- カテゴリコード 5

- Vertex 製品カテゴリ

- Vertex タイプ

次のメッセージが表示されます。

注:

タイム・アンド・マテリアル請求行の相互参照を定義するまでは、[相互参照]フィールドが強調表示されます。

7. [OK]をクリックします。

8. 請求行を受け入れるには[OK]を再度クリックします。

▶ タイム・アンド・マテリアル用の相互参照を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、グリッドの次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、タイム・アンド・マテリアル請求行を選択し、[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。

[illegible]

4. 〈タイム・アンド・マテリアル、単価、一括相互参照の改訂〉で、費用勘定科目について次のうち必要なフィールドに値を入力します。
- ビジネスユニット
 - 補助科目
 - 主科目
 - 補助元帳
 - 補助元帳タイプ

[補助科目]フィールドと[主科目]フィールドでワイルドカードを使用して、有効値の範囲を指定できます。たとえば、[主科目]フィールドで“13**”を使用して、1300～1399のすべての主科目を指定できます。入力した値が確認され、勘定科目のオーバーラップがないことが保証されます。[主科目]フィールドを空白のままにすると、空白の主科目が検索されます。すべての主科目を検索するよう指定するには、“*ALL”または“***”を使用します。これらのワイルドカードは[補助科目]フィールドでも使用できます。

5. 次の任意フィールドのうち必要なものに値を入力して給与計算情報を定義します。

- 職務タイプ
- 職階
- 支払タイプ
- 従業員 No.
- 所属ビジネスユニット
- 原価プール

6. 次の任意フィールドのうち必要なものに値を入力して設備情報を定義します。

- 使用設備
- 所属ビジネスユニット
- 原価プール
- 料金グループ

給与計算情報関連のフィールドと設備情報に関連するフィールドのうち、使用できるのは一方だけです。相互参照用に、給与計算情報または設備情報のどちらか一方を入力できます。両方を入力することはできません。

7. [OK]をクリックして改訂結果を受け入れ、〈契約請求行詳細の改訂〉に戻ります。

依存契約請求行の処理

契約マスター情報を設定した後、顧客への請求書をシステムで生成するには、契約請求行を定義する必要があります。契約請求行では、契約の請求条件を定義します。契約には独立請求行と依存請求行を設定できます。請求行タイプにより、独立請求行であるか依存請求行であるかが決まります。

依存契約請求行には、システムが請求金額を計算するのに必要な一部の情報のみが含まれます。依存契約請求行の請求金額を計算するには、各依存請求行を独立請求行に関連付ける必要があります。通常、依存請求行を設定するのは、請求書に個々の請求金額の明細を明記する場合です。

次の請求行タイプを使用して、契約に依存請求行を定義できます。

- 前払

- 手数料
- 追加料金
- 間接費

はじめる前に

- 契約について契約マスターを作成します。『契約請求』ガイドの「契約マスター情報の設定」を参照してください。

契約の前払の処理

前払および前渡金とは、契約を締結する際に受け取る預り金です。前払用に契約の請求行を設定する場合、契約の請求合計金額に対して前払金額を適用します。

前払用に契約請求行を定義して、前渡金の直接相殺および按分相殺の請求条件を指定できます。

- 直接相殺** 前渡金の直接相殺では、契約の請求金額から固定金額を差し引きます。
- 初回請求時から請求金額が前払金の全額に達するまで、固定金額を請求金額から差し引きます。
- 按分相殺** 前渡金の按分相殺では、契約の請求書を作成するたびに請求金額からあるパーセント分を差し引きます。差し引くパーセンテージは、完了した作業の割合に基づきます。
- 契約が終了するまで決められたパーセント分が差し引かれます。作業完了時までに前払金の全額が契約に適用されます。

直接相殺の契約請求行の定義

直接相殺する前渡金の契約請求行を定義すると、契約締結時に顧客に対して要求する前払や預り金を処理できます。

前渡金の直接相殺では、契約に対して固定の金額を差し引きます。直接相殺用に依存契約請求行を定義します。依存請求行によって、契約の他の請求行の請求金額が差し引かれます。直接相殺請求行を請求金額に適用するには、2つの請求行の間に相互参照を設定してください。

相互参照は、直接相殺請求行と次の契約請求行の間に定義することができます。

- 単価(独立)
- 一括(独立)
- タイム・アンド・マテリアル(独立)
- マイルストーン(独立)
- 進捗(独立)
- 手数料(依存)
- 追加料金(依存)

初回請求時から請求金額が差引予定の全額に達するまで金額を差し引きます。直接相殺の予定金額が前払金額となります。たとえば、直接相殺する金額が 22,000 ドルで、10,000 ドルを 3 回に渡り請求するとします。各回の請求金額は次のように計算されます。

- 10,000ドル請求 - 10,000ドル差引 = 請求金額 0ドル
- 10,000ドル請求 - 10,000ドル差引 = 請求金額 0ドル
- 10,000ドル請求 - 2,000ドル差引 = 請求金額 8,000ドル

直接相殺の請求行を定義する際には、次のデフォルト情報が表示意されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金会社
- 契約上の顧客に基づく売掛金相殺
- 直接相殺用 AAI(自動仕訳)BC06 に基づく収益勘定科目

はじめる前に

- 相互参照する契約請求行を入力してください。
- 手数料行に有効なレート・コードを定義してください。

▶ 直接相殺の請求行を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.
- 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日
空白の場合、システム日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述
変更オーダーの[記述]フィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

- 変更状況

4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 開始予定日付
- 完了予定日付

- 参照
- 金額以外の変更
- カテゴリ・コード 1
- カテゴリ・コード 2

5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 請求行
- 記述
- 価格設定

前渡金の直接相殺請求行では、[価格設定]フィールドに“D”または“8”を入力します。このフィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。

- 予定値

金額差引によって請求金額から金額が差し引かれます。[予定金額]フィールドに-10,000 ということにマイナスの値を入力してください。

6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。

- 適格性一時変更

このフィールドを空白にすると、1(請求のみ)が自動的に割り当てられます。直接相殺の契約請求行は請求金額にのみ適用されます。情報を入力すると、[適格性一時変更]フィールドに 1 が自動的に入力されます。このコードは変更できません。

- 請求 AAI 制御

このフィールドを空白にすると、この請求行に関連する勘定が費用勘定であることを示す 1 がデフォルトで割り当てられます。

- ビジネスユニット

- 補助科目

- 主科目

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)を空白にすると、項目 BC06 の AAI 設定から勘定科目コードが割り当てられます。

- 補助元帳

- 補助タイプ

- 元帳クラス

このフィールドを空白にすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 税率
- 税目コード
税情報をブランクにすると、契約マスターの税情報が割り当てられます。
- 代替順序コード
- プロジェクト/作業
[税率]および[税目コード]フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使用されます。
- 請求一時停止
- カテゴリコード 3
- カテゴリコード 4
- カテゴリコード 5
- Vertex 製品カテゴリ
- Vertex タイプ

次のメッセージが表示されますが、無視してかまいません。

注:

直接相殺請求行の相互参照を定義するまでは、[相互参照]フィールドが強調表示されます。

7. [OK]をクリックします。
8. 請求行を受け入れるには[OK]を再度クリックします。

▶ 直接相殺の相互参照を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、グリッドの次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、直接相殺の請求行を選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。

PeopleSoft®

建設ローン相互参照改訂

キャンセル ロー ツール

契約 No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build

変更オーダー No. 000

請求行 001 Draw 請求書バッチ 5984

	相互参照	変更オーダー	請求行	記述	請求タイプ	予定値	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	000	134X	Labor	T		<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	000	1350-GENERAL	Materials	T	2,000,000.00	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	000	1350-SEATING	Seating	U		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	000	1355	Equipment	T		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	000	1360	Subcontract	L	2,500,000.00	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	000	ADMIN	Administrative	F		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	000	002	Progress	P	100,000.00	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X 000	004	Milestone	M	92,000.00	

4. 〈建設ローン相互参照改訂〉で、この直接相殺請求行との相互参照を設定する契約請求行を選び、[ロー]メニューから[選択/削除]を選択します。

[相互参照]のカラムに X が入力されます。

5. [キャンセル]をクリックして〈契約請求行詳細の改訂〉に戻ります。

按分相殺の契約請求行の定義

按分相殺の契約請求行を定義すると、契約締結時に顧客に対して要求する前払や預り金を処理できます。

按分相殺では、契約の請求書を作成するたびに請求金額からあるパーセント分を差し引きます。差し引くパーセンテージは、完了した作業の割合に基づきます。契約が終了するまで決められたパーセント分が差し引かれます。契約完了時までには前払金の全額が契約に適用されます。按分相殺の予定金額はマイナスになります。この金額は契約の請求合計金額に対する差引金額です。

按分相殺用に依存契約請求行を定義します。依存請求行によって、契約の他の請求行の請求金額が差し引かれます。按分相殺請求行を請求金額に適用するには、按分相殺請求行および 2 つ以上の請求行の間に相互参照を設定してください。

相互参照は、按分相殺請求行と次の契約請求行の間に設定することができます。

- 単価(独立)
- 一括(独立)
- マイルストーン(独立)
- 進捗(独立)

通常、前渡金の按分相殺は進捗請求に適用されます。作業やプロジェクトが特定の割合分だけ完了したら、現在の差引金額が次の数式によって計算されます。

$$\text{予定金額} \times \text{完了率} - \text{前回の差引金額}$$

初回請求時から請求金額が差引予定の全額に達するまで金額を差し引きます。按分相殺の予定値が前払金額となります。

たとえば、按分相殺する金額が 5,000 ドルで、関連する進捗請求の金額が 100,000 ドルとします。第 1 回の請求イベントを 10 パーセント完了と定義します。第 1 回の請求イベントを完了すると、進捗請求および按分相殺の予定金額に完了率が適用されます。

各回の請求金額は次のように計算されます。

- $100,000 \times 0.10 = 10,000$ (初回の請求金額)
- $-5,000 \times 0.10 = -500$ (前払差引)
- $10,000 + (-500) = 9,500$ (差引後の請求金額)

按分相殺請求行を定義する際には、次のデフォルト情報が表示されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金会社
- 契約上の顧客に基づく売掛金相殺
- 按分相殺請求用 AAI(自動仕訳)BC07 に基づく収益勘定科目

はじめる前に

- 相互参照する契約請求行を入力してください。
- 手数料行に有効なレート・コードを定義してください。

▶ 按分相殺の請求行を定義するには

〈日次処理〉メニュー (G5210) から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.
- 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日
空白の場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述
変更オーダーのこのフィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。
 - 変更状況
4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。
- 開始予定日付
 - 完了予定日付
 - 参照
 - 金額以外の変更
 - カテゴリ・コード 1
 - カテゴリ・コード 2
5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。
- 請求行
 - 記述
 - 価格設定
前渡金の按分相殺請求行では、[価格設定]フィールドに“R”または“9”を入力します。このフィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。
 - 予定値
按分相殺によって請求金額が減額されます。[予定金額]フィールドに -10,000 というようにマイナスの値を入力してください。
6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。
- 適格性一時変更
このフィールドを空白にすると、1(請求のみ)が自動的に割り当てられます。直接相殺の契約請求行は請求金額にのみ適用されます。情報を入力すると、[適格性一時変更]フィールドに 1 が自動的に入力されます。このコードは変更できません。
 - 請求 AAI 制御

このフィールドを空白にすると、この請求行に関連する勘定が費用勘定であることを示す 1 がデフォルトで割り当てられます。

- ビジネスユニット

- 補助科目

- 主科目

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)を空白にすると、項目 BC07 の AAI 設定から勘定科目コードが割り当てられます。

- 補助元帳

- 補助タイプ

- 元帳クラス

このフィールドを空白にすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 税率

- 税目コード

[税率]および[税目コード]フィールドを空白にすると、契約マスターの税情報が使用されます。

- 代替順序コード

- プロジェクト/作業

このフィールドを空白にすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。

- 請求一時停止

- カテゴリコード 3

- カテゴリコード 4

- カテゴリコード 5

- Vertex 製品カテゴリ

- Vertex タイプ

次のメッセージが表示されますが、無視してかまいません。

注:

按分相殺請求行の相互参照を定義するまでは、[相互参照]フィールドが強調表示されます。

7. [OK]をクリックします。

8. 請求行を受け入れるには[OK]を再度クリックします。

▶ 按分相殺の相互参照を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、グリッドの次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、按分相殺の請求行を選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。

相互参照	変更オーダー	請求行	記述	請求タイプ	予定値
<input checked="" type="checkbox"/>	000	1350-SEATING	Seating	U	2,000,000.00
<input type="checkbox"/>	000	1360	Subcontract	L	2,500,000.00
<input type="checkbox"/>	000	002	Progress	P	100,000.00
<input type="checkbox"/>	000	004	Milestone	M	92,000.00

4. 〈前渡金相殺請求行の相互参照の改訂〉で、この按分相殺請求行との相互参照を設定する契約請求行を選び、[ロー]メニューから[選択/削除]を選択します。

[相互参照]のカラムに X が入力されます。
5. [キャンセル]をクリックして〈契約請求行詳細の改訂〉に戻ります。

手数料の契約請求行の定義

手数料によって、顧客に対して他の請求金額に加えて請求する金額を定義します。契約の他の請求行の予定金額に基づいて、手数料の請求条件を定義できます。これを行うには、手数料の依存契約請求行を定義します。

手数料の契約請求行は、計算に関してその他の請求行に依存します。手数料請求行の請求金額を計算するには、契約内で手数料請求行とその他の請求行との間に相互参照を設定する必要があります。また、手数料の請求行にレート・コードまたは手数料のパーセンテージを割り当ててください。レート・コードによって、手数料請求行に使用する手数料のパーセンテージのテーブルを指定します。レート・コードは有効日付のレートに基づきます。

手数料を契約に適用するには、手数料を適用する契約内で、依存手数料請求行とその他の請求行との間に相互参照を設定する必要があります。また、その他の手数料請求行に相互参照を設定して合計手数料を計算することもできます。

請求書を作成すると、請求金額または費用の金額を使用して手数料が計算されます。例：

$$\text{手数料} = \text{手数料のパーセンテージ} \times \text{請求行の請求総額}$$

請求金額の手数料の定義

手数料の依存契約請求行を定義できます。手数料は、契約請求行の予定金額以外に顧客に請求する金額です。手数料の契約請求行は、契約について発生した費用または請求する金額の割合に基づいて設定できます。

手数料の請求行を定義する際には、次のデフォルト情報が表示されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金会社
- 契約上の顧客に基づく売掛金相殺
- 手数料用 AAI(自動仕訳)BC03 に基づく収益勘定科目

手数料のパーセンテージの有効日付

期間によって異なる手数料のパーセンテージが指定されている契約の場合、その契約に固有のレート・コードを定義できます。それぞれの手数料パーセントの有効期間を、開始日付と終了日付で指定します。適用可能な手数料パーセントを決定するには、レート・コードの有効期間を、手数料の基準として使用する請求情報に割り当てたテーブル基準日付と比較します。

はじめる前に

- 相互参照する契約請求行を入力してください。
- 手数料行に有効なレート・コードを定義してください。

▶ 手数料のレート・コードを定義するには

レート・コードによって、手数料請求行の計算に使用される手数料のパーセンテージを指定します。レート・コードは有効期間に基づきます。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から、〈手数料コード・テーブル〉を選択します。

1. 〈手数料レート・コード・テーブルの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

手数料レート・コード・テーブルの改訂

OK 削除 キャンセル ツール

レート・コード F1

記述 Fee Markup Percentages

グリッドのカスタマイズ

	料金 %	日付範囲	終了日付
<input checked="" type="checkbox"/>	5.0000	05/01/01	05/06/30
<input type="checkbox"/>	5.5000	05/07/01	05/12/31
<input type="checkbox"/>			

2. 〈手数料レート・コード・テーブルの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - レート・コード
 - 記述
3. 次のフィールドに値を入力します。
 - 料金%
 - 日付範囲
 - 終了日付
4. 手数料情報を受け入れるには[OK]をクリックします。
5. [キャンセル]をクリックして〈手数料レート・コード・テーブルの処理〉に戻ります。

▶ 手数料の契約請求行を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 契約 No.
 - 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日

空白の場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述
- 変更状況

変更オーダーの[記述]フィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 開始予定日付
- 完了予定日付
- 参照
- 金額以外の変更
- カテゴリ・コード 1
- カテゴリ・コード 2

5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 請求行
- 記述
- 価格設定

手数料請求行では、[価格設定]フィールドに“F”または“4”を入力します。このフィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されることに注意してください。

6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。

- 適格性一時変更
- ビジネスユニット
- 補助科目

- 主科目
勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)をblankにすると、項目BC03のAAI設定から勘定科目コードが割り当てられます。
 - 補助元帳
 - 補助タイプ
 - 元帳クラス
このフィールドをblankにすると、顧客の元帳クラスが使用されます。
 - 留保規則
 - 税率
 - 税目コード
[税率]および[税目コード]フィールドをblankにすると、契約マスターの税情報が使用されます。
 - 代替順序コード
 - プロジェクト/作業
このフィールドをblankにすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。
 - 請求一時停止
 - カテゴリコード 3
 - カテゴリコード 4
 - カテゴリコード 5
 - Vertex 製品カテゴリ
 - Vertex タイプ
- 次のメッセージが表示されます。

注:
手数料請求行の相互参照を定義するまでは、[相互参照]フィールドが強調表示されます。

7. [OK]をクリックします。
8. 請求行を受け入れるには[OK]を再度クリックします。

▶ 手数料の相互参照を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、グリッドの次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、手数料請求行を選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。

PeopleSoft

手数料相互参照詳細

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ツール

契約 3 R2 00050 BC Highway

変更オーダーNo. 000 請求行 004 Fees

計算方法

割増し / レート・コード 5%

手数料ベース

☒ 請求書/収益 ☐ 原価

グリッドのカスタマイズ

	請求行	請求行記述	請求タイプ	変更オーダー
<input checked="" type="checkbox"/>	001	Time and Materials	T	000

4. 〈手数料相互参照詳細〉で、この請求行の計算方法を選択するために次のフィールドのうちのいずれかの値を入力します。
 - 割増し
 - レート・コード

割増率またはレート・コードのどちらか 1 つを入力できます。レート・コードは、日付に影響を受ける手数料の割増率用に設定します。
5. 次の手数料基準のオプションのうち 1 つを実行します。
 - 請求書/収益
 - 原価

サービス請求固定情報(P48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可にする]オプションを選択した場合、請求書/収益を手数料の基準にする必要があります。

手数料の基準が費用の場合、手数料請求行がタイム・アンド・マテリアル請求行のみを相互参照するように設定してください。

6. [フォーム]メニューから[行の選択]を選び、手数料の対象となる契約請求行を検索します。

PeopleSoft®

相互参照行の選択

キャンセル ロー ツール

契約 3 R2 00050 BC Highway

	オーダー	請求行	請求行記述	請求タイプ	予定値	外貨予定値	
<input checked="" type="checkbox"/>	000	002	Burdens	B			<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	000	003	Components	C			<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>							<input type="checkbox"/>

7. 〈相互参照行の選択〉で、必要な請求行を選んで[ロー]メニューから[レコード選択]を選びます。契約請求行を選択すると、その行はフォームから除去されます。
8. [キャンセル]をクリックして〈手数料相互参照の詳細〉に戻ります。
9. 〈手数料相互参照の詳細〉で、[検索]をクリックします。
手数料請求行の計算基準として選択した契約請求行が表示されます。
10. [OK]をクリックして〈契約請求行詳細の改訂〉に戻ります。
11. [キャンセル]をクリックして〈契約請求行明細の処理〉に戻ります。
12. [閉じる]をクリックします。

追加料金の契約請求行の定義

追加料金は、独立したタイム・アンド・マテリアルの請求行や、間接労務費の依存請求行に関連付ける割増し金額です。追加料金の請求金額は、タイム・アンド・マテリアルに設定する請求行に関連しています。

タイム・アンド・マテリアルの請求行に関連付けられた追加料金の金額を契約の請求書に別行として表示するには、追加料金の請求行を設定する必要があります。追加料金を別の請求行として設定すると、追加料金の請求行に基本レコードとは異なる特徴を定義することができます。

たとえば、タイム・アンド・マテリアルの請求行を設定して人件費の請求金額を計算する場合、間接費に対して 10 パーセントの追加割増しを含めるとします。間接費は人件費とは別途請求する契約になっているため、追加料金の請求行に情報を入力して、人件費と間接費の金額を分けます。

追加料金の請求行を定義すると、契約マスターに基づいて作業情報および売掛金会社が自動的に設定されます。また、追加料金の請求行をタイム・アンド・マテリアルと別々に表示する必要がなければ、追加料金を自動計算させることで、その金額をタイム・アンド・マテリアル請求行に含めることもできます。

参照

- タイム・アンド・マテリアル請求行への追加料金の追加については、『契約請求』ガイドの「既存の追加料金規則の割増規則への追加」

追加料金の相互参照

追加料金の契約請求行を設定したら、次のことを実行する必要があります。

- 請求行から追加料金コードへの相互参照を設定する。追加料金コードにより、割増計算の規則を指定します。
- 追加料金の請求行から、タイム・アンド・マテリアルの独立請求行か、または同じ契約について以前に定義した間接労務費の依存請求行への相互参照を設定する。

請求書を作成したり収益を認識する際には、相互参照情報によって追加料金の割増しがタイム・アンド・マテリアルの請求行から区別されます。

注意:

以前に定義したタイム・アンド・マテリアルの請求行について相互参照を正しく設定しないと、追加料金とタイム・アンド・マテリアルの金額は請求書の生成時に区別されません。

はじめる前に

- 契約のタイム・アンド・マテリアル用に請求行を定義します。『契約請求』ガイドの「タイム・アンド・マテリアル用の契約請求行の定義」を参照してください。
- 追加料金コードの追加割増規則を設定します。『契約請求』ガイドの「追加料金規則の定義」を参照してください。

▶ 追加料金の請求行を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.

- 変更オーダー

このフィールドを空白にすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日

空白の場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述

- 変更状況

変更オーダーの[記述]フィールドを空白にすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 開始予定日付

- 完了予定日付

- 参照

- 金額以外の変更

- カテゴリ・コード 1

- カテゴリ・コード 2

5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 請求行

- 記述

- 価格設定

追加料金請求行では、[価格設定]フィールドに“C”または“5”を入力します。このフィールドを空白にすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。フィールドが適用されない場合、フィールドに入力できませんので注意してください。

6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。

- 予定値

- 元帳クラス

このフィールドを空白にすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 留保規則

- 税率

- 税目コード

[税率]および[税目コード]フィールドを空白にすると、契約マスターの税情報が使用されます。

- 代替順序コード

- プロジェクト/作業

このフィールドを空白にすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。

- 請求一時停止

- カテゴリコード 3

- カテゴリコード 4

- カテゴリコード 5

次のメッセージが表示されますが、このメッセージは無視してかまいません。

注:

追加料金の請求行の相互参照を定義するまでは、[相互参照]フィールドが強調表示されます。

7. [OK]をクリックします。

8. 請求行を受け入れるには[OK]を再度クリックします。

▶ 追加料金の相互参照を定義するには

〈日次処理〉メニュー (G5210) から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、グリッドの次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、追加料金の請求行を選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。

PeopleSoft

訂正の追加料金請求行相互参照

OK 削除 キャンセル ロー ツール

連絡先No. 3 R2 00050 請求書バッチ

変更オーダー 000 行ID 0.300 Components 収益バッチ

グリッドのカスタマイズ

相互参照の有無	追加料金コード	追加料金コード記述
X	SUR	Surcharge

Default

4. 〈追加料金請求行相互参照の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックして、請求行と追加料金コードに相互参照を設定します。

- 追加料金コード

〈契約請求行詳細の改訂〉フォームで、追加料金請求行の[相互参照]カラムに X が入力されます。

5. 追加料金請求行からタイム・アンド・マテリアルの独立請求行に相互参照を設定するには、追加料金請求行を再度選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。
6. 〈追加料金請求行相互参照の改訂〉フォームで、追加料金コードを含むグリッドのローを選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。

PeopleSoft®

追加料金請求行相互参照の選択

キャンセル ロー ツール

連絡先No. 3 R2 00050

変更オーダー 000 行ID 0.300 Components

追加料金コード SUR Surcharge 請求書バッチ 収益バッチ

レコードのカスタマイズ

	相互参照の有無	契約変更No.	価格設定	所有者支払項目	記述	行No.
<input checked="" type="checkbox"/>	X	000	T	001	Time and Materials	0.100
<input type="checkbox"/>		000	B	002	Burdens	0.200

7. 〈追加料金請求行相互参照の選択〉で、追加料金との相互参照を設定するタイム・アンド・マテリアル請求行を選んで、[ロー]メニューから[請求行の選択]を選択します。

選択した請求行の[相互参照]カラムに X が入力されます。

8. [キャンセル]をクリックします。

間接労務費の契約請求行の定義

間接労務費とは、雇用の結果発生する費用を定義します。間接労務費の取引を労務費の請求行に関連付けます。間接労務費の請求金額は、労務費用に設定した請求行に含まれます。

人件費の請求行に含まれる間接労務費の金額を契約の請求書に別行として表示するには、間接労務費の請求行を設定する必要があります。間接労務費を別の請求行として設定すると、間接労務費の請求行に基本レコードとは異なる特徴を定義することができます。

たとえば、労務費の請求行を設定して人件費の請求金額を計算する場合、この金額には会社が支払った給与支払税の間接労務費取引が含まれます。税は人件費とは別途請求する契約になっているため、間接労務費の請求行に情報を入力して、人件費と間接労務費の金額を分けます。

注:

各従業員に対して間接労務費の PDBA を設定する必要があります。

間接労務費の請求行を定義すると、契約マスターに基づいて作業情報および売掛金会社が自動的に設定されます。

間接労務費の請求行を労務費の請求行とは別にして請求書に印刷しなくてもよい場合は、給与計算仕訳を作成する際に間接労務費を自動計算することで、追加料金の金額を労務費の請求行に含めることができます。

参照

- 従業員の間接労務費の PDBA の設定については、『Workforce Management Foundation(人事管理基本操作)』ガイドの「Entering Employee Deduction, Benefit, and Accrual Instructions(従業員 DBA 指示の入力)」給与計算の仕訳作成時の間接労務費計算については、『契約請求』ガイドの「間接労務費の処理」

労務費の相互参照

間接労務費の契約請求行を設定した後で、次の相互参照を設定する必要があります。

- 請求行から DBA または税タイプへの相互参照を設定する。間接労務費の計算に DBA または税タイプが使用されます。
- 間接労務費請求行から、同じ契約について以前に定義した独立労務費請求行への相互参照を設定する。

請求書を作成したり収益を認識する際には、相互参照情報によって間接労務費が労務費請求行から区別されます。

注意:

以前に定義した労務費請求行について相互参照を正しく設定しないと、間接労務費と労務費は請求書の生成時に区別されません。

はじめる前に

- 契約のタイム・アンド・マテリアル用に請求行を定義します。『契約請求』ガイドの「タイム・アンド・マテリアル用の契約請求行の定義」を参照してください。
- 間接労務費の DBA または税タイプを設定します。『Workforce Management Foundation(人事管理基本操作)』ガイドで次のトピックを参照してください。
 - 「Setting Up Deductions, Benefits, and Accruals(損金、福利厚生、および見越の設定)」
 - 「Setting Up Tax Information(税情報の設定)」

▶ 間接労務費の請求行を定義するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 契約 No.
- 変更オーダー

このフィールドをブランクにすると、次に使用可能な番号が割り当てられます。これが契約の基本オーダーの場合は、000 が割り当てられます。

3. [一般]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 変更日

ブランクの場合、現行日付が使用されます。

注:

複数通貨契約の場合は、変更日付を使用して契約の為替レートが取り込まれます。

- 記述

- 変更状況

変更オーダーの[記述]フィールドをブランクにすると、デフォルトで“変更”というテキストが入力されます。

4. [追加明細]タブで、必要に応じて次の任意フィールドに情報を入力します。

- 開始予定日付

- 完了予定日付

- 参照

- 金額以外の変更

- カテゴリ・コード 1

- カテゴリ・コード 2

5. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 請求行

- 記述

- 価格設定

間接労務費請求行では、[価格設定]フィールドに“B”または“0”を入力します。このフィールドをブランクにすると、L(一括)が入力されます。[価格設定]フィールドに入力した値によって、使用可能なフィールドが制御されます。フィールドが適用されない場合、入力できません。

6. グリッドで次の任意フィールドに値を入力します。

- 予定値

- 元帳クラス

このフィールドをブランクにすると、顧客の元帳クラスが使用されます。

- 留保規則

- 税率
 - 税目コード
[税率]および[税目コード]フィールドをblankにすると、契約マスターの税情報が使
用されます。
 - 代替順序コード
 - プロジェクト/作業
このフィールドをblankにすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。
 - 請求一時停止
 - カテゴリコード 3
 - カテゴリコード 4
 - カテゴリコード 5
- 次のメッセージが表示されますが、このメッセージは無視してかまいません。

注:
間接労務費請求行の相互参照を定義するまでは、[相互参照]フィールドが強調表示され
ます。

7. [OK]をクリックします。
8. 請求行を受け入れるには[OK]を再度クリックします。

▶ 間接労務費の相互参照を定義するには

〈日次処理〉メニュー (G5210) から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、グリッドの次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、間接労務費請求行を選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。

4. 〈追加料金請求行相互参照の改訂〉で、次のフィールドのいずれかに値を入力して[OK]をクリックし、請求行と DBA または税タイプに相互参照を設定します。

- DBA コード
- 税タイプ

〈追加料金請求行詳細の改訂〉フォームで、追加料金請求行の[相互参照の有無]カラムに X が入力されます。

5. 追加料金費請求行から労務費の独立請求行に相互参照を設定するには、追加料金請求行を再度選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。
6. 〈追加料金請求行相互参照の改訂〉フォームで、追加料金 DBA または税タイプを含むグリッド行を選んで[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。

PeopleSoft®

Burden Billing Line Cross-Reference Selection

キャンセル ロー ツール

連絡先No. 3 R2 00050

変更オーダー 000 行ID 0.200 Burdens

DBAコード 7220 EflexCredit 請求書バッチ

税タイプ Default 収益バッチ

グリッドのカスタマイズ

	相互参照の行	契約変更No.	価格設定	所有者支払項目	記述	行No.
<input checked="" type="checkbox"/>	X	000	T	001	Time and Materials	0.100

7. 〈間接労務費請求行相互参照の選択〉で、間接労務費との相互参照を設定する労務費請求行を選択して、[ロー]メニューから[請求行の選択]を選択します。

選択した請求行の[相互参照]カラムに X が入力されます。

8. [キャンセル]をクリックします。

契約情報の処理

契約マスターの作成と契約の請求行の定義を完了すると、その契約に対する請求書を生成できます。契約の設定情報を確認または明確化する必要がある場合は、契約の請求情報を検討し、改訂できます。たとえば、請求行の追加、変更または削除が必要になる場合があります。

契約情報の検索

システム内で特定の契約にアクセスする必要があり、その契約番号がわからない場合は、〈契約マスターの検索〉プログラム(P5201S)を使用して検索できます。また、〈契約マスターの検索〉プログラム(P5201S)を使用すると、特定の所有者に属するすべての契約など、システム内で特定の条件と一致するすべての契約を検討することもできます。

次の検索基準を単独で使用するか組み合わせて、特定の契約を検索できます。

- 契約記述の 1 行目
- 契約タイプ・コード
- 契約状況コード
- 顧客

- 顧客参照番号
- プロジェクトまたは作業

検討対象を検索した後に、次のフォームにアクセスできます。

- 〈契約マスターの改訂〉フォーム。契約情報を検討して改訂できます。
- 〈契約状況の照会〉フォーム。契約の請求情報や支払情報を検討できます。

参照

- 契約情報の検討と改訂については、『契約請求』ガイドの「契約マスター情報の設定」
- 契約の請求情報と支払情報の検討については、『契約請求』ガイドの「契約請求情報の状況の検討」

▶ 契約情報を検索するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー（G5210）から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

〈日次処理〉メニュー（G5210）から〈契約状況の照会〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー（G5221）から〈契約請求書の履歴照会〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉、〈契約状況照会の処理〉、〈契約履歴の処理〉のいずれかで、[契約 No.]フィールドのビジュアル・アシストをクリックします。
2. 〈契約の検索〉で、必要に応じて次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、特定の契約を検索します。

- 契約記述
- 契約 No.
- プロジェクト作業
- 顧客参照
- 状況
- タイプ

3. グリッド行の契約を選んで[選択]をクリックします。

〈契約の検索〉へのアクセス元フォームの[契約 No.]フィールドに、選択した契約番号が入力されます。

契約請求情報の状況の検討

契約マスターの作成と契約の請求行の定義を完了すると、請求情報の現在の状況を検討できます。たとえば、それぞれの行について請求予定金額や請求済みの金額を検討できます。また、次の金額および数量も検討できます。

- 未請求

- 発生
- 入金済み
- 留保金
- 認識済み収益
- 未認識収益
- 上限を超過した金額

▶ 契約請求情報の状況を検討するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約状況の照会〉を選択します。

PeopleSoft®

契約状況照会の処理

検索 閉じる ロー ツール

契約No. 5031 R2 Access Road 終了日付 03/10/06

顧客No. 3001 Global E ☐ 数量/単価の表示

基本通貨 USD 請求通貨 USD

変更 オーダー	請求 行	価格 タイプ	記述	計量 単位	予定値	請求済み 課税対象額	請求済み 税額	請求 金
000	001	T	Time and Materials					
000	002	L	Lump Sum		510,000.00			
000	003	U	Unit	HR	30,000.00			
000	004	M	Milestone		25,000.00			
			小計		565,000.00			
			合計		565,000.00			

1. 〈契約状況照会の処理〉で、次のフィールドに情報を入力し、関連契約を検索します。
 - 契約 No.
2. 請求情報を限定して検討する情報のタイプを定義するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 終了日付
このフィールドに日付を指定しない場合は、システム日付が使用されます。
3. 数量に基づいた追加情報を検討するには、次のオプションをクリックします。
 - 数量/単価の表示
4. [検索]をクリックします。

グリッドに金額と数量（指定した場合のみ）が表示されます。

- 入金済み金額や未決済金額など、関連する請求行の請求明細を検討するには、ローを選んで[ロー]メニューから[監査証跡の照会]を選択します。

監査証跡の照会

選択 検索 開じる ロー ツール

顧客No. 3001 Global Enterprises 00050 0.100
 連絡先No. 5031 R2 Access Road 変更No. 000
 請求行 001 Time and Materials
 開始日付 ~
☒ 元帳日付 ☐ 請求書日付 ☐ 支払期日
 支払状況
☒ すべて ☐ 支払済み ☐ 未決済

グリッドのカスタマイズ

請求書 No.	請求書 タイプ	支払 項目	請求書 日付	支払 期日	元帳 日付	元帳 クラス	総額	未決済 金額	入金 No.	照合 結果
3074 RI	001		05/07/11	05/08/10	05/06/30		5,901.51	5,901.51		
							5,901.51	5,901.51		

- 〈監査証跡の照会〉で、日付範囲を入力するか、支払状況を選んで[検索]をクリックし、表示される情報を絞り込みます。

契約請求行の改訂

当初契約情報は基本契約として入力します。基本契約は、契約マスターと変更オーダー番号 000 で構成されています。この契約は、顧客向けに作成する請求書の基礎となります。契約に対する請求書を生成する前に、その契約に設定した請求行に関連する情報を改訂できます。

顧客向けの請求書を生成すると、契約はアクティブな請求書バッチに保存されます。契約がアクティブな請求書バッチにある間は、契約マスターや契約請求行に変更を加えることができません。請求書の生成後は、契約は請求書バッチに含まれなくなり、契約請求行を改訂できます。

契約に対する請求書を生成した後は、請求行を次のように改訂できます。

- 請求行の追加または削除
- 予定金額、計量単位、数量の変更
- 相互参照の変更、追加または削除
- 留保金請求情報または定期請求情報の変更
- 勘定科目情報の変更

請求書に含まれている契約請求行は削除できません。

契約請求行の改訂履歴は保存されません。契約請求の変更履歴を保守管理するには、変更オーダーを作成する必要があります。

当初基本契約のレコードが確実に保存されるように、処理オプション:〈契約請求行の詳細〉プログラム(P5202)を定義して、基本契約の請求行に対する変更を禁止できます。この場合、最初に基本契約に設定した請求行は変更できなくなります。クライアントから追加作業を要求された場合は、新規条件の請求行を追加の変更オーダーとして入力する必要があります。新規変更オーダーごとに、変更オーダー番号 001、002 などの固有の番号を割り当てます。

▶ 契約請求行を改訂するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。

- 契約 No.

2. 変更オーダーを選んで[選択]をクリックします。

3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、請求行を改訂します。

次のフィールドは改訂できません。

- 請求行

4. 既存の 2 つの請求行の間にもう 1 つ請求行を追加するには、挿入する下のローを選んで[ロー]メニューから[行の挿入]を選択します。

5. [OK]をクリックします。

予算と予定金額の残高調整

作業原価システムを使用していて、常に契約の予定金額と作業の予算が一致するようにするには、金額が異なる場合にエラーまたは警告メッセージを表示するように設定できます。そのためには、〈契約請求行の詳細〉プログラムの処理オプションを使用します。

予定金額を変更するたびに、それぞれの作業の予算と比較されます。作業原価システムで予算を変更しても、契約請求システムには変更内容は通知されません。2 つの金額は、契約の予定金額を更新するまでは一致しません。

契約請求行のテキストの入力

契約に定義した請求行により、請求条件が定義されます。自由形式のテキストを入力して、請求行をさらに明確化できます。たとえば、自由形式のテキストを請求行に関連付けて、次の情報を組み込むことができます。

- スケジュールとリソースの見積り
- 資材の仕様
- 変更オーダーの事由
- 原価の理由付け

- 他の請求行の参照

▶ 契約請求行にテキストを入力するには

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約請求行の詳細〉を選択します。

1. 〈契約請求行明細の処理〉で、次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックし、契約を検索します。

- 契約 No.

2. 請求行を含む当初の契約または変更オーダーのレコードを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行詳細の改訂〉で、請求行を選んで[ロー]メニューから[添付]を選択します。
4. 〈メディア・オブジェクト〉で、[テキスト]をクリックします。
5. 請求行に関連付けるテキストを入力します。
6. [Save]をクリックします。

請求行にテキストがある場合、〈契約請求行詳細の改訂〉フォームで請求行の左端にペーパー・クリップのアイコンが表示されます。

処理オプション:〈契約請求行の詳細〉プログラム(P5202)

編集タブ

この処理オプションによって、特定の変更が契約に加えられた場合に、警告またはエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。

1. 基本契約への変更

blank = 許可する

1 = 禁止する

基本契約の変更を許可するかどうかを指定します。変更はすべて変更オーダーとして入力する必要があります。

有効な値は次のとおりです。

blank = 許可しない

1 = 許可する

2. 予定値と予算の照合

blank = 照合しない

1 = 一致しない場合は警告を表示する

2 = 一致しない場合はエラーを表示する

スケジュール金額と予算金額の照合について指定します。契約変更オーダーが変更または追加されるごとに、勘定科目マスターの予算金額が、累計された予定金額と比較されます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 予定金額と予算金額の照合を行わない

1 = 予定金額が予算金額と異なる場合に警告を表示する

2 = 予定金額が予算金額と異なる場合にエラーを表示する

3. 予算元帳タイプ

予算の照合に使用する予算元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、改訂予算金額元帳タイプ（ユーザー定義コード = 51/RB）が使用されます。

4. 相互参照警告の表示

ブランク = 表示する

1 = 表示しない

請求行が追加された際に相互参照情報が存在するかどうかをチェックし、存在しない場合に警告メッセージを表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 表示する

1 = 表示しない

5. マイルストーン請求行の予定値の変更

ブランク = 予定値が変更されたら警告を表示する

1 = 予定値の変更を禁止する

請求後にマイルストーンの請求行の予定値を変更することを許可するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 許可する。変更された場合は警告を表示する。

1 = 変更不可にする。

6. NTE 規則/金額の変更時に警告を表示する

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

上限(NTE)規則または上限(NTE)金額が変更されたときに警告を表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

表示タブ

税情報を表示するかどうかを指定します。

1. 税情報の表示

blank = 表示する

1 = 表示しない

税情報を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 表示する

1 = 表示しない

デフォルト・タブ

既存の変更オーダーから新しい変更オーダーを追加する際に、新しい契約の会社とプロジェクト/作業に基づいて収益/原価勘定を一時変更するかどうかを指定します。

1. 勘定科目の決定方法

既存の変更オーダーから新しい変更オーダーを追加する際に、新しい契約の会社とプロジェクト/作業に基づいて収益/原価勘定を一時変更するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

1 収益/原価勘定を一時変更する

blank 新しい変更オーダーに入力した勘定科目を使用する

印刷タブ

契約の印刷(R5201)のバージョンを指定します。

1. 契約の印刷(R5201)のバージョン

blank = XJDE0001

契約の印刷(R5201)のバージョンを指定します。blankにすると、XJDE0001 が使用されます。

契約情報の印刷

〈日次処理〉メニュー(G5210)から〈契約の印刷〉を選択します。

〈契約の印刷〉プログラム(R5201)では、データ選択条件を満たす契約の詳細レポートが印刷されます。プログラムには、各契約の契約マスター情報に加えて、相互参照情報など、契約の各請求行に関する詳細情報が含まれます。また、添付も印刷できます。

〈契約の印刷〉プログラム(R5201)は、次のテーブルから情報を取得します。

- 契約マスター(F5201)
- 契約請求行明細テーブル(F5202)
- T&M 相互参照勘定科目テーブル(F5212)
- 手数料請求行相互参照詳細テーブル(F5213)
- マイルストーン/進捗請求行明細(F5216)

[illegible]

処理オプション:〈契約の印刷〉プログラム(R5201)

印刷タブ

相互参照情報および添付を印刷するかどうかを指定します。

1. 相互参照情報

blank = 印刷する

1 = 印刷しない

相互参照情報を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 相互参照情報を印刷する

1 相互参照情報を印刷しない

2. 添付テキスト

blank = 全レベルで印刷

0 = 全レベルで非印刷

1 = 契約レベルでのみ印刷

印刷する添付テキスト印刷を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank すべての契約レベルに添付されたファイルを印刷する

0 添付されたファイルを印刷しない

1 契約レベルに添付されたファイルのみ印刷する

通貨タブ

金額を国内通貨と外貨のどちらで表示するかを指定します。

1. 印刷に使用する通貨

blank = 契約の通貨モード

0 = 国内通貨

1 = 外貨

金額を外貨と国内通貨のどちらで表示するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 国内通貨で表示する

1 外貨で表示する

ワークテーブル管理

ワークファイルの効率的な管理は、契約請求処理で最も重要な作業です。一般的な請求処理には、ワークテーブルの生成、請求書の作成および印刷、収益と売掛金の仕訳作成などがあります。請求システムにワークテーブル取引を作成して、顧客への請求書発行、収益の認識、および原価配賦を行います。ワークテーブル情報を検討および分析してワークテーブルの状況を把握し、請求サイクルの正確なプランを作成します。

ワークテーブル情報は、請求明細ワークテーブル(F4812)に保管されます。次のテーブルは、請求明細ワークテーブル(F4812)に情報を提供します。

- 請求システム固定情報(F48091)
- 請求料金/割増テーブル(F48096)
- 契約マスター(F5201)
- 契約請求行明細テーブル(F5202)
- T&M 相互参照勘定科目テーブル(F5212)

請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)を使用して、請求明細ワークテーブル(F4812)から履歴に移動するレコードが保管されます。

ワークテーブルの生成

請求明細ワークテーブル(F4812)の取引レコードを基に、請求書作成、収益認識、原価配賦が行われます。ワークテーブル取引を作成するために使用できる次の 3 つの方法がシステムによって提供されています。

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120) 取引明細テーブル(F0911)の請求仕訳に基づいてこのバッチ・プログラムでワークテーブル取引を作成します。〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行すると、取引明細テーブル(F0911)のソース取引をコピーして、それに割増し、相手科目、税情報が適用されます。ワークテーブル取引は、〈ワークテーブルの処理〉フォームで照会できます。

〈会計取引の選択〉プログラム(P48124) 取引明細テーブル(F0911)の請求仕訳からワークテーブル取引を対話型処理により作成します。〈会計取引の選択〉を実行すると、取引明細テーブル(F0911)の選択された請求仕訳がコピーされ、それに割増し、相手科目、税情報が適用されます。ワークテーブル取引は、〈ワークテーブルの処理〉フォームで照会できます。

アドホック・ワークテーブル取引 取引明細テーブル(F0911)に元仕訳が存在しない場合に、ワークテーブル取引をこの方法により作成します。

整合性を維持するために当初の請求仕訳はそのまま保存され、そのコピーが作成されます。コピーされた取引はワークテーブル取引と呼ばれ、請求明細ワークテーブル(F4812)に保管されます。

ワークテーブル取引には、割増後の原価、税、その他の重要な情報が含まれます。この後の請求処理は、ワークテーブル取引の情報に基づいて行われます。

適格性コード 0(請求、収益、原価)または 1(請求のみ)のワークテーブル取引には、すべて顧客番号が必要です。この顧客に対して、請求書が作成されます。取引に関連付けられている契約で顧客番号を識別する必要があります。

給与計算の処理

取引明細テーブル(F0911)には、買掛管理システム、設備/工場管理システム、給与計算システムなど複数のシステムから取引が書き込まれます。〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行することにより、これらのシステム内のレコードが請求システムに集められます。

給与計算システムからワークテーブル取引を作成する場合は、給与計算テーブルおよび従業員テーブルの情報が取引明細テーブル(F0911)の情報と同じである必要があります。取引明細テーブル(F0911)内の給与計算取引レコードには、請求に必要なすべての明細情報は含まれていません。したがって、請求システムは、給与計算システムから明細情報を取得して、ワークテーブル取引を作成する必要があります。ワークテーブル取引を作成する際に、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)または従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)からの関連情報が、取引明細テーブル(F0911)の次のフィールドから読み込まれます。

- バッチ番号
- 勘定科目 No.
- 元帳日付
- 補助元帳情報

注意:

給与計算を処理した後に、取引明細テーブル(F0911)内のこれらのフィールド値を変更または削除しないでください。

間接労務費の処理

間接労務費とは、雇用の結果発生する費用を定義します。間接労務費には、以下のものがあります。

- 会社負担の給与関連税
- 保険
- 年金などの追加給付
- 工具などの労務関連の直接原価

ワークテーブルに間接労務費取引を自動作成するには次のことが必要です。

- 給与計算システムのビジネスユニット間接労務費フラグがオンになっている。これにより、間接労務費仕訳が間接費配賦テーブル(F0724)に書き込まれます。
- 間接労務費に控除額が設定されている。
- 会社の間接費配賦規則が設定されている。
- 間接労務費仕訳は、取引明細テーブル(F0911)の請求対象勘定科目に転記する。
- 間接費仕訳は、取引明細テーブル(F0911)の請求対象勘定科目に転記する。
- 請求システム固定情報テーブル(F48091)の[間接労務費の請求]フィールドをオンにする。

契約請求システムでは、個別に請求行を間接労務費として設定できます。間接労務費取引をこのように作成すると、間接労務費の請求行と労務費の請求行を区別して表示できます。

給与計算システムで入力された間接労務費をワークテーブルに読み込むかどうかは、請求固定情報で指定します。間接労務費は、給与計算仕訳の作成時に計算されます。請求システムで間接労務費を処理するには、関連する労務費ワークテーブル取引と共に処理します。

間接労務費取引の適格性コードと関連する労務費ワークテーブル取引の適格性コードは、一致している必要があります。労務費ワークテーブル取引の適格性コードを、間接労務費ワークテーブル取引の適格性コードよりも限定することはできません。

たとえば、労務費ワークテーブル取引の間接労務費取引が収益と請求に適格で、労務費ワークテーブル取引が請求にのみ適格の場合、間接労務費取引の適格性コードは労務費ワークテーブル取引の適格性コードと同じ値に一時変更されます。

給与計算システムでは次の間接労務費が計算されます。

実際間接労務費 給与関連税、保険、追加給付の実際の金額。従業員のタイムカードに関連付けられた実績原価の間接労務費が計算されます。

定額間接労務費 直接労務費から計算される間接労務費の見積額。タイムカードごとに労務費の一定の割合として間接労務費が計算されます。

労務費ワークテーブル取引に間接労務費取引が関連付けられている場合、〈ワークテーブルの処理〉フォーム(W4812C)の[B]フィールド(間接労務費)にXが表示されます。間接労務費情報を表示するには、[ロー]メニューの[間接労務費情報]を選択します。

注:

〈日次タイムカードの入力〉プログラム(P051141)を使用して、労務費ワークテーブル取引と関連付けることができるのは定額間接労務費のみです。日次の給与計算取引は、その合計がワークテーブルに書き込まれると、当初給与計算取引が請求済みになります。

当初給与計算取引が処理された後で新しく計算された間接労務費は、ワークテーブルには読み込まれません。たとえば、定額間接労務費を逆仕訳し、当初給与計算取引に対して間接労務費の実際金額を計算した場合でも、その新しい間接労務費取引はワークテーブルには読み込まれません。

参照

- 間接労務費の PDBA の設定については、『Workforce Management Foundation(人事管理基本操作)』ガイドの「Setting Up Deductions, Benefits, and Accruals(損金、福利厚生、および見越の設定)」
- 会社の間接労務費配賦規則の設定については、『Workforce Management Foundation for the United States Guide(米国人事管理基本操作)』ガイドの「Setting Up Company Burden Rules(会社の間接労務費配賦規則の設定)」
- 間接労務費の請求行の手動設定については、『契約請求』ガイドの「間接労務費の契約請求行の定義」

追加料金の処理

追加料金とは、割増しの1種です。追加料金は、ソース取引の金額を基に計算されます。たとえば、借入金利息の請求分を追加料金として作成できます。

追加料金は、ワークテーブル取引に対する割増金額としてだけでなく、請求書金額に基づいて利息金を請求する際にも使用できます。複合追加料金とは、追加料金に基づく割増しです。

追加料金の計算規則は、追加料金テーブル・マスター(F4860)に設定します。次に、追加料金取引を作成するための追加料金規則を割増規則に割り当てます。

ワークテーブル取引に追加料金取引が関連付けられている場合、〈ワークテーブルの処理〉フォーム(W4812C)の[C]フィールド(追加料金)にXが表示されます。追加料金ワークテーブル取引を表示するには、[ロー]メニューの[追加料金情報]を選択します。

ワークテーブルでの親/子関係の定義

次の場合、ワークテーブル取引に親/子関係を設定できます。

ワークテーブル取引/追加料金 ワークテーブル取引に追加料金取引が作成された場合に成立します。
ワークテーブル取引

労務費/間接労務費 ワークテーブルに労務費と関連付けられた間接労務費が保管されている場合に成立します。

間接労務費/追加料金 間接労務費取引に対する追加料金取引が作成された場合に成立します。

ワークテーブル取引の表示

次のようなワークテーブル取引が表示できます。

ワークテーブル取引

ワークテーブル取引とは、取引明細テーブル(F0911)に記録された請求対象費用の取引のコピーです。

間接労務費

間接労務費とは、従業員の雇用に伴って発生する原価を表すワークテーブル取引を意味します。これは、給与などの直接労務費とは別に記録されます。間接労務費には次のようなものがあります。

- 会社負担の給与税
- 保険
- 年金などの追加給付

間接労務費は、常に関連する労務費ワークテーブル取引と共に処理されます。〈ワークテーブルの処理〉フォーム(W4812C)で、[ロー]メニューの[間接労務費情報]を選択してこれらのワークテーブル取引を表示します。

追加料金

追加料金とは、顧客への請求書を作成する時に当初原価に上乗せして請求する金額のワークテーブル取引を意味します。たとえば、借入金利息の請求分を追加料金として作成できます。

追加料金は、常に関連するワークテーブル取引と共に処理されます。〈ワークテーブルの処理〉フォームで、[ロー]メニューの[追加料金情報]を選択してこれらのワークテーブル取引を表示します。

適格性コードの割当て

ワークテーブル取引で参照されている勘定科目の請求可能状況と、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で設定した[仕訳作成の制御]オプションに基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードが割り当てられます。

注:

適格性コードは、表示される金額と、ワークテーブル取引が加入できる請求プロセスを指定します。適格性コードには次のような値があります。

- 0 ワークテーブル取引は請求、収益認識、および原価計算処理に適格です。
- 1 ワークテーブル取引は請求および原価計算処理に適格です。
- 2 ワークテーブル取引は収益認識および原価計算処理に適格です。
- 3 ワークテーブル取引は請求外です。
- 4 ワークテーブル取引は原価処理にのみ適格です。
- 5 ワークテーブル取引は買掛伝票の入力に適格です(サービス管理ワークテーブル取引にのみ使用)。

たとえば、勘定科目マスター(F0901)の[請求可]フィールドが Y(勘定科目が請求される)に設定され、請求システム固定情報の[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]オプションで[調整なしの請求書/収益]が選択されている場合、適格性コードの値は 0 に設定されます。適格性コード 0 はワークテーブル取引が請求書、収益認識、および原価計算に使用できることを意味します。この勘定科目([請求可]フィールドが Y)が請求システム固定情報の[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]オプションで[請求書のみ]が設定されている場合、適格性コードの値は 1 に設定されます。適格性コード 1 はワークテーブル取引が請求書にのみ使用できることを意味します。

割り当てられる適格性コードは、条件によって次のようになります。

勘定科目の検討と改訂プログラム (P0901) - [請求可]フィールド	請求固定情報プログラム(P48091) - [仕訳作成の制御]オプション	ワークテーブルの改訂プログラム (P4812) - [適格性コード]フィールド
N(いいえ、請求する必要はない)	-	ワークテーブル取引は作成されない
Y(はい、勘定科目の請求が必要)	請求書のみ	1(請求書にのみ使用可能)
Y(はい、勘定科目の請求が必要)	収益のみ	2(収益にのみ使用可能)

勘定科目の検討と改訂プログラム (P0901) - [請求可]フィールド	請求固定情報プログラム(P48091) - [仕訳作成の制御]オプション	ワークテーブルの改訂プログラム (P4812) - [適格性コード]フィールド
Y(はい、勘定科目の請求が必要)	調整なしの請求書/収益	0(請求書/収益にのみ使用可能)
Y(はい、勘定科目の請求が必要)	調整ありの請求書/収益	0(請求書/収益にのみ使用可能)
1(請求書にのみ使用可能)	請求書のみ	1(請求書にのみ使用可能)
1(請求書にのみ使用可能)	収益のみ	ワークテーブル取引は作成されない
1(請求書にのみ使用可能)	調整なしの請求書/収益	1(請求書にのみ使用可能)
1(請求書にのみ使用可能)	調整ありの請求書/収益	1(請求書にのみ使用可能)
2(収益認識にのみ使用可能)	請求書のみ	ワークテーブル取引は作成されない
2(収益認識にのみ使用可能)	収益のみ	2(収益にのみ使用可能)
2(収益認識にのみ使用可能)	調整なしの請求書/収益	2(収益にのみ使用可能)
2(収益認識にのみ使用可能)	調整ありの請求書/収益	2(収益にのみ使用可能)
4(原価にのみ使用可能)	請求書のみ	4(原価にのみ使用可能)
4(原価にのみ使用可能)	収益のみ	4(原価にのみ使用可能)
4(原価にのみ使用可能)	調整なしの請求書/収益	4(原価にのみ使用可能)
4(原価にのみ使用可能)	調整ありの請求書/収益	4(原価にのみ使用可能)

順序番号の割当て

ワークテーブル取引を変更すると、履歴を残すために変更するごとに順序番号がつけられます。

割増金額と分割の変更を含む改訂を請求明細ワークテーブル(F4812)に入力すると、最初に元の取引が請求明細ワークテーブル(F4812)から請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)にコピーされます。次に、請求明細ワークテーブル(F4812)内の改訂された取引に、次の順序番号が割り当てられます。

順序番号により、当初ワークテーブル取引にどのように改訂が加えられたかがトラッキングできます。次に示す番号を使用してワークテーブル取引がリンクされます。

請求制御(BCI)番号 最初に請求明細ワークテーブル(F4812)が作成されたときに割り当てられます。割り当てられる番号は、自動採番 - システム 48 インデックス 2(請求制御)を使って決められます。ワークテーブル取引の BCI 番号は、取引の改訂後も変わりません。ワークテーブル取引を分割した場合は、両方の取引に同じ番号が保持されます。

順序番号(SBSQ) 当初ワークテーブル取引の順序番号には、常に 1 が割り当てられます。同じ BCI 番号を持つ取引から派生した取引には、次の未使用の番号が順序番号として割り当てられます。たとえば、最初にワークテーブル取引を分割すると、分割後の取引には順序番号 2 と 3 が割り当て

られます。そのうち 1 つをさらに分割すると、分割後のワークテーブル取引には 4 と 5 が割り当てられます。

親順序番号(PRSQ) 当初ワークテーブル取引の親順序番号には、常に 0 が割り当てられます。親順序番号が変更されるのは、ワークテーブル取引が分割された場合のみです。親順序番号は、ワークテーブル取引の分割により作成された取引に割り当てられます。分割元の取引の順序番号が、親順序番号として割り当てられます。たとえば、順序番号 1、親順序番号 0 のワークテーブル取引を分割すると、分割により作成されたワークテーブル取引の親順序番号として 1 が割り当てられます。

2 次順序番号(SCSQ) 当初ワークテーブル取引の 2 次順序番号には、常に 1 が割り当てられます。2 次順序番号は、ワークテーブル取引に加えられた改訂数をトラッキングします。順序番号により、当初ワークテーブル取引にどのように改訂が加えられたかがトラッキングできます。たとえば、あるワークテーブル取引を 3 回改訂したとします。改訂対象のワークテーブル取引の 2 次順序番号は 1 です。最初の改訂により、2 次順序番号は 2 になり、次の改訂時に 3 になります。ワークテーブル取引を分割すると、分割により作成されたワークテーブル取引の 2 次順序番号には 1 が割り当てられます。

追加料金リンク番号(GLNK) ワークテーブル取引(親)と追加料金取引(子)とのリンクを作成します。追加料金リンク番号が 0(ゼロ)の場合は、追加料金が存在しないことを意味します。追加料金のあるワークテーブル取引を分割すると、追加料金リンク番号が変わります。まず、分割により作成される親ワークテーブル取引に新しい追加料金リンク番号が割り当てられます。次に、この追加料金リンク番号が、関連付けられた追加料金に割り当てられます。

ワークテーブルの生成

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの生成〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの生成〉を選択します。

請求書は請求可能な費用に基づいて作成されます。請求処理の最初のステップは、ワークテーブルの生成です。請求可能な費用は、取引明細テーブル(F0911)に記録されています。

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行するとワークテーブル取引を作成し、次の処理が行われます。

- 取引明細テーブル(F0911)の未処理のソース取引を識別する。
- ソース取引が記録されている勘定科目が請求対象かどうかを勘定科目マスター(F0901)の[請求可]フィールドの値を元に判別する。
- システム固定情報とソース取引により追加情報が必要な場合(給与計算取引と関連付けられている間接労務費など)、関連テーブルを使用する。
- 取引明細テーブル(F0911)のソース取引を「処理済み」または「請求対象外」に更新する。
- すべての給与計算関連ソース取引について、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)および従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)を更新する。
- 割増金額と税額を計算する。
- ソース取引のコピーをサービス請求明細ワークテーブル(F4812)に作成する。

- 請求システム固定情報の[仕訳作成の制御]オプションと勘定科目マスター(F0901)の[請求可]フィールドの指定に基づいて、コピーした取引に該当する適格性コードを割り当てる。
- 契約情報を割り当てる(契約請求のみ)。
- ワークテーブルに作成されていない請求対象取引をリストするレポートを作成する。

取引明細テーブル(F0911)のソース取引には、N(勘定科目が請求対象外の場合)またはZ(勘定科目が請求対象であり、かつ請求システムにより処理された場合)が割り当てられます。次に〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)の実行時には、それまでにワークテーブルが生成されていないソース取引のみが対象になり、ワークテーブル取引を作成します。

参照

- [仕訳作成の制御]オプションについては、『契約請求』ガイドの「請求システム固定情報の設定」
- 割増金額の設定については、『契約請求』ガイドの「請求料金/割増規則の定義」
- 割増金額の識別については、『契約請求』ガイドの「請求料金/割増規則の検索」
- 〈収益ワークテーブルの生成〉プログラム(R52120)およびこのプログラムの処理オプションについては『契約請求』ガイドの「ワークテーブルへの一括および単価収益レコードの追加」

はじめる前に

- ワークテーブルを生成する前に、次の情報が設定されていることを確認します。
 - 住所録テーブル(F0101)の各顧客の住所情報。『住所録』ガイドの「Address Book Maintenance(住所録の管理)」を参照してください。
 - 顧客マスター(F0301)の各顧客のマスター情報。『売掛管理』ガイドの「顧客レコードの作成」を参照してください。
 - 複数の通貨を使用して請求書进行处理する場合は「多通貨」。『多通貨処理』ガイドの「Multicurrency Overview(多通貨処理の概要)」を参照してください。
 - ビジネスユニット・マスター(F0006)内の各ビジネスユニット(作業)のマスター情報。『一般会計』ガイドの「ビジネスユニットの設定」を参照してください。
- 契約対象の顧客を自動的に取り込む場合は、プロジェクトの顧客番号を割り当てたかどうかを確認します。
- 勘定科目表ですべての請求勘定科目を定義します。
- 請求システム固定情報が設定されているかどうかを確認します。
- 請求料金/割増テーブル(F48096)で規則を定義します。
- タイム・アンド・マテリアル請求行の相互参照が契約に設定されていることを確認します。

処理オプション: ワークテーブルの生成(R48120)

デフォルト・タブ

給与計算設備レコードの所属ビジネスユニットの取得元を指定します。処理オプションを空白のままにして固定資産マスターを指定し、資産 ID が見つからない場合は、給与計算レコードの所属ビジネスユニットが選択されます。

1. 給与計算所属ビジネスユニット選択

1 = 給与計算マスター

blank = 資産マスター

給与計算設備レコード用の所属ビジネスユニットの取得元を指定します。有効な値は次のとおりです。

1 給与計算マスター

blank 資産マスター(デフォルト)

処理タブ

一括、単価、および手数料請求行の収益を生成するために実行する〈収益ワークテーブルの生成〉プログラム(R52120)のバージョンを指定します。

この処理オプションは契約請求にのみ適用されます。

1. 契約収益ワークテーブルの生成(R52120)のバージョン

契約の非タイム・アンド・マテリアル請求行の収益を生成するために実行する、〈契約収益ワークテーブルの生成〉プログラム(R52120)のバージョンを指定します。blankにした場合、非タイム・アンド・マテリアル請求行のワークテーブル収益取引は生成されません。

ワークテーブルの検討

ワークテーブルを生成したら、関連のワークテーブル取引を検討して、ソース取引から読み込まれた情報が正しいかどうかを検討できます。ソース取引とは、取引明細テーブル(F0911)に記録された取引のことです。ソース取引の処理に他の入力元のシステムからの情報が必要になることもあります。

請求明細ワークテーブル(F4812)の取引を検討する際は、次のような問題がないかどうか注意してください。

- 給与計算取引が間違った作業オーダーまたは作業に付け替えられている。
- 割増金額が正しくない(ワークテーブル取引の作成後に割増テーブルに変更があった場合)。
- 契約情報が正しくない(契約請求のみ)。

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)または〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)のバッチ・プログラムを実行し、次のいずれかのエラーが検出された場合は、[保留コード]フィールドが"E"のワークテーブル取引が更新されます。

顧客がありません

原因 ワークテーブルに割り当てられたビジネスユニットまたは作業オーダーについて、顧客番号が見つかりませんでした。

解決方法 . . 次のいずれかの処理を実行してください。

- 1) ビジネスユニットまたは作業オーダーに顧客番号を追加してください。ワークテーブル取引を再計算してから顧客番号を再度適用してください。
- 2) ビジネスユニットまたは作業オーダーを、顧客番号を持つものに変更します。ワークテーブル取引を再計算してから顧客番号を再度適用してください。
- 3) 〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の顧客番号基準オプションを変更し、ビジネスユニットや作業オーダーから正しい顧客番号を読み込むようにします。ワークテーブル取引を再計算してから顧客番号を再度適用してください。

顧客マスター情報がありません

原因 ワークテーブル取引に割り当てた顧客番号が、顧客マスター(F0301)に設定されていません。

解決方法 . . 顧客番号を顧客マスター(F0301)に追加してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。

作業オーダー番号が無効です

原因 ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号が、作業オーダー・マスター(F4801)にありません。

解決方法 . . 作業オーダー・マスター(F4801)に作業オーダー番号を入力するか、ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダーを変更してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。

作業オーダー番号が非請求対象です

原因 ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号が、非請求対象です。UDC テーブル 00/SS の 2 番目の記述の値を使用して、作業オーダーが請求対象かどうか判断されます。作業オーダー状況の記述 02 の 2 文字目に“X”を入力し、作業オーダーが非請求対象であることを指示します。

解決方法 . . 次のいずれかの処理を実行してください。

- 1) 作業オーダー・マスター(F4801)で作業オーダーの状況を変更してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。
- 2) UDC テーブル 00/SS の作業オーダー状況コードの 2 番目の記述から、X を消去します。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。作業オーダー・マスター(F4801)が他の部署で使用中の可能性があるので、この変更の前にはシステム管理者に確認してください。
- 3) ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号を変更してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。

補助元帳が非活動中です

原因 ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号が、非活動中です。作業オーダー・マスター(F4801)の[補助元帳非活動]フィールド(WASBLI)の値を使って、このエラーが割り当てられます。これらの値は UDC テーブル 00/SI で設定します。

解決方法 . . 作業オーダー・マスター(F4801)で、ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダーの[補助元帳非活動]フィールドの値を変更するか、ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号を変更してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。

上記のメッセージは、〈ワークテーブルの生成〉レポート(R48120)に印刷されます。

多通貨環境の場合、国内通貨または外貨でワークテーブルを検討できます。

ワークテーブル取引を検討する際、次のフォームにアクセスできます。

- 間接費情報
- 追加料金取引の照会
- ソース伝票の情報
- 作業/金額の改訂
- 内部制御情報
- テーブル情報

ワークテーブル取引の検討

請求明細ワークテーブル(F4812)の取引を検討するには、最初取引を特定する必要があります。特定のワークテーブル取引を検討して会計および請求情報を検証し、ワークテーブル取引が課税対象かどうかを判断できます。

▶ ワークテーブル取引を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

PeopleSoft. ワークテーブルの処理

選択 検索 追加 削除 閉じる フォーム ロー ツール

タブを選択: 一般

顧客: []

作業No.: []

元帳日付範囲: [] []

補助元帳タイプ: * [] *

レコード 1 - 10

	取引 分類	伝票 タイプ	元帳日付	追加 料金	間接 収益	保留 コード	顧客	契約書 No.	契約 タイプ	契約 会社	変更 No.	請求行	収益 バッチNo.	ビジネス ユニット
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/04/30				150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/04/30				150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/04/30				150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/04/30				150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/06/11	X	X		150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/06/11	X	X		150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/06/11	X	X		150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/06/11	X	X		150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/06/11	X	X		150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/06/11	X	X		150							
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/06/11	X	X		150							

1. 〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)で、必要に応じて次のフィールドに値を入力してから[検索]をクリックします。

一般タブ:

- 顧客
- 作業 No.
- 元帳日付範囲
- 補助元帳/タイプ

関係者タブ:

- 顧客
- 仕入先 No.

勘定科目タブ:

- 勘定科目 No.
- 補助元帳/タイプ
- 会社

契約タブ:

- 契約 No.
- 契約タイプ

注:

サービス請求の場合、[契約]タブのオプションはサービス管理の契約情報を参照します。

給与計算タブ:

- 従業員 No.
- 作業タイプ
- 職階

設備タブ:

- 使用設備
- 作業対象設備

内部タブ:

- 請求制御 ID
- 収益バッチ No.

2. 取引を検討します。
3. 契約請求の場合、次のフィールドを検討します。
 - 取引分類
 - 適格性コード
 - 課税対象
 - 契約書 No.
 - 請求通貨

フィールド記述

記述	用語解説
顧客	請求書と売掛金取引の転記先住所番号 --- フォーム固有 --- このフィールドに得意先の住所番号を入力して、得意先に関連した取引を検索してください。
作業 No.	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。 --- フォーム固有 --- 関連する取引を検索するビジネスユニットを入力してください。
元帳日付範囲	取引を転記する会計期間を識別する日付。会社の会計年度と現行期間に基づいて日付チェックが行われ、PBCO(過去期間)、PYEB(前年度以前)、PACO(未来期間)、WACO(次年度以降)などの警告/エラーが表示されます。
補助元帳/タイプ	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類して取引を記録するための補助区分コード。たとえば住所番号を入力して、従業員別に経費を把握することができます。このフィールドに入力する場合、補助元帳タイプも指定する必要があります。 --- フォーム固有 --- 関連する取引を検索する作業オーダーを入力してください。
仕入先 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。

勘定科目 No.	<p>会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。</p>
契約 No.	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>関連する取引を検索するビジネスユニットを入力してください。</p> <p>当初伝票を識別する番号。得意先への請求書や仕入先からの請求書、受注オーダー、仮受金、仕訳など伝票にはさまざまな種類があります。</p>
契約タイプ	<p>伝票タイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)。また、このコードは取引(トランザクション)のタイプも示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・カード用に伝票タイプ・コードを予約しており、これらのタイプ・コードにより転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。これらの仕訳は、当初入力の際には残高自動計算は行われません。事前定義されている次の伝票タイプは、変更しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> P 買掛金伝票 R 売掛金伝票 T 給与計算伝票 I 在庫伝票 O 購買伝票 J 一般会計／共有請求伝票 S 受注伝票
従業員 No.	<p>住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。</p>
作業タイプ	<p>組織内の職務を定義するユーザー定義コード(07/G)。給与と福利厚生情報を職務タイプと関連付け、情報をその職務タイプと連結する従業員に適用できます。</p>
職階	<p>特定の職務タイプ内での特定の水準を指定するユーザー定義コード(07/GS)。このコードは、賃金テーブルにある職務別賃率を決定するために職務タイプと共に使用されます。</p>
使用設備	<p>従業員が職務を実行していた設備の ID 番号。特定の設備に関連付けられたトランザクションを検索するための設備番号を入力してください。このフィールドのデフォルト値として取引明細(F0911)または時間入力履歴(F0618)の値が使用されます。</p>
作業対象設備	<p>従業員が保有し、補修をしたものの、使用したことはない備品に対する ID 番号。例えば、ある従業員は、社のダンプカーのエンジンオイル交換だけをする場合があります。こうした場合、労務費を直接この備品に充てるのにこのフィールドを使ってください。</p>
請求制御 ID	<p>得意先情報の請求に対する詳細トランザクションを識別する固有の番号。自動採番機能(システム 48、インデックス 2)によって番号が割り当てられ、請求処理を使ってトランザクションをトラッキングするために監査証跡が作成されます。原料レコードは、請求トランザクションと同じ請求制御 ID を持っています。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>表示する請求トランザクションの請求制御 ID を入力してください。</p>

取引分類	<p>請求取引を分類するコード。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>blank 活動中の請求明細ワークテーブル(F4812)へのアドホック入力</p> <p>A 契約収益-非 T&M レコード</p> <p>C サービス契約 (カスタマー・サービス管理システム)</p> <p>D サービス・オーダー (カスタマー・サービス管理システム)</p> <p>E 保証請求 (カスタマー・サービス管理システム)</p> <p>F コール (カスタマー・サービス管理システム)</p> <p>1 労務入力</p> <p>2 間接非入力</p> <p>3 設備入力</p> <p>4 J.D. Edwards により予約されています</p> <p>5 購買／買掛管理入力</p> <p>6 仕訳入力</p> <p>7 手入力</p> <p>8 システム生成の制御レコード</p> <p>9 J.D. Edwards により予約されています</p>
適格性コード	<p>単一取引レベルでの取引の処理方法を指定するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 = 請求および収益に使用可能</p> <p>1 = 請求にのみ使用可能</p> <p>2 = 収益にのみ使用可能</p> <p>3 = 請求不可</p> <p>4 = 原価にのみ使用可能</p> <p>5 = 買掛金にのみ使用可能</p> <p>勘定科目マスター(F0901)の[請求可能(Y/N)]フィールドとシステム固定情報で設定した[仕訳生成制御]フィールドの値に基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードが割り当てられます。たとえば、[請求可能(Y/N)]フィールドが Y の勘定科目を使ったレコードが請求システムで処理され、[仕訳生成制御]フィールドが請求のみに設定されている場合、この取引の適格性コードは 1 になります。これは、取引が請求のみに使用できることを意味します。</p>
課税対象	その品目自体が売上税の対象となるかどうかを示すコード
契約 No.	当初伝票を識別する番号。得意先への請求書や仕入先からの請求書、受注オーダー、仮受金、仕訳など伝票にはさまざまな種類があります。
請求通貨	請求通貨コード。顧客の通貨コードが使用されます。

ワークテーブル取引の改訂の検討

ワークテーブル取引の処理中に作成する改訂取引について、前回の取引のコピーが自動的に保存されます。この監査証跡を検討して、すべての変更内容を確認できます。ワークテーブル取引の改訂履歴が、最近の改訂に始まり当初のワークテーブル取引まで表示されます。

▶ ワークテーブル取引の改訂を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. グリッドの取引をハイライトして[ロー]メニューから[取引照会]を選択します。

PeopleSoft
ワークテーブル履歴の照会

選択 検索 閉じる ロー ツール

請求制御ID: 15398 請求書No.: 128
元帳日付: 05/06/15 請求書タイプ: T2

グリッドのカスタマイズ									
	C	親順序 No.	順序 No.	2次 順序No.	調整 理由	請求書 金額	外貨 請求書金額	更新日付	ユーザーID
			1	1	No Adjustment	658.26	1,019.49	02/04/25	GA5763200

3. 〈ワークテーブル履歴の照会〉で、取引の改訂履歴を検討します。

取引合計の検討

取引の合計金額を検討できます。取引合計を検討すると、次の処理を行うことができます。

- 請求書および費用合計に関する予測を立てる
- ワークテーブルに保存された請求書情報、および顧客用に印刷する請求書情報が正確かどうかをチェックする。

取引合計に不一致があった場合、請求処理を続ける前に必要な改訂を入れる必要があります。

▶ 取引合計を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。

注:

合計を正確に印刷するには、QBE を使用してワークテーブル取引を検索しないようにしてください。

2. [フォーム]メニューから[合計]を選択してレポートを投入します。
3. 〈レポート出力定義〉で、適切なオプションを選んで[OK]をクリックします。
4. レポートの次の国内通貨および外貨の金額を検討します。

- 収益
- 請求書
- 原価

適格性コードの設定に基づいて金額が印刷されます。

間接費の取引の検討

間接労務費とは、雇用の結果発生する費用を定義します。間接労務費には、次のものがあります。

- 会社負担の給与税
- 保険
- 年金などの追加給付
- 工具などの労務関連の直接原価

請求固定情報を使用して、ワークテーブルの間接費取引を処理するかどうかを制御します。給与計算の仕訳を作成する際に間接費取引が計算されます。

間接労務費取引にワークテーブル取引が関連付けられている場合、〈ワークテーブルの処理〉フォームの[B]カラム(間接労務費)に X が表示されます。

▶ 間接費取引を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を探します。
2. 次のフィールドを検討して間接労務費を持つ取引を識別します。

- 間接費

このフィールドに X があると、間接労務費が取引に関連付けられていることを示します。

3. 詳細域で間接労務費を持つ取引をハイライトして、[ロー]メニューから[間接労務費情報]を選択します。

PeopleSoft

間接費情報

OK 検索 キャンセル ロー ツール

従業員No. 4800 Josephson, Michael

トランザクションNo. 1014

グリッドのカスタマイズ											
	追加	削除	選択	PDDBA	税	備考	基本	原価	原価	請求書	請求書
	料金			コード	タイプ		通貨	金額	(含追加)	金額	(含追加)
<input checked="" type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>		E	FICA Paid	USD	77.50	77.50	92.52	
<input type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>	0	H	SUI Paid	USD	9.16	9.16	10.93	
<input type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>	0	Q	Medicare Paid	USD	18.13	18.13	21.64	
<input type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>	0	Z	Medicare Paid	USD				
<input checked="" type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>	0	1005	Health/Co	USD	45.00	45.00	53.72	
<input checked="" type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>	0	7705	Dental/Co	USD	8.64	8.64	10.32	

4. 〈間接費情報〉で、次のフィールドのデータを検証します。

- 従業員 No.
- トランザクション No.
- PDDBA コード
- 税タイプ
- 備考

フィールド記述

記述	用語解説
間接費	ワークファイル取引に対して間接費が存在するかどうかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。 Blank 間接費なし X 間接費あり
従業員 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
トランザクション No.	給与計算取引に対して割り当てられる固有の番号。このフィールドは、実際間接費の記録処理で作成された実際間接費の監査レコードと給与計算取引を関連付けるために使用されます。
PDBA コード	支払、控除、給付、または見越しのタイプを定義するコード。支払タイプには 1 から 999、控除と給付には 1000 から 9999 までの番号が付いています。
税タイプ	このワークテーブル取引に関連付けられている給与税のタイプを示すユーザー定義コード(07/TT)
備考	備考、名称、摘要(仕訳の場合)を示すフィールド。

参照

- 『Time Accounting(時間会計)』ガイドの「Entering Timecards for Employees(従業員のタイムカードの入力)」

追加料金取引の検討

追加料金とは、割増しの 1 種です。追加料金は、ソース取引の金額を基に計算されます。たとえば、借入金利息の請求分を追加料金として作成できます。

追加料金は、ワークテーブル取引に対する割増金額としてだけでなく、請求書金額に基づいて利息金を請求する際にも使用できます。複合追加料金を使用して、既存の追加料金の金額に基づいて追加利息金を請求します。

ワークテーブル取引に追加料金仕訳が関連付けられている場合、〈ワークテーブルの処理〉フォームの [C] カラム(追加料金)に X が表示されます。

▶ 追加料金取引を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. 次のフィールドを検討して追加料金を持つ取引を識別します。

- 追加料金

このフィールドに X があると、追加料金が取引に関連付けられていることを示します。

3. 詳細域で、追加料金のある取引を選択し、[ロー]メニューの[追加料金情報]を選択します。

PeopleSoft®

追加料金取引照会

キャンセル ツール

■ 外貨

追加料金連結 3032 ベース原価 1,250.00

原価テーブル LABOR ベース数量 40.00

請求書テーブル LABOR ベース課税請求額 2,800.00

ベース請求合計 2,800.00

グリッドのカスタマイズ

	追加料金 コード	備考	基本 通貨	原価 金額	請求書 金額	請求 通貨	外貨 原価金額	外貨 請求書
<input checked="" type="radio"/>	COM	Cost of Money	USD	25.00	56.00	USD		
<input type="radio"/>	FRG	Fringe	USD	550.00	1,232.00	USD		
<input type="radio"/>	OVH	Overhead	USD	1,440.00	3,225.60	USD		

金額

4. 〈追加料金取引照会〉で、次のフィールドの情報を検証します。

- 追加料金連結
- 原価テーブル
- 請求書テーブル
- ベース原価
- ベース数量
- ベース課税請求額
- 追加料金コード
- 原価金額
- 請求書金額

フィールド記述

記述	用語解説
追加料金	ワークファイル取引に対して追加料金が存在するかどうかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。 ブランク 追加料金なし X 追加料金あり
追加料金連結	追加料金レコードを基本作業ファイル・レコードと結び付けるコードです。
原価テーブル	請求料金/割増料金テーブルへの入力 (WORLD では原価プラス割増料金テーブルへの入力) に使用する追加料金テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、間接費として当初原価に組み込まれます。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。
請求書テーブル	この請求料金/割増テーブルの入力に使用する追加料金テーブルを指定するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。この追加料金は請求書の割増し分に追加されて請求されます。追加料金テーブルは〈追加料金テーブル〉プログラム(P4860)で設定します。
ベース原価	関連する勘定科目番号の勘定残高に追加される金額を示す数字。貸方の金額は金額の前か後にマイナスの符号をつけて入力します。
ベース数量	計量単位により識別される物の数量。たとえば、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間など。
ベース課税請求額	請求金額のうちで課税対象になる部分。
追加料金コード	追加料金コードは、請求明細取引レベルで勘定される仮の間接労務費を識別します。
原価金額	関連する勘定科目番号の勘定残高に追加される金額を示す数字。貸方の金額は金額の前か後にマイナスの符号をつけて入力します。
請求書金額	請求明細取引の請求金額。

〈ワークテーブル合計レポート〉の検討

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブル合計レポート〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブル合計レポート〉を選択します。

〈ワークテーブル合計レポート〉プログラム(R48TW)を使用して、国内通貨と外貨の両方のワークテーブル取引の収益、請求書、および原価合計を印刷します。レポートには、基本金額の合計と、追加料金を含む合計金額の両方がリストされます。

〈ワークテーブル合計レポート〉プログラム(R48TW)は、次のいずれかの方法で実行できます。

- メニューから〈ワークテーブル合計レポート〉を選択し、バッチ・プログラムとして実行する。
- 〈ワークテーブルの処理〉で、[フォーム]メニューから[合計]を選択する。
- 〈明細履歴の処理〉フォームで、[フォーム]メニューの[合計レポート]を選択する。

〈ワークテーブル合計レポート〉プログラム(R48TW)は、請求明細ワークテーブル(F4812)から情報を取得します。

〈ワークテーブル取引の例外レポート〉の検討

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブル取引の例外レポート〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブル取引の例外レポート〉を選択します。

〈ワークテーブル取引の例外レポート〉プログラム(R48S412)には、実行しているレポート・バージョンのデータ選択条件を満たすすべてのワークテーブル取引がリストされます。このレポートを使用して、保留中の取引、割増情報のない取引、顧客情報のない取引など、請求プロセスを継続する前に検討する必要のあるワークテーブル取引を識別できます。このレポートには、次の取引ごとの情報がリストされます。

- 顧客番号
- 顧客名
- 勘定科目 No.
- 補助元帳
- 補助元帳タイプ
- 適格性コード
- 原価金額
- 請求書金額
- 収益金額
- 保留コード
- リリース日付
- 請求 ID

〈ワークテーブル取引の例外レポート〉プログラム(R58S412)は、請求明細ワークテーブル(F4812)から情報を取得します。

〈契約別ワークテーブル取引〉レポートの検討

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈契約別ワークテーブル取引〉を選択します。

〈契約別ワークテーブル取引〉レポート(R52412)には、契約番号別にグループ化されたワークテーブル取引がリストされます。このレポートには各ワークテーブル取引について次の情報がリストされます。

- 顧客名
- ビジネスユニット
- ワークテーブル取引
- 補助科目
- 補助元帳タイプ
- 原価金額
- 請求書金額

- 収益金額
- 保留コード
- リリース日付
- 請求制御番号

レポートには、各契約の合計原価金額、請求書金額、および収益金額も含まれます。

〈契約別ワークテーブル取引〉レポート(R52412)は、請求明細ワークテーブル(F4812)から情報を取得します。

R52412										
J.D. Edwards & Company										
契約別ワークテーブル取引										
P. 1										
顧客名	ビジネスユニット	通帳科目	補助元帳	タイプ	原価金額	請求書金額	収益金額	保留コード	リリース日付	請求制御ID
契約No./タイプ/会社	5350	00050								
Cloud Nine Inc.	5350	0492	02000		1,256.00	1,427.00	1,375.00			15231
Cloud Nine Inc.	5350	0492	02000		690.00	885.00	660.00			15238
Cloud Nine Inc.	5350	0492	02000		756.00	863.60	831.60			15246
Cloud Nine Inc.	5350	0492	02000		930.31	1,062.34	1,023.34			15254
Cloud Nine Inc.	5350	0492	02000		500.00	571.00	550.00			15262
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		77.50	92.52	88.13			15272
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		18.13	21.64	20.85			15283
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000							15294
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		9.16	10.93	10.53			15305
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		65.00	53.72	51.75			15316
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		8.64	10.32	9.94			15327
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		37.20	44.41	42.78			15338
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		8.70	10.39	10.01			15349
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000							15361
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		7.50	8.96	8.63			15372
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		65.00	53.72	51.75			15383
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		8.64	10.32	9.94			15394
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000							15405
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		85.87	55.95	53.90			15417
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		13.96	13.08	12.60			15428
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000							15439
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		9.45	11.28	10.87			15450
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		65.00	53.72	51.75			15461
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		8.64	10.32	9.94			15472
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000							15483
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		57.66	68.85	66.33			15494
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		13.49	16.19	15.51			15505
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000							15517
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		11.63	13.88	13.37			15528
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		65.00	53.72	51.75			15539
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		8.64	10.32	9.94			15550
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000							15561
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		31.00	37.00	36.60			15572
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		7.25	8.96	8.34			15583
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		6.25	7.46	7.19			15594
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		65.00	53.72	51.75			15605
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		8.64	10.32	9.94			15617
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000							15628
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		1,250.00	2,596.00	2,500.00			15639
Cloud Nine Inc.	5350	0493	02000		5,907.26	7,945.25	7,654.05			15650
契約合計										

ワークテーブル取引の検討

請求明細ワークテーブル(F4812)の取引は請求処理の基準となります。処理を続ける前に、必要な追加や変更をワークテーブル取引に加えてください。ワークテーブル取引に加えた変更は、サービス請求ワークテーブルのデータにのみ影響します。変更は取引明細(F0911)のソース取引には影響しません。

注: サービス請求の場合

ワークテーブルのサービス管理の取引は変更または削除できません。売掛管理システムでサービス管理取引を処理し、サービス管理で調整を行う必要があります。

ワークテーブルの改訂には次の処理があります。

- 請求書に印刷するテキストを追加する。

- ワークテーブルから省略された元帳取引を、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を再度実行せずに追加する。
- 勘定科目コードや作業オーダー番号などを修正する。
- 取引をまず取引明細テーブル(F0911)に入力せずに直接ワークテーブルに追加する。たとえば、買掛管理システムで処理していない経費精算書などを追加できます。
- アクティブなワークテーブルから請求ワークテーブル履歴(F4812H)にワークテーブル取引を移す。こうすると、取引は請求書に含まれません。

改訂したワークテーブル取引は、請求明細ワークテーブル(F4812)に残ります。監査の目的で、F4812H テーブルに変更を加える前に取引のコピーが保持されます。

既存の元帳取引のワークテーブルへの追加

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行しなくても、取引明細テーブル(F0911)からの取引を請求明細ワークテーブル(F4812)に追加できます。たとえば、ワークテーブル生成プログラムに含めなかった会計取引を処理できます。また、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行した後に取引明細テーブル(F0911)に追加した会計取引を処理することも可能です。

ワークテーブルに取引を追加する際は、ワークテーブル生成プログラムが選択した取引についてのみ実行されます。取引明細テーブルが更新されて、取引が処理済みになります。請求対象の取引が給与計算システムで入力された場合、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)か従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)が更新されます。また、請求テーブルから読み込まれた割増し、税、元帳クラス(サービス請求の場合)の情報も適用されます。

▶ 既存の元帳取引をワークテーブルに追加するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. [フォーム]メニューから[元帳取引選択]を選択します。

PeopleSoft®

会計取引の選択

検索 閉じる ロー ツール

取引の選択

勘定科目 No. 6100 開始元帳日付

補助元帳タイプ 終了元帳日付

給与計算設備レコード用所属ビジネスユニット

品目マスター(デフォルト) 給与計算

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

勘定科目 No.	元帳日付	摘要	金額	通貨コード	伝票 No.	伝票タイプ	補助元帳	補助タイプ	補助元帳名
<input type="checkbox"/> 6100.1341	05/04/30	Payroll Labor Distribution	54.00	USD	11	T2			
<input type="checkbox"/> 6100.1341	05/06/25	Payroll Labor Distribution	4,073.67	USD	98	T2	00065023	W	
<input type="checkbox"/> 6100.1341	05/07/09	Payroll Labor Distribution	3,971.40	USD	92	T2	00065042	W	
<input type="checkbox"/> 6100.1342	05/07/09	Payroll Labor Distribution	196.88	USD	92	T2	00065042	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8115	05/06/30	Payroll Labor Distribution	514.00	USD	5	T2	00065023	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8115	05/06/30	Payroll Labor Distribution	173.08	USD	5	T2	00065040	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8116	05/04/30	Payroll Labor Distribution	301.88	USD	7	T2	00065017	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8116	05/06/30	Payroll Labor Distribution	153.75	USD	5	T2	00065023	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8116	05/06/30	Payroll Labor Distribution	97.36	USD	5	T2	00065040	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8455	05/05/31	Digger Incorporated	300.00	USD	3106	PV	00065017	W	

3. 〈会計取引の選択〉で、必要に応じて次のフィールドに値を入力して取引を絞り込みます。

- 勘定科目 No.
- 開始元帳日付
- 終了元帳日付
- 補助元帳/タイプ

〈ワークテーブルの処理〉フォームでデータを入力した場合、これらのフィールドには自動的にデータが読み込まれます。

- 給与計算設備レコードに使用する所属ビジネスユニットを指定するには、[固定資産マスター] (デフォルト) オプションまたは[給与計算] オプションを選択します。
- ワークテーブルに追加する取引を選び、[ロー]メニューから[ワークテーブル取引の選択]を選択します。
- [閉じる]をクリックして〈ワークテーブルの処理〉に戻ります。
- 見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。

フィールド記述

記述	用語解説
勘定科目 No.	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
開始元帳日付	取引を転記する会計期間を決定する日付。会社を設定した期間パターンで会計期間を定義してください。取引入力時に入力したこの元帳日付は、会社を設定された期間パターンと比較して正しい期間が取り込まれます。同時に日付の検証も行われます。
終了元帳日付	取引を転記する会計期間を決定する日付。会社を設定した期間パターンで会計期間を定義してください。取引入力時に入力したこの元帳日付は、会社を設定された期間パターンと比較して正しい期間が取り込まれます。同時に日付の検証も行われます。
補助元帳/タイプ	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類して取引を記録するための補助区分コード。たとえば住所番号を入力して、従業員別に経費を把握することができます。このフィールドに入力する場合、補助元帳タイプも指定する必要があります。

ワークテーブル取引の割増しの変更

ワークテーブル取引の割増しは、間接費および利益の勘定科目についての費用増加分です。割増規則は請求料金/割増テーブル(F48096)で定義します。〈ワークテーブルの生成〉プログラムを実行すると、割増規則を使用して割増しがワークテーブル取引に適用されます。割増情報はワークテーブルの生成後にも変更できます。

請求料金/割増テーブル(F48096)を変更したら、改訂した割増情報をワークテーブル取引に適用するか、最初に請求料金/割増テーブル(F48096)で定義した割増規則を再度適用できます。

〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)を使用して割増しを変更することに加えて、〈ワークテーブルの処理〉フォームの特定の取引について[ロー]メニューの[取引の再作成]を選択することで、[割増オプションの再適用]フィールドと[調整理由]フィールドを変更することもできます。

▶ ワークテーブル取引の割増しを変更するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. ワークテーブル取引を選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

作業/金額の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

元帳日付 05/04/30 計算プレビュー

適格性コード 再計算オプション

外貨 再計算調整理由

請求書金額 取益額 作業/額表 契約 補定 通貨

原価情報

数量/単位	10.00	HR
単価	31.2500	
原価	312.50	

割増し情報

請求書の一時変更	<input type="checkbox"/>
請求書割増し%	175.000
割増し金額	

請求書金額

課税金額	859.38
税額	32.66
請求書合計	892.04

税金割引情報

税(Y/N)	Y
税種/税目	CO S
割引%/金額	

3. 〈作業/金額の改訂〉で、ワークテーブル取引の割増しおよび税情報のソースを検討するには、[フォーム]メニューから[テーブル情報]を選択します。

PeopleSoft®

テーブル情報

キャンセル フォーム ツール

テーブル比較基準日 05/04/30 キータイプ記述 テーブル・キー値 通貨コード

割増しテーブル

請求割増しテーブル	5	Customer	150	USD
取益割増しテーブル	6	Job or Business Unit	6100	USD
追加料金割増しテーブル				

元帳クラスおよび税決定基準テーブル

元帳クラス・テーブル	1	Work Order	00065010
税決定基準テーブル	2	Work Order Class	PER

4. 〈テーブル情報〉で、データを検討して[キャンセル]をクリックし、〈作業/金額の改訂〉フォームに戻ります。

5. 〈作業/金額の改訂〉で、請求金額の割増しを変更するには[請求書金額]タブをクリックし、必要に応じて次のフィールドに値を入力します。
 - 請求書の一時変更レート/上限
 - 請求書割増し%
 - 割増し金額
6. 収益の割増しを変更するには[収益額]タブをクリックし、必要に応じて次のフィールドに値を入力します。
 - 収益の一時変更レート/上限
 - 請求書割増し%
 - 割増し金額
7. [計算プレビュー]をクリックします。
割増しが計算されて変更が表示されます。
8. 次のフィールドに値を入力します。
 - 再計算オプション
 - 再計算調整理由
9. [OK]をクリックします。

注意:

〈作業/金額の改訂〉で割増情報を変更して、[OK]をクリックする前に[再計算オプション]フィールドに“3”を入力しなかった場合、請求料金/割増テーブル(F48096)からデフォルトの割増情報が読み込まれます。これを防ぐには、[再計算オプション]フィールドに“3”を入力します。

フィールド記述

記述	用語解説
請求書の一時変更レート/ 上限	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる請求書額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。請求割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。</p> $(\text{一時変更レート} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$ <p>最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム (P48096) で設定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。請求割増率を指定するには生成タイプ 1、収益割増率を指定するには生成タイプ 2 を使用します。</p> <p>請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ 1 を使用してください。</p>
請求書割増し%	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増計算に使用するパーセントを指定する数値。パーセントは数字の部分だけをそのまま入力します。たとえば 50.275%は“50.275”と入力します。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。割増し率は〈請求料金/割増しテーブルの改訂〉フォームで設定します。収益の割増料金テーブルを指定するには、生成タイプを 1 に指定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能はシステム固定情報の[収益/請求の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、〈請求料金/割増しの改訂〉フォームの生成タイプを 2 に指定します。</p>
割増し金額	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる請求書額の割増計算に使用する金額。この金額は、従業員の給与には影響しません。この金額は〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)で定義します。請求割増金額のテーブルを指定するには、生成タイプを 1 に指定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なる料金で割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、生成タイプを 2 に指定します。</p>

収益の一時変更レート/ 上限	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増し率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。収益割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。</p> $(\text{一時変更レート} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$ <p>最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム (P48096) で設定します。サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル (F48091) の [請求書/収益の金額が異なることを許可する] オプションにより制御されます。収益割増率を指定するには生成タイプ 2、請求割増率を指定するには生成タイプ 1 を使用します。</p> <p>請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ 1 を使用してください。</p>
請求書割増し%	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増計算に使用するパーセントを指定する数値。パーセントは数字の部分だけをそのまま入力します。たとえば 50.275% は "50.275" と入力します。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。割増し率は〈請求料金/割増しテーブルの改訂〉フォームで設定します。収益の割増料金テーブルを指定するには、生成タイプを 1 に指定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能はシステム固定情報の [収益/請求の金額が異なることを許可する] オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、〈請求料金/割増しの改訂〉フォームの生成タイプを 2 に指定します。</p>
割増し金額	<p>収益金額の割増計算に使用する金額で、製図、エンジニアまたはコンサルタント料などの専門技能サービスの請求に反映されます。この金額は従業員の給与には反映されません。生成タイプ 1 を使用することにより、この金額は原価割増しテーブルで収益/請求書の割増金額として設定されます。生成タイプ 1 を使用することにより、この金額は原価割増しテーブルで収益/請求書の割増し金額として設定されます。</p> <p>サービス請求/契約請求では、原価割増しテーブルで生成タイプ 2 を使用することにより、請求書金額と異なるレートで収益額を割り増すことができます。この機能は、固定情報の [収益/請求の不一致許可] フラグによって制御されます。</p>
再計算オプション	<p>取引の再適用方法を指定するコード。指定した一時変更や割増しテーブルで定義した情報を使用して変更や再計算を行う場合に、取引の再適用を実行します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 = 請求料金/割増しテーブル (F48096) の請求割増し率を再適用する。収益金額は変わりません。</p> <p>2 = 請求料金/割増しテーブル (F48096) の収益割増し率を再適用する。請求金額は変わりません。</p> <p>3 = 〈金額/数量情報〉ウィンドウまたは〈請求料金/割増しの改訂〉フォームで入力されたレートまたは金額を使用する。請求料金/割増しテーブル (F48096) の収益割増し金額は適用しないでください。</p> <p>ブランク = 請求料金/割増しテーブル (F48096) を使用して請求書割増し率と収益割増し率を再適用する。</p> <p>注: システム固定情報の [請求書/収益の金額が異なることを許可する] オプションで、請求書金額と収益金額が同じになるように指定されている場合は、コードの 1 と 2 は使用できません。</p>
調整理由	<p>請求ワークファイル (F4812) で単一またはグループの請求明細取引の改訂理由を指定するのに使用するユーザー定義コード (48/AR)。監査目的で請求明細取引の実績を更新するのに、この理由が使用されます。</p>

アドホック・ワークテーブル取引の入力

会計処理のサイクルの中で原価情報を入力しない場合、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行してもその取引は使用可能になりません。会計処理中に処理されない原価については、必要に応じてワークテーブルに取引を手作業で追加できます。ワークテーブルに手入力する取引を、「アドホック取引」と呼びます。

たとえば、会計部門で毎月 15 日に経費精算書を処理するとします。監督者の経費には、毎月 5 日までにワークテーブルに含める必要のある請求原価があります。この場合、費用をアドホック取引としてワークテーブルに入力します。取引明細テーブル(F0911)になく、通常の会計処理サイクルに依存しない原価情報がアドホック取引として作成されます。アドホック取引をワークテーブルに入力したら、原価への割増しや備考の入力をして請求処理を完了することができます。

ワークテーブルにアドホック取引を入力する場合は、次の条件が適用されます。

- 取引の作成理由は入力できません。
- 取引の裏付けとなるソース伝票はありません。
- 取引明細とワークテーブルの費用の詳細情報に不一致があります。

注意:

アドホック取引を入力して、関連のソース取引を通常の会計および請求サイクルによって処理すると、ワークテーブルに重複した取引が作成されます。これを防ぐには、重複するワークテーブル取引の適格性コードを手作業で「請求対象外」に変更し、ワークテーブルから取引を削除する必要があります。

重複するワークテーブル取引を除去しないと、〈ワークテーブルの処理〉フォームでその取引が引き続き表示されます。適格性コードが請求対象に変更されると、誤って二重請求する恐れがあります。

▶ アドホック・ワークテーブル取引を入力するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈ワークテーブル入力〉で、次のフィールドに情報を入力します。
 - 元帳日付
 - 勘定科目コード
3. 次の任意フィールドに新規の取引に関する情報を入力します。
 - 補助元帳/タイプ
 - 適格性コード
 - 通貨コード

- 再計算オプション
4. 次のフィールドに該当金額を入力します。

- 数量
- 原価金額
- 割引 %

注:

サービス請求固定情報フォームの仕訳制御のオプション設定に応じて、請求書や収益のフィールドが表示されます。

5. 該当する場合は、次のフィールドに該当する請求金額を入力します。
- 請求書一時変更レート/上限
 - 請求書割増し%
 - 調整後金額
 - 課税対象額
 - 請求額合計
6. 該当する場合は、次のフィールドに該当する収益金額を入力します。
- 収益一時変更レート/上限
 - 収益割増し%
 - 収益割増し金額
 - 収益金額
7. 必要に応じて、アドホック・ワークテーブル取引に関する詳細情報を次のフィールドに入力します。
- 所属ビジネスユニット
 - 職務タイプ
 - 従業員/仕入先
 - 職階
 - 説明
 - 備考

8. [OK]をクリックします。

参照

- 取引状況の請求対象外への変更については、『契約請求』ガイドの「ワークテーブル取引のワークテーブル履歴テーブルへの移動」
- 〈請求固定情報〉フォームでの仕訳作成の制御の設定については、『契約請求』ガイドの「請求システム固定情報の設定」

フィールド記述

記述	用語解説
元帳日付	取引を転記する会計期間を識別する日付。会社の会計年度と現行期間に基づいて日付チェックが行われ、PBCO(過去期間)、PYEB(前年度以前)、PACO(未来期間)、WACO(次年度以降)などの警告/エラーが表示されます。
勘定科目コード	<p>総勘定元帳の勘定科目を識別する値。勘定科目コードの入力に次のいずれかのフォーマットを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 標準勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目、補助科目または自由形式)。 ○ 第3 総勘定元帳番号(最大 25 桁)。 ○ 勘定科目 ID 8 桁の ID。 ○ スピード・コード(AAI 項目 SP につける 2 文字のコード)。勘定科目の代わりにこのコードを入力できます。 <p>1 桁目に入力する識別記号により、使用する勘定科目コードの形式を指定します。この識別記号は、一般会計固定情報プログラムで定義します。</p>
補助元帳/タイプ	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類して取引を記録するための補助区分コード。たとえば住所番号を入力して、従業員別に経費を把握することができます。このフィールドに入力する場合、補助元帳タイプも指定する必要があります。
適格性コード	<p>単一取引レベルでの取引の処理方法を指定するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 = 請求および収益に使用可能 1 = 請求にのみ使用可能 2 = 収益にのみ使用可能 3 = 請求不可 4 = 原価にのみ使用可能 5 = 買掛金にのみ使用可能 <p>勘定科目マスター(F0901)の[請求可能(Y/N)]フィールドとシステム固定情報で設定した[仕訳生成制御]フィールドの値に基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードが割り当てられます。たとえば、[請求可能(Y/N)]フィールドが Y の勘定科目を使ったレコードが請求システムで処理され、[仕訳生成制御]フィールドが請求のみに設定されている場合、この取引の適格性コードは 1 になります。これは、取引が請求のみに使用できることを意味します。</p>
通貨コード	基本通貨コード。ビジネスユニットが属する会社の通貨コードが使用されます。

再計算オプション	<p>取引の再適用方法を指定するコード。指定した一時変更や割増しテーブルで定義した情報を使用して変更や再計算を行う場合に、取引の再適用を実行します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 = 請求料金/割増しテーブル(F48096)の請求割増し率を再適用する。収益金額は変わりません。</p> <p>2 = 請求料金/割増しテーブル(F48096)の収益割増し率を再適用する。請求金額は変わりません。</p> <p>3 = 〈金額/数量情報〉ウィンドウまたは〈請求料金/割増しの改訂〉フォームで入力されたレートまたは金額を使用する。請求料金/割増しテーブル(F48096)の収益割増し金額は適用しないでください。</p> <p>ブランク = 請求料金/割増しテーブル(F48096)を使用して請求書割増し率と収益割増し率を再適用する。</p> <p>注: システム固定情報の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションで、請求書金額と収益金額が同じになるように指定されている場合は、コードの 1 と 2 は使用できません。</p>
数量	<p>計量単位により識別される物の数量。たとえば、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間など。</p>
原価金額	<p>関連する勘定科目番号の勘定残高に追加される金額を示す数字。貸方の金額は金額の前か後にマイナスの符号をつけて入力します。</p>
割引 %	<p>割引期日前の入金に対する請求書総額から割り引く割引率。2%割引の場合は、".02"というように小数点以下で入力します。</p>
請求書一時変更レート/上限	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる請求書額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増し率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。請求割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。</p> $(\text{一時変更レート} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$ <p>最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム (P48096) で設定します。サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。請求割増率を指定するには生成タイプ 1、収益割増率を指定するには生成タイプ 2 を使用します。請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ 1 を使用してください。</p>
請求書割増し%	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増計算に使用するパーセントを指定する数値。パーセントは数字の部分だけをそのまま入力します。たとえば 50.275%は"50.275"と入力します。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。割増し率は〈請求料金/割増しテーブルの改訂〉フォームで設定します。収益の割増料金テーブルを指定するには、生成タイプを 1 に指定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能はシステム固定情報の[収益/請求の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、〈請求料金/割増しの改訂〉フォームの生成タイプを 2 に指定します。</p>

調整後金額	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる請求書額の割増計算に使用する金額。この金額は、従業員の給与には影響しません。この金額は〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)で定義します。請求割増金額のテーブルを指定するには、生成タイプを 1 に指定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なる料金で割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、生成タイプを 2 に指定します。</p>
課税対象額	請求金額のうちで課税対象になる部分。
請求額合計	請求明細取引の請求金額。
収益一時変更レート/上限	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増し率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。収益割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。</p> $(\text{一時変更レート} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$ <p>最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム (P48096) で設定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益割増率を指定するには生成タイプ 2、請求割増率を指定するには生成タイプ 1 を使用します。請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ 1 を使用してください。</p>
収益割増し%	<p>収益用の割増し計算に使用する割増し率で、専門技能サービス(製図、エンジニアまたはコンサルタント料など)の請求額に反映されます。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。この割増し率は、請求料金/割増しテーブル (WorldSoftware では原価割増しテーブル) で、生成タイプ 1 (収益/請求書の割増しレート・テーブル)として設定します。入力するパーセント値は整数で入力してください。たとえば 50.275%は"50.275"と入力します。</p>
収益割増し金額	<p>収益金額の割増計算に使用する金額で、製図、エンジニアまたはコンサルタント料などの専門技能サービスの請求に反映されます。この金額は従業員の給与には反映されません。生成タイプ 1 を使用することにより、この金額は原価割増しテーブルで収益/請求書の割増金額として設定されます。生成タイプ 1 を使用することにより、この金額は原価割増しテーブルで収益/請求書の割増し金額として設定されます。サービス請求/契約請求では、原価割増しテーブルで生成タイプ 2 を使用することにより、請求書金額と異なるレートで収益額を割り増すことができます。この機能は、固定情報の[収益/請求の不一致許可]フラグによって制御されます。</p>
収益金額	請求明細取引の収益額
所属ビジネスユニット	従業員が通常属するビジネスユニットの番号
職務タイプ	組織内の職務を定義するユーザー定義コード(07/G)。給与と福利厚生情報を職務タイプと関連付け、情報をその職務タイプと連結する従業員に適用できます。
従業員/仕入先	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
職階	特定の職務タイプ内での特定の水準を指定するユーザー定義コード(07/GS)。このコードは、賃金テーブルにある職務別賃率を決定するために職務タイプと共に使用されます。
説明	記述、備考、説明、名称、または住所。
備考	備考、名称、摘要(仕訳の場合)を示すフィールド。

保留状況の割当て

ワークテーブル取引を処理する準備ができていない場合、取引を保留にできます。取引を無期限に保留するか、リリース日付を指定することもできます。ワークテーブル取引を保留にすると、その取引は請求明細ワークテーブル(F4812)に残りますが、リリース日付が来るまでは処理されません。リリース日付はシステム日付と比較され、いつ通常の請求処理に取引を含めるかが決まります。リリース日付はワークテーブル取引の監査証跡の一部として保存されます。

▶ 保留状況を割り当てるには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. ワークテーブル取引を選んで[選択]をクリックします。

3. 〈作業/金額の改訂〉で[補足]タブを選択します。次のフィールドにリリース日付などの値を入力して[OK]をクリックします。

- 保留コード/リリース日付

注:

関連の間接労務費取引や追加料金取引を持つワークテーブル取引に保留状況を割り当てると、関連するすべての取引に保留コードが自動的に割り当てられます。

フィールド記述

記述	用語解説
保留コード/リリース日付	請求明細取引に適用する保留状況コードのタイプを識別するコード。有効なアルファベット値は、次のとおりです。 ブランク 保留中でない。 A 請求、収益計上、および費用振替について保留中。 B 請求および収益計上について保留中。費用振替はできません。 I 請求について保留中。収益計上および費用振替は可能です。 R 収益計上について保留中。この値は、システム固定情報の仕訳生成制御フラグが、収益のみを処理するように設定されている場合にのみ使用できます。 有効な数値コードは、次のとおりです。 ブランク = 保留中でない 1 = 請求、収益計上、および費用振替について保留中。 2 = 請求および収益計上について保留中。費用振替は可能です。 3 = 請求について保留中。収益計上および費用振替は可能です。 4 = 収益計上について保留中。この値は、システム固定情報の仕訳生成制御フラグが、収益のみを処理するように設定されている場合にのみ使用できます。

非タイム・アンド・マテリアルのワークテーブル取引の改訂

〈収益ワークテーブルの生成〉プログラム(R52120)を実行する際は、一括および単価レコードがワークテーブルに追加されます。これは、プログラムを単独で実行する場合も、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)とともに実行する場合も同じです。これらの非タイム・アンド・マテリアル収益ワークテーブル取引の適格性コード、保留コード、リリース日付は改訂できます。また、適格性コードが3（請求不可）の非タイム・アンド・マテリアル収益ワークテーブル取引を削除することも可能です。

収益仕訳の生成バッチに含まれた非 T&M 収益ワークテーブル取引は、〈ワークテーブルの処理〉フォームの[R]カラム(収益)に X が表示されます。収益レコードが請求書バッチに含まれている場合、〈ワークテーブルの処理〉フォームには表示されません。

次の表は、非 T&M 収益ワークテーブル取引について有効な適格性コードの変更を示します。

適格性コード	仕訳作成固定情報	有効な適格性コードの変更
0 = 請求書/収益用に使用可能	調整ありの請求書/収益	3 = 請求には使用不可
2 = 収益	収益 調整なしの請求書/収益	3 = 請求には使用不可
3 = 請求には使用不可	収益 調整なしの請求書/収益	2 = 収益
3 = 請求には使用不可	調整ありの請求書/収益	0 = 請求書/収益用に使用可能

▶ 非 T&M 収益ワークテーブル取引を改訂するには

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、ヘッダーのフィールドに情報を入力してワークテーブル取引を検索し、次のフィールドの QBE に A(契約収益の非タイム・アンド・マテリアルレコード)と入力して、[検索]をクリックします。
 - TC
2. 取引を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈作業/金額の改訂〉で適格性コードを変更するには、次のフィールドの値を変更します。
 - 適格性コード
4. 〈作業/金額の改訂〉の[補足]タブを選択し、必要に応じて次のフィールドの値を変更します。
 - 保留コード/リリース日付
5. [OK]をクリックします。

ワークテーブル取引の分割

ワークテーブルを生成した後で、ワークテーブル取引を 2 つに分割できます。取引は特定の通貨金額や単価、パーセント別に分割することができます。

取引を分割すると、取引の 1 つを請求処理に回し、もう一方を処理しない場合などに便利です。たとえば、従業員の超過勤務に対して通常の時給の 2 倍の金額を支払うとします。通常の時給でこの従業員の労働時間に対して給与を計算する場合、ワークテーブル取引を 2 等分に分割することができます。片方を請求対象として、もう 1 つを非請求対象とします。

分割の基準として、数量と金額のどちらかを使用するかを選択できます。また、分割計算をする際に、金額またはパーセンテージのどちらかを指定することも可能です。

関連する間接費を含む給与計算取引、および間接費取引は分割できません。

ワークテーブル取引を分割すると、次の処理が実行されます。

- 2 つの新しい取引が表示されます。新しい取引の合計金額および合計数量は、分割前の値と同じです。
- 分割前のワークテーブル取引のコピーが、監査用に請求ワークテーブル履歴(F4812H)に移動されます。
- 関連するすべてのワークテーブル取引に順序番号が割り当てられます。請求制御 ID(BCI)は分割後のワークテーブル取引と同じです。このワークテーブル取引の内部制御情報の順序番号と請求制御 ID を検討することができます。
- 関連する追加料金のワークテーブル取引が分割されます。

保留コードを持つワークテーブル取引を分割すると、分割後の新しい取引にも同じ保留コードとリリース日付が割り当てられます。

例:分割取引の順序番号

この例では、ワークテーブル取引を分割したときに、契約請求システムが順序番号を処理して取引に割り当てる方法を示します。

次の表では、当初の取引を記述します。

	現在の取引
記述	当初の取引
請求書金額	100.00
請求 ID	5377
親順序番号	ブランク
順序番号	1
2 次順序番号	0

当初の取引の分割実行

次の表では、当初の取引が分割された結果の取引を記述します。

	取引の履歴	現在の取引	
記述	当初の取引	レコード 2	レコード 1
請求書金額	100.00	25.00	75.00
請求 ID	5377	5377	5377
親順序番号	ブランク	1	1
順序番号	1	2	3
2 次順序番号	0	1	1

レコード 2 の分割実行

次の表では、レコード 2 の取引が分割されたときの結果の取引を記述します。

	取引の履歴		現在の取引		
記述	当初の取引	レコード 2	レコード 1	レコード 3	レコード 4
請求書金額	100.00	25.00	75.00	15.00	10.00
請求 ID	5377	5377	5377	5377	5377
親順序番号	ブランク	1	1	2	2
順序番号	1	2	3	4	5
2 次順序番号	0	1	1	1	1

参照

- 保留コードについては、『契約請求』ガイドの「保留状況の割当て」

- すべての関連ワークテーブル取引への順序番号の割当方法については、『契約請求』ガイドの「順序番号の割当て」

▶ **ワークテーブル取引を分割するには**

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. 特定のワークテーブル取引について[ロー]メニューから[分割]を選択します。

PeopleSoft
ワークテーブル分割基準
キャンセル ツール

■ 外貨 通貨コード USD

基準金額

☐ 数量 20.00

☒ 原価金額 1,250.00

☐ 請求書の課税額 1,375.00

☐ 収益金額 1,375.00

分割レコード1の金額のパーセント

☒ 分割% 50.00

☐ 分割金額

計算プレビュー/分割実行

3. 〈ワークテーブル分割基準〉で、次のいずれかを選択します。
 - 数量
 - 原価金額
 - 請求書の課税額
 - 収益金額
4. 対応するオプションをクリックして、次のフィールドに値を入力します。
 - 分割%

- 分割金額

5. [計算プレビュー/分割実行]ボタンをクリックして、分割計算の結果を表示します。
[キャンセル]をクリックして〈ワークテーブル分割基準〉に戻り、必要な分割結果が得られるまでこれを繰り返します。

6. 〈ワークテーブル分割全額〉で、希望する結果が得られたら[OK]をクリックします。
ワークテーブル取引は、[OK]をクリックするまで実際に分割されません。

フィールド記述

記述	用語解説
分割%	WorldSoftware では、入力する値が金額またはパーセントのどちらかを示します。有効な値は次のとおりです。 0 = 金額 1 = パーセント OneWorld では、分割レコード 1 の金額またはパーセントを指定します。金額またはパーセントのどちらかを入力してください。
分割金額	WorldSoftware では、入力する値が金額またはパーセントのどちらかを示します。有効な値は次のとおりです。 0 = 金額 1 = パーセント OneWorld では、分割レコード 1 の金額またはパーセントを指定します。金額またはパーセントのどちらかを入力してください。

ワークテーブル取引の再作成

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈上級技術操作〉メニュー(G48S31)から〈ワークテーブルの再作成〉を選択します。

〈上級技術操作〉メニュー(G5231)から〈ワークテーブルの再作成〉を選択します。

〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)を使用して、改訂内容をワークテーブル取引に適用します。〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)は、次のいずれかの方法で実行できます。

- ・ 〈上級技術操作〉メニュー(G5231)からバッチ・プログラムを選択する。
- ・ 〈ワークテーブルの処理〉フォームで、[ロー]メニューから[取引の再作成]を選択する。
- ・ 〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)を使用してワークテーブル情報を改訂する。この場合は、〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)が自動的に実行されます。

処理オプション:〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)

再作成タブ

請求書金額と収益金額を再適用するかどうか、また調整理由コードを指定するかどうかを指定します。

1. 再計算する金額

1 = 請求書金額のみ

2 = 収益金額のみ

3 = どちらの金額も再計算しない

blank = 両方の金額を再計算する

指定した一時変更や割増しテーブルで定義した情報を使用して変更や再適用を行う場合に、取引の再計算を実行するためのオプション。有効な値は次のとおりです。

1 請求料金/割増しテーブル(F48096)の請求割増し率を再適用する。収益金額は変わりません。

2 請求料金/割増しテーブル(F48096)の収益割増し率を再適用する。請求金額は変わりません。

3 〈請求料金/割増しテーブルの改訂〉フォームで設定した割増し率/金額を使用する。請求料金/割増しテーブル(F48096)の請求/収益割増し率は適用しないでください。

blank 請求料金/割増しテーブル(F48096)を使用して、請求書割増し率と収益割増し率を再適用する。

注: システム固定情報の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションで、請求書金額と収益金額が同じになるように指定されている場合は、オプションの 1 と 2 は使用できません。

2. 調整理由コード

サービス請求明細ワークテーブル(F4812)のレコードに割り当てる調整理由コードを指定します。
有効な値は、UDC(48/AR)に定義されています。

印刷タブ

プログラムでレポートを印刷するかどうかを指定します。

1. レポートの印刷

1 = 印刷しない

blank = 印刷する

結果を印刷するかどうかを選択します。有効な値は次のとおりです。

blank = する

1 = しない

ワークテーブル取引のワークテーブル履歴テーブルへの移動

請求の必要がない取引は活動中の請求明細ワークテーブル(F4812)から移動できます。ワークテーブルから取引を移動するには、取引の状況が非請求対象である必要があります。適格性コードを3に更新すると、ワークテーブル取引が請求不可になります。

ワークテーブル取引をワークテーブル履歴テーブルに移動する際、次の処理が実行されます。

- 監査用に取引を請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)にコピーする。
- 請求明細ワークテーブル(F4812)から取引を除去する。

請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)に移動した取引は、〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)には表示されません。請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)に移動した取引を表示するには、〈ワークテーブル履歴の照会〉プログラム(P4812H)を使用します。〈ワークテーブル履歴の照会〉プログラム(P4812H)を使って、ワークテーブル取引を再度有効にすることもできます。

注:

当初の取引は取引明細テーブル(F0911)からは削除されません。

参照

- 履歴ワークテーブル取引の再有効化については、『契約請求』ガイドの「ワークテーブル履歴の処理」

▶ 取引をワークテーブル履歴に移動するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. ワークテーブル取引を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈作業/金額の改訂〉で、次のフィールドを 3(請求不可)にして[OK]をクリックします。

- 適格性コード

4. 〈ワークテーブルの処理〉で、[検索]をクリックします。
5. ワークテーブル取引を選んで[削除]をクリックします。

この操作により、ワークテーブル取引は請求明細ワークテーブル(F4812)から請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)に移動されます。

フィールド記述

記述	用語解説
適格性コード	単一取引レベルでの取引の処理方法を指定するコード。有効な値は次のとおりです。 0 = 請求および収益に使用可能 1 = 請求にのみ使用可能 2 = 収益にのみ使用可能 3 = 請求不可 4 = 原価にのみ使用可能 5 = 買掛金にのみ使用可能 勘定科目マスター(F0901)の[請求可能(Y/N)]フィールドとシステム固定情報で設定した[仕訳生成制御]フィールドの値に基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードが割り当てられます。たとえば、[請求可能(Y/N)]フィールドが Y の勘定科目を使ったレコードが請求システムで処理され、[仕訳生成制御]フィールドが請求のみに設定されている場合、この取引の適格性コードは 1 になります。これは、取引が請求のみに使用できることを意味します。

ワークテーブル取引の印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの印刷〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの印刷〉を選択します。

〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)を使用して、ワークテーブル取引をオンラインで検討できます。選択した取引だけをレポートとして出力することもできます。このレポートは、次の目的で使用できます。

- 請求書処理されていないすべての取引をリストするレポートなど、例外レポートを作成するため

- 情報取引明細テーブル(F0911)の明細情報と比較するため

ワークテーブル取引と比較するために取引明細の情報を表示するには、〈取引明細照会〉プログラム(P09200)または〈総勘定元帳(主科目別)〉レポート(R09421)を使用します。

相違がある場合は、請求明細ワークテーブル(F4812)を変更してから、請求処理を続けます。

〈ワークテーブルの印刷〉レポートには、次の情報が含まれています。

- 元帳日付
- 原価
- 数量
- レート
- 請求金額
- 勘定科目 No.
- 補助元帳
- 契約
- 職務タイプ
- PDBA コード
- 従業員/仕入先
- 設備費
- 仕訳バッチ
- 請求書バッチ
- 請求書
- 支払項目

処理オプション:〈ワークテーブルの印刷〉プログラム(R48405)

印刷オプション・タブ

レポートに印刷する明細情報の行数を指定します。

1. 明細行の印刷

0 = 全て印刷する(デフォルト)

1 = 1 行印刷する

請求されていない取引に関するレポートに表示する情報量を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 取引あたり 5 行の情報を印刷する

1 取引あたり 1 行の情報を印刷する

ワークテーブル履歴の処理

ワークテーブル取引の処理中に作成する改訂取引について、前回の取引のコピーが自動的に保存されます。この監査証跡を検討して、すべての変更内容を確認できます。

ワークテーブル履歴を検討する際に、適切な取引を再度有効にすることができます。取引を再度有効にすると、その取引は履歴テーブルから活動中のワークテーブルに移動されます。たとえば、取引を間違っただけで履歴に移動した場合、その取引はワークテーブルに戻すことができます。ワークテーブルに取引を戻した後、適格性コードを変更してから請求書にその取引を含めることができます。

ワークテーブルの整合性を維持するために、ワークテーブル取引を再度有効にできるかどうかは、請求制御 ID その他の要素により決まります。

次の取引は、再度有効にすることはできません。

- 請求済み取引
- 無効にした取引
- 修正中に履歴にコピーした取引

履歴からの取引の移動

以前に請求不可にした取引を、ワークテーブル取引履歴から請求明細ワークテーブルに戻すことができます。取引は履歴テーブルから請求明細ワークテーブルに戻すと、再度有効になります。取引を再度有効にすると、次の処理が行われます。

- 取引およびそれに関連付けられた税額およびテキストを処理可能にする。
- 履歴取引を再有効化済みにする。
- 履歴取引を請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)から請求明細ワークテーブル(F4812)にコピーする。

▶ 履歴から取引を移動するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブル履歴の照会〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブル履歴の照会〉を選択します。

PeopleSoft®

明細履歴の処理

選択 検索 閉じる フォーム ロー ツール

タブを選択: 一般

顧客:

作業No.:

元帳日付の範囲:

補助元帳タイプ:

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

	元帳日付	追加 料金	間接 費	収益 バッチ	顧客	契約 No.	契約 タイプ	契約会社	変更No.	請求行	収益 バッチNo.	ビジネス ユニット	主科目
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150								6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150								6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150								6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150								6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150								6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150								6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150								6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150								6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150								6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150								6100 1341

1. 〈明細履歴の処理〉フォームで、次のフィールドに条件を入力して[検索]をクリックします。

一般タブ:

- 顧客
- 作業 No.
- 元帳日付の範囲
- 補助元帳タイプ

関係者タブ:

- 顧客
- 仕入先 No.

勘定科目タブ:

- 勘定科目 No.
- 補助元帳タイプ

契約タブ:

- 契約 No.
- 契約タイプ

注:

サービス請求の場合、[契約]タブのオプションはサービス管理の契約情報を参照します。

給与計算タブ:

- 従業員 No.
- 職務タイプ
- 職階

設備タブ:

- 使用設備
- 作業対象設備

内部タブ:

- 請求制御 ID

表示タブ:

- 再有効化レコードのみ
- 最終レコードのみ表示

請求済み取引の最終履歴レコードだけが表示されます。

2. 取引を選んで[ロー]メニューから[再アクティベート]を選択します。

取引を再度有効にすると、次に[検索]をクリックしたときには、その取引は表示されません。

注:

再度有効にした取引は、請求明細ワークテーブルでは「請求不可」になっています。この取引を請求処理するには、その適格性コードを個別に変更する必要があります。

処理オプション:〈ワークテーブル履歴の照会〉プログラム(P4812H)

表示タブ

表示する明細履歴レコードを指定します。

1. 表示するレコード

1 = すべての履歴レコード(デフォルト)

2 = 再開できるレコードのみ

表示する明細履歴レコードを指定します。有効な値は次のとおりです。

-
- 1 すべての明細履歴レコードを表示する
 - 2 再度有効にできるレコードだけを表示する
-

請求ワークテーブル履歴の除去

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈上級技術操作〉メニュー(G4831)から〈ワークテーブル履歴の除去〉を選択します。

〈上級技術操作〉メニュー(G5231)から〈ワークテーブル履歴の除去〉を選択します。

〈ワークテーブル履歴の除去〉プログラム(R48S999)を実行すると、請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)から非活動中のレコードが除去されます。非活動中のレコードとは請求明細ワークテーブル(F4812)に関連付けられたレコードがないレコードを指します。関連付けられた活動中レコードとは、F4812H と F4812 の両テーブルに同じ元帳日付と制御 ID を持つレコードを指します。

F4812H テーブルのデータを除去することにより、空きディスク容量が増加し、サービス請求および契約請求の処理が効率化されるので、F4812H テーブルを定期的に除去するようにしてください。

注:

J.D. Edwards では、F4812H テーブルのデータ除去はピーク時以外に実行することをお勧めします。

実行時には、選択したレコードの除去、選択したレコードのレポート印刷、またはその両方を選択できます。レポートには、選択したレコード情報と共に、除去されるレコード数が表示されます。実際にレコードを除去する前に、選択したレコードをレポートに出力できます。

さらに、F4812H テーブルから除去するレコードを除去後の請求ワークテーブル履歴保存テーブル(F4812HS)に移動するかどうか、また移動前に F4812HS テーブルに保存されているレコードをクリアするかどうかを指定できます。

〈ワークテーブル履歴の除去〉プログラム(R48S999)では、除去されたレコードをリストするレポートが作成されます。

処理オプション: ワークテーブル履歴の除去(R48S999)

デフォルト・タブ

レコード除去、レポート印刷、バックアップ保存を行うかどうかを指定します。

1. 除去とレポート印刷

blank = レポート印刷のみ

1 = レコード 除去とレポート印刷

2 = 除去のみ

請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)からレコードを除去するか、また除去されたレコード

を印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 除去しないで、レポートを印刷する

- 1 除去して、レポートを印刷する
- 2 除去するが、レポートは印刷しない

次の処理オプションは、処理オプション 1 で 1 または 2 を指定した場合にのみ適用されます。

2. 除去したレコードを保存テーブルに保存する

ブランク = 保存する

- 1 = 既存のレコードをクリアしてから保存する
- 2 = 保存しない

F4812H テーブルから除去したレコードを請求ワークテーブル除去履歴保存テーブル(F4812HS)に保存するか、また同テーブルにある既存の履歴レコードを消去するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 保存テーブルに書き込む。既存のレコードは消去しない(デフォルト)。

1 = 保存テーブルに書き込む。既存のレコードは消去する。

2 = 保存テーブルに書き込まない。

請求書の処理

請求明細ワークテーブル(F4812)のワークテーブル取引は、最初に作成される時点ではすべて同じ一般的な取引です。請求書の作成に必要な主要情報が含まれていますが、特定の請求書番号には割り当てられていません。

契約請求システムでは、請求書を自動的に、または手作業で作成できます。〈請求書の処理〉メニューから〈請求書の生成〉プログラム(R48121)を実行すると、請求書が自動的に作成されます。請求書を手作業で作成する場合は、〈バッチ処理〉の[フォーム]メニューから[バッチの作成]を選択するか、〈請求書の処理〉の[フォーム]メニューから[請求書の作成]を選択します。

〈請求書の処理〉メニューから〈請求書の生成〉プログラム(R48121)を実行すると、選択したワークテーブル取引が請求明細ワークテーブル(F4812)から集計され、請求書集計ワークテーブル(F4822)に保管されます。契約に対して定義した請求行を使用して、ワークテーブル取引の集計方法が制御されます。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時に、請求書集計ワークテーブルのレコードを基に売掛金元帳(F03B11)に取引が作成されます。

請求書バッチを手作業で作成し、バッチ内で請求書を作成し、既存のワークテーブル取引をマージするか、アドホック・ワークテーブル取引を請求書に直接追加して、支払項目を管理できます。

請求書は次のいずれかの方法で作成できます。

- 請求活動を伴う契約の請求書のみが作成されます。このため、すべての金額が0の請求書は作成されません。
- 請求活動の有無に関係なく請求書が作成されます。すべての金額が0の請求書が作成されます。
- 請求活動の有無に関係なく、すべての金額が0に初期化されて請求書が作成されます。

注:

請求書情報を手作業で作成する場合、請求書バッチの作成時に〈請求書仕訳の生成〉または〈売掛金仕訳の作成〉プログラムを自動的に実行することはできません。この2つの処理は〈バッチの検討〉プログラムから呼び出す必要があります。

契約請求システムのすべてのバッチが検討できます。

契約請求システムでは、「請求書」という用語を次の2つの意味で使用しています。

- F4812 テーブルのワークテーブル取引と F4822 テーブルの集計された請求書情報から生成される情報
- 顧客用に印刷する請求書のコピー。請求書は、〈請求書フォーマットの改訂〉で定義した請求書レイアウトに基づいて印刷されます。

注:

タイム・アンド・マテリアル請求をサポートするワークテーブル取引は、ワークテーブルの生成時に作成されます。相互参照情報を設定している場合は、請求書の自動生成中に、非タイム・アンド・マテリアル請求(一括、単価、出来高、進捗、手数料)をサポートするワークテーブル取引が計算および作成されます。

タイム・アンド・マテリアル請求書作成用の情報を含むワークテーブル取引の作成後は、請求書の生成ステップに進みます。

標準的な契約請求の請求書生成処理は、次のステップで構成されています。

- 請求書の生成
- テスト請求書の印刷
- 請求書情報の保守
- テスト仕訳の生成
- 最終的な仕訳の作成
- 請求書の転記
- 請求書の印刷

契約請求システムでは、次の 4 つのレベルで請求書情報を保守できます。

タスク・レベル	可能な処理
バッチ	<ul style="list-style-type: none">• バッチ見出しの自動作成または手動作成• バッチ見出しの改訂 - バッチ状況または現行活動のリセット• バッチ見出しの削除 - バッチ見出しとそれに関連するすべての請求書情報の削除
請求書	<ul style="list-style-type: none">• 請求書の自動作成• 手作業による既存のバッチへの請求書の追加• バッチからの請求書の削除
支払項目	<ul style="list-style-type: none">• 請求書支払項目の自動作成• 請求書の既存支払項目の改訂
ワークテーブル取引	<ul style="list-style-type: none">• 支払項目に関するワークテーブル取引の自動集計• 支払項目に関するアドホック・ワークテーブル取引の作成• 支払項目に関する既存ワークテーブル取引のマージ• 支払項目からのワークテーブル取引の削除

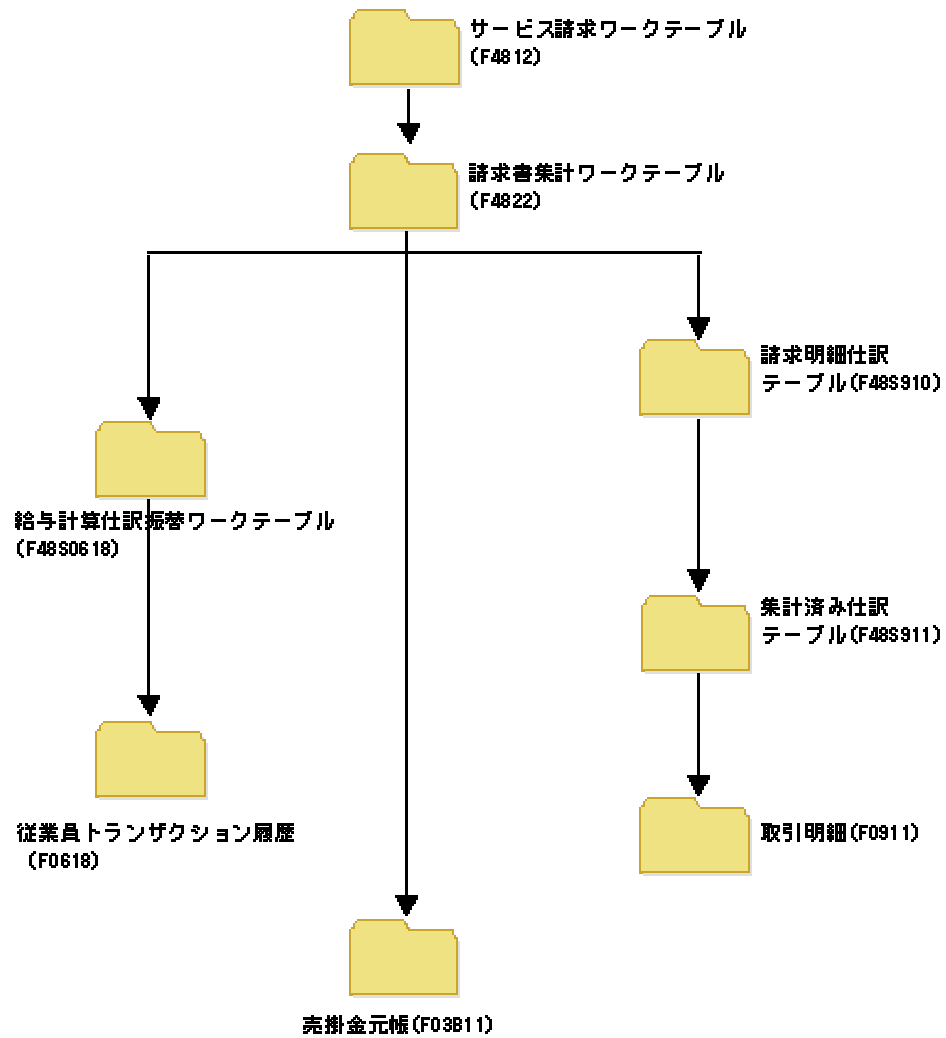
たとえば、請求書バッチに 200 件の請求書があり、プロジェクト管理者がその中の請求書金額に間違いがあることに気づいたとします。この問題を解決するために、〈バッチの改訂〉から請求書バッチ、エラーがある請求書、変更を必要とする支払項目を順番に選択し、特定の支払項目について問題となっているワークテーブル取引を削除できます。請求書には新しい金額が反映され、問題となっていたワークテーブル取引は請求ワークテーブルに残るため、後でそれを訂正して請求書処理できます。

請求書仕訳を最終モードで作成した後、その仕訳を検討、承認、転記することにより全体的な請求処理を完了できます。顧客宛の請求書を印刷するには、〈請求書の印刷〉プログラムを使用できます。

請求処理用の売掛金元帳と総勘定元帳のレコードを作成すると、請求処理を完了したワークテーブル取引は請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)に移動されます。

次の図は、請求書の処理に関係する主要なテーブル間の関係を示します。

請求書処理で使用するテーブル



請求書の生成のバージョンとモード

〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の該当するバージョンを選択して、請求書を作成および印刷し、会計仕訳を作成する必要があります。処理に基づいて次のいずれかのバージョンを選択します。

請求書の生成 - 仕訳作成なし	このバージョンを使用するのは、テスト請求書のみを作成する場合です。この時点では売掛管理システムの仕訳と総勘定元帳レコードは作成されません。
請求書の生成 - テスト・モードによる仕訳	このバージョンを使用するのは、請求書を作成し、売掛管理システムと元帳用にテスト・モードで仕訳を作成する場合です。
請求書の生成 - 最終モードによる仕訳	このバージョンを使用するのは、請求書を作成し、売掛管理システムと元帳用に最終モードで仕訳を作成する場合です。

仕訳項目をテスト・モードで実行し、会計処理のミスがなく請求書が正確かどうかを確認します。仕訳項目を最終モードで実行するのは、仕訳や請求書の検討を必要としない場合です。

請求書の生成時には、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)により、請求システムの売掛金仕訳および振替仕訳が検証/更新されます。〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンは、〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)の処理オプションで指定します。

〈請求書の生成〉プログラム(R48121)または〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時には、処理オプション:〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)で指定した請求書入力マスター・ビジネス関数と仕訳入力マスター・ビジネス関数の各バージョンが使用されます。〈仕訳照合レジスタ〉プログラムの処理オプションをブランクにした場合、マスター・ビジネス関数のバージョン ZJDE0001 が使用されます。

請求書入力マスター・ビジネス関数と仕訳入力マスター・ビジネス関数の処理オプションを表示するには、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈対話型バージョン〉を選択して、次の対話型アプリケーションを表示します。

- 請求書入力 MBF 処理オプション(P03B0011)
- 仕訳入力 MBF 処理オプション(P0900049)

注:

プログラムを最終モードで実行したときにエラーが検出された場合は、売掛金仕訳および振替仕訳が更新されません。

仕訳の振替

請求固定情報の仕訳振替の制御と処理オプション:〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)で仕訳の振替を許可しておく、ワークテーブル取引の勘定科目を振替または変更できます。

請求システムの仕訳振替により、当初の原価勘定を別の勘定科目に振り替えると同時に、取引明細テーブル(F0911)に訂正仕訳を自動的に作成できます。

請求固定情報で[仕訳振替の制御]を有効にすると、仕訳の作成時に取引明細テーブル(F0911)に訂正仕訳が作成されます。

たとえば、従業員が支払期間中の2つの作業オーダーに費やした時間を入力し、従業員が支払期間中の時間数を入力する時に、誤った情報を入力したとします。会計部門が給与計算取引を処理後、その金額を検討した際に、データの入力ミスに気づいたとします。

この場合、請求明細ワークテーブル(F4812)内のワークテーブル取引の作業オーダー番号を変更すれば、エラーを修正できます。仕訳振替を有効にしておく、〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)の実行時に、収益および原価計算用の予備的な仕訳と共に訂正仕訳が作成されます。取引明細テーブル(F0911)には、当初勘定科目を逆仕訳して新勘定科目を更新するための、調整仕訳が作成されます。

訂正仕訳は、伝票タイプ(AJ)により識別できます。また、請求システム固定情報でPDBAコード一時変更を指定していない限り、仕訳振替のワークテーブル取引の支払タイプ(PDBAコード)には同じ値(標準支払を表す 101 など)が使用されます。

給与計算システムからのワークテーブル取引を修正した場合は、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)または〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)の実行時に取引明細テーブル(F0911)に調整仕訳が作成されるだけでなく、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)にも調整仕訳が作成されます。これらの予備的な訂正仕訳は、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)または〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)が完了するまで、給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)に保管されます。

関連する総勘定元帳バッチの処理

請求書バッチを処理する時に、原価の再配賦と振替仕訳をサポートする総勘定元帳仕訳が必要になる場合は、関連する総勘定元帳バッチが作成されます。この関連元帳バッチは請求書バッチに割り当てられ、請求書仕訳に関連する元帳仕訳が保存されます。

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、取引明細テーブル(F0911)と売掛金元帳テーブル(F03B11)に請求書仕訳を書き込むときに、関連する総勘定元帳バッチが取引明細テーブル(F0911)に書き込まれます。

注:

請求書を無効にすると、関連する総勘定元帳バッチの仕訳も無効にされます。

請求書処理の伝票タイプ

請求書処理を完了すると、システムで次のような元帳仕訳を作成できます。仕訳の出所は、次の伝票タイプで識別できます。

RI - 請求書	請求書の生成時にシステムで割り当てる伝票タイプ。これはハードコードではありません。別の伝票タイプを指定することもできます。
RM - クレジット・メモ	クレジット・メモの作成時にシステムで割り当てる伝票タイプ。
EU - サービス請求収益	関連する元帳仕訳の処理の際に作成される仕訳入力で、請求書情報に関連する収益の配賦や原価の振替に使用されます。
AJ - サービス請求の調整	以前に処理済みの仕訳に対する調整仕訳。収益認識を使用する場合にのみ使用します。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。
BA - 請求調整	一般会計システムからの振替仕訳。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。
T2 - 給与計算の労務費配賦	給与計算システムの労務費からの振替仕訳。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。
T4 - 労務費請求配賦	労務費請求からの振替仕訳。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。
T5 - 設備費配賦	給与計算システムの設備請求からの振替仕訳。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。

請求書の自動生成

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈請求書の生成〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈請求書の生成〉プログラム(R52121)を実行すると、選択したワークテーブル取引が集計され、請求書集計ワークテーブル(F4822)に保管されます。定義した契約請求行を使用して、請求書と支払項目の集計ロジックが制御されます。処理オプション:〈請求書の生成〉プログラム(R52121)で〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)のバージョンを指定し、〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)のバージョンを指定しない場合は、請求書集計ワークテーブル(F4822)を使用して売掛金元帳テーブル(F03B11)に取引が作成されます。

注:

タイム・アンド・マテリアル請求をサポートするワークテーブル取引は、ワークテーブルの生成時に作成されます。相互参照情報を設定している場合は、請求書の自動生成時に、非タイム・アンド・マテリアル請求(一括、単価、出来高、進捗、手数料)をサポートするワークテーブル取引が計算および生成されます。

一括請求行用に定期請求書を定義できます。処理オプションで1~5の定期コードのいずれかを指定し、請求書金額を0に初期化していない場合は、請求書の生成時に定期金額が計算されます。

請求書の生成時には次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)に請求バッチ見出しレコードを作成する。[処理状況]フィールドを1(請求書の生成中)に設定する。
- 処理オプションとデータ選択基準を使用して、タイム・アンド・マテリアル請求行についてF4822 テーブルに選択したワークテーブル取引を集計し、集計レコードを保管する。該当取引が請求書に含まれることを示すように、ワークテーブル取引の請求書情報(バッチ番号、請求書番号、支払項目、伝票タイプ、請求書日付)を更新する。
- ワークテーブル取引を作成して、相互参照情報のある非タイム・アンド・マテリアル請求行をサポートし、請求金額を計算し、F4822 テーブルを更新する。
- 契約から顧客、請求行から元帳クラスをそれぞれ取り込んで請求書に割り当てる。
- 契約マスター(F5201)の請求書バッチ番号を更新する。契約請求は累計されるため、契約を一度に複数の請求書バッチには含められないことに注意してください。
- 処理オプションの設定方法に応じて、〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)を実行して予備的な仕訳を作成するか、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行して最終仕訳を作成する。
- 〈請求書の生成〉プログラム(R52121)が完了すると、F48011 テーブルの請求バッチ見出しをバッチ内の金額と伝票数で更新する。バッチ見出しの[現在の処理状況]フィールドは、このバッチに対してさらに処理を実行できるように0にリセットされます。

注:

〈請求書の生成〉から〈売掛金の作成〉を自動的に実行するためにバージョンを入力した場合、エラーがなければ請求バッチ見出しは削除されるため、このステップは実行されません。

- 処理された契約と処理中に発生したエラーをリストするレポートを作成する。

請求書の生成時には、請求書番号が割り当てられ、活動中のワークテーブル取引が集計され、支払項目が作成されます。支払項目とは、ワークテーブル取引が集計された請求行です。請求書の支払項目が、請求書の請求合計になります。支払項目情報がF4822 テーブルに保管されます。

〈請求書の生成〉プログラムを実行すると、次の情報を表示するレポートが作成されます。

- 契約番号、請求書番号および関連支払項目
- 請求書別合計
- バッチ番号
- 上限金額(NTE)を超過しているかどうか
- 支払後請求規則が満たされているかどうか
- 該当する税情報

技術的考慮事項

一括、単価、手数料、追加料金、間接労務費の請求金額の計算

請求書を自動的に作成する場合は、関連の追加料金や間接労務費など、関連のワークテーブル取引が処理されます。それぞれの請求行の相互参照情報を定義している場合は、一括や単価などの非タイム・アンド・マテリアル請求行について、請求金額と手数料金額が計算されます。

マイルストーン(出来高)または進捗に関する請求金額の計算

契約のマイルストーンを完了した時点で、請求イベントの[実際完了日付]フィールドに日付を入力する必要があります。この時点で、[完了(Y/N)]フィールドがYに更新されます。その後、このマイルストーンについて指定したパーセンテージで請求書を生成できます。

請求書の生成時には、請求書の生成期限が実際完了日付と比較されます。生成日付が完了日付以降であれば、マイルストーン請求行の請求イベントが処理されます。請求処理のこの時点以降は、請求金額を変更できなくなります。

イベントに対する請求書の生成後は、[請求済み]フィールドがYに更新されます。この時点で、請求イベントは保護され、イベント情報は変更できなくなります。

上限金額(NTE)の計算

請求書を自動作成すると、契約の前の請求金額および現在の取引合計が計算され、契約、変更オーダー、請求行が上限金額(NTE)を超過しているかどうか判断されます。上限金額を超えると、請求書の生成レポートにメッセージが示されます。請求行のいずれかのワークテーブル取引により請求書金額が上限金額を超える場合、ワークテーブル取引は請求書に含まれません。

定期請求書

一括請求行用に定期請求書を定義できます。請求書金額を生成すると、次の両方の条件が満たされている場合に定期金額が計算されます。

- 処理オプションで1~5の定期コードのいずれかを指定している場合
- 請求金額を0に初期化していない場合

支払後請求

[支払後請求]フィールドが1(支払済み項目のみ請求対象)になっている請求行に添付されたタイム・アンド・マテリアル取引は、ワークテーブル・レコードに関連付けられた伝票が支払済みの場合にのみ請求書に含まれます。関連の伝票が支払われていないタイム・アンド・マテリアル取引は、エラー・レポートにリストされます。

注:

請求行に定義された支払後請求規則は、タイム・アンド・マテリアルのワークテーブル取引により一時変更されることがあります。

はじめる前に

- 請求固定情報を定義します。
- 契約、請求行、および相互参照情報を定義します。
- タイム・アンド・マテリアル請求用のワークテーブル取引を生成します。
- 請求書の生成中に請求書を印刷したり仕訳を作成する場合は、バージョンを修正します。

参照

- 請求書の生成時の請求書印刷については、『契約請求』ガイドの「請求書の自動印刷」
- 請求書印刷用のフォーマット作成については、『契約請求』ガイドの「請求書フォーマットの設定」

処理オプション: 請求書の生成(R52121)

選択タブ

この処理オプションにより、請求書の生成のための請求明細取引を選択する際に使用する、請求日付および定期請求コードを指定します。

1. 請求期間開始日

blank = 期間開始日

請求書の作成に使用する請求開始日付を入力します。

この日付を使用して請求明細取引が選択されます。この日付をblankにすると、テーブルの基準日付が請求終了日付よりも前の請求明細取引がすべて選択されます。

2. 請求期間終了日

blank = システム日付

請求書の作成に使用する請求終了日付を入力します。この日付を使用して請求明細取引が選択されます。この日付をblankにするとテーブルの基準日付がシステム日付以降の請求明細取引がすべて選択されます。

3. 一括定期請求コード 1

請求書の作成に使用する定期請求コードを選択します。

有効な値は、ユーザー定義コードテーブル(52/RB)で定義されています。

4. 一括定期請求コード 2

請求書の作成に使用する定期請求コードを選択します。

有効な値は、ユーザー定義コードテーブル(52/RB)で定義されています。

5. 一括定期請求コード 3

請求書の作成に使用する定期請求コードを選択します。

有効な値は、ユーザー定義コードテーブル(52/RB)で定義されています。

6. 一括定期請求コード 4

請求書の作成に使用する定期請求コードを選択します。

有効な値は、ユーザー定義コードテーブル(52/RB)で定義されています。

7. 一括定期請求コード 5

請求書の作成に使用する定期請求コードを選択します。

有効な値は、ユーザー定義コードテーブル(52/RB)で定義されています。

デフォルト・タブ

この処理オプションにより、生成する請求書のデフォルトの元帳日付、請求書日付、伝票タイプを指定します。

1. 元帳日付

blank = システム日付

請求書の作成時に使用する元帳日付を入力します。この日付は、請求書の作成中に割り当てられ、請求書を元帳ファイルに転記する時に使用されます。blankにすると、システム日付が使用されます。

この日付は、会社固定情報の現行会計期間と照合されます。

2. アプリケーション／請求書日付

blank = システム日付

請求書の作成に使用する請求書日付を入力します。

この日付は、請求書の作成中に割り当てられます。blankにすると、システム日付が使用されます。この日付は、元帳日付と照合されます。請求書日付が元帳日付よりも後の場合、警告メッセージが表示されます。

3. 請求書伝票タイプ

blank = システム固定情報

請求書の作成時に使用するデフォルトの伝票タイプを定義します。

伝票タイプを入力するか、〈ユーザー定義コードの選択〉フォームから選択してください。blankにすると、請求固定情報ユーザー定義コード(00/DI)のデフォルト伝票タイプが使用されます。

処理タブ

この処理オプションにより、仕訳を作成するかどうかなど、請求書の計算方法および処理方法を指定します。

1. ゼロ請求書の処理

blank = 金額ゼロの請求書は処理しない

1 = 金額ゼロの請求書を許可

2 = ゼロで初期化

請求書をいつ作成するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 請求活動を伴う場合にのみ請求書を作成する。この値を選択すると、金額がゼロの請求書は作成されません。

1 請求活動に関係なく請求書を作成する。この値を選択すると、金額がゼロの請求書も作成されます。

2 請求処理に関係なく、金額をすべてゼロにして請求書を作成する。

2. 一括支払額の計算方法

blank = 最高金額

1 = 完了パーセント方法

2 = 原価パーセント方法

3 = 定義した元帳タイプ

9 = 最低金額

一括請求行の計算方法を指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank 値が一番大きくなる計算方式を使用する(デフォルト)

1 完了率方式を使用する: $\text{実績原価} \div \text{見積最終原価} \times \text{スケジュール値} - \text{前回請求額}$

2 原価割増し率方式を使用する:

$(\text{スケジュール値} - \text{見積最終原価}) \div \text{見積最終原価} \times \text{当期実績原価} - \text{当期前回請求額}$

3 指定された元帳の方式を使用する: 指定元帳の完了率 \times スケジュール値 $-$ 前回請求額
この方式では、最初に参照された勘定科目のみが使用されます。

勘定科目にワイルドカードが使用されている場合は、計算は行われません。元帳を入力しない場合は、F%元帳が使用されます。

9 値が一番小さくなる計算方式を使用する

3. 一括支払元帳タイプ

blank = F%

指定された元帳方式を使用して一括請求行を計算する場合の元帳タイプを指定します。
ブランクにすると元帳タイプ F%が使用されます。

有効な値は、ユーザー定義コードテーブル(09/LT)で定義されています。

4. 仕訳作成 (R48131)

または

仕訳をテストモードで作成するかどうかを指定します。実行する〈請求書仕訳の作成〉プログラム (R48131)のバージョンを入力してください。ブランクにすると、〈請求書仕訳の作成〉プログラムは実行されません。注:このフィールドにバージョンを入力した場合、〈売掛金仕訳の作成〉用に入力されたバージョンは無視されます。

5. 売掛仕訳の作成 (R48199)

仕訳を最終モードで作成するかどうかを指定します。実行する〈売掛金仕訳の作成〉プログラム (R48199)のバージョンを入力してください。ブランクにすると、〈売掛金仕訳の作成〉プログラムは実行されません。注:〈請求書仕訳の作成〉プログラム用にバージョンを入力した場合、このフィールドに入力されたバージョンは無視されます。

印刷タブ

請求書を印刷するかどうかを指定します。

1. 請求書印刷バージョン (R48504)

請求書を印刷するかどうかを指定します。

〈請求書印刷〉プログラム(R48504)のバージョンを入力してください。ブランクにすると、請求書の作成中に請求書は印刷されません。

一時変更タブ

この処理オプションにより、生成する請求書の税域や税目コード、支払条件コードを一時変更できます。

1. 税率／税域

ブランク = 請求行の値

作成する請求書の税目コードを一時変更します。請求書に設定する税目コードを入力してください

い。blankにすると、税目コードは一時変更されません。注: 税目コードを一時変更する場合は税率／税域に対して有効な税目コードを指定する必要があります。

契約請求システムで有効な税目コードは C、E、S、V および V+のみです。

2. 税目コード

blank = 請求行の値

作成する請求書の税率／税域を一時変更します。請求書の作成中に使用する有効な税率／税域を入力してください。

blankにすると、税率／税域は一時変更されません。

注: このフィールドに値を入力した場合、税目コードに対して有効な一時変更コードを指定する必要があります。

3. 支払条件コード

blank = 契約値

作成する請求書の支払条件コードを一時変更します。請求書の作成中に使用する有効な支払条件コードを入力してください。blankにすると、支払条件コードは一時変更されません。

通貨タブ

この処理オプションにより、為替レートを取り込む日付を指定します。

1. 為替レート基準日

1 = 申込み/請求書日付

2 = 元帳日付

請求書で使用する為替レートの取得に使用する日付を指定します。

有効な値は次のとおりです。

1 請求書日付を使用する(デフォルト)

2 元帳日付を使用する

請求書バッチの処理

バッチとは、システムにより1単位として処理され、残高が調整される取引のグループです。サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)は、バッチ情報を保管します。

〈バッチの検討〉プログラム(P48221)を使用して取引バッチを選択し、請求処理の準備を行います。たとえば、プロジェクト管理者による検討用に請求書を印刷すると、〈バッチの検討〉プログラムを使用して請求書に訂正を加えることができます。

バッチの処理は、F48011 テーブルの[現在の処理状況]フィールドの値を使用して制御されます。[現在の処理状況]フィールドは、バッチの処理時に更新されます。たとえば、バッチを選択して〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行するとします。[現在の処理状況]フィールドは3(仕訳の生成中)に更新されます。[現在の処理状況]フィールドが3(仕訳生成中)のときは、他のユーザーはその取引にアクセスできません。〈仕訳編集レジスタ〉プログラムが完了するとこの値は0(処理可能)にリセットされます。この時点で、バッチを次の処理に進めることができます。

次の場合には、現在の処理状況を手作業でリセットする必要があります。

- バッチ処理が正常に完了しなかった場合。この場合、現在の処理状況はリセットされません。
- バッチを処理対象として選択した後で、〈レポート出力先〉フォームでバッチ処理を取り消した。

場合によっては、バッチの現在の処理状況を改訂することが必要な場合があります。たとえば、この操作が必要になるのは、〈請求書の生成〉プログラム(R48121)が停電のために正常終了しなかった場合などです。この場合、[処理状況]フィールドの値が処理中になり、バッチにアクセスできなくなるため、次の処理を進められなくなります。

参照

- バッチ見出しレコードの処理状況をリセットする方法については、『契約請求』ガイドの「請求書バッチ見出し情報の改訂」を参照してください。

請求書情報の検討

請求書の生成時に、請求書取引のバッチが作成されます。また、請求明細ワークテーブル(F4812)の取引が次の情報を伴って更新されます。

- バッチ番号
- 請求書番号
- 支払項目番号
- 請求書日付

請求書情報は、次のレベルで検討できます。

- バッチ状況記述や現行活動などのバッチ情報
- 選択したバッチの請求書
- 選択した請求書の支払項目
- 間接労務費や追加料金など、選択した支払項目に関する個々のワークテーブル取引

さまざまなレベルで請求書を検討して、必要に応じて情報を改訂できます。たとえば、請求金額を減らしたり、請求書に取引を追加できます。

▶ 請求書情報を検討するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、値のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- バッチ No./タイプ

バッチはバッチ番号の昇順で表示されます。

2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。

PeopleSoft

請求書の処理

選択 検索 削除 開く フォーム ロー ツール

バッチ No. 5984 新しいバッチNo.

バッチ日付 02/04/03

	契約 No.	契約 タイプ	請求 No.	伝票 タイプ	顧客	顧客 名称	元帳日付	総合計	基本 通貨	外貨	請求 通貨	限界
<input type="checkbox"/>	5351	R2	3073	RI	3334	Lewis Enterprises	05/06/30	25,020.31	USD		USD	
<input type="checkbox"/>	Σ				合計			25,020.31				

3. 〈請求書の処理〉で、詳細域の情報を検討します。

4. 個々の請求書の明細を検討するには、その請求書を選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

契約請求行照会

選択 検索 開く フォーム ロー ツール

契約No. 5351 R2 Baseball Ballpark Build パッチNo. 5984
 顧客 3334 Lewis Enterprises 請求書No. 3073
 送付先住所
 請求日付 05/07/11 開始 05/06/01
 請求書修正 1 終了 05/06/30
 元帳日付 05/06/30

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	請求行	請求行記述	変更No.	数量	計量単位	価格タイプ	基本通貨	予定金額	現行正味額
<input type="checkbox"/>	134X	Labor	000			T	USD		7,569.00
<input type="checkbox"/>	1350-GENERAL	Materials	000			T	USD		
<input type="checkbox"/>	1350-SEATING	Seating	000	11.00	PC	U	USD	2,000,000.00	5,500.00
<input type="checkbox"/>	1355	Equipment	000			T	USD		
<input type="checkbox"/>	1360	Subcontract	000			L	USD	2,500,000.00	
<input type="checkbox"/>	ADMIN	Administrative	000			F	USD		1,135.35
<input type="checkbox"/>	001	Draw	000			D	USD	25,000.00-	2,300.00-
<input type="checkbox"/>	002	Progress	000			P	USD	100,000.00	10,000.00
<input type="checkbox"/>	003	Rated Draw	000			R	USD	1,000.00-	100.00-
<input type="checkbox"/>	004	Milestone	000			M	USD	92,000.00	2,300.00

5. 〈契約請求行の照会〉で、詳細域の情報を検討します。
6. 特定の支払項目に対応するワークテーブル取引を検討するには、タイム・アンド・マテリアル請求行を選択し、[ロー]メニューから[請求書詳細]を選択します。

PeopleSoft®

請求書明細の改訂

選択 検索 追加 開く フォーム ロー ツール

タブを選択: 請求書

顧客 150 会社 00050
 請求書パッチNo. 5455 請求書No. 3044 支払項目 001

グリッドのカスタマイズ

	取引分類	伝票タイプ	元帳日付	追加料金	間接	取量	保留コード	顧客	契約書No.	契約タイプ	契約会社	変更No.	請求行	取量	パッチNo.	ビジネスユニット
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/06/30					150								
<input type="checkbox"/>	1	T2	05/06/30					150								

7. 〈請求書明細の改訂〉で、ワークテーブル取引を検討します。
8. [閉じる]をクリックして〈契約請求行の照会〉に戻ります。
9. この契約請求行について集計された請求書情報を検討するには、特定の請求行を選択して[選択]をクリックします。

選択する契約請求行のタイプに応じて、該当する改訂フォームが表示されます。

PeopleSoft

タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

請求書No. 3073 RI 修正No. 1 外貨 USD

契約 No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build 為替レート

変更No. 000 Original 元帳クラス

請求行 134X Labor

予定値 未完了残高 7,569.00

金額 留保額 割引/摘要 給与計算

	現期間	前期間	累計	税率/税域	税目コード
原価	7,569.00		7,569.00	30	S
割増し					
小計	7,569.00		7,569.00		
税額	287.62		287.62		
請求合計	7,856.62		7,856.62		

タイム・アンド・マテリアル請求行を選択した場合は、〈タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂〉フォームが表示されます。

10. 次の情報を検討し、必要に応じて改訂してください。

[金額]タブ:

- 税率/税域
- 税目コード

[留保額]タブ:

- 現期間の留保金
- 現期間の留保%
- 累計
- 累計%

[割引/摘要]タブ:

- 備考

注:

他の請求行が依存しているタイム・アンド・マテリアル請求行を変更した場合は、手数料、前渡金、および留保金を再計算する必要性が警告表示されます。

PeopleSoft
単価請求行の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

請求書No. 3073 RI 請求書修正 1 外貨 USD
契約 No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build 為替レート
変更No. 000 Original 元帳クラス
請求行 1350-SEATING Seating
予定値/予定額 4,000.00 500.0000 2,000,000.00 未完了残高 1,994,500.00

	金額	%	留保額	総要
数量	11.00			計量単位 PC
単価	500.0000			税率/税域 CO
小計	5,500.00			税目コード S
税額	209.00			
請求合計	5,709.00			

11. 単価請求行を選択した場合は、〈単価請求行の改訂〉フォームが表示されます。次の情報を改訂できます。

[金額]タブ:

- 現期間の数量
- 現期間の単価
- 現期間の小計
- 累計の数量
- 累計の小計
- 税率/税域
- 税目コード

[%]タブ:

- 現期間の数量
- 現期間の小計

- 累計の数量
- 累計の小計

[留保額]タブ:

- 現期間の留保額
- 現期間の留保%
- 累計
- 累計%

[摘要]タブ:

- 割引可能額
- 備考

単価請求行に加えた変更によって請求金額が上限を超える場合、エラー・メッセージが表示されます。上限規則が収益のみに設定されている場合は、収益が上限を超過した段階で〈契約請求行の照会〉フォームの[上限超過]フィールドに0が表示されます。

PeopleSoft
一括請求行の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

請求書No. 3073 RI 契約請求書No. 1 外貨 USD
 契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build 為替レート
 変更オーダー 000 Original 元帳クラス
 請求行 1360 Subcontract
 予定値 2,500,000.00 未完了残高 2,500,000.00

	現期間	前期間	累計	税率/税域	税目
正味金額				CO	
保管資材					S
小計					
税額					
請求合計					

- 一括請求行を選択した場合は、〈一括請求行の改訂〉フォームが表示されます。次の情報を改訂できます。

[金額]タブ:

- 現行期間の正味金額
- 現行期間の保管資材

- 累計の正味金額
- 累計の保管資材
- 税率/税域
- 税目コード

[％]タブ:

- 現行期間の正味
- 現行期間の保管資材
- 累計の正味
- 累計の保管資材

[留保額]タブ:

- 現期間の留保
- 現期間の留保％
- 累計
- 累計％

[摘要]タブ:

- 割引可能額
- 備考

一括請求行に加えた変更によって請求金額が上限を超える場合、エラー・メッセージが表示されます。上限規則が収益のみに設定されている場合は、収益が上限を超過した段階で〈契約請求行の照会〉フォームの[上限超過]フィールドに 0 が表示されます。

PeopleSoft®

手数料行の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

請求書番号 3073 RI 修正No. 1 外貨 USD

契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build 為替レート

変更No. 000 Original 元帳クラス

請求行 ADMIN Administrative

予定値 未請求残高 1,135.35-

金額 % 留保 摘要

	現期間	前期間	累計	税率/税域	税目コード
小計	1,135.35		1,135.35	00	
税額	43.14		43.14		S
請求合計	1,178.49		1,178.49		

13. 手数料請求行を選択した場合は、〈手数料行の改訂〉フォームが表示されます。次の情報を改訂できます。

[金額]タブ:

- 現期間の小計
- 累計の小計
- 税率/税域
- 税目コード

[留保額]タブ:

- 現期間
- %
- 累計
- 累計%

[摘要]タブ:

- 割引可能額
- 備考

PeopleSoft®

マイルストーン詳細の改訂

OK キャンセル フォーム ロー ツール

請求書No. 3073 RI 修正No. 1 外貨 USD
 契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build 為替レート
 変更オーダーNo. 000 Original 元帳クラス
 請求行 004 Milestone
 予定値 92,000.00 残高 89,700.00

金額 税 留保額 備考/摘要

	現期間	前期間	累計	税率/税域	税目コード
小計	2,300.00		2,300.00	00	
税額	87.40		87.40		S
請求合計	2,387.40		2,387.40		

グリッドのカスタマイズ

イベント名	記述	2次記述	予定値 %	国内金額	通貨コード
1	Contract Work - Mobilization		2.5000	2,300.00	USD

14. マイルストーン請求行を選択した場合は、〈進捗詳細の改訂〉フォームが表示されます。次の情報を改訂できます。

[金額]タブ:

- 税率/税域
- 税目コード

[留保額]タブ:

- 現期間
- %
- 累計
- 累計%

[摘要]タブ:

- 備考

PeopleSoft®

進捗詳細の改訂

OK キャンセル フォーム ロー ツール

請求書No. 3073 RI 修正No. 1 外貨 USD
 契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build 為替レート
 変更オーダーNo. 000 Original 元帳クラス
 請求行 002 Progress
 予定値 100,000.00 残高 90,000.00

金額 留保額 留保/摘要

	現期間	前期間	累計	税率/税域	税目コード
小計	10,000.00		10,000.00	00	
税額	380.00		380.00		S
請求合計	10,380.00		10,380.00		

グリッドのカスタマイズ

イベント名	記述	2次記述	予定値 %	国内金額	通貨コード
First		Mobilization	10.0000	10,000.00	USD

15. 進捗請求行を選択した場合は、〈進捗詳細の改訂〉フォームが表示されます。次の情報を改訂できます。

[金額]タブ:

- 税率/税域
- 税目コード

[留保額]タブ:

- 現期間
- %
- 累計
- 累計%

[摘要]タブ:

- 備考

PeopleSoft®

直接建設ローン行の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

請求書番号	3073	R1	修正No.	1	外貨	USD
契約No.	5351	R2	00050	Baseball Ballpark Build	為替レート	
変更No.	000		Original		元帳クラス	
請求行	001		Draw			
予定値	25,000.00-		未請求残高	22,700.00-		

金額	税	摘要	備考
小計	2,300.00-		2,300.00-
税額	87.40-		87.40-
請求合計	2,387.40-		2,387.40-

税率/税域: 3.0

税目コード: S

16. 前渡金の直接相殺請求行を選択した場合は、〈前渡金の直接相殺行の改訂〉フォームが表示されます。次の情報を改訂できます。

[金額]タブ:

- 税率/税域
- 税目コード

[摘要]タブ:

- 備考

PeopleSoft®

レート 建設ローン行の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

請求書番号	3073	R1	修正No.	1	外貨	USD
契約No.	5351	R2	00050	Baseball Ballpark Build	為替レート	
変更No.	000		Original		元帳クラス	
請求行	003		Rated Draw			
予定値	1,000.00-		未請求残高	900.00-		

金額	税	留保	備考
小計	100.00-		100.00- 税率/税域
税額	3.80-		3.80- 税目コード
請求合計	103.80-		103.80-

17. 前渡金の按分相殺請求行を選択した場合は、〈レート建設ローン行の改訂〉フォームが表示されます。次の情報を改訂できます。

[金額]タブ:

- 税率/税域
- 税目コード

[摘要]タブ:

- 備考

18. [キャンセル]をクリックして〈契約請求行の照会〉に戻ります。

19. [閉じる]をクリックして〈請求書の処理〉に戻ります。

参照

- 支払項目からのワークテーブル取引の削除については、『契約請求』ガイドの「請求書情報の削除」
- 支払項目へのワークテーブル取引の追加およびアドホック取引の作成については、『契約請求』ガイドの「請求書情報の手動作成」

処理オプション: バッチの検討(P48221)

デフォルト・タブ

デフォルト表示するバッチ・タイプと生成タイプを指定します。

1. 請求書処理のバッチ・タイプ

blank = 契約請求に 4 を使用

3 = サービス請求

注: 契約請求では、バッチ・タイプは常に 3 です。

請求バッチがサービス請求システムまたは契約請求システムのいずれのものを指定します。
有効な値は次のとおりです。

3 サービス請求

4 契約請求

契約請求の収益処理のバッチ・タイプは常に 3 です。

2. 作成タイプ

blank = 請求書処理に 1 を使用

2 = 収益処理

3 = 伝票処理

〈バッチの処理〉フォームのフォーム・エグジットから新しくバッチを作成する際に割り当てるデフォルトの生成タイプを指定します。生成タイプは、そのバッチに含まれる伝票タイプを制御します。
有効な値はユーザー定義コード 48/GT)に定義されています。

blank = 請求書処理

バージョン・タブ

〈バッチの検討〉プログラム(P48221)から実行可能な各プログラムのバージョンを指定します。

1. 請求書印刷 - R48504 (XJDE0001)

〈請求書印刷〉プログラムで使用するバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

2. 仕訳作成 - R48131 (XJDE0001)

〈仕訳生成〉プログラムのバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

3. 仕訳編集レジスタ – R48300 (XJDE0001)

〈仕訳編集レジスタ〉プログラムのバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

4. 売掛仕訳の作成 – R48199 (XJDE0001)

〈売掛金仕訳の生成〉のバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

5. 振替仕訳の作成 – R48198 (XJDE0001)

〈元帳仕訳の生成〉に使用するバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

6. 買掛仕訳の作成 – R48197 (XJDE0001)

〈買掛金仕訳の作成〉のバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

処理タブ

削除した請求書の情報を削除済み請求書監査テーブル(F48229)に保存するかどうかを指定します。

1. 請求書の削除 – 監査証跡オプション

blank = 更新なし

1 = 更新なし

削除した請求書の情報を、削除済み請求書監査証跡テーブル(F48229)に保存するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 保存しない

1 = 保存する

請求書バッチ見出し情報の改訂

請求書バッチのバッチ状況や現行活動を改訂するには、請求書バッチの見出し情報を改訂します。たとえば、この操作が必要になるのは、〈請求書の生成〉プログラム(R48121)が停電のために正常終了しなかった場合などです。この場合、[処理状況]フィールドの値が処理中になり、バッチにアクセスできなくなるため、次の処理を進められなくなります。処理状況が 0 であれば、請求書バッチにアクセスして処理を進めることができます。

▶ 請求書バッチ見出し情報を改訂するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 個々の請求書バッチ見出しを検討するには、検討または改訂するバッチを選択し、[ロー]メニューから[バッチ見出し]を選択します。
3. 〈バッチ見出しの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- バッチ状況
- 現在の処理状況

フィールド記述

記述	用語解説
バッチ状況	<p>サービス請求システム/契約請求システムでの制御機能。さまざまな作業を実行する前に次の値が検証されて、適切な順序で処理が行われることようにします。有効なコード値は次のとおりです。</p> <p>ブランク = 請求書はまだ作成されていません。</p> <p>0 = 契約請求での調整入力</p> <p>1 = 請求書がエラーなしで作成されました。</p> <p>2 = 請求書が作成されましたが、エラーが発生しました。</p> <p>3 = 収益仕訳がエラーなしで作成されました。</p> <p>4 = 収益仕訳が作成されましたが、エラーが発生しました。</p> <p>5 = 請求書仕訳がエラーなしで作成されました。</p> <p>6 = 請求書仕訳が作成されましたが、エラーが発生しました。</p> <p>7 = バッチが変更されました。仕訳を再度転記してください。</p> <p>8 = 活動中の収益バッチが見つかりました。</p> <p>バッチ状況の記述はユーザー定義コード(48/BS)を参照してください。</p>
現在の処理状況	<p>現在アクティブである処理サイクルステップを識別します。このフィールドはサービス請求/契約請求システム全体を通じてバッチメンバの整合性を維持します。バッチ改訂フォームでは、選択したバッチが特定機能に適しているかどうかをチェックするのにこのフィールドを使用しています。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 = 使用可能</p> <p>1 = 生成中</p> <p>2 = メンテナンス処理中</p> <p>3 = 仕訳作成処理中</p> <p>4 = バッチ削除処理中</p> <p>5 = 請求書印刷処理中</p> <p>6 = バッチ転記</p> <p>7 = 選択処理中</p> <p>* = すべてのバッチを表示する (WorldSoftware のみ)</p>

請求書情報の削除

請求書情報を検討するときに、請求書情報の削除が必要になる場合があります。請求書の情報は、バッチ、請求書、ワークテーブル取引のいずれのレベルでも削除できます。たとえば、請求書の生成中に間違った伝票タイプを割り当てた場合は、請求書バッチ全体を削除する必要があります。また、特定の請求書の支払項目からワークテーブル取引を削除する場合があります。

請求書バッチを削除すると、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)から制御レコードを削除する。
- 請求書集計ワークテーブル(F4822)から請求書バッチの取引を削除する。
- タイム・アンド・マテリアル支払項目の請求明細ワークテーブル(F4812)で取引から請求書情報を削除し、非タイム・アンド・マテリアル支払項目のワークテーブル取引を削除する。
- 契約マスター(F5201)とマイルストーン/進捗請求行明細テーブル(F5216)から請求書バッチ番号を削除する。
- 請求書仕訳が作成されている場合は、この請求書バッチに関する仕訳を請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)と集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)から削除する。

請求書バッチから請求書を削除すると、次の処理が実行されます。

- F48011 テーブルに保管されているバッチ総額が、請求書の総額だけ差し引かれる。
- 請求書の F4822 テーブル取引を削除する。
- タイム・アンド・マテリアル支払項目に関する F4812 テーブル取引から請求書情報が削除される。非タイム・アンド・マテリアル支払項目に関するワークテーブル取引が削除される。
- 契約マスター(F5201)と F5216 テーブルから請求書バッチ番号が削除される。
- 請求書仕訳が作成された場合は、F48011 テーブル・レコードのバッチ状況がリセットされる。このバッチ状況により、請求書仕訳が再実行されます。
- バッチ内の最後の請求書を削除した場合は、F48011 テーブル・レコードが削除される。

参照

- 請求書金額の増額については、『契約請求』ガイドの「請求書への取引の追加」

タイム・アンド・マテリアル請求書の支払項目からのワークテーブル取引の削除

タイム・アンド・マテリアル請求書の支払項目に添付されているワークテーブル取引を削除すると、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)レコードに保管されているバッチ総額が、請求明細ワークテーブル取引の総額だけ差し引かれる。
- その支払項目の請求書集計ワークテーブル(F4822)取引に保管されている請求金額が、請求明細ワークテーブル(F4812)取引の総額だけ差し引かれる。
- F4812 テーブル取引から請求書情報が削除される。
- 請求書仕訳が作成された場合は、F48011 テーブル・レコードのバッチ状況がリセットされる。このバッチ状況により、請求書仕訳が再実行されます。

- タイム・アンド・マテリアル支払項目のすべてのワークテーブル取引を削除した場合、支払項目は削除されない。代わりに、請求書金額がゼロにリセットされます。

▶ **タイム・アンド・マテリアル請求書の支払項目からワークテーブル取引を削除するには**

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉でバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書のワークテーブル取引を削除するには、そのバッチを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、請求書を選んで[選択]をクリックし、個々の請求書の支払項目を検討します。
4. 〈契約請求行の照会〉で、支払項目を選んで[ロー]メニューから[請求書詳細]を選択し、特定のタイム・アンド・マテリアル支払項目のワークテーブル取引を検討します。

PeopleSoft. 請求書明細の改訂

選択 検索 追加 開じる フォーム ロー ツール

タブを選択: 請求書

顧客: 150 会社: 00050

請求書バッチNo.: 6455 請求書No.: 3044 支払項目: 001

	取引 分類	伝票 タイプ	元帳日付	追加 料金	間接 収益	保留 コード	顧客	契約書 No.	契約 タイプ	契約 会社	変更 No.	請求行	取替 バッチNo.	ビジネス ユニット
<input checked="" type="checkbox"/>	1	T2	05/06/30				150							
<input checked="" type="checkbox"/>	1	T2	05/06/30				150							

5. 〈請求書明細の改訂〉で、削除するワークテーブル取引を選んで、[ロー]メニューから[請求書から削除]を選択します。
6. [閉じる]をクリックして〈契約請求行の照会〉に戻ります。

注:

他の請求行が依存しているタイム・アンド・マテリアル請求行からワークテーブル取引を削除した場合は、手数料、前渡金、および留保金を再計算する必要性が警告表示されます。

請求書の新しいバッチへの移動

バッチ内で特定の請求書が承認されない場合があります。バッチ内のすべての請求書が承認されるまで待つと、請求書バッチの処理を遅らせることがあります。承認された請求書だけを転記するには、未承認の請求書をバッチから新しいバッチに移動します。

請求書を新しいバッチに移動すると、サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)に新しいバッチ・レコードが作成され、金額、伝票数、当初バッチの状況、新しいバッチの状況が更新されます。

▶ 請求書を新しいバッチへ移動するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックして、移動する請求書を含むバッチを検索します。
2. バッチを選んで[選択]をクリックします。

請求 No.	伝票タイプ	顧客	顧客名称	元帳日付	総合計	基本通貨	外貨
3044 RI		150	Property Management Comp	05/06/30	4,748.84	USD	
3045 RI		150	Property Management Comp	05/06/30	20,216.88	USD	
Σ			合計		24,965.72		

3. 〈請求書の処理〉で、移動する請求書を含むバッチを選び、[ロー]メニューから[請求書から移動]を選択します。

移動された請求書は消え、残った請求書だけがバッチ内に表示されます。見出し域の[新しいバッチ No.]フィールドには、移動された請求書を含む新しいバッチ番号が表示されます。

請求書情報の手動作成

請求書は、〈請求書の生成〉プログラム(R52121)を実行せずに、手作業で生成できます。これにより、次のことができます。

- 新規バッチ見出しを作成、または既存バッチに請求書を追加する。
- バッチに含める新しい請求書を作成する。
- バッチ内に個々の請求書にタイム・アンド・マテリアルのワークテーブル取引を追加する。

たとえば、既存のバッチに、既に検討と改訂を完了した請求書が含まれているとします。バッチ全体を削除して再生成しなくても、バッチに別の請求書を手作業で追加できます。

請求済み請求書の改訂が必要な場合があります。たとえば、請求書が現金で支払われた後に請求済み請求書の改訂が必要な場合があります。入金または請求書を無効にするのではなく、前の契約請求書に対する調整を作成できます。この処理を行うには、調整が必要な請求書の契約請求書番号を〈手作業による請求書の作成〉フォームの[契約請求書番号]フィールドに入力します。調整番号が自動的に割り当てられ、調整された契約請求書の新規請求書番号が作成されます。

注:

請求書情報を手作業で作成すると、事前に定義した請求行を使用して請求書の支払項目構造が制御されます。請求書バッチを手作業で作成する場合、〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)または〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を自動的に実行することはできません。この2つの処理は〈バッチの検討〉プログラム(P48221)から呼び出す必要があります。

▶ バッチ見出しを手動で作成するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈バッチの処理〉で、[フォーム]メニューから[バッチ作成]を選択します。

空のバッチ見出しが作成されます。

▶ 請求書を手動作成するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、特定バッチの請求書を手作業で作成するには、該当するバッチを選択して[選択]をクリックします。
2. 〈請求書の処理〉で、[フォーム]メニューから[請求書の作成]を選択します。

PeopleSoft®

請求書の作成

キャンセル 投入 フォーム ツール

契約タイプ/会社	<input type="text"/>	R2	<input type="text"/>
契約請求書#	<input type="text"/>	調整 No.	<input type="text"/>

日付

請求開始日付	<input type="text"/>	元帳日付	03/10/07
請求終了日付	03/10/07	請求書日付	03/10/07

一括定期処理

請求コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
-------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

一時変更オプション

請求書タイプ	RI		
税域/税目	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
支払条件	<input type="text"/>		

計算

金額ゼロ請求書の処理	<input type="text"/>
一括行計算方法/元帳タイプ	<input type="text"/>
為替レート基準日付	1

3. 〈請求書の作成〉で、次のフィールドに情報を入力します。
 - 契約/タイプ/会社
4. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
 - 契約請求書#
[契約請求書番号]フィールドをブランクにすると、次の連続番号が割り当てられます。
 - 調整 No.
 - 請求開始日付
 - 請求終了日付
 - 元帳日付
 - 請求書日付
 - 請求コード
5. 請求固定情報、契約マスターおよび処理オプションからの情報を一時変更するには、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。
 - 請求書タイプ
 - 税域/税目
 - 支払条件

- 金額ゼロ請求書の処理
 - 一括行計算方法/元帳タイプ
 - 為替レート基準日付
6. [投入]をクリックします。
 7. 〈請求書の生成〉で[OK]をクリックします。
新規の請求書が〈請求書の処理〉フォームに表示されます。
 8. 請求書を選び、[選択]をクリックして支払項目を改訂します。

タイム・アンド・マテリアル請求書へのワークテーブル取引の追加

請求書集計ワークテーブル(F4822)には、会計処理サイクル中に入力したすべての請求可能金額が含まれていない場合があります。この問題に対処するには、次の操作が必要です。

- 現在、請求書バッチに含まれていない請求明細ワークテーブル(F4812)内で、既存のタイム・アンド・マテリアル取引を検討する。
- ワークテーブルに存在するタイム・アンド・マテリアル取引を請求書にマージする。
- 必要場合は、取引明細テーブル(F0911)にあり、請求ワークテーブルにないタイム・アンド・マテリアル原価を手作業で追加する。
- 必要場合は、アドホック原価またはクレジットを請求書に手作業で追加します。

タイム・アンド・マテリアルのワークテーブル取引を請求書の既存の支払項目に追加できます。

必要に応じて請求書に取引を追加することもできます。たとえば、取引明細テーブル(F0911)に表示されないサービスについて、請求書にワークテーブル取引を追加する場合があります。

注意:

ワークテーブルにワークテーブル取引を直接追加し、通常の会計サイクルを通じて元の請求可能ソース取引を処理してからワークテーブル生成を実行すると、重複するワークテーブル取引が作成されます。

▶ タイム・アンド・マテリアル請求書の支払項目についてワークテーブルからワークテーブル取引を追加するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉でバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
4. 〈契約請求行の照会〉で、ワークテーブル取引に添付するタイム・アンド・マテリアル請求行を選び、[ロー]メニューから[ワークテーブル選択]を選択します。

PeopleSoft®

請求明細取引の選択

選択 検索 閉じる フォーム ロー ツール

タブを選択: 請求書

顧客 3334

請求書バッチNo. 5984 請求書No. 3073 支払項目 001

レコードが取り込まれていません

グリッドのカスタマイズ

取引 分類	伝票 タイプ	元帳日付	追加 料金	間接 収益	保留 コード	顧客	契約書 No.	契約 タイプ	契約 会社	変更 No.	請求行	収益 バッチNo.	ビジネス ユニット
----------	-----------	------	----------	----------	-----------	----	------------	-----------	----------	-----------	-----	--------------	--------------

5. 〈請求明細取引の選択〉で、ワークテーブル取引を選択します(複数可)。
6. [ロー]メニューから[請求書のマージ/更新]を選択します。
ワークテーブル取引情報が請求書支払項目にマージされます。

注:

上限規則を使用していて、請求書の支払項目にマージしようとする取引によって請求金額が上限金額を超える場合、エラー・メッセージが表示されてワークテーブル取引はマージされません。

さらに、〈契約請求行詳細の改訂〉フォームの[支払後請求]フィールドが1(支払済み項目のみ請求)の取引は、ワークテーブル・レコードに関連する伝票が支払済みの場合にのみ、請求書にマージされます。支払われていない伝票を選択すると、「支払後請求の条件が満たされていません」という内容のエラーが表示されます。

7. [閉じる]をクリックして〈契約請求行の照会〉に戻ります。

注:

他の請求行が依存しているタイム・アンド・マテリアル請求行にワークテーブル取引を追加した場合は、手数料、前渡金、および留保金を再計算する必要性が警告表示されます。

8. 請求書の支払項目にマージしたワークテーブル取引を検討するには、請求書支払項目を選んで[ロー]メニューから[請求書詳細]を選択します。

▶ タイム・アンド・マテリアル請求書の支払項目に既存の元帳取引を追加するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉でバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
4. 〈契約請求行の照会〉で、ワークテーブル取引を添付する支払項目を選び、[ロー]メニューから[ワークテーブル選択]を選択します。
5. 〈請求取引の選択〉で、[フォーム]メニューから[元帳取引選択]を選択します。

PeopleSoft®

会計取引の選択

検索 閉じる ロー ツール

取引の選択

勘定科目 No. 6100 開始元帳日付 05/06/01

補助元帳タイプ 終了元帳日付 05/06/30

給与計算設備レコード用所属ビジネスユニット

☒ 品目マスター(デフォルト) ☐ 給与計算

グリッドのカスタマイズ

勘定科目 No.	元帳日付	摘要	金額	通貨コード	伝票 No.	伝票タイプ	補助元帳	補助タイプ	補助元帳名
<input type="checkbox"/> 6100.1341	05/06/25	Payroll Labor Distribution	4,073.67 USD			98 T2	00065023	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8115	05/06/30	Payroll Labor Distribution	514.00 USD			5 T2	00065023	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8115	05/06/30	Payroll Labor Distribution	173.08 USD			5 T2	00065040	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8116	05/06/30	Payroll Labor Distribution	153.75 USD			5 T2	00065023	W	
<input type="checkbox"/> 6100.8116	05/06/30	Payroll Labor Distribution	97.36 USD			5 T2	00065040	W	

6. 〈会計取引の選択〉で取引明細取引のリストに表示される内容を限定するには、次のうち必要なフィールドに情報を入力します。
 - 勘定科目 No.
 - 開始元帳日付
 - 終了元帳日付
 - 補助元帳/タイプ
7. 給与計算設備ワークテーブル取引の所属ビジネスユニットの更新方法を決めるには、[固定資産マスター](デフォルト)オプションまたは[給与計算]オプションをクリックします。
8. 取引を選び、[ロー]メニューから[ワークテーブル取引の選択]を選択します。
9. [閉じる]をクリックして〈請求取引の選択〉に戻ります。

10. 作成したワークテーブル取引の詳細情報を検討する場合は、該当するワークテーブル取引を選んで[選択]をクリックします。このステップは任意です。
11. 〈請求取引の選択〉で、ワークテーブル取引を選択します(複数可)。
12. [ロー]メニューから[請求書のマージ/更新]を選択します。
ワークテーブル取引情報が請求書支払項目にマージされます。

注:

上限規則を使用していて、請求書の支払項目にマージしようとする取引によって請求金額が上限金額を超える場合、エラー・メッセージが表示されてワークテーブル取引はマージされません。

さらに、〈契約請求行詳細の改訂〉フォームの[支払後請求]フィールドが1(支払済み項目のみ請求)の取引は、ワークテーブル・レコードに関連する伝票が支払済みの場合にのみ、請求書にマージされます。支払われていない伝票を選択すると、「支払後請求の条件が満たされていません」という内容のエラーが表示されます。

13. [閉じる]をクリックして〈契約請求行の照会〉に戻ります。

注:

他の請求行が依存しているタイム・アンド・マテリアル請求行に会計取引を追加した場合は、手数料、前渡金、および留保金を再計算する必要性が警告表示されます。

14. 請求書の支払項目にマージしたワークテーブル取引を検討するには、請求書支払項目を選んで[ロー]メニューから[請求書詳細]を選択します。

► **タイム・アンド・マテリアル請求書の支払項目にアドホック・ワークテーブル取引を追加するには**

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉でバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
4. 〈契約請求行の照会〉で、ワークテーブル取引を添付する支払項目を選び、[ロー]メニューから[請求書詳細]を選択します。
5. 〈請求書明細の改訂〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

ワークテーブルの入力

OK キャンセル フォーム ツール

元帳日付	<input type="text"/>	勘定科目コード	<input type="text"/>	補助元帳/タイプ	<input type="text"/>	通貨コード	<input type="text"/>	適格性コード	<input type="checkbox"/>	再計算オプション	<input type="checkbox"/>
数量	<input type="text"/>	原価金額	<input type="text"/>	請求書一時変更レート/上限	<input type="text"/>	請求書割増し%	<input type="text"/>	収益一時変更レート/上限	<input type="text"/>	収益割増し%	<input type="text"/>
調整後金額	<input type="text"/>	課税対象額	<input type="text"/>	請求額合計	<input type="text"/>	割引%	<input type="text"/>	収益割増し金額	<input type="text"/>	収益金額	<input type="text"/>
所属ビジネスユニット	<input type="text"/>	従業員/仕入先	<input type="text"/>	説明	<input type="text"/>	職務タイプ	<input type="text"/>	職階	<input type="text"/>	備考	<input type="text"/>

6. 〈ワークテーブルの入力〉で、次のフィールドに情報を入力します。
 - 元帳日付
 - 勘定科目コード
7. 次の任意フィールドに新しいワークテーブル取引に関する情報を入力します。
 - 補助元帳/タイプ
 - 適格性コード
 - 通貨コード
 - 再計算オプション
8. 次のフィールドに値を入力します。
 - 数量
 - 原価金額
 - 請求書一時変更レート/上限
 - 請求書割増し%
 - 調整後金額
 - 課税対象額

- 請求額合計
 - 割引 %
9. 必要に応じて次のフィールドに値を入力します。
- 収益割増し%
 - 収益割増し金額
 - 収益金額
10. 必要に応じて、アドホック・ワークテーブル取引に関する詳細情報を次のフィールドに入力します。
- 所属ビジネスユニット
 - 職務タイプ
 - 従業員/仕入先
 - 職階
 - 説明
 - 備考
11. [OK]をクリックしてワークテーブル取引を追加します。
12. [キャンセル]をクリックして〈請求書明細の改訂〉に戻ります。

注:

上限規則を使用していて、タイム・アンド・マテリアル請求書の支払項目にマージしようとするアドホック・ワークテーブル取引によって請求金額が上限金額を超える場合、エラー・メッセージが表示されてワークテーブル取引はマージされません。

13. [閉じる]をクリックして〈契約請求行の照会〉に戻ります。

注:

他の請求行が依存しているタイム・アンド・マテリアル請求行にアドホック取引を追加した場合は、手数料、前渡金、および留保金を再計算する必要があります。

非タイム・アンド・マテリアル請求行の請求金額の改訂

支払項目を既に含む既存の請求書に金額を追加できます。この場合、次のいずれかの処理を実行します。

- 非タイム・アンド・マテリアル請求金額を追加する。
- 関連留保金額を改訂する。
- 関連する手数料行の金額を改訂する。

契約請求行の価格設定タイプに応じて、特定のフィールドのみ更新できます。前渡金の直接相殺および按分相殺価格設定タイプのフィールドは更新できません。情報を入力した後で、請求書集計ワークテーブル(F4822)が更新されます。

▶ 非タイム・アンド・マテリアル請求行の請求金額を改訂するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉でバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
4. 〈契約請求行の照会〉で、改訂する非タイム・アンド・マテリアル請求行を選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft
準備請求行の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

請求書No.	3073	RI	請求書修正	1	外貨	USD
契約 No.	5351	R2	00050	Baseball Ballpark Build	為替レート	
変更No.	000			Original	元帳クラス	
請求行	1350-SEATING			Seating		
予定値/予定額	4,000.00	500.0000	2,000,000.00	未完了残高		1,994,500.00

	現期間	前期間	累計	計量単位	
数量	11.00		11.00	PC	
単価	500.0000	0.0000	500.00	税率/税域	CO
小計	5,500.00		5,500.00	税目コード	S
税額	209.00		209.00		
請求合計	5,709.00		5,709.00		

5. 改訂フォームで、次の列のフィールドに入力します。

- 現期間

- 累計

注:

改訂フォームと使用可能フィールドの名前は、選択した請求行の価格設定タイプによって異なります。

6. 留保金を改訂するには、[留保金]タブで次のいずれかの列のフィールドに入力します。

- 現期間
- 累計

指定していない金額は計算されます。

注意:

〈契約請求行の照会〉に戻ってから、留保金を再計算しないでください。再計算すると、入力した留保金金額が一時変更されます。

7. [OK]をクリックします。

クレジット・メモの作成

顧客に超過請求しており、その訂正内容を顧客勘定科目に反映させる必要がある場合は、クレジット・メモを作成します。通常、クレジット・メモには伝票タイプ RM が割り当てられます。手作業によるクレジット・メモの作成手順は、請求書を手作業で作成する場合と同じです。

クレジットを既存のバッチまたは新規バッチ見出しに追加できます。また、クレジット・メモには、既存のワークテーブル取引を追加したり、アドホック・ワークテーブル取引を入力できます。顧客への売掛金残高を訂正するためには、ワークテーブル取引の金額はマイナスにする必要があります。

▶ クレジット・メモを作成するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉でバッチを検索します。
2. バッチ中にクレジット・メモを作成するには、そのバッチを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、[フォーム]メニューから[請求書の作成]を選択します。
4. 〈請求書の作成〉で、次のフィールドに情報を入力します。

- 契約/タイプ/会社

5. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。

- 契約請求書#

クレジット・メモの作成対象となる請求書の契約請求番号を使用します。これにより、当初請求書を契約請求システム内のクレジット・メモに関連付けることができます。

- 調整 No.
[調整 No.]フィールドをブランクにすると、この契約請求に次の調整番号を自動的に割り当てることができます。
 - 請求開始日付
 - 請求終了日付
 - 元帳日付
 - 請求書日付
 - 請求コード
6. 請求固定情報、契約マスターおよび処理オプションからの情報を一時変更するには、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。
- 請求書タイプ
伝票タイプには RM を入力します。この値により、この取引が売掛金元帳でクレジット・メモとして識別されます。
 - 税域/税目
 - 支払条件
 - 金額ゼロ請求書の処理
 - 一括行計算方法/元帳タイプ
 - 為替レート基準日付
7. [投入]をクリックします。
8. 〈請求書の生成〉で、[OK]をクリックします。
- 請求書を作成するバッチ処理が完了したら、〈請求書の処理〉フォームに新しいクレジット・メモが表示されます。クレジット・メモを選択し、[選択]をクリックして支払項目を改訂します。この取引をマイナスの金額で処理します。

参照

- ワークテーブル取引とアドホック取引の追加情報については、『契約請求』ガイドの「請求書への取引の追加」

予備的な請求書仕訳の作成

仕訳を作成して請求処理を完了します。このステップでは、まず〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)を実行して、予備的な請求書仕訳を作成します。予備的な仕訳の作成時には、〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)が印刷されます。このレポートを慎重に検討し、取引明細テーブル(F0911)内に貸借不一致のレコードを作成するような請求書仕訳が作成されていないことを確認します。

選択した請求書バッチの予備的な請求書仕訳が作成され、仕訳が集計されます。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、集計された仕訳を使用して請求書仕訳の取引明細テーブル(F0911)に取引が作成されます。

集計仕訳は、売掛管理システムと一般会計システムの機能サーバーを使用して検証されます。集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)には、仕訳の貸借を一致させるために一時的に請求書集計済み取引が追加されます。

注意:

〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)はバッチ・プログラムです。請求書バッチは 1 単位として処理されます。1 つまたは複数のエラーが検出された場合は、請求書バッチがエラー状況に設定されます。エラー条件を修正した上で、〈仕訳の作成〉プログラムを再実行する必要があります。〈仕訳の作成〉プログラムは、すべてのエラーが修正されるまで何度でも実行できます。

請求書の仕訳を作成すると、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)を更新する。[現在の処理状況]フィールドを 3 (仕訳の生成中)に設定する。
- この請求書バッチに関するレコード(前回作成した収益仕訳を含む)をサービス請求明細仕訳テーブル(F48S910)とサービス請求集計仕訳テーブル(F48S910)から削除する。このステップでは、バッチ削除を実行せずに、〈仕訳の作成〉プログラムを何度でも再実行できます。
- 請求書バッチ番号を使用してデータを選択する。請求明細ワークテーブル(F4812)のレコードから、請求 AAI(自動仕訳)を使って請求明細仕訳テーブル(F48S910)に仕訳が作成されます。
- 請求明細仕訳テーブル(F48S910)の仕訳を集計し、集計済み仕訳ワークテーブル(R48S911)に保管する。〈売掛金仕訳の作成〉プログラムを実行すると、これらの仕訳を使用して取引明細テーブル(F0911)に仕訳が作成されます。
- 請求書集計ワークテーブル(F4822)の請求書情報を基に F48S911 テーブルを更新する。これらの仕訳は一時的なものであり、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)の実行時に仕訳が貸借一致しているか検証してレポートを印刷するまでの間のみ、集計済み仕訳ワークテーブル(R48S911)に残っています。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、請求書集計ワークテーブル(F4822)の仕訳を使用して売掛金元帳テーブル(F03B11)に仕訳が作成されます。
- 総勘定元帳バッチを作成し、請求書仕訳に関連する収益または費用の再配賦仕訳を保存する。
- 売掛管理および一般会計システムのマスター・ビジネス関数の対話型バージョンを使用して、集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)に保管されている会計仕訳を検証する。
- このバッチから作成された仕訳の検討用に、〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)が印刷する。

注:

テスト請求書と最終請求書で別の請求書番号を割り当てている場合、予備的な請求書仕訳にはテスト請求書の伝票タイプと請求書番号が書き込まれます。テスト請求書の伝票タイプと請求書番号は、〈仕訳編集レジスタ〉レポートに表示されます。

- 集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)から一時請求書入力を削除する。
- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)の[仕訳金額]と[仕訳伝票数]を更新する。さらに、バッチ状況が更新すると共に、このバッチに対して次の処理を行えるように、[現在の処理状況]が0(ゼロ)に設定されます。
- 処理中に発生したエラーをリストしたレポートを印刷する。

参照

- ワークテーブル取引を請求 AAI に対して処理し、明細仕訳を作成する方法については、『契約請求』ガイドの「請求 AAI の処理」
- 収益認識時に仕訳が作成される方法については、『契約請求』ガイドの「予備的な総勘定元帳仕訳の生成」

▶ 予備的な請求書仕訳を作成するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチから予備的な請求書仕訳を作成するには、バッチを選択し、[ロー]メニューから[仕訳生成]を選択します。

請求システム固定情報で〈日付の一時変更〉フォームが自動的に表示されるように設定してある場合は、請求書と請求書仕訳に割り当てる元帳日付と請求書日付を入力します。

3. [OK]をクリックします。

処理オプション:仕訳の自動作成(R48131)**デフォルト・タブ**

仕訳の摘要の取込み元を指定します。

1. 仕訳摘要

blank = 勘定科目マスター摘要

1 = AAI テーブル記述

2 = 補助元帳の値記述

仕訳入力に使用する記述を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 勘定科目マスターの記述を使用する

- 1 AAI(自動仕訳)テーブルの記述を使用する
 - 2 補助元帳の値に関連する記述を使用する
-

バージョン・タブ

〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)から実行する各プログラムのバージョンを指定します。

1. 仕訳編集レジスタ (R48300)

blank = XJDE0001

仕訳帳バッチ処理に使用する〈仕訳照合レジスタ〉のバージョンを指定します。blankにすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

2. 仕訳作成バージョン (R48132)

blank = XJDE0001

仕訳帳バッチ処理に使用する〈収益仕訳の作成〉のバージョンを指定します。blankにすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

一時変更日付の改訂

請求書は、最終的な仕訳の作成とは関係なく生成できます。請求書の生成時に、請求書日付と元帳日付を割り当てます。元帳日付や請求書日付は、最終仕訳の作成前に改訂できます。

この機能を使用するのは、請求書の生成時に割り当てた当初日付と最終仕訳の作成日の関係で、売掛金元帳に正しい年齢調べ情報が表示されない場合です。

注:

収益バッチではなく請求書バッチに対してのみ一時変更日付を改訂できます。

〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)の実行時に〈日付の一時変更〉フォームを表示するかどうかは、〈請求固定情報〉で指定します。次のいずれかになるように固定情報を設定できます。

- 常にウィンドウを表示する
- [日付の一時変更]を選択した場合にのみウィンドウを表示する
- ウィンドウを表示しない

[日付の一時変更]には、常に現在のシステム日付が表示されます。

▶ 日付を一時変更するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. バッチ内の請求書に割り当てられた請求書日付または元帳日付を変更するには、バッチを選択して、[ロー]メニューから[日付の一時変更]を選択します。
3. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 請求書/伝票日付の一時変更
 - 元帳日付の一時変更

予備的な請求書仕訳の検討

予備的な売掛金仕訳および総勘定元帳仕訳を作成すると、バッチ状況を検討することにより、各仕訳が正常に作成されたかどうかを確認します。最終的な売掛金仕訳と総勘定元帳仕訳を作成する前に、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を検討することにより、仕訳情報を確認できます。このレポートには、集計仕訳が元帳日付別、伝票タイプ別、伝票番号別、ビジネスユニット別、主科目別、補助科目別、および補助元帳別に一覧表示されます。

また、予備的な総勘定元帳仕訳を作成した後も、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行することで、このレポートを再度印刷できます。

レポートにエラーが見つかった場合も、バッチの削除と請求書の再生成が必要になるとは限りません。エラーを修正して、〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)を再度実行できます。共通のエラーは次のとおりです。

- 元帳日付が間違っているか、入力した勘定科目が未登録である。
- 請求 AAI で定義した規則に関連する主キー/副キー、または勘定科目が間違っている。

▶ 予備的な請求書仕訳を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチにある特定請求書の〈仕訳照合レジスタ〉を印刷するには、該当するバッチを選択し、[ロー]メニューから[仕訳照合レジスタ]を選択します。

処理オプション: 仕訳編集レジスタ(F48300)

バージョン・タブ

次のマスター・ビジネス関数(MBF)のバージョンを指定します。

1. 売掛管理マスタービジネス関数 (P03B0011)

売掛管理システムで使用する売掛管理マスタービジネス関数のバージョンを指定します。空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

2. 一般会計マスタービジネス関数(P0900049)

総勘定元帳システムで使用する元帳マスタービジネス関数のバージョンを指定します。空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

3. 買掛管理マスタービジネス関数(P0400047)

買掛管理システムで使用する買掛管理マスタービジネス関数のバージョンを指定します。空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

最終請求書仕訳の作成

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行し、サービス請求システムからの請求書情報を売掛管理システムおよび一般会計システムに転送することで、最終的な請求書仕訳が作成されます。請求システムは、請求書集計ワークテーブル(F4822)を基に売掛金元帳テーブル(F03B11)を、集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)を基に取引明細テーブル(F0911)をそれぞれ更新します。請求システムは、売掛管理システムと一般会計システムの機能サーバーを使用して、すべての会計情報を検証します。

注意:

1. 〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)はバッチ・プログラムです。請求書バッチは1単位として処理されます。1つまたは複数のエラーが検出された場合、売掛管理システムと一般会計システムに請求書は作成されず、請求システムにより請求書バッチがエラー状況に設定されます。エラーを修正し、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を再実行する必要があります。エラーによっては、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を再実行する前に、〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)の再実行が必要な場合があります。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)は、すべてのエラーが修正されるまで何度でも実行できます。エラーがなくなった時点で、請求書情報が売掛管理システムと一般会計システムに作成されます。
2. 〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、請求書仕訳が売掛管理システムと一般会計システムに書き込まれます。次に、〈請求書の転記〉プログラム(R09801)を実行します。これにより、請求書取引は転記され、相手科目に仕訳が作成され、転記済みコードとバッチ状況が更新されます。取引を自動的に転記するには、処理オプション: 〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)で、〈請求書の転記〉プログラム(R09801)のバージョンを指定します。また、手作業による転記もできます。

請求書バッチと総勘定元帳バッチをそれぞれ転記する〈請求書の転記〉プログラム(R09801)のバージョンに加えて、処理オプション:〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)で、それぞれのバッチに割り当てるバッチ状況を指定します。

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時にバッチにエラーが検出されたり、予備的な請求書仕訳が作成されていない場合は、〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)が実行されます。

エラーが検出されない場合は、次の処理が実行されます。

- 請求システムで割り当てられたバッチ番号をバッチ制御テーブル(F0011)に書き込む。バッチの通貨金額と伝票数もバッチ制御テーブル(F0011)の新規バッチ・レコードに渡されます。
- 集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)の仕訳を使用して取引明細テーブル(F0911)に取引を書き込む。
- 請求書集計ワークテーブル(F4822)の仕訳を使用して売掛金元帳テーブル(F03B11)に取引を書き込む。

注:

予備的な請求書と最終請求書で別の請求書番号を割り当てている場合、取引明細テーブル(F0911)および売掛金元帳テーブル(F03B11)の請求書と仕訳項目には最終の請求書番号と伝票タイプが割り当てられます。

- 契約請求システムを使用している場合は、契約収益集計ワークテーブル(F5280W)のレコードを基に契約収益集計テーブル(F5280)を更新する。
- この請求書バッチの請求明細ワークテーブル(F4812)の取引を使用して、請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)にレコードを書き込む。
- この請求書バッチの請求明細ワークテーブル(F4812)から取引が削除される。
- 請求書集計ワークテーブル(F4822)を更新して、請求書が売掛管理システムに転送されたことを示す。
- 請求システム固定情報で[請求書集計アクセス・テーブルの作成]をオンにしている場合は、請求書集計アクセス・テーブル(F48520)に請求書情報を書き込む。
- 請求システム固定情報で[仕訳振替の制御]オプションがオンで、請求書仕訳の生成時に給与計算振替仕訳が検出された場合、給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)を使用して、取引を従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)に書き込む。

注:

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)は、多通貨時間会計に対応しています。

- 請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)の取引レコードを総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)に書き込む。請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)のこの請求書バッチの取引を削除する。
- この請求書バッチの取引を集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)から削除する。
- 給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)のこの請求書バッチの取引を削除する。

- この請求書バッチの収益集計情報を契約収益集計ワークテーブル(F5280W)から削除する(契約請求の場合のみ)。
- 請求書バッチをサービス請求バッチ制御テーブル(F48011)から削除する。
エラーが検出された場合、バッチ制御テーブル(F0011)のレコードが削除され、サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)のバッチ見出しレコードがエラー状況に設定されます。
- 見出しのみ含むレポートを作成する。エラーの内容はレポートに印刷されません。詳細については、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)または〈ワーク・センター〉を参照してください。

参照

- 〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)については、『契約請求』ガイドの「予備的な請求書仕訳の作成」

▶ 最終的な請求書仕訳を作成するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチから最終的な請求書仕訳を作成するには、バッチを選択し、[ロー]メニューから[売掛金仕訳の生成]を選択します。

請求システム固定情報で〈日付の一時変更〉フォームが自動的に表示されるように設定してある場合は、請求書と請求書仕訳に割り当てる元帳日付と請求書日付を入力します。

3. [OK]をクリックします。

処理オプション: 売掛金仕訳の作成(R48199)

デフォルト・タブ

留保金レコードの支払状況と支払期日を指定します。

1. 留保金支払状況

blank = 留保金保持は 'H' を使用

留保金レコードに割り当てる支払状況コードを指定します。有効な値は、ユーザー定義コード(00/PS)に定義されています。

blank = H(留保金の保留)を割り当てる

2. 留保金期日

blank = 世紀年の末日を使用

留保金レコードの支払期日を割り当てます。

ブランク = 現世紀の最終日付を基準に支払期日を計算する
リース日付の西暦(上 2 桁)は、データ項目の世紀年(DCYR)を基準に計算されます。

バージョン・タブ

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)から実行する各プログラムのバージョンを指定します。

1. 請求書仕訳作成バージョン (R483131)

ブランク = XJDE0001

仕訳バッチの処理に使用する〈仕訳の生成〉プログラム(R48131) のバージョンを指定します。

ブランク = XJDE0001

2. 受取手形バッチ(R03B671)のバージョン

ブランク = XJDE0007

前受金処理に使用する未収金バッチ受取手形の作成(R03B671) のバージョンを指定します。

ブランク = XJDE0007

3. 仕訳編集レジスタ(R48300)のバージョン

ブランク = XJDE001

〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンを指定します。ブランクにすると、XJDE0001 が使用されます。

4. 元帳自動転記のバージョン - 請求パッチ (R09801)

ブランク = 自動転記なし

請求書バッチの自動転記に使用する〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)のバージョンを指定します。ブランクにした場合、請求書バッチの自動転記は行われません。〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)をあとから実行することにより転記できます。

5. 自動実行する〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)のバージョン

ブランク = 自動実行しない

元帳バッチの自動転記に使用する〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)のバージョンを指定します。ブランクにした場合、元帳バッチの自動転記は行われません。〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)をあとから実行することにより転記できます。

バッチ承認タブ

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時に請求書バッチを自動承認するかどうかを指定します。自動承認にすると、売掛管理システムおよび一般会計システム固定情報の[管理者承認必須]オプションの設定は無視されます。

1. 請求書バッチに割り当てるバッチ状況

ブランク = 買掛管理固定情報デフォルト

1 = 承認済み

このバッチ処理により生成される請求書バッチに適用するバッチ状況を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 売掛管理固定情報で指定したバッチ状況

1 承認済み

2. 元帳バッチ承認

ブランク = 一般会計固定情報のデフォルト

1 = 承認済み

このプログラムにより生成されたすべてのバッチに割り当てるバッチ状況を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 一般会計固定情報で指定した状況コード

1 = 承認済み

請求書バッチと関連する総勘定元帳バッチの転記

最終的な請求書仕訳を作成した後に、その請求書仕訳を検討、承認し、取引明細テーブル(F0911)に転記して、請求処理全体を完了します。

転記処理中に次の処理が実行されます。

- 転記するレコードの選択
- 情報の検証とエラーの処理
- 相手科目の自動作成
- 仕訳の転記
- 転記済みコードとバッチ状況の更新

請求書バッチを転記すると、売掛金勘定の相手科目が自動的に作成されます。通常は、借方に売掛金勘定、貸方に収益勘定が記録されます。

最終的な請求書仕訳の作成時に関連する総勘定元帳バッチが作成されている場合は、これも転記する必要があります。

関連する仕訳バッチを転記すると、自動的に相手科目が作成され取引明細テーブル(F0911)のレコードが更新されます。

〈請求書仕訳の検討〉プログラム(P0011)と〈請求書の転記〉プログラム(R09801)を使用して、請求書仕訳を検討および転記します。これらは一般会計システムで使用するのと同じプログラムです。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書の転記〉を選択するか、〈請求書の処理〉メニューから〈請求書仕訳の検討〉を選択して〈バッチの処理〉フォームの[ロー]メニューで[バッチ別の転記]を選択することで、転記プログラムを実行できます。

選択する方法は、使用する転記方法によって決まります。〈請求書の転記〉プログラム(R09801)をメニューから実行する場合は、次のことができます。

- すべての承認済みバッチをまとめて転記する。
- データ選択により条件を指定して転記する。

〈請求書仕訳の検討〉プログラム(P0011)から転記する場合は、次のことができます。

- 自動データ選択を使って転記する。
- 自動データ選択とサブシステムを使って転記する。

これらの機能は、〈請求書仕訳の検討〉プログラム(P0011)からのみ使用できます。

参照

- 追加情報については、『売掛管理』ガイドの「転記の処理」
- 仕訳の検討と転記の追加情報については、『一般会計』ガイドの「仕訳の処理」

請求書の印刷

顧客宛の請求書を印刷するには、〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)を使用します。このプログラムを使用して、テストまたは最終請求書を印刷します。どちらの請求書の場合も、印刷するタイミングによってテスト状況または最終状況が確定されます。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行する前に印刷した請求書は、テスト請求書と見なされます。その後で印刷した請求書は、最終請求書と見なされます。

テスト請求書を印刷すると、プロジェクト管理者または会計管理者は、顧客宛に郵送する前に請求書情報が正確かどうかを確認できます。このテスト請求書情報は、請求明細ワークテーブル(F4812)から取り込まれます。エラーが検出された場合は、請求書を訂正できます。通常、請求書バッチ全体を削除する必要はありません。

提供した商品やサービスに関する最終請求書を印刷し、顧客に送付します。最終請求書の印刷時には、請求ワークテーブル履歴(F4812H)から請求書情報が取り込まれます。この処理は、必要に応じて請求書を再印刷するときにも使用します。

J.D. Edwards では、売掛管理仕訳を作成し、請求書バッチを総勘定元帳に転記した後で、最終請求書を印刷することをお勧めします。売掛管理情報が処理された後に請求書を印刷すると、請求書に印刷された情報は売掛元帳内で作成された請求書情報と確実に一致ようになります。

注意:

売掛管理仕訳を作成して請求書バッチを総勘定元帳に転記する前に最終請求書を印刷した場合は、最終請求書を印刷して顧客に郵送した後で請求書情報を修正してしまう可能性があります。

顧客宛の請求書を印刷するには、次の方法があります。

- | | |
|-----------|---|
| 自動 | 顧客への請求書の生成時に印刷します。この方法を使用すると、〈請求書の生成〉プログラム(R48S121)の実行時にバッチ内の請求書が印刷されます。 |
| 手動 | 請求書を生成後に印刷できます。この方法を使用する場合は、次の処理を実行できます。 <ul style="list-style-type: none">• 既存バッチからの請求書の印刷• 改訂済みの請求書を含むバッチの再印刷• 過去のワークテーブル取引で請求処理を完了している請求書の印刷 |

請求書の自動印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書の生成〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈請求書の生成〉を選択します。

請求書を生成時に印刷できます。たとえば、プロジェクト管理者が検討できるように、テスト請求書を印刷できます。バッチ内のすべての請求書が、処理オプションで指定した〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)のバージョンを使って印刷されます。

はじめる前に

- ワークテーブル取引を生成します。
- 生成中に請求書を印刷する場合は、使用するバージョンを定義します。
- 〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の処理オプションで、実行する〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)のバージョンを指定します。『契約請求』ガイドの「処理オプション:〈請求書の生成〉プログラム(R52121)」を参照してください。

請求書の手動印刷

請求書バッチの生成後に、請求書を印刷できます。次の方法を使用して、請求書印刷に使用する請求書バージョンを制御できます。

- 処理オプション: 請求書の印刷(R48504)
- 〈契約マスターの改訂〉フォームの[請求書フォーマット・コード]フィールド
- 請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)の[キー・タイプ]フィールドと[テーブル・キー]フィールド

〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)では、[請求書フォーマット名]処理オプション、または次の3つの処理オプションすべてを入力する必要があります。

- 請求書バージョン UBE (Invoice Version UBE)
- 請求書バージョン (Invoice Version)
- 請求書ワークテーブル明細選択 (Invoice Workfile Detail Selection)

この処理オプションの指定に基づいて、請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)からフォーマットとフォーマット・コードが読み込まれます。

処理オプションに何も指定しなかった場合は、〈契約マスターの改訂〉フォームの[請求書フォーマット・コード]フィールド(INVF)の値を使用して、請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)からフォーマットとフォーマット・コードが読み込まれます。

処理オプションを指定せず、〈サービス請求書の入力〉フォームの[請求書フォーマット・バージョン]フィールドが空白の場合、〈請求書印刷バージョン相互参照〉プログラム(P48S58)で指定したキー・タイプとテーブル・キーが使用されます。バージョンの検索には、次の階層が使用されます。

- 作業オーダー番号
- 作業オーダー・クラス
- 契約番号
- 親契約番号
- 顧客
- 作業またはビジネスユニット
- 職務分類
- 会社番号
- デフォルト

バッチ全体ではなく、選択した請求書を印刷できます。そのためには、印刷処理中に指定する〈請求書印刷選択〉バージョンのデータ選択を使用します。たとえば、印刷内容の選択対象をビジネスユニットまたは請求書番号に限定できます。

はじめる前に

- ワークテーブル取引を生成します。『契約請求』ガイドの「ワークテーブルの生成」を参照してください。
- 請求書バージョンを定義します。『契約請求』ガイドの「請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定」を参照してください。

▶ 請求書バッチを印刷するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチの請求書を印刷するには、該当するバッチを選んで、[ロー]メニューから[請求書の印刷]を選択します。

処理オプション: 請求書の印刷(R48504)

選択タブ

請求書を最終形式で印刷するか下書き形式で印刷するかを指定します。

1. 請求書のフォーマットタイプ (必須)

請求書バージョン UBE および請求書バージョンを取得するときに使用する請求書のフォーマットタイプを指定します。

印刷タブ

使用する請求書印刷プログラムとバージョンを指定します。請求書フォーマット名を指定することもできます。

注:

[請求書バージョン UBE]、[請求書バージョン]、および[請求書ワークテーブル明細選択]の各処理オプションが相互に組み合わせて使用されます。これらの処理オプションの 1 つを入力する場合は、3 つの処理オプションすべてを入力する必要があります。その他の方法として、[請求書フォーマット名]処理オプションにのみ入力することもできます。

1. 請求書印刷プログラム

請求書印刷の相互参照テーブル(P4858)で設定された請求書印刷バージョンの代わりに使用する請求書印刷プログラムを指定します。

R48506 = 請求書印刷プログラム

R48507 = 請求書印刷プログラム(スマート・フィールド付き)

注:ここで請求書印刷プログラムを指定した場合、請求書印刷バージョンも指定する必要があります。

次のうちいづれかを選択してください。

2. 請求書印刷バージョン

請求書印刷の相互参照テーブル(P4858)で設定された請求書バージョンの代わりに使用するよう
に上で指定した請求書印刷プログラムのバージョンを指定します。このフィールドは、処理オプションで請求書印刷プログラムを指定した場合のみ指定します。

3. 請求書ワークファイル明細フォーマット選択

請求書印刷時に、どのワークテーブルまたはワークテーブル履歴レコードを個々の行項目として処理するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 基本/間接費/追加料金レコード

- 1 基本レコードのみ
- 2 基本/間接費レコードのみ
- 3 基本/追加料金レコードのみ

4. 請求書フォーマット名

請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)で設定するか契約マスター(F5201)から取り込んだ請求書フォーマット名を一時変更します。

通貨タブ

請求書に印刷する金額の通貨を指定します。

1. 通貨

請求書に金額を印刷する時の使用通貨を制御します。有効な値は次のとおりです。

blank 請求書に使用されている通貨で印刷する

0 国内通貨で印刷する

1 外貨で印刷する

注: この値は、[金額の取込み (Retrieve Amounts)] スマート・フィールドを使用して印刷する金額にのみ反映されます。

請求書履歴の処理

請求処理用の売掛金元帳と総勘定元帳のレコードを作成すると、請求処理を完了したワークテーブル取引は請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)に移動されます。最終請求書を処理し、これらの取引にアクセスできます。

最終請求書を処理するときに、必要に応じて請求書を検討できます。請求明細ワークテーブル(F4812)の取引を使用して請求書を再印刷できます。また、最終請求書を無効にすることも可能です。最終請求書を無効にすると、その請求書に含まれていた請求取引は、未請求状況になっている処理中の請求明細ワークテーブル(F4812)に戻されます。その後、これらの未請求取引を再処理するか、未請求状況に変更できます。

取引の請求履歴の検討

請求書履歴にアクセスすると、最初に請求書番号が表示されます。これが特に役立つのは、特定の顧客に関する請求情報の検討を必要とする場合です。また、関連請求書が無効になっていない場合は、取引の請求明細履歴も検討できます。

▶ 取引の請求履歴を検討するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈契約請求書の履歴照会〉を選択します。

1. 〈契約履歴の処理〉で、契約の請求書履歴を表示するには次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックします。
 - 契約 No.
2. 特定の請求書についてワークテーブル取引の請求詳細履歴を検討するには、請求書をハイライトして[選択]をクリックします。

PeopleSoft®

契約請求行照会

選択 検索 閉じる フォーム ロー ツール

契約No. 5031 R2 Access Road バッチNo. 6006
 顧客 3001 Global Enterprises 請求書No. 3074
 送付先住所 開始 05/06/01
 請求日付 05/07/11 終了 05/06/30
 請求書修正 1 元帳日付 05/06/30

グリッドのカスタマイズ

	請求行	請求行記述	変更No.	数量	計量単位	価格タイプ	基本通貨	予定金額	現行正味額
<input type="checkbox"/>	001	Time and Materials	000			T	USD		5,500.00
<input type="checkbox"/>	002	Lump Sum	000			L	USD	510,000.00	5,100.00
<input type="checkbox"/>	003	Unit	000	175.00 HR		U	USD	30,000.00	5,250.00
<input type="checkbox"/>	004	Milestone	000			M	USD	25,000.00	625.00
<input type="checkbox"/>		変更オーダー合計	000					565,000.00	16,475.00
<input type="checkbox"/>	Σ	契約合計						565,000.00	16,475.00

3. 〈契約請求行照会〉で、取引履歴を検討して[閉じる]をクリックします。

参照

- 請求済み取引の詳細については、『契約請求』ガイドの「最終請求書を無効にする」

履歴からの請求書の印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書の印刷〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈請求書の印刷〉を選択します。

請求処理が完了したワークテーブル取引は、請求ワークテーブル履歴(F4812H)に移動されます。これらの取引に履歴からアクセスし、〈請求書の印刷〉レポート(R48504)を使用して請求書を再印刷できます。たとえば、郵送中に請求書が紛失したが既に請求処理を完了している場合は、履歴から請求書を印刷できます。

注意:

印刷済み請求書のコピーは保存されません。請求書に関連するバージョンを変更すると、再印刷した請求書は以前に印刷した請求書とは異なる体裁になります。

参照

- 特定の顧客の請求情報の検討については、『契約請求』ガイドの「取引の請求履歴の検討」

〈契約履歴レポート〉の印刷

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈契約履歴レポート〉を選択します。

〈契約履歴レポート〉プログラム(R52425)には、データ選択条件を満たす各契約の関連予定金額および請求書情報がリストされます。このレポートには、次の情報が含まれています。

- 契約請求書番号
- 調整番号
- 請求書番号
- 請求書日付
- 無効(任意)
- 基本通貨
- 請求書金額
- 累計金額
- 終了残高
- 完了率(任意)

無効にしたレコードをレポートに含めるかどうか、また国内通貨金額、外貨金額(またはその両方)のいずれを表示するかを選択できます。

処理オプション:〈契約履歴レポート〉プログラム(R52425)

表示タブ

無効にしたレコードをレポートに含めるかどうか、またレポートに[完了率]列を含めるかどうかを指定します。

1. 無効にしたレコードの印刷

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

レポートに無効レコードを印刷するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 無効レコードを印刷する

1 無効レコードを印刷しない

1. 完了パーセントの印刷

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

レポートに完了率を印刷するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 完了率を印刷する

1 完了率を印刷しない

通貨タブ

国内通貨金額、外貨金額のいずれか、またはその両方を印刷するかどうかを指定します。

1. 印刷に使用する通貨

D = 国内通貨

F = 外貨

3 = 両方

印刷する通貨を指定します。有効な値は次のとおりです。

D 国内通貨

F 外貨

3 両方

最終請求書を無効にする

最終的な請求書仕訳を作成した後で、請求書を無効にできます。請求書を無効にすると、その請求書に含まれていたワークテーブル取引は未請求として請求明細ワークテーブル(F4812)に戻されます。その後、これらの取引を再処理するか、未請求状況に変更できます。

注意:

転記済みの請求書に未転記入金を引き当てた場合は、転記済み請求書を無効にする前に、入金を無効にするか逆仕訳する必要があります。転記済みの請求書に転記済み入金を引き当てた場合は、転記済み請求書を無効にする前に、入金を無効にして総勘定元帳に転記する必要があります。

請求書を無効にすると、次の操作が実行されます。

- 顧客元帳(F03B11)に返金レコードを作成する。
- 取引明細テーブル(F0911)に返金レコードを作成する。
- バッチ制御テーブル(F0011)のバッチ見出しレコードを更新する。
- 請求書集計ワークテーブル(F4822)の無効にした請求書情報を更新する。
- 請求書ワークテーブル履歴(F4821H)の無効にした請求書情報を更新する。
- 無効にされたワークテーブル取引を請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)から請求明細ワークテーブル(F4812)にコピーしてさらに処理する。

注:

契約請求システムでは、請求システム固定情報の[仕訳作成の制御]オプションとして[調整ありの請求書/収益](4)が選択されている場合は、タイム・アンド・マテリアル取引もそれ以外の取引も請求明細ワークテーブル(F4812)にコピーされます。

- サービス請求システムでは、請求書の保留された留保金金額がリセットされます。
-

注意:

サービス請求システムで請求書を作成した場合は、サービス請求システムでその無効処理を行う必要があります。売掛管理システムで請求書を無効にしても、サービス請求システムのテーブルは更新されません。

未転記請求書を無効にすると、売掛金レコードと総勘定元帳レコードが削除され、売掛金取引と総勘定元帳取引、および請求書番号の監査証跡は作成されません。

転記済みの請求書を無効にすると、調整用の売掛金仕訳と振替仕訳が作成され、当初仕訳が逆仕訳されます。また、総勘定元帳バッチの状況は P(保留中)または A(承認済み)に変更されます。これらの調整仕訳のバッチ番号は〈請求書を無効にする〉フォームに表示されるので、そのバッチ番号を基にこれらの調整仕訳を転記する必要があります。

参照

- バッチ見出しの削除については、『一般会計』ガイドの「バッチの管理」

▶ 最終請求書を無効にするには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈契約請求書の履歴照会〉を選択します。

1. 〈契約履歴の処理〉で、契約の請求書履歴を表示するには次のフィールドに情報を入力して[検索]をクリックします。
 - 契約 No.
2. 無効にする請求書を選び、[ロー]メニューから[無効にする]を選択します。

PeopleSoft

請求書を無効にする

OK キャンセル ツール

元帳日付を入力 05/07/11 国

請求書No.用 3074

バッチ 6006

終了 無効にする

3. 〈請求書を無効にする〉で、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。

- 元帳日付を入力

4. [無効にする]をクリックします。

〈契約履歴の処理〉で、請求書の[無効]フィールドに V が入力されます。

留保金の処理

留保金とは、指定した割合の作業が完了した後に支払われる請求金額の一部です。たとえば、作業の 50%が完了するまでは 10%、95%完了するまでは 5%を留保することもできます。作業が完了し、保留にしていた請求金額の支払を顧客が承認した時に留保金をリリースします。

定義した留保金規則を使用して、契約マスターの契約、変更オーダー、または請求行の留保金を設定します。留保金規則は〈留保金規則テーブルの改訂〉プログラム(P5204)を使用して定義します。契約の請求書を生成する際は、留保金規則を使用して留保金の金額が計算されます。契約マスターの情報に基づいて、留保金の元帳クラスが割り当てられます。システムが計算した留保金額は、〈契約請求行の改訂〉フォームで検討および改訂できます。このフォームには〈バッチの検討〉プログラム(P48221)からアクセスします。

請求金額を変更して当初の留保金額に戻す場合は、留保金を再計算する必要があります。

留保金額の改訂

留保金規則を割り当てた契約の請求書を生成すると、留保金額が自動的に計算されます。システムが計算した留保金額は検討および改訂ができます。金額を改訂すると、留保金を再計算して当初の留保金額に戻すことができます。

契約請求行の請求金額を手動で変更した場合、または一括価格や単価の請求書金額を手動で入力した場合は、留保金額を改訂します。

請求書を生成した後でこれらの変更を加えると、留保金は自動的に再計算されません。

手数料行の請求金額が存在しないか不完全な場合、請求金額を手入力しても手数料は自動的に計算されません。この場合、手数料と留保金を計算するには、〈契約請求行の改訂〉フォームで手数料と留保金の行について支払項目の金額を手作業により改訂するか、[手数料の再計算]オプションを選択する必要があります。

▶ 留保金額を改訂するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックし、留保金を検討および改訂する請求書を含むバッチを検索します。

- バッチ No./タイプ

バッチはバッチ番号の昇順で表示されます。

2. バッチを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、検討および改訂する請求書を選んで[選択]をクリックします。
4. 〈契約請求行の照会〉で、検討および改訂する支払項目を選んで[選択]をクリックします。
表示されるフォーム名は、選択する行の価格設定タイプにより変わります。

PeopleSoft®

タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

請求書No.	3073	RI	修正No.	1	外貨	USD
契約 No.	5351	R2	00050	Baseball Ballpark Build	為替レート	
変更No.	000		Original		元帳クラス	
請求行	134X		Labor			
予定値			未完了残高	7,569.00-		

金額	%	留保額	現行/摘要	給与計算
			現期間	%
留保	2,000.00	26.42		
繰延税				
			前期間	%
			累計	%
			2,000.00	26.42

5. 〈契約請求行の改訂〉フォームで、[留保額]タブのフィールドの値を検討または改訂して[OK]をクリックします。

注意:

支払項目の留保金額を更新して〈契約請求行の照会〉に戻った後で、[フォーム]メニューから[留保金再計算]を選択しないでください。このオプションを選択すると、〈契約請求行の改訂〉フォームで入力した留保金額が一時的に変更されます。

バッチ作成後に留保金パーセントが変更になった場合も、〈契約請求行の照会〉で[フォーム]メニューから[留保金再計算]を選択できます。

留保金の再計算

契約や変更オーダー、請求行に留保金規則を割り当てると、その契約の請求書を生成する際に留保金が計算されて支払項目が更新されます。次のような理由で、留保金を再計算する場合があります。

- 留保金額およびパーセンテージを手作業により変更する。
- 請求書にレコードを追加した。
- 留保金のある請求書を生成後に留保金規則を変更した。

▶ 留保金を再計算するには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックし、留保金を検討および改訂する請求書を含むバッチを検索します。
 - バッチ No./タイプバッチはバッチ番号の昇順で表示されます。
2. バッチを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、検討および改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
4. 〈契約請求行の照会〉で、[フォーム]メニューから[留保金再計算]を選択します。
これにより、再計算により関連するフィールドがすべて更新されます。
5. [閉じる]をクリックします。

留保金のリリース

留保金は、作業が完了し、保留にしていた請求金額の支払を顧客が承認した時にリリースします。契約請求システムでは、各契約請求行の留保金を差し引きます。契約全体または変更オーダー、請求行の留保金額をリリースできます。変更オーダーを除外して特定の契約の留保金の一部をリリースしたり、特定の変更オーダーや請求行の留保金だけをリリースすることも可能です。

留保金をリリースするには、[売掛金仕訳の作成]オプションを使用して留保金を含む請求書バッチを処理する必要があります。

▶ 契約または変更オーダーの留保金をリリースするには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、[フォーム]メニューから[バッチ作成]を選択します。
2. バッチを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、[フォーム]メニューから[請求書の作成]を選択します。
4. 〈請求書の作成〉で、次のフィールドに情報を入力します。
 - 契約/タイプ/会社
 - 請求開始日付
5. 次のフィールドに 2(ゼロに初期化)を入力します。
 - 金額ゼロ請求書の処理
6. [投入]をクリックします。
7. 請求書の生成を確認するメッセージが表示されたら、[OK]をクリックして請求書を生成します。
8. バッチ・ジョブによって請求書が作成されたら、〈請求書の処理〉で検討または改訂する請求書を選んで[選択]をクリックします。

9. 〈契約請求行の照会〉で、[フォーム]メニューから[留保金リリース]を選択します。

〈留保金のリリース〉で、[リリースする留保金額]および[留保金のリリース%増分値]フィールドに金額が表示されます。行に独自の留保金規則が関連付けられている留保金を除いて、契約のすべての留保金がリリースされます。

PeopleSoft

留保金のリリース

キャンセル ツール

連絡先No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build

リリース・レベル

☐ すべて

☒ 連絡先

☐ 変更オーダー

保証金の留保規則

契約金額 4,692,000.00

請求累計額 26,504.35

留保可能金額

リリース留保金額 2000

留保率累計

リリース留保率

留保金をリリースする

10. 〈留保金のリリース〉で、次のリリース・レベルのオプションのいずれかをクリックします。

- すべて

契約に関連するすべての留保金と変更オーダーをリリースするには「すべて」を選択します。独自の留保金規則を持つ請求行もすべてリリース対象になります。

- 連絡先

独自の留保金規則を持つ関連の変更オーダーおよび請求行を除いて、契約留保金をリリースするには「契約(連絡先)」を選択します。

- 変更オーダー

独自の留保金規則を持つ請求行を除いて、特定の変更オーダーの留保金をリリースするには「変更オーダー」を選択します。

11. [契約(連絡先)]または[変更オーダー]のオプションをクリックした場合、次のフィールドのいずれかに値を入力します。

- リリース留保金額
- リリース留保率

[留保金のリリース%増分値]の値は、[Retained Amount to Release(リリースする留保金額)]の値を[Retained Amount Available(総留保金額)]の値で割って計算されます。

注:

留保金額は増減することができます。新しい留保金額は、次の計算式により契約の全請求行に割り当てられます。

$$(\text{請求書の支払項目金額} / \text{請求書の合計金額}) \times \text{留保金額}$$

実際の留保金額よりも大きい金額はリリースできません。

12. [留保金をリリースする]をクリックします。

留保金のリリース情報は、〈契約請求行の照会〉フォームで確認できます。

注:

留保金のリリース金額は、[留保金リリース]オプションを再度選択すると調整できます。この場合、前回入力したリリース情報が表示されます。

フィールド記述

記述	用語解説
すべて	<p>留保金のリリース・レベルを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 = すべて 請求行の留保規則に関係なく請求書のすべての留保金をリリースします。個々のリリース金額は入力できません。リリースされていない留保金がすべてリリースされます。</p> <p>2 = 契約 すべての変更オーダーの請求規則が添付されていないすべての請求行の留保金がリリースされます。リリースする金額を指定します。</p> <p>3 = 変更オーダー 指定した変更オーダーの請求規則が添付されていないすべての請求行の留保金がリリースされます。リリースする金額を指定します。</p>
リリース留保金額	<p>この請求書でリリースする留保金額。この値を変更すると、[リリースする留保金パーセント]の値も自動的に更新されます。マイナスの金額として入力してください。</p>
リリース留保率	<p>この請求書でリリースする留保金額のパーセント。この値を変更すると、リリースする留保金額も自動的に再計算されます。マイナスのパーセントとして入力してください。</p>

▶ 請求行の留保金をリリースするには

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 留保金をリリースする請求書バッチが契約についてアクティブな場合、〈バッチの処理〉でバッチをハイライトして[選択]をクリックします。

または

空のバッチを作成し、そのバッチに手作業で請求書を作成します。

2. 〈請求書の処理〉で、検討および改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
3. 〈契約請求行の照会〉で、留保金をリリースする請求行を選んで[選択]をクリックします。
表示されるフォームは、選択した請求行の価格設定タイプによって変わります。

PeopleSoft

タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

請求書No. 3073 RI 修正No. 1 外貨 USD

契約 No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build 為替レート

変更No. 000 Original 元帳クラス

請求行 134X Labor

予定値 未完了残高 7,569.00-

金額	%	留保額	現期間	%	前期間	%	累計	%
留保			2,000.00	26.42			2,000.00	26.42
繰延税								

4. 〈契約請求行の改訂〉フォームで、[留保額]タブの4つの留保金フィールドのいずれかを更新します。

フォームの留保金額およびパーセントは、リリースではなく留保する金額またはパーセントを示します。留保金をリリースするには、留保金額またはパーセンテージを減らします。請求行の全留保金をリリースするには、留保金額またはパーセンテージとして0を入力します。

5. [OK]をクリックします。

収益認識

収益認識とは、現金に限らず商品やサービスの対価として受け取る収益を計上する際の会計規則です。収益は、事前にではなく発生時点で認識する必要があります。収益認識を使用して、請求書を生成せずに収入に関する元帳仕訳を作成します。

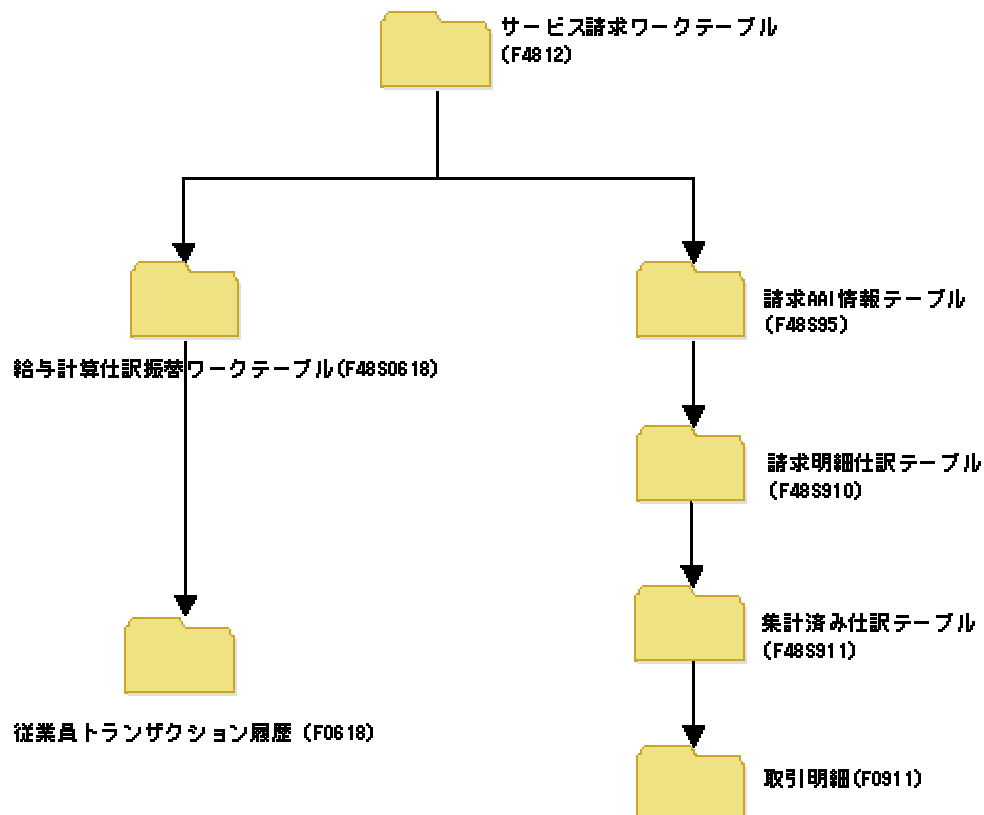
通常、次の場合に収益認識を使用します。

- 作業が完了し、収益が発生したが、まだ顧客に請求する必要がない。
- 会社の現在の財務状況を正しく示すために、発生した収益を損益計算書と貸借対照表に反映させる必要がある。
- 内部費用を再配賦する必要がある。

当期収益(実績または未収)を計算するには、仕訳を作成する必要があります。収益の認識後は、これらの仕訳金額は損益計算書と貸借対照表に反映されます。認識した収益金額は、会社の特定の部門の損益見通しを立てるのに使用できます。

次の図は、収益認識に関係する主要なテーブル間の関係を示します。

収益認識で使用するテーブル



収益認識の理解

収益認識を実行すると、取引明細テーブル(F0911)に収益、費用、マージンの仕訳が作成されます。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で[仕訳振替の制御]オプションを有効にしてある場合は、訂正仕訳も作成されます。

請求システムでは、それぞれの会計業務の条件に最適なモードを選択できるように、多様な仕訳処理が用意されています。仕訳の作成モードは、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]オプションで指定します。次のモードがあります。

請求処理のみ

収益を請求処理から切り離して認識する必要がない場合に使用します。

最終的な請求書仕訳が取引明細テーブル(F0911)に記録され、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を使用してこれらを転記した時点で、実績収益が貸方に記録されます。

収益処理のみ

同じ組織の部門間でのみ請求処理を行い、顧客への売掛金レコードが保管されている売掛金元帳テーブル(F03B11)を更新する必要がない場合に使用します。

最終的な総勘定元帳仕訳が売掛金元帳テーブル(F03B11)に記録され、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を使用してこれらを転記した時点で、実績収益勘定科目と部門間相手科目が貸方に記録されます。

収益を伴う請求

収益を請求処理から切り離して認識できるようにする場合に選択します。

最終的な総勘定元帳仕訳が売掛金元帳テーブル(F03B11)に記録され、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を使用してこれらを転記した時点で、貸方に実績収益、借方に見越売掛金(未請求の売掛金)が記録されます。

最終的な請求書仕訳が売掛金元帳テーブル(F03B11)に記録され、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を使用してこれらを転記した時点で、貸方に見越売掛金勘定、借方に売掛金勘定が記録されます。

収益調整を伴う請求

未収収益を請求処理から切り離して認識する場合、または請求書金額と切り離れた収益割増しを行い、割増し後の収益と未収収益の差額を請求処理の最後にクリアする場合に使用します。

最終的な総勘定元帳仕訳が売掛金元帳テーブル(F03B11)に記録され、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を使用してこれらを転記した時点で、貸方に未収収益(未請求)勘定、借方に見越売掛金(未請求)勘定が記録されます。

最終的な請求書仕訳が売掛金元帳テーブル(F03B11)に記録され、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を使用してこれらを転記した時点で、貸方に実績収益勘定と見越売掛金勘定、借方に未収収益勘定と売掛金勘定が記録されます。

仕訳の自動作成のバージョンとモードの選択

〈総勘定元帳仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)を実行すると、予備的な総勘定元帳仕訳が作成されます。処理オプション:〈総勘定元帳仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)で〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)のバージョンを指定した場合は、取引明細テーブル(F0911)に最終的な総勘定元帳仕訳も作成されます。この処理オプションを空白のままにすると、取引明細テーブル(F0911)に最終的な仕訳が作成されません。

〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)のバージョンを指定せずに〈総勘定元帳仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)を実行すると、取引明細テーブル(F0911)に仕訳が作成されないため、テ

スト・モードでの実行と見なされます。同様に、処理オプションで指定されたバージョンの〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)で〈総勘定元帳仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)を実行すると、最終モードでの実行と見なされます。

取引明細テーブル(F0911)に書き込む前に仕訳を検討するには、〈総勘定元帳仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)をテスト・モードで実行します。仕訳の検討を必要としない場合は、〈仕訳の作成〉プログラムを最終モードで実行します。

注:

プログラムを最終モードで実行したときにエラーが検出された場合は、バッチの状況がエラー状況に設定され、取引明細テーブル(F0911)に最終的な仕訳は作成されません。

仕訳の自動作成での対話型バージョンの使用

〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)から、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)が実行されます。〈仕訳編集レジスタ〉プログラムは、請求システムの仕訳の検証/更新を行います。実行する〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンは、〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)の処理オプションで指定します。

〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)により仕訳を処理する際、処理オプション:〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)で指定したマスター・ビジネス関数(MBF)のバージョンが使用されます。〈仕訳照合レジスタ〉プログラムの処理オプションをブランクにした場合、マスター・ビジネス関数のバージョン ZJDE0001 が使用されます。

仕訳入力マスタービジネス関数の処理オプションを表示するには、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈対話型バージョン〉を選択して、対話型アプリケーションの〈仕訳入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P0900049)を表示します。

収益認識の伝票タイプ

収益認識を完了すると、次のような仕訳が作成されます。伝票タイプから、仕訳の作成元がわかります。

EU - サービス請求収益	〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)を実行したときに作成される仕訳です。
AJ - サービス請求の調整	処理済みの仕訳に対して〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)を実行したときに作成される調整仕訳です。
BA - 請求調整	一般会計システムから入力した振替仕訳です。
T2 - 給与計算の労務費配賦	給与計算システムでの労務費レコード変更により発生した振替仕訳です。
T4 - 労務費請求配賦	労務費請求レコード変更により発生した振替仕訳です。
T5 - 設備費配賦	給与計算システムの設備請求レコード変更により発生した振替仕訳です。

仕訳の振替

請求システム固定情報の仕訳振替の制御と処理オプション:〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)で仕訳の振替を許可しておく、ワークテーブル取引の勘定科目を変更できます。

請求システムの仕訳振替機能を使うと、当初の原価勘定を別の勘定科目に変更した時に、取引明細テーブル(F0911)にその訂正仕訳を自動作成できます。

請求システム固定情報で[仕訳振替の制御]を有効にすると、仕訳の作成時に取引明細テーブル(F0911)に訂正仕訳が作成されます。

たとえば、従業員が支払期間中の2つの作業オーダーに費やした時間を入力し、従業員が支払期間中の時間数を入力する時に、誤った情報を入力したとします。会計部門が給与計算取引を処理した後、金額を検討して従業員のデータ入力ミスに気づいたとします。

この場合、請求明細ワークテーブル(F4812)内のワークテーブル取引の作業オーダー番号を変更すれば、エラーを修正できます。仕訳振替を有効にしておく、〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)の実行時に、収益および原価計算用の予備的な仕訳と共に訂正仕訳が作成されます。取引明細テーブル(F0911)には、当初勘定科目を逆仕訳して新勘定科目を更新するための、調整仕訳が作成されます。

訂正仕訳は、伝票タイプ(AJ)により識別できます。また、請求システム固定情報でPDBAコード一時変更を指定していない限り、仕訳振替のワークテーブル取引の支払タイプ(PDBAコード)には同じ値(標準支払を表す101など)が使用されます。

給与計算システムからのワークテーブル取引を修正する場合は、取引明細テーブル(F0911)に調整仕訳が作成されるのみでなく、〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)の実行時に従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)にも調整仕訳が作成されます。これらの予備的な訂正仕訳は、〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)が完了するまで給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)に保管されます。

関連する総勘定元帳バッチの処理

収益認識と請求処理は、別々に行うことも、まとめて行うこともできます。2つの処理をまとめて行う場合は、関連する総勘定元帳バッチがシステムによって請求書バッチに割り当てられ、請求書仕訳に関連する総勘定元帳仕訳が保存されます。

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、関連する総勘定元帳バッチが取引明細テーブル(F0911)に記録され、請求書仕訳が売掛金元帳テーブル(F03B11)と取引明細テーブル(F0911)に記録されます。

収益調整

収益認識/請求処理と同時に収益調整を行うことができます。収益調整は、認識収益と請求金額を一致させるために使用します。次の場合には、認識収益と請求金額の間に差異が存在する場合があります。

- 収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った。
- 収益金額と請求金額を別々に割り増した。

収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った場合の調整

収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った場合、見越売掛金に差異が発生します。

たとえば、顧客がプロジェクトの完成を承認した後で請求書を作成する予定だとします。プロジェクトの工期は3ヵ月で、収益は毎月認識するとします。プロジェクトの収益認識(毎月)と請求処理(完成後)のタイミングが異なるため、見越売掛金の残高に差異が発生します。

3ヵ月後にプロジェクトについて請求したときに、次の状況が発生します。

- 実際売掛金勘定と収益勘定の残高はそれぞれ等しくなる。
- 見越(未請求)売掛金の正味差異はゼロになる。

収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った結果発生する差異は調節され、見越売掛金はゼロになります。

収益金額と請求金額を別々に割り増した場合の調整

収益金額と請求金額に同じ割増規則を適用した場合、認識収益と請求金額は同じになるのが普通です。ただし、収益と請求の金額を別々に割り増した場合、これらの間の差額は常に存在し続ける可能性があります。

収益金額と請求金額を別々に割り増すが、これらの間の差異をなくしたい場合は、収益調整を使用することにより次のことが達成できます。

- 認識収益と請求金額の差異がなくなる。
- 見越売掛金勘定と未収収益の残高がゼロになる。

たとえば、レンタル機器のレンタル料の値上げを要求するとします。新しいレンタル料は1時間あたり75.00ドルでも、割引が確定するまでは顧客には1時間あたり70.00ドル請求します。

2時間の設備レンタルの場合、請求額は140.00ドルになります。収益認識を新しいレンタル料で行うと、収益額は150.00ドルになります。収益調整を行わないと、見越(未請求)売掛金に10.00ドルの差異が発生します。

収益調整を行わない場合、次の仕訳が作成されます。

収益認識 (借)見越売掛金 150.00ドル、(貸)見越収益 150ドル

請求 (借)実際売掛金 140.00ドル、(貸)見越収益 140ドル

収益調整を使用すると、実績収益が逆仕訳により調整されます。上の例に対して収益調整を行うと、次の仕訳が作成されます。

収益認識 (借)見越売掛金 140.00ドル、(貸)未収収益 140.00ドル

収益調整 (借)未収収益 140.00ドル、(貸)見越売掛金 140.00ドル
 (借)見越売掛金 150.00ドル、(貸)実績収益 150.00ドル

請求 (借)実際売掛金 150.00ドル、(貸)見越収益 140ドル

契約請求行の収益および請求

収益認識と請求のプロセスは、契約請求行がタイム・アンド・マテリアルの関連費用であるかどうかによって異なります。

タイム・アンド・マテリアル 契約請求行	サービス/商品の実際の費用および作業の割増しについて請求する契約の部分。実際の費用には労務費や間接労務費などの給与計算に基づく費用、必要な設備や資材などの給与計算に関係ない費用が含まれます。
非タイム・アンド・マテリアル 契約請求行	固定の手数料や前払い、数量などタイム・アンド・マテリアルに関連しない契約の部分。次の契約請求行は、タイム・アンド・マテリアルに関連しない費用のためのものです。 <ul style="list-style-type: none">• 一括• マイルストーンおよび進捗請求• 金額差引請求およびパーセント差引請求• 単価• 手数料

契約にタイム・アンド・マテリアル請求行が含まれる場合、費用を累計することにより請求プロセスを開始します。費用を累計すると、ワークテーブル取引が作成されます。ワークテーブル取引を使用して請求書を自動的に作成できます。

タイム・アンド・マテリアルについて請求しない場合、費用を累計する必要はありません。その代わりに請求書を自動作成することにより請求プロセスを開始します。請求書を自動作成する場合、契約に対して設定した非タイム・アンド・マテリアル請求行に基づいて請求金額が計算されます。

契約にタイム・アンド・マテリアルの費用が含まれるかどうかに関係なく、請求書は常に手入力で作成できます。

収益は次の請求行タイプについてのみ計算されます。

- タイム・アンド・マテリアル
- 一括
- 単価
- 手数料

収益の逆仕訳

場合によっては、収益を逆仕訳する必要があります。たとえば、費用のみとして処理すべきところを、収益として認識してしまった場合です。

請求固定情報の[仕訳作成の制御]オプションで[調整なしの請求書/収益]が選択しており、取引の適格性コードが0(請求/収益用に使用可能)の場合、当初の収益仕訳を逆仕訳できます。

当初収益仕訳を逆仕訳するには、次の処理を行います。

1. 〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)を実行し、取引の適格性コードを0(請求/収益用に使用可能)から4(原価のみに使用可能)に変更する。
2. 〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)をテスト・モードまたは最終モードで実行し、上で変更したワークテーブル取引を含む新しい収益バッチを作成する。

この取引から以前に作成された仕訳を逆仕訳する伝票タイプ AJ(サービス請求の調整)の伝票が作成されます。作成された仕訳は、〈仕訳編集レジスタ〉レポート(R48300)で確認できます。

例:収益仕訳の逆仕訳

次に当初仕訳と調整仕訳を示します。

次に、当初仕訳(伝票タイプ EU)を示します。

EU	収益	2,222.00-
EU	未請求売掛金	2,222.00
EU	仕掛	2,222.00-
EU	売上原価	2,222.00

次に、ワークテーブルの適格性コードが変更されてから作成される逆仕訳を示します(伝票タイプ AJ)

AJ	収益	2,222.00
AJ	未請求売掛金	2,222.00-
AJ	仕掛	2,222.00
AJ	売上原価	2,222.00-
EU	仕掛	2,222.00-
EU	売上原価	2,222.00

注意:

原価 AAI(自動仕訳)4841((貸)仕掛勘定)と 4842((借)売上原価)が設定されている場合、上記の仕訳は、〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)を初めて実行した時点で作成されます。ワークテーブル取引が総勘定元帳に初めて処理されてから原価 AAI が設定された場合は、当初 EU 仕訳が 4841 と 4842 の勘定科目に対して存在しない場合でも、訂正 AJ 仕訳は 4841 と 4842 の勘定科目に対して作成されます。

一括および単価収益レコードのワークテーブルへの追加

〈収益計上〉メニュー(G5222)から〈収益ワークテーブルの生成〉を選択します。

ワークテーブル生成時に一括および単価請求行にワークテーブル取引を作成しなかった場合、〈収益ワークテーブルの生成〉プログラム(R52120)を使用して、収益認識のテスト仕訳を生成する前にこれらの非タイム・アンド・マテリアル収益レコードをワークテーブルに追加する必要があります。

注:

〈収益ワークテーブルの生成〉プログラムを単独で実行する代わりに、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)の処理オプションを設定して自動でこのプログラムを実行することができます。

〈収益ワークテーブルの生成〉プログラム(R52120)によって、契約の単価および一括の各請求行について請求明細ワークテーブル(F4812)にレコードが1件作成されます。システムが計算する金額は、一括請求行で相互参照されている勘定科目からの実際の費用およびプロジェクトの最終費用が基準となります。また、発生した実際の費用に関係なく、一括収益金額について固定金額も計算されます。一括請求行の収益金額は、完了率方式を使用して計算されます。数量の場合、請求行で相互参照されている勘定科目からの、勘定残高テーブル(F0902)に存在するAU元帳(実績数量)が基準となり金額が計算されます。日付範囲は〈収益ワークテーブルの生成〉プログラムの処理オプションで指定します。

〈収益ワークテーブルの生成〉プログラム(R52120)では、処理中に発生したエラーをリストするレポートが作成されます。

処理オプション: 収益ワークテーブルの生成プログラム(R52120)

選択タブ

ワークテーブルに含める非タイム・アンド・マテリアル収益の取引を作成する際に使用する日付範囲と定期請求コードを指定します。

1. 収益計算する範囲日付の開始日

タイム・アンド・マテリアル以外の収益仕訳を生成する日付範囲の開始日付を入力します。空白にした場合、タイム・アンド・マテリアル以外の収益仕訳は生成されません。

2. 収益計算する範囲日付の終了日

タイム・アンド・マテリアル以外の収益仕訳を生成する日付範囲の終了日付を入力します。空白にした場合や、この日付が日付範囲の開始日付よりも先になっている場合は、タイム・アンド・マテリアル以外の収益仕訳は生成されません。

3. 一括定期請求コード 1

収益作成に使用する定期請求コードを指定します。有効な値はユーザー定義コード(52/RB)に保管されています。

4. 一括定期請求コード 2

収益作成に使用する定期請求コードを指定します。有効な値はユーザー定義コード(52/RB)に保管されています。

5. 一括定期請求コード 3

収益作成に使用する定期請求コードを指定します。有効な値はユーザー定義コード(52/RB)に保管されています。

6. 一括定期請求コード 4

収益作成に使用する定期請求コードを指定します。有効な値はユーザー定義コード(52/RB)に保管されています。

7. 一括定期請求コード 5

収益作成に使用する定期請求コードを指定します。有効な値はユーザー定義コード(52/RB)に保管されています。

予備的な総勘定元帳仕訳の生成

〈収益計上〉メニュー(G5222)から〈仕訳の自動作成〉を選択します。

〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)を実行すると、次の処理が行われます。

- データ選択と処理オプションの指定に基づいてワークテーブル取引を選択する。
- 上限金額の処理について、収益金額が上限を超えているかどうかを判断する。上限金額を超えた場合、契約収益集計ワークテーブル(F5280W)とサービス請求ワークテーブル(F4812)に相殺レコードが作成され、上限超過レポート(R521331)が生成されます。このレポートには上限を超えたレコードがリストされます。
- 請求ワークテーブル(F4812)に収益手数料のレコードを作成し、手数料レコードの予備的な仕訳を生成する。
- 請求固定情報で[仕訳振替の制御]オプションが選択されている場合は、福利厚生/見越明細テーブル(F0619)の当初取引、請求ワークテーブル(F4812)および請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)の情報を使用して、給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)に振替仕訳を作成する。

注:

〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)は、多通貨時間会計に対応しています。

- 請求 AAI を使って会計規則を読み込み、選択されたワークテーブル取引を処理する。
- 請求 AAI の会計規則を適用して、請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)に明細仕訳を作成する。
- 請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)に保管されている仕訳を集計し、集計済みレコードを集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)に保管する。
- 契約収益集計ワークテーブル(F5280W)にレコードを記録する。

- 〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行し、集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)の予備的な集計仕訳を検証する。

参照

- 「仕訳振替の制御」オプションについては、『契約請求』ガイドの「請求システム固定情報の設定」
- 請求 AAI の会計規則を使用した明細仕訳の作成については、『契約請求』ガイドの「請求 AAI の処理」

仕訳の種類

請求システムでは次の 2 種類のタイプの仕訳が処理されます。

- 予備的な仕訳は、次のテーブルに保管された検討用の仕訳である。
 - 請求明細仕訳テーブル(F48S910)
 - 集計済み仕訳テーブル(F48S911)
 - 給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)
- 最終仕訳とは、請求システムにより取引明細テーブル(F0911)に保管された仕訳である。〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を実行してこれらの仕訳を転記する必要があります。

はじめる前に

- タイム・アンド・マテリアルと非タイム・アンド・マテリアルの請求行についてワークテーブル取引を生成します。『契約請求』ガイドの「ワークテーブルの生成」を参照してください。
- 請求 AAI を定義します。『契約請求』ガイドの「請求 AAI の処理」を参照してください。
- 〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)の処理オプションで一般会計マスター・ビジネス関数のバージョンを指定します。『契約請求』ガイドの「総勘定元帳仕訳の自動作成での対話型バージョンの使用」を参照してください。

処理オプション:〈総勘定元帳仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)

デフォルト・タブ

作成される収益仕訳に割り当てる元帳日付と摘要を指定します。

1. 元帳日付

blank = 元取引の元帳日付を使用

生成する収益仕訳の元帳日付を指定します。この日付は収益仕訳の生成時に割り当てられ、転記時に使用されます。blankとした場合、ソース取引の元帳日付が使用されます。この日付は、会社固定情報の現行会計期間と照合されます。

2. 仕訳記述

blank = 勘定科目マスターの記述を使用

-
- 1 = 請求 AAI テーブルの記述を使用
 - 2 = 補助元帳値に関連付けられた記述を使用

仕訳に割り当てる摘要を指定します。有効な値は次のとおりです。

- blank = 勘定科目マスター(F0901)の記述
- 1 = AAI テーブルの記述
 - 2 = 補助元帳の値に関連付けられた記述
-

選択タブ

収益の準備仕訳を作成する請求明細レコードを選択する締切日付を指定します。

1. 締切り日付

blank = システム日付

収益仕訳を生成する元になる請求明細取引を選択する際の締切日付を指定します。収益仕訳を生成する際、テーブル基準日がここで指定した締切日以前の請求明細が選択されます。blank にした場合は、システム日付が使用されます。

バージョン・タブ

実行する〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンを指定します。

1. 仕訳照合レジスタ(R48300)のバージョン

blank = XJDE0001

仕訳照合レジスタ(R48300)のバージョンを指定します。blank にした場合、XJDE0001 が使用されます。

処理タブ

仕訳を生成するかどうかを指定します。

仕訳作成バージョン (R48198)

最終モードで仕訳を生成するかどうかを指定します。〈仕訳の作成〉プログラム(R48198) のバージョンを指定します。blank にした場合、〈仕訳の作成〉プログラムは実行されません。

総勘定元帳バッチの処理

請求システムのバッチは、すべて〈バッチの検討〉プログラム(P48221)で処理します。取引を含むバッチを選択して、次の処理に進みます。バッチ処理のデフォルト・バージョンは処理オプションで指定できます。

注:

バッチを削除しても、バッチ番号の監査証跡は記録されません。バッチ番号は基本環境(システム00)の自動採番により割り当てられます。

請求システムのバッチ処理を適切に進めるために、バッチ見出しレコードの[処理状況]フィールドは、バッチの処理時に更新されます。たとえば、バッチを選択して〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行すると、[現在の処理状況]フィールドはバッチが処理中であることを示す値に更新されます。その結果、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)が処理を完了するまで、他のユーザーはこのバッチにアクセスできなくなります。処理の完了後には処理状況が0にリセットされ、バッチに対して次の処理が行えるようになります。

次の場合には、[現在の処理状況]設定を手動でリセットする必要があります。

- バッチ処理が正常に完了しなかった場合。この場合、[現在の処理状況]はリセットされません。
- バッチを処理対象として選択した後で、〈レポート出力先〉フォームでバッチ処理を取り消した。

〈バッチの処理〉フォームの[ロー]メニューから〈バッチ見出しの改訂〉フォームにアクセスし、バッチの処理状況を改訂できます。たとえば、この操作が必要になるのは、〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)が停電のために正常終了しなかった場合などです。この場合、[処理状況]フィールドの値が処理中になり、バッチにアクセスできなくなるため、次の処理を進められなくなります。

参照

- バッチ見出しレコードの処理状況をリセットする方法については、『契約請求』ガイドの「請求書バッチ見出し情報の改訂」を参照してください。

予備的な総勘定元帳仕訳の検討

〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行すると、予備的な集計仕訳の検討用レポートが印刷されます。このレポートにより、仕訳の確認もできます。〈従業員ワーク・センター〉プログラム(P012501)を使用して、レポートに表示されるエラー・メッセージを検討します。

▶ 予備的な総勘定元帳仕訳を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈収益計上〉メニュー(G48S22)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈収益計上〉メニュー(G5222)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定の買掛伝票バッチの伝票情報を〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)に実行するには、該当するバッチを選択し、[ロー]メニューから[仕訳編集レジスタ]を選択します。

参照

- 『契約請求ガイド』の「処理オプション:〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)」

予備的な総勘定元帳仕訳の改訂

バッチ内の予備的な仕訳は、数が多くて複雑なため改訂できません。ただし、エラーを修正し、バッチのエラー状況をリセットすることはできます。エラーになったバッチの修正方法は、システムによって検出されるエラーの種類によります。

予備的な仕訳のバッチを作成すると、その予備的な仕訳がチェックされます。ここで検出されるエラーには次の2種類があります。

- 一般会計システムのセットアップ・エラー
- 請求システムのセットアップ・エラー

一般会計システムのセットアップ・エラー

一般会計システムのセットアップ・エラーは、一般会計システムのセットアップ情報が正しくない場合に発生します。通常は、予備的な仕訳を削除せずにこれらのエラーを訂正できます。一般会計システムのセットアップ情報を修正してから、〈仕訳編集レジスタ〉レポート(R48300)を再実行します。予備的な仕訳が再び編集され、エラーが検出されなかった場合は、バッチ状況が更新されてエラーがないことが示されます。これは、最終的な仕訳を作成する準備が整ったことを意味します。

請求システムのセットアップ・エラー

請求システムのセットアップ・エラーは、請求システムのセットアップ情報が正しくない場合に発生します。請求システムのセットアップ・エラーを修正するには、予備的な仕訳バッチを削除し、請求システムのセットアップ情報を訂正する必要があります。訂正後は、予備的な仕訳を作成するために、〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)を再度実行する必要があります。

注:

〈仕訳の作成〉プログラム(R48132)は、実行するたびに新しいバッチ番号を割り当てます。エラーが検出されなかった場合、バッチ状況はエラーがないことを示し、最終的な仕訳の処理を続行できます。

総勘定元帳最終仕訳の作成

取引明細テーブル(F0911)に最終仕訳を作成することにより請求システムでの収益認識が完了します。最終的な仕訳の作成は、〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)により行います。最終的な総勘定元帳仕訳の作成後は、一般会計システムの〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)によりそれらを転記します。最終的な仕訳を作成した後でそれらを自動的に転記するには、処理オプション:〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)で、実行する〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)のバージョンを指定しておきます。このプログラムは、後から手作業で実行することもできます。

最終的な仕訳の作成時には、次の処理が行われます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)の情報を基に、一般会計システムのバッチ制御テーブル(F0011)にバッチ見出しレコードを作成する。

- 集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)の仕訳を取引明細テーブル(F0911)に書き込む(最終仕訳)。
- 契約収益集計ワークテーブル(F5280W)のレコードを元に契約収益集計テーブル(F5280)を更新する。
- 請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)のレコードを総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)に書き込む。
- ワークテーブル取引の仕訳状況を「仕訳作成済み」に更新する。
- 取引レコードの適格性コードが0(収益/費用にのみ使用可能)または4(費用にのみ使用可能)の場合は、サービス請求ワークテーブル(F4812)から請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)に移動する。

注:

固定情報の[仕訳作成の制御]オプションが「調整なしの請求書/収益」に設定されていると、非タイム・アンド・マテリアル収益レコードは F4812 テーブルから F4812H テーブルに移動されます。ただし、[仕訳作成の制御]オプションが「調整ありの請求書/収益」に設定されていると、F4812 テーブルにある非タイム・アンド・マテリアル収益ワークテーブルのレコードは更新されますが、F4812H テーブルには移動されません。

- 〈サービス請求固定情報〉の[仕訳振替の制御]オプションがオンで、最終仕訳の作成時に給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)に振替レコードが見つかった場合、その取引を従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)に書き込む。

注:

〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)は、多通貨時間会計に対応しています。

- 請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)、集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)、および給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)から取引を削除する。
- 契約収益集計ワークテーブル(F5280W)からレコードを削除する。
- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)からバッチ見出しレコードを削除する。
- 見出しのみ含むレポートを作成する。

エラーの内容は、レポートに印刷されません。詳細情報については、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)または〈ワーク・センター〉を参照してください。

▶ 総勘定元帳最終仕訳を作成するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈収益計上〉メニュー(G48S22)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈収益計上〉メニュー(G5222)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドに入力し、[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチの総勘定元帳最終仕訳を作成するには、バッチを選択し、[ロー]メニューから[振替仕訳の生成]を選択します。

処理オプション:〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)

バージョン・タブ

〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)から実行する各プログラムのバージョンを指定します。

1. 仕訳編集レジスタ(R48300)のバージョン

blank = XJDE0001

仕訳帳処理に使用する〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンを指定します。blankにすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

2. 仕訳の転記プログラム (R09801)のバージョン

blank = 自動転記なし

元帳バッチの自動転記に使用する〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)のバージョンを指定します。blankにした場合、元帳バッチの自動転記は行われません。標準の〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)をあとから実行することにより転記できます。

バッチ承認タブ

〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)の実行時に総勘定元帳バッチを自動承認するかどうかを指定します。自動承認にすると、一般会計システム固定情報の[管理者承認必須]オプションの設定は無視されます。

1. バッチ承認

1 = バッチを承認に設定

このバッチ処理により生成される元帳バッチに適用するバッチ状況を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 一般会計固定情報で指定したバッチ状況

1 承認済み

総勘定元帳バッチの転記

次のいずれかを選択します。

〈収益認識〉メニュー(G48S22)から〈仕訳の転記〉を選択します。

〈収益認識〉メニュー(G5222)から〈仕訳の転記〉を選択します。

総勘定元帳最終仕訳を作成した後に、最終仕訳を検討および承認し、取引明細テーブル(F0911)に転記して、収益認識の処理を完了します。

仕訳バッチの転記時に、取引明細テーブル(F0911)に相手科目レコードが自動的に作成され、取引明細レコードが転記済みとして更新されます。

仕訳の検討および転記に使用するプログラムは、一般会計システムで使用するものと同じです。

次のいずれかの方法を選択して〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を実行できます。

- ・ 〈収益認識〉メニューから〈仕訳の転記〉を直接選択する。
- ・ 〈収益認識〉メニューから〈仕訳の検討〉を選択し、〈バッチの処理〉フォームの[ロー]メニューから[バッチ別の転記]を選択する。この方法では、バッチを検討してから転記できます。

また、選択するナビゲーションは、使用する転記方法に応じて異なります。〈仕訳の転記〉メニュー・オプションから転記した場合は、次の処理を行うことができます。

- ・ すべての承認済みバッチをまとめて転記する。
- ・ データ選択により条件を指定して転記する。

〈仕訳の検討〉プログラムから転記する場合、次の処理を実行することができます。

- ・ 自動データ選択を使って転記する。
- ・ 自動データ選択とサブシステムを使って転記する。

これらの機能は、〈仕訳の検討〉プログラムからのみ使用できます。

参照

- 仕訳の改訂および転記については、『一般会計』ガイドの「仕訳の処理」

契約収益集計テーブルの再作成

〈上級技術操作〉メニュー(G5231)から〈契約収益集計の再作成〉を選択します。

契約収益集計テーブル(F5280)のデータが削除されたり、請求明細ワークテーブル(F4812)や請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)と一致しなくなった場合、F4812 テーブルおよび F4812H テーブルからのデータを使用して、契約請求行明細テーブル(F5202)の契約請求行の集計テーブルを再作成できます。

注意:

〈契約収益集計の再作成〉プログラム(R52809)は、特殊な状態のデータを復元するよう設計されています。このプログラムはシステム管理者が必要な場合にのみ実行してください。

アクティブな収益バッチが契約請求システムにある場合にこのプログラムを実行すると、予想外の結果となることがあります。また、このプログラムは夜間などピーク時を避けて実行してください。

〈契約収益集計の再作成〉プログラム(R52809)では、見出しのみ表示するレポートが作成されます。レポートによって、プロセスが正常に完了したことが確認されます。ただし、レポートに情報は印刷されません。

システム・セットアップ

請求システムを使用する前に、請求処理に関する固定情報と規則を定義する必要があります。システム固定情報と規則により、次の情報を設定します。

- ソース取引を請求 AAI および割増規則により処理する際の日付(サービス/税日付、元帳日付、その他の有効日付)の扱い
- 請求 AAI による仕訳作成
- EnterpriseOne 給与計算および時間会計システムで入力された請求対象取引の処理

セットアップ機能

次の表に、契約請求で設定する必要のある各種構成要素について説明します。

請求固定情報	次のグローバル処理を制御します。 <ul style="list-style-type: none">• 請求費用• 顧客情報• 日付• 請求書• 仕訳• デフォルト割増し
割増規則	間接費と利益を計上するために費用に追加する金額の計算を定義します。
請求 AAI	請求、収益認識、および再配賦のために仕訳取引の処理に使用する会計規則を定義します。
追加料金規則	金額と数量に基づいて計算する追加割増しを定義します。割増規則および請求 AAI は、追加割増しの定義にも使用されます。
AAI(自動仕訳)	会計情報と総勘定元帳の関係を定義します。
ユーザー定義コード	追加料金コードや調整理由など、システム用のカスタムコードを定義します。

請求システム固定情報の設定

請求システム固定情報には、ソース取引およびそれから作成する請求を会社としてどう処理するかを定義します。固定情報により、次の情報の処理方法が制御されます。

- 請求費用
- 顧客情報
- 日付
- 請求書
- 仕訳入力

- デフォルトの割増率
- 多通貨取引
- テスト請求書および最終請求書の番号付け
- 非タイム・アンド・マテリアル取引の収益認識(契約請求のみ)

設定した固定情報は、後から変更しないようにする必要があります。固定情報は、請求システム固定情報テーブル(F48091)に保存されます。

収益金額と請求金額を別々に割り増した場合の注意点

収益金額と請求金額を別々に割り増した場合、請求システム固定情報の[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]オプションで[調整なしの請求書/収益]と[調整ありの請求書/収益]のどちらを選択するかによって、見越売掛金勘定と未収収益の残高が異なってきます([仕訳作成の制御]オプションは、<請求固定情報>フォームの[仕訳記録制御]タブに表示されます)。

<請求固定情報>フォームの[請求書/収益が異なることを許可する]オプションでは、ワークテーブル取引について計算される割増金額で、請求書金額と収益金額に同じ規則を使用する必要があるかどうかを指定します。[請求書/収益が異なることを許可する]オプションがオフで、[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]で[調整なしの請求書/収益]が選択されている場合、見越売掛金勘定と実際の売掛金勘定の金額には常に差異が生じます。請求書金額と収益金額はいつも異なります。

[請求書/収益が異なることを許可する]オプションがオンで、[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]オプションで[調整ありの請求書/収益]が選択されている場合、見越売掛金勘定と未収収益の金額は調整されます。ただし、請求書金額と収益金額は同じである必要はありません。

次に請求システム固定情報の設定値と収益認識金額の関係を示します。

システム固定情報		収益認識の結果		
仕訳作成の制御	請求書/収益が異なることを許可する	収益金額	請求書金額	見越売掛金
調整なしの請求書/収益	オフ	等しい	等しい	差異なし
調整なしの請求書/収益	オン	異なる	異なる	差異
調整ありの請求書/収益	オフ	等しい	等しい	差異なし
調整ありの請求書/収益	オン	異なる	異なる	差異なし

注:

[請求書/収益が異なることを許可する]オプションがオフの場合、請求書金額は常に収益金額と等しくなります。[請求書/収益が異なることを許可する]オプションがオンの場合、請求書金額と収益金額は異なる場合があります。

はじめる前に

- 請求書のデフォルト伝票タイプが、ユーザー定義コード(00/DT)と(00/DI)に設定されていることを確認します。

▶ 請求システム固定情報を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から〈サービス請求固定情報〉を選択します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G5240)から〈契約請求固定情報〉を選択します。

PeopleSoft
サービス請求固定情報

OK キャンセル ツール

ワークテーブル生成制御 日付処理 請求制御 仕訳記録制御 集約集計制御

☒ 労務費請求
☐ 未転記請求
☒ 契約収益制御

通貨

通貨モード ☐ 国内 ☒ 外貨

為替レート基準日 1 前月の最終日

1. 〈サービス請求固定情報〉で、[ワークテーブル生成制御]タブを選択し、次のいずれかのオプションをクリックします。
 - 労務費請求
 - 未転記請求
2. 非タイム・アンド・マテリアル請求行を収益認識する場合は、次のオプションをオンにします。
 - 契約収益制御この指定は、契約請求システムにのみ適用されます。
3. 通貨モードを指定します。
4. 次のフィールドに値を入力します。
 - 為替レート基準日
5. [日付処理]タブを選択し、次の基準として使用する日付をクリックします。
 - 有効日付基準

- 労務費有効日付基準
 - サービス/税の基準日
6. [請求制御]タブを選択し、次のオプションのいずれかをクリックします。
 - 顧客 No.基準
 - 請求書日付の一時変更
 7. 請求書集計アクセス・テーブル(F48520)を作成して管理する場合は、[請求書集計アクセス・テーブルの作成]をオンにします。
 8. テスト請求書と最終請求書で異なる請求書番号を使用する場合は、[請求書番号制御]オプションをオンにし、次のフィールドに値を入力します。
 - デフォルト請求書タイプ
 9. [仕訳記録制御]タブを選択し、[仕訳作成の制御]オプションをクリックします。
 10. 仕訳振替を有効にするには、[仕訳振替の制御]オプションをオンにします。
 11. 上限(NTE)処理を有効にするには、[上限金額(NTE)制御]オプションを有効にします(契約請求システムでのみ有効)。
 12. 次のフィールドに値を入力します。
 - PDBA コード一時変更
 13. [割増制御]タブを選択し、次のフィールドに値を入力します。
 - デフォルト割増しパーセント

注:

割増しは、タイム・アンド・マテリアル取引にのみ使用されます。

14. 請求書金額と収益金額を個別に割り増すには、次のオプションをクリックします。
 - 請求書/収益の金額が異なることを許可する
15. [OK]をクリックします。

参照

- [請求書番号制御]オプションの詳細については、『契約請求』ガイドの「テスト請求書および最終請求書の番号付け」

フィールド記述

記述

労務費請求

用語解説

間接労務費は、会社が従業員を雇用する際に負担する費用(たとえば、会社が支払う税金、保険、追加給付)です。これには、小規模の工具、消耗品、および直接労務費として配賦または評価されるその他の間接経費も含まれます。

サービス請求システムおよび契約請求システムでワークテーブルを生成する際に間接労務費を含めるかどうかは、請求間接労務費固定情報で制御します。間接労務費を含める場合には、次の事に注意してください。

- ・ 請求対象の給与計算取引に関連するすべての間接労務費が処理されます。
- ・ 間接労務費勘定科目は請求用の勘定科目である必要があります。

有効な値は次のとおりです。

- 0 = 間接労務費を含める
- 1 = 間接労務費を含めない

未転記請求

サービス請求と契約請求用のワークファイルの作成時に取引明細テーブルの未転記の請求対象取引を含めるかどうかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。

- 0 = 取引明細テーブルの転記済みの請求対象取引のみを処理する。
- 1 = 取引明細テーブルの未転記と転記済みの両方の請求取引を処理する。

注: 未転記の請求対象取引は、変更または削除される可能性がありますので、通常はワークファイルの作成時には未転記取引を含めないようにしてください。ただし、原価入力と請求書の入力をほぼ同時に行う場合は、未転記取引も含めてワークファイルを作成したほうが便利な場合があります。

契約収益制御

請求処理の前にタイム・アンド・マテリアル契約請求行以外の行に対して、収益認識のために請求明細取引を作成するかどうかを指定するオプション。非 T&M 契約請求行の収益を認識するための請求明細取引を作成する場合は、このオプションをオンにします。

注: タイム・アンド・マテリアル契約請求行以外の行に対して請求明細取引を作成する場合、次の処理が実行されます。

- ワークテーブル生成時に一括請求行と単価請求行の収益金額が生成される
- 収益の作成時に手数料請求行に対する収益金額が生成される

為替レート基準日

為替レートを取り込む日付を指定する固定情報です。

有効な値は次のとおりです。

- 1 = 前月の最終日付を使用する。
この日付は会社の期間パターンを基準にして決められます。
- 2 = 請求原価(ソース)取引の日付を使用する。
この日付は、請求固定情報の有効日付基準と作業有効日基準の値に基づいて決められます。
- 3 = システム日付を使用する。
(高インフレ経済で操業している場合のみ使用してください)

注: サービス請求モジュールでは、請求明細取引を作成するワークファイル生成時の為替レートと、請求書生成時の為替レートの2通りの為替レートを使用できます。この指定は、ワークテーブル生成に関係します。この値は、請求書の作成時に一時変更できます。

有効基準日	<p>テーブルの有効日付を比較する際に、請求可能ソース取引の元帳日付を使用するか、サービス／税日付を使用するかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 元帳日付 2 サービス/税日付 <p>注: サービス請求システムおよび契約請求システムでは、請求処理の際、請求料金/割増しテーブル(F48096)と勘定科目決定基準テーブル(F48126)が使用されます。この日付範囲によって、テーブル情報の有効期間を制御することができます。</p>
作業の有効基準日	<p>テーブルの有効日付を比較する基準として使用する日付を指定するコード。日付は給与計算システムで発生する請求可能ソース取引の日付である必要があります。有効な値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 元帳日付 2 サービス/税日付 3 作業日 4 支払期間終了日 <p>請求処理を給与計算システムと連動させない場合、このコードは無視されます。</p> <p>注: サービス請求システムおよび契約請求システムでは、請求処理の際、請求料金/割増しテーブル(F48096)と勘定科目決定基準テーブル(F48126)が使用されます。この日付範囲によって、テーブル情報の有効期間を制御することができます。</p>
サービス/税の基準日	<p>サービス/税日付として元帳日付を使用するか、売掛取引の請求書日付を使用するかを指定する固定情報。有効なコードは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 0 = 元帳日付 1 = 請求書日付
顧客 No.基準	<p>取引に対して請求を行うためには、すべてのワークファイル取引に取引先番号が含まれている必要があります。それぞれの作業または作業オーダーの顧客番号を指定する必要があります。</p> <p>サービス請求システムの場合、請求明細取引に対して、どの顧客番号を検索するかを指定する定数です。有効な値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 0 作業マスター(F0006)の所有者住所番号。 1 作業オーダーマスター(F4801)の顧客番号。ブランクにした場合、作業マスターから所有者住所番号が検索されます。 <p>このフィールドを“0”に設定して作業の顧客番号を指定しなかった場合、顧客番号なしの請求書が作成されます。〈単一ビジネスユニット〉フォームにある住所録番号は顧客番号ではありません。</p>
請求書日付の一時変更	<p>請求仕訳生成および買掛管理／総勘定元帳プログラムを使用して、請求書日付、元帳日付を一時変更できるかどうかを決定する固定情報。有効な値は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 0 = 日付一時変更ウィンドウにアクセスできません。 1 = 日付一時変更ウィンドウはオプションです。 2 = 日付一時変更ウィンドウは自動的に表示されます。 <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>〈請求書仕訳の生成〉および〈売掛仕訳および振替仕訳の作成〉プログラムを使用する際に、請求書日付および元帳日付を一時変更できるかどうかを指定する固定情報。有効な値は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 0 = 日付の一時変更ウィンドウにアクセス不可にする 1 = 日付の一時変更ウィンドウにアクセス可能にする 2 = システムが日付一時変更ウィンドウを自動的に表示する

請求書集計アクセス・テーブルの作成

＜請求書集計アクセス＞テーブル(F48520)が作成され、保守管理されるかどうかを決定する固定情報。このテーブルには、元帳日付、従業員／仕入先、費用勘定科目番号、および契約所有者支払項目別に集計された累計請求金額が含まれます。このテーブルを保守管理する場合、十分なディスクスペースが必要です。集計された請求情報は、サービス／契約請求の請求書に請求額累計を表示するなど、さまざまな報告目的に使うことができます。有効な値は次のとおりです。

ブランク ファイルの作成および保守管理を行う。

1 ファイルの作成および保守管理を行わない。

請求累計額所有者支払項目別に請求書集計テーブル(F4822)に保管されます。請求書集計アクセステーブル(F4822)には、請求書集計テーブル(F4822)よりも詳細な請求類型額が保管されます。

--- フォーム固有 ---

システムが請求書集計アクセス・テーブル(F48520)を作成して使用するかどうかを指定する固定情報。

このテーブルには元帳日付、従業員／仕入先、原価勘定番号および契約所有者の支払項目別に集計された累積請求金額が含まれます。このテーブルを使用する場合は、さらにディスク容量が余分に必要です。集計請求情報は、レポートにサービス/契約の請求書上に請求日までの累計金額を表示する場合などに使用できます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

請求書番号制御

下書きと最終という2つの伝票タイプおよびそれに対応する請求書番号を使用するかどうかを指定するオプション。これは、スキップのない連番で請求書番号を使用する規則のある国に対応するものです。請求書番号を連番にする場合、少なくとも2つの伝票タイプを使用する必要があります。この場合、まず伝票タイプ「下書き」で伝票を作成し、最終的な売掛金仕訳または元帳仕訳を作成する段階で伝票タイプ「最終」の仕訳を作成します。有効な値は次のとおりです。

0 「下書き」および「最終」の請求書に対して、同じ請求書タイプと番号を使用する

1 「下書き」および「最終」の請求書に対して、異なる請求書タイプと番号を使用する

デフォルト請求書タイプ

請求書入力用のユーザー定義(00/DI)。請求書入力専用を設定する伝票タイプは、文字 R(売掛金)で始まる必要があります。デフォルト値は RI、RR または RM となります。買掛伝票、請求書、入荷確認書およびタイムカード入力用に伝票タイプが予約されています。

予約済み伝票タイプは次のとおりです。

P - 買掛金伝票

R - 売掛金伝票

T - 給与計算伝票

I - 在庫伝票

O - オーダー処理伝票

注: 請求書入力用に伝票タイプ DI が使用されている場合は、ユーザー定義コードで伝票タイプ DT も設定する必要があります。

仕訳作成の制御	<p>サービス請求および契約請求システムで仕訳生成を制御する固定情報。有効なコードは次のとおりです。</p> <p>1 = 請求処理のみ 2 = 収益認識処理のみ 3 = 収益調整を必要としない収益認識および請求書処理 4 = 収益調整を必要とする収益認識および請求書処理</p> <p>次の機能も使用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 請求明細取引の適格性コード(ELGC)の初期値 ・ 勘定科目決定基準テーブル画面で情報を入力した時のテーブルタイプ(TBTY)の編集
仕訳振替の制御	<p>仕訳の生成する際に仕訳を振り替えるかどうかを指定する固定情報。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 = 仕訳を振り替えない 1 = 仕訳を振り替える</p> <p>注: サービス請求/契約請求では、〈仕訳振替〉を使用すると、当初仕訳を別の勘定科目に振り替え、自動的に取引明細(F0911)に修正仕訳が作成できます。たとえば、給与計算で入力された請求料金仕訳を修正する場合、給与計算トランザクション履歴(F0618)に調整仕訳が作成されます。</p>
最高限度(NTE)制御	<p>契約請求で上限(NTE)処理を行うかどうかを指定するオプション。上限(NTE)処理を行う場合はこのオプションをオンにしてください。</p>
PDBA コード一時変更	<p>当初の給与取引の支払タイプを一時変更するコード。このコードは、仕訳振替時に給与履歴調整取引を作成するのに使用されます。</p> <p>注: 支払タイプの番号は 1 から 999 までです。</p>
デフォルト割増しパーセント	<p>収益用の割増し計算に使用する割増し率で、専門技能サービス(製図、エンジニアまたはコンサルタント料など)の請求額に反映されます。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。この割増し率は、請求料金/割増しテーブル(WorldSoftware では原価割増しテーブル)で、生成タイプ 1(収益/請求書の割増しレート・テーブル)として設定します。入力するパーセント値は整数で入力してください。たとえば 50.275%は"50.275"と入力します。</p>
請求書/収益の金額が異なることを許可する	<p>請求明細取引の収益額と請求額を別々に割増しできるかどうかを指定するオプション。このオプションを選択すると、請求額と収益額の相互に影響を与えずに操作して処理できます。このオプションを選択しない場合は、請求取引明細の収益額と請求額が常に同額となります。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>請求明細取引の収益額と請求額を別々に割増しできるかどうかを指定する固定情報です。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 = 請求明細取引上の収益額と請求額を常に等しくする 1 = 請求額と収益額をお互いに関係なく処理および変更できるようにする</p>

請求料金/割増規則の定義

ワークテーブル取引を生成または改訂する前に、請求料金/割増テーブル(F48906)で割増規則を設定する必要があります。請求レートとは、顧客に提供した商品/サービスの請求料金の計算時に、作業数量を掛けて使用する単位あたり請求金額です。割増しとは、顧客への請求書料金の算出のために実績費用に上乗せする金額で、費用の一定パーセントまたは固定金額により指定します。

割増金額は、ワークテーブル取引を生成および改訂したときに、請求システムのセットアップ時に定義した割増規則に基づいて計算されます。

請求料金と割増規則を定義するには、主キーと補助キーの値を指定します。これらの値の組合せにより、個々のソース取引に適用される請求料金/割増規則が決まります。

ワークテーブル取引を生成/改訂すると、次のように割増計算が行われます。

- 割増規則にアクセスする。
- ソース取引の主キーに対応する規則を選択する。
- マイナー・キーに基づいてソース取引の選択範囲を限定し、検索を続行する。
- 該当する割増計算規則に基づいて、個々の取引の割増金額が計算されます。
- ワークテーブル取引に割増金額を記録する。

割増情報は、請求料金/割増テーブル(F48096)に保存されます。

ワークテーブル取引を生成/改訂すると、割増規則のキー値が取引の同じ値と照合されます。見つかったうち最も限定的な規則を使用して、ワークテーブル取引の割増金額が計算されます。

通常は、請求システムで処理するワークテーブル取引のほとんどに該当する汎用的な割増規則を定義します。さらに、例外的なワークテーブル取引用に割増規則を追加定義することもできます。たとえば、個々の顧客または作業オーダーに適用する代替割増レートを規定した割増規則を定義できます。

ソース取引の割増しが不要な場合は、原価で処理されます。ソース取引を原価で請求明細ワークテーブル(F4812)に書き込む場合でも、請求料金/割増規則に次の情報を含める必要があります。

- 取引に関連する勘定科目を含む勘定科目範囲
- 割増計算用のブランクのフィールド

これらの情報を設定しない場合、請求システム固定情報で設定したデフォルト割増規則またはデフォルト割増率を使用してソース取引に割増しが適用されます。

請求料金/割増規則で設定されているキーの値に該当しない取引には、デフォルトの請求料金/割増規則を使用して割増金額が計算されます。次の2種類のデフォルト請求料金/割増規則を定義できます。

- 主キー
- マイナー・キー

主キーのデフォルト割増規則の場合は、キー・タイプとして9、テーブル・キーとして"*ALL"を指定します。マイナー・キー・デフォルト割増規則は、勘定科目範囲をブランクにして、割増計算を指定します。

マイナー・キーの割増計算を指定しなければ、取引は原価のまま処理されます。取引の主キー値または補助キー値が定義した割増規則のいずれとも一致しなければ、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で定義したデフォルトの割増率が使用されます。

請求料金/割増規則の有効日付は、規則の設定時に指定した日付になります。有効日付は変更できません。ただし、既存の請求料金/割増規則をコピーして、それに新しい有効日付を設定することができます。

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)と〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)を実行すると、請求料金/割増テーブル(F48096)がアクセスされ、割増情報がワークテーブル取引に適用されます。

参照

- 割増規則のキー値とワークテーブル取引内の同じ値の照合方法については、『契約請求』ガイドの「請求料金/割増規則の検索」

請求料金/割増テーブルの主キー

定義する請求料金/割増テーブル(F48096)ごとに、主キーを指定する必要があります。主キーには次の情報が含まれます。

生成タイプ

生成タイプにより、請求金額、収益金額、または追加料金の計算に割増規則を適用するかどうかを指定します。請求システム固定情報の設定内容によっては、金額ごとに異なる割増規則を適用できます。

請求料金/割増テーブルの生成タイプ

請求料金/割増テーブル(F48096)の生成タイプを使用して、ワークテーブル取引に対する割増しの適用方法を制御します。生成タイプは次のとおりです。

生成タイプ 1	請求書、収益、追加料金。請求書金額と収益金額の両方が同一の方法で計算される場合は、この生成タイプで請求料金/割増テーブル(F48096)を設定します。
生成タイプ 2	収益金額と追加料金金額。収益金額を請求金額とは別個に計算する必要がある場合は、請求料金/割増テーブル(F48096)を生成タイプとして設定します。請求金額の割増規則は生成タイプ 1 を使用して設定し、収益金額の割増規則は生成タイプ 2 を使用して設定します。生成タイプ 2 の割増テーブルが見つからなければ、生成タイプ 1 で見つかった計算を使用して収益金額が計算されます。生成タイプ 2 の請求料金/割増テーブル(F48096)を有効にするには、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[請求書/収益が異なることを許可する]オプションを 1 に設定する必要があります。
生成タイプ 3	追加料金。追加料金の作成を必要とする場合は、請求料金/割増しテーブル(F48096)を生成タイプ 3 として設定します。
生成タイプ P	再請求レート。多通貨時間会計での処理を必要とする場合は、生成タイプ P として設定します。

キー・タイプ

割増テーブルの主キー値のタイプを定義します。ハードコードされている 9 個の値が使用されます。

テーブル・キー

キー・タイプに基づいて、主キー値の詳細を定義します。

キー・タイプとテーブル・キー

次のキー・タイプをテーブル・キーと組み合わせて、割増テーブルを定義します。

- 1 作業オーダー
- 2 作業オーダー・クラス(作業オーダー・マスターのカテゴリ・コード 07)
- 3 契約番号
- 4 親契約番号
- 5 顧客番号
- 6 ビジネスユニット番号
- 7 ビジネスユニット・クラス[ビジネスユニット・マスター(F0006)のカテゴリ・コード 11]
- 8 会社番号
- 9 デフォルト

たとえば、割増規則を作業オーダー別に定義する必要がある場合は、キー・タイプを 1 にして、テーブル・キーに作業オーダー番号を指定します。3 つの作業オーダーにそれぞれ異なる割増規則を使用する場合は、3 つの割増規則を設定する必要があります。

通貨コード

請求料金/割増テーブル(F48096)で設定する割増金額の小数点以下表示桁数を制御します。

有効日付

割増規則が有効になる日付を指定します。請求料金/割増テーブル(F48096)の検索時に、ワークテーブル取引のテーブル基準日付とこれらの日付が比較されます。

検索時の通貨コードの使用方法

請求料金/割増テーブル(F48096)の通貨コードは、そのテーブルの割増規則を構成する請求料金と割増金額の通貨を識別します。

ワークテーブル取引ごとに、国内通貨、外貨、および通貨モードが保存されます。国内通貨は会社の通貨を表し、外貨は顧客の通貨を表します。通貨モードは、適切な請求料金/割増テーブル(F48096)へのアクセスに使用される通貨を示します。

たとえば、国内通貨が米ドル(USD)、外貨が仏フラン(FRF)で通貨モードが F のワークテーブル取引は、仏フラン(FRF)用に設定された請求料金/割増テーブル(F48096)を検索します。すべての割増しは仏フランで計算され、米ドル金額は為替レートを適用して計算されます。

次の表に、割増しが適用される前のワークテーブル取引を示します。

ビジネスユニット (USD)	国内 通貨	外貨	通貨 モード	為替 レート	国内通貨 原価	数量	外貨建て 原価	国内通貨 請求書	外貨建て 請求書
501	USD	FRF	F	5.68	50.00	10	284.00	0.00	0.00

次の表に、請求料金/割増テーブル(F48096)を示します。

ビジネスユニット(USD)	通貨コード	料金一時変更	割増率	割増金額
501	FRF	284.00	10	142.00

次の表に、割増しが適用された後のワークテーブル取引を示します。

ビジネスユニット (USD)	国内 通貨	外貨	通貨 モード	為替 レート	国内通貨 原価	数量	外貨建て 原価	国内通貨 請求書	外貨建て 請求書
501	USD	FRF	F	5.68	50.00	10	284.00	575.00	3266.00

請求料金/割増テーブルの補助キー

請求料金/割増テーブル(F48096)に定義する割増規則ごとに、補助キーを指定する必要があります。
補助キーには、次の情報が含まれます。

勘定科目範囲

割増規則を適用する主科目と補助科目の範囲を指定します。この割増規則を使用するには、ワーク
テーブル取引の主科目と補助科目が指定の範囲に含まれている必要があります。[補助科目]フィ
ールドをブランクにした場合は、主科目範囲内にあるすべての割増規則が対象になります。

給与計算情報

割増規則を適用する給与計算情報を指定します。この割増規則を使用するには、ワークテーブル取
引の給与計算情報が一致している必要があります。給与計算情報には、職務タイプ、職階、原価プ
ール、所属ビジネスユニット、従業員、支払タイプが含まれます。

設備情報

割増規則を適用する際の設備情報を指定します。この割増規則を使用するには、ワークテーブル取
引の設備情報が一致している必要があります。設備情報には、設備番号、料金グループ、料金コー
ドが含まれます。

給与計算情報または設備情報のどちらかを指定できます。給与計算情報と設備情報の両方を同時
に指定することはできません。

割増計算

マイナー・キーには、3つの割増計算を関連付けることができます。ワークテーブル取引に割増しを
適用するために、マイナー・キーを使用して次の計算が行われます。

料金一時変更による計算

料金一時変更ワークテーブル取引からの数量が掛けられ、請求書/収益金額が計算されます。この計算は、数量が0の時には実行されません。

割増率の計算

このパーセントにワークテーブル取引からの原価金額を掛けて請求金額または収益金額が計算されます。

割増金額の計算

この金額をワークテーブル取引からの原価金額に加算して、請求金額または収益金額が計算されます。

複合割増し

複合割増しが発生するのは、単一の補助キーに対して複数の割増計算を定義している場合です。

たとえば、数量10のワークテーブル取引に、次の割増計算を伴う補助キーを使用できます。

- 単位あたり50ドルの料金一時変更
- 割増率10%
- 割増金額25ドル

複合割増しは次のように計算されます。

- $数量\ 10 \times 50\text{ドル} = 500\text{ドル}$
- $(500\text{ドル} \times 10\text{パーセント}) + 500\text{ドル} = 550\text{ドル}$
- $550\text{ドル} + 25\text{ドル} = 575\text{ドル}$

これと同じ複合割増規則を数量0、原価200ドルのワークテーブル取引に適用すると、次のようになります。

- 数量が0のため、料金計算は実行されない。
- $(200\text{ドル} \times 10\%) + 200\text{ドル} = 220\text{ドル}$
- $220\text{ドル} + 25\text{ドル} = 245\text{ドル}$

追加料金情報

追加料金情報は、ワークテーブル取引に対する追加割増しとして処理されます。システム・セットアップの一部として、追加料金テーブル内で追加料金規則を定義します。その後、追加料金テーブルを請求料金/割増テーブル(F48096)の割増規則に割り当てます。

追加料金テーブルで定義した追加料金規則ごとに、別個の追加料金ワークテーブル取引が作成されます。

はじめる前に

- 次のシステム固定情報を〈サービス請求固定情報〉で確認します。
 - [請求書/収益の金額が異なることを許可する]フラグ。この値により、請求書金額と収益金額を別の割増規則を適用できるかどうかが決まります。

- 通貨モード。この値では、請求料金/割増テーブル(F48096)の検索に、ワークテーブル取引の国内通貨と外貨のどちらを使用するかを制御します。
- 有効日付。この値により、請求料金/割増テーブル(F48096)の検索に使用する、給与計算の請求対象費用以外の取引を検索する際に使用する日付が決まります。
- 作業有効日基準。この値では、請求料金/割増テーブルを検索する際に、給与計算システムの請求対象費用のどの日付を使用するかを指定します。

『契約請求』ガイドの「請求システム固定情報の設定」を参照してください。

- 割増規則の定義に使用する主キーと補助キー値を確定します。キーの値は、請求料金/割増テーブル(F48096)のレコードを追加/更新する際にチェックされます。
- ワークテーブル取引に適用する請求料金と割増計算を定義します。
- 追加料金ワークテーブル取引の計算に使用する追加料金規則を確定します。『契約請求』ガイドの「追加料金規則の定義」を参照してください。

▶ 請求料金/割増規則を定義するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

1. 〈請求料金/割増テーブルの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft. 請求レート/割増しの改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

作成タイプ P Recharge Rate 開始日付 05/01/01

キータイプ 6 Job or Business Unit 終了日付 05/12/31

テーブルキー 77 Canadian Company

通貨コード CAD Canadian Dollar

	開始主科目	終了主科目	開始補助科目	終了補助科目	請求料金一時変更	上限あり	割増しパーセント	割増し金額	通貨タイプ	増徴	原価率	所属ビジネスユニット
<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1341			250.00		100.000	350.00				

2. 〈請求レート/割増しの改訂〉で請求料金/割増テーブル(F48096)の主キーを識別するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 作成タイプ
 - キー・タイプ
 - テーブル・キー
 - 通貨コード
 - 開始日付
 - 終了日付
3. 割増規則を適用する勘定科目範囲は、次のフィールドに指定します。
- 開始主科目
 - 終了主科目
 - 開始補助科目
 - 終了補助科目
- 勘定科目範囲をブランクにすると、主キー範囲内のすべての勘定科目に割増規則が適用されます。
4. 割増規則の割増計算を定義するには、次のフィールドに情報を入力します。
- 割増料金一時変更
 - 上限あり
 - 割増しパーセント
 - 割増し金額
5. 給与計算取引の割増規則を定義するには、次のいずれかのフィールドに情報を入力します。
- 職務タイプ
 - 職階
 - 原価プール
 - 所属ビジネスユニット
 - 従業員 No.
 - 支払タイプ
6. 特定設備の割増規則を定義するには、次のいずれかのフィールドに情報を入力します。
- 設備 No.

- 料金コード
- 料金グループ

給与計算情報と設備情報の両方を同時に指定することはできません。

7. この割増規則に追加料金の計算を関連付けるには、次のフィールドに情報を入力します。

- 追加料金テーブル
- 請求/収益料金表

8. 必要に応じて次のフィールドに情報を入力して、関連ソース取引からの記述を一時変更します。

- 一時変更記述

9. [OK]をクリックします。

▶ 請求料金/割増規則をコピーするには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

1. 〈請求料金/割増しの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- キー・タイプ
- テーブル・キー

2. コピーする割増規則を選択して[コピー]をクリックします。

選択した割増規則のコピーが表示されます。

PeopleSoft®

請求レート/割増しの改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

作成タイプ Recharge Rate 開始日付

キー・タイプ Job or Business Unit 終了日付

テーブル・キー Canadian Company

通貨コード Canadian Dollar

グリッドのカスタマイズ

	開始 主科目	終了 主科目	開始 補助科目	終了 補助科目	割増料金 一時変更	上限 あり	割増し パーセント	割増し 金額	通貨 タイプ	端数 処理	原価 プール	所属 ビジネスユニット
<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1341			250.00		100.000	350.00				
<input type="checkbox"/>												

3. 〈請求レート/割増しの改訂〉で、次のフィールドに新しい有効日付を入力します。
 - 開始日付
 - 終了日付
4. 必要に応じて、次のフィールドの情報を変更します。
 - キー・タイプ
 - テーブル・キー
 - 通貨コード
5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述

作成タイプ

用語解説

請求書金額、収益金額、および追加料金に適用されるバッチ・タイプと割増し規則を決めるコード。バッチ・タイプは、バッチの作成時に割り当てられます。請求固定情報の指定によって、各金額に適用される割増し規則が決まります。有効な値は次のとおりです。

1

割増し規則を請求書金額、収益金額、および追加料金に適用する。請求固定情報で、請求書と収益の金額を常に一致させるように指定した場合、割増し規則は、収益金額、請求書金額、および追加料金のすべてに適用されます。請求固定情報で、請求書と収益の金額が異なることを許可した場合でも、割増し規則は、タイプ 2 規則が存在しない場合、収益金額、請求書金額、および追加料金のすべてに適用されます。

2

割増し規則を収益金額と追加料金に適用する。請求固定情報で、請求書と収益の金額が異なることを許可した場合、割増し規則は、収益金額と追加料金 だけに適用されます。

3

割増し規則を追加料金だけに適用する。この規則は請求固定情報の設定に依存しません。

キー・タイプ

〈サービス請求〉および〈契約請求〉システムのどのテーブル、またはユーザー定義コードから元取引およびワークファイル取引を検索および編集するかをテーブルキーと組み合わせて決めるコード。有効な値、および各値に関連するテーブルまたはユーザー定義コードは、次のとおりです。

- 1 作業オーダー番号 - 作業オーダーマスター(F4801)
- 2 作業オーダークラス - ユーザー定義コード(00/W7)
- 3 契約番号 - 契約マスター(F5201)
- 4 親契約番号 - 契約マスター(F5201)
- 5 顧客 - 住所録マスター(F0101)
- 6 作業/ビジネスユニット - ビジネスユニットマスター(F0006)
- 7 作業クラス - ユーザー定義コード(00/11)
- 8 会社 - 会社固定情報(F0010)
- 9 デフォルト

キータイプを選択する際は、次のガイドラインに従ってください。

・契約番号(3)または親契約番号(4)のキータイプは、税決定テーブル、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。

・会社(8)のキータイプは、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。

・デフォルト(9)のキータイプは、勘定科目決定テーブルおよび請求料金/割増しテーブル(World では原価割増しテーブル)にのみ使用できます。

―― フォーム固有 ――

システムが、サービス請求システムおよび契約請求システムのさまざまなテーブルのソースと請求明細取引を検索および照合するためにテーブルキーと一緒に使用するコード。有効なキータイプコードおよび関連テーブルは次のとおりです。

- 1 作業オーダー番号 - 作業オーダーマスター(F4801)
- 2 作業オーダークラス - ユーザー定義コード(00/W7)
- 5 得意先 - 住所録マスター(F0101)
- 6 作業またはビジネスユニット - ビジネスユニットマスター(F0006)
- 7 作業クラス - ユーザー定義コード(00/11)
- 8 会社 - 会社固定情報(F0010)
- 9 デフォルト

キータイプを選択する場合、次のガイドラインを使用してください。

・契約番号 (3)または親契約番号(4)のキータイプは、税決定基準テーブルおよび元帳相殺 & 留保テーブルには使用できません。

・会社(8)のキータイプは元帳相殺 & 留保テーブルには使用できません。

・デフォルトのキータイプ(9)は、勘定決定基準テーブルおよび請求料金/割増しテーブル(W orld では原価割増しテーブル)にのみ使用できます。

テーブル・キー	<p>サービス請求システムと契約請求システムで、ワークテーブル取引を検索し、各種のテーブルと対照して検証するために、キー・タイプと組み合わせて使用される値。[キー・タイプ]フィールドに入力する値によって、[テーブル・キー]フィールドの有効値が確定されます。たとえば、作業オーダー番号のキー・タイプ(1)を指定した場合は、[テーブル・キー]フィールドに作業オーダー・マスター(F4801)からの有効な作業オーダー番号を入力する必要があります。また、指定したキー・タイプによって、検索ボタンの使用時に[テーブル・キー]フィールドからアクセスできる検索ウィンドウが制御されます。たとえば、[キー・タイプ]フィールドで1を選択すると、[テーブル・キー]フィールドの検索ボタンを使用して、[作業オーダーの検索]ウィンドウにアクセスできます。[キー・タイプ]フィールドで2を指定した場合は、作業オーダー・クラスの[ユーザー定義コード]ウィンドウにアクセスします。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>各トランザクションワークファイルに適用可能な請求料金／割増料金テーブルを検索するために、[テーブル・キー]フィールドとキー・タイプが組合せて使用されます。</p>
通貨コード	基本通貨コード。ビジネスユニットが属する会社の通貨コードが使用されます。
開始日付	<p>住所、品目、取引、テーブルなどが有効になる日付。このフィールドの意味はプログラムによって異なります。たとえば、次のような日付として使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住所の変更が有効になる日付 ・賃貸契約が有効になる日付 ・価格が有効になる日付 ・為替レートが有効になる日付 ・税率が有効になる日付
終了日付	項目、取引、テーブルが非活動となる日付、または取引を表示する最終日付。このフィールドはシステム全体で使用されます。賃貸有効日付、価格または原価有効日付、通貨有効日付、税率有効日付などとして使用できます。
開始主科目	<p>勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分。原価コードは、たとえば労務費を通常時間、割増し時間、間接費に分類するのに使用します。</p> <p>注: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁にした場合は、6桁すべてを使用することをお勧めします。たとえば、“000456”と入力するのと“456”と入力するのは、後者の場合、スペースが3つ追加されるので結果が異なります。</p>
終了主科目	勘定科目の範囲で終了主科目を示します。
開始補助科目	主科目の下の子科目区分。補助科目は、取引レコードを主科目の下でさらに細分化します。
終了補助科目	勘定科目範囲の最後の補助科目を示します。これを使って配賦基準が決定されます。この範囲内にある勘定科目の転記済み金額のみ含まれます。

割増料金一時変更	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。収益割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。</p> <p>(一時変更レート × 数量) × (1 + 割増率) + 割増金額</p> <p>最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム (P48096) で設定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益割増率を指定するには生成タイプ 2、請求割増率を指定するには生成タイプ 1 を使用します。</p> <p>請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ 1 を使用してください。</p>
上限あり	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>割増率を入力して、既存のレートを一時変更します。たとえば、標準コンサルティング料を通常の時給よりも高く設定する場合は、このフィールドにコンサルティング料を入力します。[上限あり]フィールドに関連付けてこのフィールドを使用する際は、レートの一時変更機能を使用して、入力するレートの上限を示すこともできます。</p> <p>関連金額が、一時変更比率またはキャップ比率のどちらなのかを示すフラグ。有効な値は次の通りです。</p> <p>ブランク 一時変更比率。</p> <p>1 キャップ比率。原価比率がキャップ比率より低い場合は原価比率を使用し、原価比率がキャップ比率より高い場合はキャップ比率を使用します。</p>
割増しパーセント	<p>収益用の割増し計算に使用する割増し率で、専門技能サービス(製図、エンジニアまたはコンサルタント料など)の請求額に反映されます。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。この割増し率は、請求料金/割増しテーブル(WorldSoftwareでは原価割増しテーブル)で、生成タイプ 1(収益/請求書の割増しレート・テーブル)として設定します。入力するパーセント値は整数で入力してください。たとえば 50.275%は"50.275"と入力します。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>このフィールドには、収益認識額の割増率を入力します。</p> <p>サービス請求システムで、発生タイプ 2 の請求レート/割増しテーブル(Worldでは原価加算割増しテーブル)を設定し、収益認識の際に使用された額とは異なる単一の原価取引に対する請求額を入力し、管理することができます。発生タイプ 2 のテーブルでは、このフィールドで、テーブルに入力された収益認識額に指定割増しレートを適用することができます。</p>
割増し金額	<p>関連する勘定科目番号の勘定残高に追加される金額を示す数字。貸方の金額は金額の前か後にマイナスの符号をつけて入力します。</p>
職務タイプ	<p>組織内の職務を定義するユーザー定義コード(07/G)。給与と福利厚生情報を職務タイプと関連付け、情報をその職務タイプと連結する従業員に適用できます。</p>
職階	<p>特定の職務タイプ内での特定の水準を指定するユーザー定義コード(07/GS)。このコードは、賃金テーブルにある職務別賃率を決定するために職務タイプと共に使用されます。</p>

原価プール	ビジネスユニット・マスターファイル(F0006)に関連するカテゴリコード 12。これは、自由形式勘定科目のマッピングおよびレポートに選択した情報を印刷するのに、使用するユーザー定義コード(システム 00、タイプ 12)です。
所属ビジネスユニット	従業員が通常属するビジネスユニットの番号
従業員 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
支払タイプ	支払、控除、給付、または見越しのタイプを定義するコード。支払タイプには 1 から 999、控除と給付には 1000 から 9999 までの番号が付いています。
設備 No.	固定資産を識別する 8 桁の番号。
料金コード	<p>DY(日次)、MO(月次)、WK(週次)などの請求料金を示すユーザー定義コード(00/RC)。1 つの設備に対して複数の請求料金を設定することができます。このフィールドがブランクの場合、次の順序で有効な請求料金が検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 勘定科目マスター(F0901)。このテーブルには最も詳しい料金情報が含まれます。1 つの作業に対して複数の料金を適用することができます。たとえば、異なる作業条件に対してそれぞれ料金を設定できます。 2. ビジネスユニット・マスター(F0006)。このテーブルの料金情報は、勘定科目マスターほど詳しくはありません。このテーブルに基づく場合、1 つの作業に 1 つの料金のみ設定できます。 3. 賃貸規則(F1302) - このテーブルには一番簡略な情報が含まれています。このテーブルの設定時に指定した検索基準に従って検索されます。 <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>このコードによって各設備項目に対して複数の請求料金を適用することができます。たとえば、同じ車両に対してメンテナンス費用とガソリン代の割増し料金を別に設定することができます。</p>
料金グループ	類似する品目を請求用にグループ化するユーザー定義コード(12/CO)。設備管理システムを導入して設備請求を使用する場合は、このカテゴリ・コードを料金のグループ化以外の目的では使用しないでください。
追加料金テーブル	請求料金／割増料金テーブルへの入力(WORLD では原価プラス割増料金テーブルへの入力)に使用する追加料金テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、間接費として当初原価に組み込まれます。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。
請求/収益料金表	<p>請求料金／割増料金テーブルへの入力(WORLD では原価プラス割増料金テーブルへの入力)に使用される追加料金請求／収益テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、請求／収益の割増しに追加されて、請求／収益として認識されます。</p> <p>追加料金テーブルにもつデータ内容(請求額、収益、またはその両方)は、請求料金／割増料金テーブルの生成タイプと請求固定情報のそれぞれの請求フラグの組み合わせによって決まります。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。</p>
一時変更記述	<p>備考、名称、摘要(仕訳の場合)を示すフィールド。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>請求明細取引に適用する記述、摘要、説明、名称または住所。</p>

処理オプション: 請求料金/割増テーブル(P48096)

セキュリティ・タブ

各キー・タイプ(1~9)へのアクセスを可能にするかどうかを指定します。テーブル生成タイプへのアクセスを可能にするかどうかを指定します。

1. キータイプ 1(作業オーダー番号)

blank = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

作業オーダー番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 許可する

1 許可しない

2. キータイプ 2(作業オーダークラス)

blank = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

作業オーダークラスのキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 許可する

1 許可しない

3. キータイプ 3(契約番号)

blank = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

契約番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 許可する

1 許可しない

4. キータイプ 4(親契約番号)

blank = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

親契約番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

5. キータイプ 5(顧客番号)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

得意先番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

6. キータイプ 6(作業/ビジネスユニット)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

作業/ビジネスユニットのキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

7. キータイプ 7(作業クラス)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

作業クラスのキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

8. キータイプ 8(会社)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

会社番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

9. キータイプ 9(割増しテーブル用デフォルト)

blank = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

デフォルト割増しテーブルのキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 許可する

1 許可しない

10. テーブル生成タイプ 1(請求書、収益および追加料金割増し)

blank = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

請求書、収益、および追加料金割増しテーブルの生成タイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 許可する

1 許可しない

11. テーブル生成タイプ 2(収益、割増し一時変更)

blank = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

収益割増し一時変更テーブルの生成タイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 許可する

1 許可しない

12. テーブル生成タイプ 3(追加料金割増し一時変更)

blank = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

追加料金割増し一時変更テーブルの生成タイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 許可する

1 許可しない

〈請求料金/割増テーブル一覧〉の印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求料金/割増テーブル一覧〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求料金/割増テーブル一覧〉を選択します。

〈請求料金/割増テーブル一覧〉レポート(R48096B)は、キー・タイプとテーブル・キーによってグループ化された、請求料金/割増テーブル(F48096)内の割増規則のリストを作成します。〈請求料金/割増テーブル一覧〉レポート(R48096B)上の情報は、〈請求料金/割増しの改訂〉フォームに表示される情報と同じです。

R48096B		J. D. Edwards & Company 請求レポート/割増レポート(R48096B)										03/08/01 15:44:14 P. 1	
テーブル	2	作業オーダー・クラス										生成タイプ	1
サブテーブル	CON	コンコース・セキュリティ										請求書処理	
有効開始日付	05/01/01	最終有効日付										通貨コード	USD
主	補助	JOB	PAY	割増規則	C	%	金額	税率	CST	従業員	設備	レート	通知金
FR	TO	FR	TO	STEP	STEP			ディ/エクスト	アーク	No.	No.	GRP	CD
1941	1942						100.00						
1941	1942			50PE			70.00						
1941	1942			50PM			120.00						
1941	1942			50SU			50.00						
1941	1942			61				175.000					
1950	1950						10.000						
1955	1955						50.00						
1960	1970												
8110	8115						100.00						
8116	8120						125.00						
8121	8889						50.00	10.000					
主	補助	JOB	PAY	割増規則	C	%	金額	税率	CST	従業員	設備	レート	通知金
FR	TO	FR	TO	STEP	STEP			ディ/エクスト	アーク	No.	No.	GRP	CD
8115	8117			50PE	1		11.00						
8115	8117			50PE	100		16.31						
8115	8117			50PM	1		10.13						
8115	8117			50PM	110		21.75						
8115	8117			50SU	100		15.19						
8115	8117			50SU	110		20.25						
8175	8175												
8400	8400						10.000						
8835	8835												
主	補助	JOB	PAY	割増規則	C	%	金額	税率	CST	従業員	設備	レート	通知金
FR	TO	FR	TO	STEP	STEP			ディ/エクスト	アーク	No.	No.	GRP	CD
8115	8117			61	1		9.75						
8115	8117			61	100		14.63						
主	補助	JOB	PAY	割増規則	C	%	金額	税率	CST	従業員	設備	レート	通知金
FR	TO	FR	TO	STEP	STEP			ディ/エクスト	アーク	No.	No.	GRP	CD
8115	8117			61	1		9.75						
8115	8117			61	100		14.63						

〈請求料金/割増テーブル失効日〉レポートの印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求料金/割増テーブル失効日〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求料金/割増テーブル失効日〉を選択します。

〈請求料金/割増テーブル失効日〉レポート(R48S496)は、終了日付が処理オプション:〈請求料金/割増テーブル失効日〉レポートで指定された日付の間にあるすべての請求料金/割増テーブル(F48096)のリストを作成します。レポートには、各失効テーブルに関する次の情報がリストされます。

- 生成タイプ
- キー・タイプ

- テーブル・キー
- 通貨コード
- 開始日付
- 終了日付

〈請求料金/割増テーブル失効日〉レポート(R48S496)は、請求料金/割増テーブル(F48096)から情報を取り込みます。

処理オプション:〈請求料金/割増テーブル失効日〉レポート(R48S496)

選択タブ

請求料金/割増テーブル(F48096)が失効する期間を指定します。

1. 有効終了日の範囲開始

blank = 指定なし

請求レート/割増しテーブル(F48096)の有効期限が切れる期間の開始日を指定します。

2. 有効終了日の範囲終了

blank = システム日付

請求レート/割増しテーブル(F48096)の有効期限が切れる期間の終了日を指定します。

追加料金規則の定義

追加料金は、金額と数量に基づいて計算されるタイプの割増しです。たとえば、労務費の請求には、借入費用を一部相殺するための追加料金が含まれる場合があります。追加料金規則は、割増規則と連動します。追加料金を自動計算するには、追加料金規則を設定し、それを割増規則に関連付ける必要があります。その他の方法として、追加料金取引を作成し、その取引に直接、追加料金規則を適用することもできます。

費用の合計時には、追加料金取引を作成するために定義した追加料金規則を使用して、追加料金金額が計算されます。追加料金取引は、常に親ワークテーブル取引に関連付けられています。どちらの取引タイプにも、同じ請求制御 ID 番号と追加料金リンク番号が割り当てられ、この番号によって各追加料金計算が関連ワークテーブル取引に関連付けられます。

追加料金規則の定義には、次の情報を使用します。

- 追加料金計算規則を識別するコード
- 有効日付の範囲
- 金額、単位レート、またはその両方に基づく 1 つまたは複数の計算規則

複合追加料金

複数の追加料金計算規則を参照することにより、複合追加料金を定義できます。たとえば、2%の追加料金を 40%の追加料金と参照できます。原価 100,000 円に対する追加料金は、次のように計算されます。

- $100,000 \text{ 円} \times 2\% = 2,000 \text{ 円}$
- $100,000 \text{ 円} \times 40\% = 40,000 \text{ 円}$
- $40,000 \text{ 円} \times 2\% = 800 \text{ 円}$

総原価と追加料金金額の合計は、次のように計算されます。

- $100,000 \text{ 円} + 2,000 \text{ 円} + 40,000 \text{ 円} + 800 \text{ 円} = 142,800 \text{ 円}$

単位数量基準の追加料金計算規則は、参照先として組み込むことはできますが、参照元としては使用できません。

例:総額で計算される追加料金

追加料金合計請求書金額は、基本レコードの請求書金額に対して計算されます。

原価金額	100.00
追加料金レート	10.00%
税率/税域	3.8%

	請求金額課税分(ITXA)	請求書税額(ITAM)	請求書金額(ITOL)
基本レコード	100.00	3.80	103.80
追加料金	10.00	.38	10.38
追加料金を含めた請求書金額			114.18

例:正味で計算される追加料金

追加料金合計請求書金額は、基本レコードからの請求金額課税分に対して計算されます。

原価金額	100.00
追加料金レート	10.00%
税率/税域	3.8%

	請求金額課税分(ITXA)	請求書税額(ITAM)	請求書金額(ITOL)
基本レコード	100.00	3.80	103.80
追加料金	9.63	.37	10.00
追加料金を含めた請求書金額			113.80

はじめる前に

- 〈追加料金テーブル〉フォームで、個々の追加料金計算規則の識別に使用する値を指定して、追加料金コード(48/CM)を設定します。『契約請求』ガイドの「ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

参照

- 追加料金取引とワークテーブル取引の詳細については、『契約請求』ガイドの「追加料金取引の検討」
- 追加料金規則と割増規則の関連付けについては、『契約請求』ガイドの「既存の追加料金規則の割増規則への追加」

▶ 追加料金計算規則を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈追加料金テーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈追加料金テーブル〉を選択します。

1. 〈追加料金テーブルの処理〉で[追加]をクリックします。

PeopleSoft

追加料金テーブルの改訂

OK 削除 キャンセル ロー ツール

追加料金テーブル: G&AADDONS 開始日付: 05/01/01

記述: G&A with Additional Burden 終了日付: 06/12/31

通貨コード: USD U.S. Dollar

	相互参照	追加料金コード	記述	基本料金	追加料金レート	順序 No.
<input checked="" type="checkbox"/>		COM	金利	1	15.00000	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	FEE	料金	1	20.00000	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	FRG	付加	U	0.07	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X G&A	総務管理	1	10.00000	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

2. 〈追加料金テーブルの改訂〉で、次のフィールドに情報を入力し、特定の追加料金計算規則を識別します。

- 追加料金テーブル
- 記述

- 通貨コード
 - 開始日付
 - 終了日付
3. 追加料金計算規則を定義するには、次のフィールドに情報を入力します。
- 追加料金コード
 - 基本料金
 - 追加料金レート
4. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
追加料金テーブル	<p>追加料金テーブルで、請求明細取引レベルに付属する一時的な間接労務費を設定できます。追加料金は、基本請求明細取引の原価、請求金額(税金込み)、および／または収益金額を基に計算できます。たとえば、原価金額に基づく追加料金は、追加の間接経費を組織から発生した原価に適用できます。請求金額に基づく追加料金は、追加の請求料金を請求用の割増金額適用できます。</p> <p>原価加算割増テーブルの折返し域で、この計算に対する金額の基本を制御します。原価テーブルフィールドに追加料金テーブルの名称を入力すると、すべての計算は原価金額に基づいて実行されます。同様に、請求／収益テーブルフィールド(INV/REV TBL)に追加料金テーブルの名称を入力すると、すべての計算は、請求および／または収益金額に基づいて実行されます。ただし、この場合、原価加算割増テーブルでの生成タイプ、システム固定情報で設定されている仕訳生成制御フラグによって影響されます。</p>
記述	ユーザー定義名称または備考。
通貨コード	基本通貨コード。ビジネスユニットが属する会社の通貨コードが使用されます。
基本料金	<p>追加料金の計算基準として、基本請求詳細取引の数量と金額のどちらを使用するかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 総額基準 [追加料金レート]フィールドの数値はパーセンテージとして処理されます。追加料金金額は、追加料金レートのパーセンテージに基本請求詳細取引からの原価、合計請求金額または収益金額を乗算して計算されます。</p> <p>2 数量基準 [追加料金レート]フィールドの数値は一律金額として処理されます。追加料金の額は、[追加料金レート]の一律金額に基本請求詳細取引からの数量を乗算して計算されます。</p> <p>3 純額基準 [追加料金レート]フィールドの数値はパーセンテージとして処理されます。追加料金の額は、追加料金レートのパーセンテージに基本請求詳細取引からの原価、課税対象請求金額または収益金額を乗算して計算されます。</p>

追加料金レート

個別追加料金レコード生成時に適用されるレート。このフィールドは、パーセントまたは均一金額のいずれかで、「追加料金レート基本」(UORG)フィールドの入力値によって決まります。

追加料金レート基準が単位数に基づく場合、追加料金レートは基本請求明細取引からの単位数を掛けた均一金額です。

追加料金レート基準が金額に基づく場合、追加料金レートは基本請求明細取引からの原価、請求書額、収益額を掛けたパーセントです。

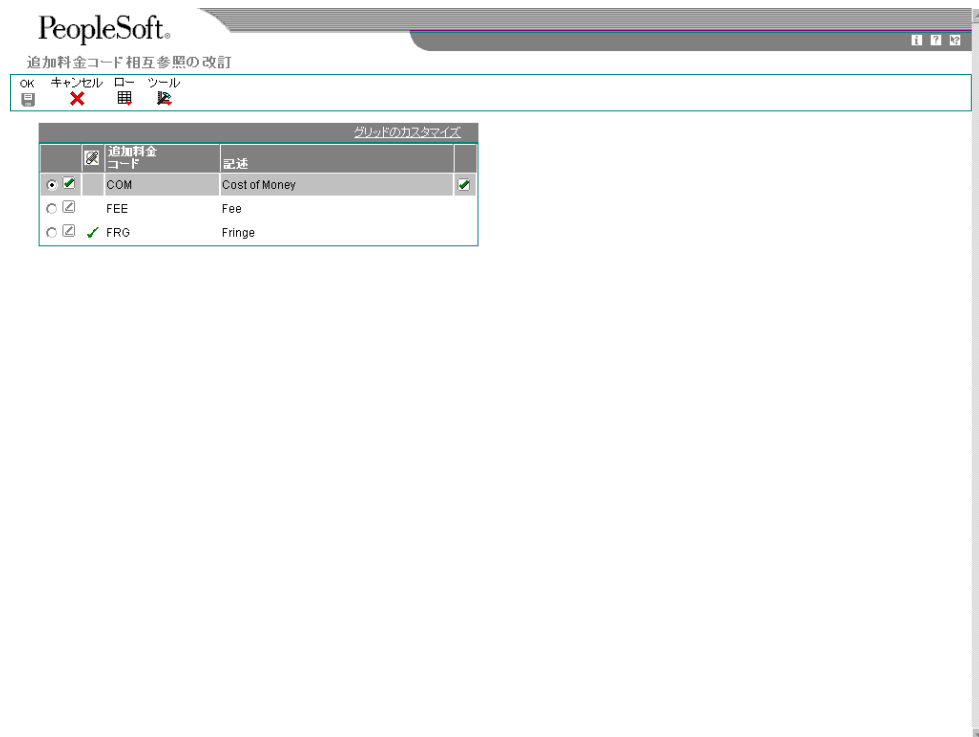
▶ 複合追加料金を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈追加料金テーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈追加料金テーブル〉を選択します。

1. 〈追加料金テーブルの処理〉で追加料金規則を検索するには、[検索]をクリックします。
2. 特定の追加料金計算規則を選んで、[選択]をクリックします。
3. 〈追加料金テーブルの改訂〉で、追加料金をハイライトして[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。



4. 〈追加料金コード相互参照の改訂〉で、相互参照に組み込む個々の追加料金計算規則を選んで、[ロー]メニューから[相互参照の追加]を選択します。

相互参照情報に組み込むのは、既に定義してある追加料金計算規則のみです。

相互参照情報を含む追加料金の計算規則は、〈追加料金テーブルの改訂〉フォームの[相互参照]フィールドに X が表示されます。

〈追加料金テーブル一覧〉の印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈追加料金テーブル一覧〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈追加料金テーブル一覧〉を選択します。

〈追加料金テーブル一覧〉レポート(R4860)は、データ選択条件を満たす各追加料金テーブルの有効日付と通貨コードをリストします。レポートには、選択した追加料金テーブルの各追加料金に関する次の情報もリストされます。

- 追加料金コード
- 追加料金の記述
- 追加料金レート
- 料金基準
- 追加料金相互参照

レポートにリストされる情報は、〈追加料金テーブルの改訂〉フォームで使用可能な情報と同じです。

〈追加料金テーブル一覧〉レポート(R4860)は、次のテーブルから情報を取り込みます。

- 追加料金テーブル・マスター(F4860)
- 追加料金明細テーブル(F4861)
- 追加料金相互参照(F4862)

R4860		J. D. Edwards & Company		03/06/01 15:50:43	
		追加料金テーブル - 相互参照編集		P. 1	
追加料金テーブル	2.5% FEE	G & A 2.5% Fee			
有効開始日付	05/01/01	有効終了日付	06/12/01		
通貨コード	USD				
追加金 2→1	追加金 記述	追加金 1→1	1→1 基準	追加金 相互参照	
ORR	開修費	2.50	1		
追加料金テーブル	GRANDDONS	G&A with Additional Burden			
有効開始日付	05/01/01	有効終了日付	06/12/01		
通貨コード	USD				
追加金 2→1	追加金 記述	追加金 1→1	1→1 基準	追加金 相互参照	
ORR	金利	10.00	1		
FEE	料金	20.00	1		
FRC	付加	.07	0		
G&A	総務管理	10.00	1		
				FRC	
追加料金テーブル	LABOR	Labor Markup Components			
有効開始日付	05/01/01	有効終了日付	06/12/01		
通貨コード	USD				
追加金 2→1	追加金 記述	追加金 1→1	1→1 基準	追加金 相互参照	
ORR	金利	2.00	1		
FRC	付加	44.00	1		
ORR	開修費	80.00	1		
				FRC	
追加料金テーブル	ORCON	ORCON			
有効開始日付	05/01/01	有効終了日付	06/12/01		
通貨コード	USD				
追加金 2→1	追加金 記述	追加金 1→1	1→1 基準	追加金 相互参照	
ORCON	開修費追加料金	50.00	1		
追加料金テーブル	ORR	Overhead & Markup			

追加料金規則の既存の割増規則への追加

追加料金情報は、ソース取引の金額に対する割増しとして処理されます。システム・セットアップの一部として、追加料金規則を定義します。それから追加料金規則を請求料金/割増テーブル(F48096)の規則に割り当てます。

原価金額と割増金額について別々のワークテーブル取引を作成する場合は、割増規則に追加料金規則を割り当てることができます。

追加料金は次のように計算されます。

生成タイプ	追加料金テーブル	追加料金の計算基準
1(請求書)	原価	原価金額
2(収益)	原価	原価金額。生成タイプ 1 と 2 に原価テーブル情報がある場合、生成タイプ 2 の情報が使用されます。
1(請求書)	請求書/収益	請求金額
2(収益)	請求書/収益	収益金額
3(追加料金)	原価 または 請求書/収益	生成タイプ 1 と 2 のどちらのテーブルにも追加料金情報がなかった場合に、すべての追加料金情報のデフォルトのテーブルとなります。

はじめる前に

- 追加料金規則を定義します。『契約請求』ガイドの「追加料金規則の定義」を参照してください。

▶ 追加料金規則を既存の割増規則に追加するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

1. 〈請求料金/割増しテーブルの処理〉で、次のどちらかのフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - キー・タイプ
 - テーブル・キー
2. 追加料金規則を追加する割増規則をハイライトして[選択]をクリックします。
3. 〈請求レート/割増しの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して追加料金規則を追加します。
 - 追加料金テーブル
 - 請求/収益料金表
4. [OK]をクリックします。

関連タスク

生成タイプ 1 または 2 の既存の割増規則に、追加料金規則を割り当てることができます。このためには、〈請求料金/割増しの改訂〉フォームで割増規則を検索します。このフォームでは、[追加料金テーブル]フィールド、[請求/収益料金テーブル]フィールド、またはその両方を使用して、1 行または複数行の追加料金規則を指定できます。

参照

- 追加料金/割増テーブルでの規則の設定については、『契約請求』ガイドの「請求料金/割増規則の定義」

フィールド記述

記述	用語解説
追加料金テーブル	請求料金／割増料金テーブルへの入力(WORLD では原価プラス割増料金テーブルへの入力)に使用する追加料金テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、間接費として当初原価に組み込まれます。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。
請求/収益料金表	請求料金／割増料金テーブルへの入力(WORLD では原価プラス割増料金テーブルへの入力)に使用される追加料金請求／収益テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、請求／収益の割増しに追加されて、請求／収益として認識されます。 追加料金テーブルにもつデータ内容(請求額、収益、またはその両方)は、請求料金／割増料金テーブルの生成タイプと請求固定情報のそれぞれの請求フラグの組み合わせによって決まります。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。

AAI の設定

契約請求システムと売掛管理システムの相互処理で使用される規則を定義するために、RC(売掛金)AAI を設定する必要があります。契約請求システムでは、RC AAI(売掛金勘定)を使用して、仕訳の借方に計上される売掛金勘定が確定されます。

契約請求システムと一般会計システムの相互処理で使用される規則を定義するために、BC AAI を設定する必要があります。契約請求システムでは、該当する請求行と価格設定タイプに対して、BC AAI を使用して、仕訳の貸方に計上する収益勘定を決定します。

AAI 情報は、AAI マスター(F0012)に保管されます。

AAI を変更する前に、詳細を理解しておく必要があります。

次の表に、契約請求システムで使用される AAI をリストします。

RC	売掛金勘定
RCxxxx	売掛金。xxxx は顧客テーブルまたは元帳クラス・テーブルで設定した元帳クラスを表します。
BC01	一括
BC01	単価
BC03	手数料行
BC04	マイルストーン(出来高)請求
BC05	進捗請求
BC06	金額差引請求
BC07	パーセント差引請求

参照

- AAI の設定については、『売掛管理』ガイドの「AAI の処理」
- 売掛金とその他の売掛金 AAI については、『売掛管理』ガイドの「AAIs for Accounts Receivable (売掛管理の AAI)」

請求 AAI の処理

テスト・モードまたは最終モードで会計仕訳を生成する前に、〈請求 AAI〉で会計規則を設定する必要があります。これらの請求 AAI(自動仕訳)により、日常的に使用する会計機能や勘定科目表、財務レポートを連結します。請求 AAI は、システムが仕訳で自動的に計上する勘定科目を決定する際に使用されます。たとえば、契約請求システムでは、提供した商品やサービスについて顧客に請求する際に、〈請求 AAI〉で取引の入力方法を指定します。

各請求 AAI は、ビジネスユニットや主科目の他に、必要な場合には補助科目、補助元帳、および補助元帳タイプのいずれかを含む特定の勘定科目に関連付けられています。

顧客への請求書で税を徴収する必要がある場合は、請求 AAI を使用して税額を適切な勘定科目に配賦します。

請求 AAI は請求 AAI 情報テーブル(F48S95)に保存されます。

請求 AAI の主キー

定義する請求 AAI(自動仕訳)テーブルごとに主キーを指定する必要があります。主キーには次の情報が含まれます。

請求 AAI	作成された仕訳項目のタイプに対応します。たとえば、AAI 4811(実績収益勘定)では、請求書や収益認識の処理で、収益を貸方に記帳する際の勘定科目を指定します。
キー・タイプ	請求 AAI 主キー値のタイプを定義します。ハードコードされた次の値を使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 作業オーダー • 作業オーダー・クラス • 契約番号 • 親契約番号 • 顧客 • 作業またはビジネスユニット • 職務分類 • 会社 • デフォルト
テーブル・キー	キー・タイプに基づいて、主キー値を定義します。請求明細取引の情報が請求システムの各種テーブルに存在することを確認するのに使用されます。
有効日付	請求 AAI テーブルの有効期間を指定します。請求 AAI の検索時に、ワークテーブル取引のテーブル基準日付がこれらの日付と比較されます。

実績収益科目(4811) – 必須

収益勘定科目の AAI 番号 4811 は必須です。この AAI では、会計仕訳に割り当てられる実際収益勘定科目を定義します。

この AAI を使用して、収益を収益勘定科目の貸方に計上します。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で[仕訳作成の制御]オプションが 1(請求書のみ)または 4(調整ありの請求書/収益認識)に設定されている場合、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行したときに、収益はこの勘定科目の貸方に計上されます。[仕訳作成の制御]オプションを 2(収益のみ)または 3(調整なしの請求書/収益認識)に設定すると、〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)の実行時に、この勘定科目の貸方に計上されます。

未払税科目(4815)

未払税勘定科目の AAI 番号 4815 は任意です。この AAI では、会計仕訳に割り当てられる未払税勘定科目を定義します。ワークテーブル取引からの税額は、この勘定科目の貸方に計上されます。この AAI を設定しなければ、税額は AAI 4811(実績収益)用に設定した収益勘定科目の貸方に計上されます。

この AAI は、請求書仕訳の生成時に、収益に関係なく売上税または PST 税を配賦するために使用します。VAT 税や GST 税の配賦には、売掛金 AAI を使用します。この AAI には再配賦規則を使用できません。

課税対象売掛金科目(4822 および 4823)

課税対象売掛金科目の AAI 番号 4822 および 4823 は任意です。これらの AAI を使用して、ワークテーブル取引から課税対象請求額の仕訳が作成されます。

AAI 4822 は、請求書仕訳の作成時に貸方に計上する課税対象売掛金科目を定義し、AAI 4823 は、請求書仕訳の作成時に借方に計上する課税対象売掛金科目を定義します。

請求書仕訳の作成時には、それぞれの勘定科目に借方/貸方計上されます。これらの請求 AAI は任意ですが、AAI 4822 を設定した場合には貸借を一致させるために AAI 4823 も設定する必要があります。

見越収益勘定科目(4831)

未収(未請求)収益勘定科目の AAI 番号 4831 が必須となるのは、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で仕訳作成の制御フラグを 4(調整ありの請求書/収益認識)に設定した場合です。それ以外の場合はこの AAI は使用しません。

収益認識時には、この AAI で指定した未収収益科目に認識収益額が貸方計上されます。その後、請求書の処理中に、収益金額がこの AAI で指定した未収収益科目の借方に、課税対象請求金額が請求 AAI 4811 で指定した実績収益科目の貸方に計上されます。この AAI には再配賦規則を使用できません。

見越売掛金科目(4832)

見越(未請求)売掛金科目の AAI 番号 4832 が必須となるのは、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で仕訳作成の制御フラグを 2(収益のみ)、3(調整なしの請求書/収益認識)、4(調整ありの請求書/収益認識)のいずれかに設定した場合です。それ以外の場合はこの AAI は使用しません。

この AAI を使用して、認識する収益金額が見越売掛金科目の借方に計上されます。仕訳作成の制御フラグを 3 または 4 に設定すると、請求書仕訳の生成中に収益金額がこの勘定科目の貸方に計上されます。この AAI には再配賦規則を使用できません。

未成工事支出金科目(4841)および売上原価科目(4842)

未成工事支出金(仕掛品)科目の AAI 4841 は、原価のみの取引(適格性コード 4)を処理する場合に必須です。それ以外の場合、この AAI は任意です。この請求 AAI では、相手科目として使用する未成工事支出金(仕掛品)科目を定義します。ワークテーブル取引からの原価金額は、この勘定科目の貸方に計上されます。仕掛勘定に項目を入力する場合は、貸借を一致させるために AAI 4842(売上原価)を設定する必要があります。この AAI を使用して、費用を仕掛勘定科目の貸方に計上します。

売上原価の勘定科目 AAI 4842 は、AAI 4841(仕掛勘定)の基本規則を設定した場合には必須となります。これは仕訳の貸借を一致させるためです。この AAI を使用して、原価を売上原価勘定科目の借方に計上します。

売上利益勘定科目(4871 および 4872)

売上利益勘定科目の AAI 4871 および 4872 は任意で設定します。これらの AAI を使用して、売上利益の会計仕訳を作成します。売上利益は、ワークテーブル取引の収益金額から原価金額を差し引くことで計算されます。

AAI 4871 は、総勘定元帳仕訳の生成時に貸方に計上する売上利益勘定科目を定義し、AAI 4872 は、総勘定元帳仕訳の生成時に借方に計上する売上利益勘定科目を定義します。

総勘定元帳仕訳を生成すると、これらの勘定科目の借方と貸方に計上されます。これらの AAI は任意ですが、AAI 4871 を定義した場合は貸借を一致させるため AAI 4872 も設定してください。

請求書利益勘定科目(4873 および 4874)

請求書利益勘定科目の AAI 4873 および 4874 は任意で設定します。これらの AAI を使用して、請求書利益金額の会計仕訳を作成します。請求書利益金額は、ワークテーブル取引の請求合計から原価を差し引いて計算されます。

AAI 4873 は、請求書会計仕訳の生成時に貸方に計上する請求書利益勘定科目を定義し、AAI 4874 は、請求書会計仕訳の生成時に借方に計上する請求書利益勘定科目を定義します。

請求書仕訳の作成時には、それぞれの勘定科目に借方/貸方計上されます。これらの AAI は任意ですが、AAI 4873 を定義した場合は貸借を一致させるため AAI 4874 も設定してください。

上限超過金額相手科目(4851 および 4852)

AAI 4851 と 4852 は上限超過金額の相手科目で、設定は任意です。この AAI を使用して、上限を超過した金額を計上する勘定科目を指定します。収益認識処理では、システムは認識済みの収益をチェックし、現行のワークテーブル取引の収益金額を追加して、その合計を契約の上限金額と突き合わせます。合計金額が上限金額を超えた場合、超過分の金額を相殺するワークテーブル取引が作成されます。

- 4851 - 収益を認識する際に、上限を超過した金額を計上する貸方の相手科目を定義します。
- 4852 - 収益を認識する際に、上限を超過した金額を計上する借方の相手科目を定義します。

最終モードで収益認識仕訳を作成すると、これらの勘定科目の借方と貸方に計上されます。これらの AAI は任意ですが、AAI 4851 を定義した場合は貸借を一致させるため AAI 4852 も設定してください。

請求 AAI のキー・タイプとテーブル・キー

次のキー・タイプをテーブル・キーと組み合わせて、請求 AAI テーブルの詳細を定義します。

- 1 作業オーダー
- 2 作業オーダー・クラス
- 3 契約番号
- 4 親契約番号
- 5 顧客番号
- 6 ビジネスユニット番号
- 7 ビジネスユニット・クラス
- 8 会社番号
- 9 デフォルト

たとえば、会計規則を作業オーダー別に定義する必要がある場合は、特定の作業オーダーのテーブル・キーを指定してキー・タイプ 1 を使用します。異なる会計規則を必要とする作業オーダーが 3

つある場合は、キー・タイプに 1 を指定し、テーブル・キーにそれぞれの作業オーダーを指定することで、合わせて 3 つの異なる会計規則を設定する必要があります。

請求 AAI の補助キー

定義する請求 AAI テーブルごとに、少なくとも 1 つは補助キーを指定する必要があります。補助キーには、次の情報が含まれている必要があります。

勘定科目範囲

会計規則の割当てに使用する主科目と補助科目の範囲を指定します。この会計規則を使用するには、ワークテーブル取引の主科目と補助科目が指定の範囲に含まれている必要があります。主科目範囲をブランクにした場合、この規則はすべての主科目に対して適格となります。補助科目範囲をブランクにした場合、この規則はすべての補助科目に対して適格となります。

請求システムが対象取引を再び処理しないようにするには、請求対象外勘定科目を選択する必要があります。

補助元帳および補助元帳タイプ

会計規則の割当てに使用する補助元帳と補助元帳タイプを指定します。この会計規則を使用するには、ワークテーブル取引の補助元帳および補助元帳タイプが、これらの入力と一致している必要があります。補助元帳と補助元帳タイプをブランクにすると、この規則は補助元帳と補助元帳タイプの値に関係なく適用されます。補助元帳を入力する場合は、補助元帳タイプも入力する必要があります。逆に、補助元帳タイプを入力する場合は、補助元帳も入力する必要があります。

注:

この会計規則をキー・タイプ 1 に対して定義すると、テーブル・キー値として割り当てた作業オーダーは、デフォルトで補助元帳タイプ W の補助元帳に設定されます。

元帳クラス

会計規則の割当てに使用する元帳クラスを指定します。元帳クラスをブランクにすると、すべての元帳クラスがこの規則に適格となります。通常、ワークテーブル取引の元帳クラスが、この値と比較されます。ただし、請求 AAI 4815 (未払税) の場合は、税率/税域テーブルで設定した納税先の元帳クラスと比較されます。

注:

元帳クラスはサービス請求取引にのみ使用されます。

追加料金コード

会計規則の割当てに使用する追加料金コードを識別します。このフィールドをブランクにすると、この会計規則を基本ワークテーブル取引と追加料金ワークテーブル取引に使用できます。基本ワークテーブル取引用の設定とは異なる会計規則を追加料金ワークテーブル取引に割り当てるには、このフィールドを有効な追加料金コードで更新します。厳密に一致する追加料金ワークテーブル取引が見つからない場合は、基本ワークテーブル取引用に設定した会計規則が使用されます。

たとえば、基本ワークテーブル取引に OVH (間接費)、GA (一般管理費)、FEE (手数料) の 3 つの追加料金ワークテーブル取引があって、会計規則に割り当てられた OVH 収益を、基本ワークテーブル取引やその他のワークテーブル取引とは異なるものにする場合、会計規則を 2 つ設定します。1 つは OVH 収益を処理するための会計規則で、[追加料金コード] フィールドを OVH に設定します。、もう 1 つは基本および GA、FEE のワークテーブル取引用で、追加料金コードはブランクとします。

請求書および元帳仕訳生成用の AAI 処理

元帳仕訳の生成と請求書仕訳の生成では、AAI の処理内容が異なります。次の表は、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳作成の制御フラグの設定と、ワークテーブル取引の適格性コードの割当てに関して、請求書仕訳の生成と総勘定元帳仕訳の生成におけるさまざまな AAI の処理を示します。借方金額と貸方金額は、課税対象外ワークテーブル取引に保存された金額に基づく、各仕訳項目のサンプル金額を表します。

原価金額(WDAA)	750.00 USD
収益金額(WDBTOL)	1000.00 USD
課税対象金額(WDITXA)	1000.00 USD
税額(WDITAM)	.00 USD
請求金額(WDITOL)	1000.00 USD

総勘定元帳仕訳の作成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取込み金額	必須	仕訳金額
これらの項目は、請求書バッチに関連する総勘定元帳バッチとして処理されます。						
請求書のみ 調整なしの請求書/ 収益 調整ありの請求書/ 収益	1 (請求にのみ使用可能)	4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(貸) 1,000.00
	1	4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(借) 1,000.00
	1	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸) 750.00
	1	4842	売上原価	WDAA	任意	(借) 750.00
	1	4873	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸) 250.00
	1	4874	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(借) 250.00

総勘定元帳仕訳の作成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取込み金額	必須	仕訳金額
収益のみ 調整なしの請求書/収益 調整ありの請求書/収益	2(収益にのみ使用可能)	4811	実績収益	WDBTOL	必須	(貸) 1,000.00
	2	4832	見越売掛金	WDBTOL	必須	(借) 1,000.00
	2	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸) 750.00
	2	4842	売上原価	WDAA	任意	(借) 750.00
	2	4871	利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸) 250.00
	2	4872	利益	WDITOL - WDAA	任意	(借) 250.00
調整なしの請求書/収益	0(請求書/収益にのみ使用可能)	4811	Actual Revenue (実績収益)	WDBTOL	必須	(貸) 1,000.00
	0	4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(貸) 1,000.00
	0	4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(借) 1,000.00
	0	4832	見越売掛金	WDBTOL	必須	(借) 1,000.00
	0	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸) 750.00
	0	4842	売上原価	WDAA	任意	(借) 750.00
	0	4871	利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸) 250.00
	0	4872	利益	WDITOL - WDAA	任意	(借) 250.00
	0	4873	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸) 250.00
	0	4874	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(借) 250.00

総勘定元帳仕訳の作成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取込み金額		仕訳金額
調整ありの請求書/ 収益	0(請求書/収 益にのみ使用 可能)	4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(貸)1,000.00
	0	4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(借)1,000.00
	0	4831	見越収益	WDBTOL	必須	(貸)1,000.00
	0	4832	見越売掛金	WDBTOL	必須	(借)1,000.00
	0	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸)750.00
	0	4842	売上原価	WDAA	任意	(借)750.00
	0	4871	利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	0	4872	利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00
	0	4873	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	0	4874	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00

総勘定元帳仕訳の作成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取込み金額	必須/任意	
原価計算取引						
請求書のみ 収益のみ 調整なしの請求書/収益 調整ありの請求書/収益	4(原価にのみ 使用可能)	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸)750.00
	4	4842	売上原価	WDAA	任意	(借)750.00
適格性コード 5(買掛管理でのみ使用可能) - 現在は総勘定元帳仕訳の作成なし						

請求書仕訳の生成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取込み金 額	必須	仕訳金額
収益のみ 請求書仕訳は作成されません。						

請求書のみ 調整なしの請求書/収益 調整ありの請求書/収益	1(請求にのみ使用可能)	4811	実績収益	WDITOL	必須	(貸)1,000.00
	1	4815	税	WDITAM	任意	(貸)0.00
	1	RC + GLC	売掛金	W4THPD	必須	(借)1,000.00
調整なしの請求書/収益	0(請求書/収益にのみ使用可能)	4832	見越売掛金	WDITOL	必須	(貸)1,000.00
	0	4815	税	WDITAM	任意	(貸)0.00
	0	RC + GLC	売掛金	W4THPD	必須	(借)1,000.00
調整ありの請求書/収益	0(請求書/収益にのみ使用可能)	4831	見越収益	WDITOL	必須	(借)1,000.00
	0	4832	見越売掛金	WDITOL	必須	(貸)1,000.00
	0	RC + GLC	売掛金	W4THPD	必須	(借)1,000.00
	0	4811	実績収益	WDBTOL	必須	(貸)1,000.00
	0	4815	税	WDITAM	任意	(貸)0.00
	0	4831	見越収益	WDBTOL	必須	(貸)1,000.00
	0	4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(貸)1,000.00
	0	4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(借)1,000.00
	0	4873	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	0	4874	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00
	0	4832	見越売掛金	WDBTOL	必須	(借)1,000.00

基本規則の定義

基本規則は、請求や原価計算、収益認識処理用の会計仕訳を作成する際に使用される勘定科目を指定します。基本規則を使用して、基本ワークテーブル取引と追加料金ワークテーブル取引の金額全体の会計仕訳が作成されます。基本規則の[パーセント基準]フィールドを 100 パーセントに設定する必要があります。

はじめる前に

- 請求固定情報の仕訳作成の制御オプションの設定を確認します。『契約請求』ガイドの「請求システム固定情報の設定」を参照してください。
- 請求 AAI 規則の定義に使用する主キーと補助キー値を確定します。請求 AAI 規則を追加または更新する際に、これらの値が検証されます。『契約請求』ガイドの「請求 AAI の処理」を参照してください。

▶ 基本規則を定義するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求 AAI〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求 AAI〉を選択します。

1. 〈AAI の処理〉で、AAI を選んで[選択]をクリックします。
2. 〈請求 AAI の処理〉フォームで、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

AAI 基本規則の改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロール ツール

AAIテーブルNo. 4811 Actual Revenue - Credit

キー・タイプ 3 Contract number 有効開始日 05/01/01

テーブル・キー 5350 Wet and Willy Wilderness Ride 有効終了日 06/12/31

グリッドのカスタマイズ												
	相互参照	開始主科目	終了主科目	開始補助科目	終了補助科目	補助元帳	補助元帳タイプ	元帳クラス	追加料金コード	結果ビジネスユニット	結果主科目	備考
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	3400	8499							*SRC	1380	9
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											

3. 〈AAI 基本規則の改訂〉で、次のフィールドに情報を入力します。

- キー・タイプ
 - テーブル・キー
 - 有効開始日
 - 有効終了日
4. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
- 開始主科目
 - 終了主科目
 - 開始補助科目
 - 終了補助科目
 - 補助元帳
 - 補助元帳タイプ
 - 元帳クラス
 - 追加料金コード
5. 会計仕訳を作成する勘定科目を指定するには、次のフィールドに情報を入力します。
- 結果ビジネスユニット
ビジネスユニットを直接指定するか、次の値のいずれかを使用してください。
 - ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からのビジネスユニット。
 - *SRC ソース取引からのビジネスユニット。
 - *WO 顧客マスターの請求先ビジネスユニット。
 - *HOME ソース取引からの所属ビジネスユニット。所属ビジネスユニットが存在しない場合は、元取引のビジネスユニットが使用されます。
 - *PROJ 作業マスター情報からのプロジェクト番号。
 - *CO ソース取引からの会社番号。
 - *HOST ワークテーブル取引からの担当ビジネスユニット。
 - *EHMCU 設備マスター情報からの担当ビジネスユニット。
 - 結果主科目
主科目を指定するか、次のいずれかの方法を使用できます。

ソース取引に関連する定義に、桁ワイルドカードとしてアスタリスク(*)を使用します。たとえば、ソース取引からの主科目が 3106 であるとし、この主科目を対象取引用に“4***”として定義すると、対象主科目は 4106 となります。

次のどちらかの値を使用します。

- ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からの主科目。
- *SRC ソース取引からの主科目。
- 結果補助科目
補助科目を直接指定するか、次の値のいずれかを使用してください。
 - ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からの補助科目。
 - *BLANK 対象取引の補助科目はブランクになります。
 - *SRC ワークテーブル取引からの補助科目。
 - *WO 作業オーダー・マスター情報からの原価コード(補助科目)。
- 結果補助元帳
補助元帳/補助元帳タイプを指定するか、次のいずれかの値を指定します。
 - *SRC ワークテーブル取引からの補助元帳と補助元帳タイプが使用されます。
 - *WO 作業オーダー番号と補助元帳タイプ W が使用されます。
 - *CUST 顧客の住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。
 - *CC ワークテーブル取引からのビジネスユニットと補助元帳タイプ C が使用されます。
 - *EMP ワークテーブル取引からの従業員または仕入先住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。
 - *AUTH 納税先の住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。納税先は、ワークテーブル取引に割り当てられた税率/税域に関連付けられています。
- 結果補助元帳タイプ

注:

対象取引が請求システムで再処理されないようにするには、対象勘定科目フィールドに請求対象外勘定科目を指定する必要があります。

6. 会計仕訳の記述を追加するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 記述
7. 会計仕訳の従業員番号を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 従業員制御フラグ
8. 会計仕訳の数量を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 数量制御フラグ
9. 会計仕訳の設備を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 設備制御フラグ
10. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
キー・タイプ	<p>〈サービス請求〉および〈契約請求〉システムのどのテーブル、またはユーザー定義コードから元取引およびワークファイル取引を検索および編集するかをテーブルキーと組み合わせて決めるコード。有効な値、および各値に関連するテーブルまたはユーザー定義コードは、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none">1 作業オーダー番号 - 作業オーダーマスター(F4801)2 作業オーダークラス - ユーザー定義コード(00/W7)3 契約番号 - 契約マスター(F5201)4 親契約番号 - 契約マスター(F5201)5 顧客 - 住所録マスター(F0101)6 作業／ビジネスユニット - ビジネスユニットマスター(F0006)7 作業クラス - ユーザー定義コード(00/11)8 会社 - 会社固定情報(F0010)9 デフォルト <p>キータイプを選択する際は、次のガイドラインに従ってください。</p> <ul style="list-style-type: none">・契約番号(3)または親契約番号(4)のキータイプは、税決定テーブル、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。・会社(8)のキータイプは、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。・デフォルト(9)のキータイプは、勘定科目決定テーブルおよび請求料金／割増しテーブル(World では原価割増しテーブル)にのみ使用できます。
テーブル・キー	<p>サービス請求システムと契約請求システムで、ワークテーブル取引を検索し、各種のテーブルと対照して検証するために、キー・タイプと組み合わせて使用される値。[キー・タイプ]フィールドに入力する値によって、[テーブル・キー]フィールドの有効値が確定されます。たとえば、作業オーダー番号のキー・タイプ(1)を指定した場合は、[テーブル・キー]フィールドに作業オーダー・マスター(F4801)からの有効な作業オーダー番号を入力する必要があります。また、指定したキー・タイプによって、検索ボタンの使用時に[テーブル・キー]フィールドからアクセスできる検索ウィンドウが制御されます。たとえば、[キー・タイプ]フィールドで1を選択すると、[テーブル・キー]フィールドの検索ボタンを使用して、[作業オーダーの検索]ウィンドウにアクセスできます。[キー・タイプ]フィールドで2を指定した場合は、作業オーダー・クラスの[ユーザー定義コード]ウィンドウにアクセスします。</p>
有効開始日	<p>住所、品目、取引、テーブルなどが有効になる日付。このフィールドの意味はプログラムによって異なります。たとえば、次のような日付として使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">・住所の変更が有効になる日付・賃貸契約が有効になる日付・価格が有効になる日付・為替レートが有効になる日付・税率が有効になる日付
有効終了日	<p>項目、取引、テーブルが非活動となる日付、または取引を表示する最終日付。このフィールドはシステム全体で使用されます。賃貸有効日付、価格または原価有効日付、通貨有効日付、税率有効日付などとして使用できます。</p>

開始主科目	<p>勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分。原価コードは、たとえば労務費を通常時間、割増し時間、間接費に分類するのに使用します。</p> <p>注:任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁にした場合は、6桁すべてを使用することをお勧めします。たとえば、“000456”と入力するのと“456”と入力するのでは、後者の場合、スペースが3つ追加されるので結果が異なります。</p>
終了主科目	勘定科目の範囲で終了主科目を示します。
開始補助科目	主科目の下で科目区分。補助科目は、取引レコードを主科目の下でさらに細分化します。
終了補助科目	勘定科目範囲の最後の補助科目を示します。これを使って配賦基準が決定されます。この範囲内にある勘定科目の転記済み金額のみ含まれます。
補助元帳	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類して取引を記録するための補助区分コード。たとえば住所番号を入力して、従業員別に経費を把握することができます。このフィールドに入力する場合、補助元帳タイプも指定する必要があります。
補助元帳タイプ	<p>補助元帳フィールドと併用するユーザー定義コード(00/ST)で、補助元帳タイプと補助元帳編集を識別します。〈ユーザー定義コード〉フォームでは、記述の第2行目により補助元帳の編集方法が制御されます。ハードコード化されている値またはユーザー定義の値を指定できます。有効な値は次のとおりです。</p> <p>A 英数字フィールド。編集しない。 N 数値フィールド。右に揃え、ゼロで埋める。 C 英数字フィールド。右に揃え、ゼロで埋める。</p>
元帳クラス	<p>請求書や伝票の転記時に計上する売掛金や買掛金を検索するために AAI 項目の RC(売掛金勘定)や PC(買掛金勘定)と組み合わせるコード。元帳クラスには最高4文字の英数字を割り当てることができます。各元帳クラスに対応する AAI を設定する必要があります。AAI が設定されていない場合、その元帳クラスは無視されます。</p> <p>得意先や仕入先レコードの元帳クラスにデフォルト値を設定すると、取引入力時に変更しない限りこの値が使用されます。</p> <p>注:9999 は使用しないでください。これは、仕訳を作成しないようにする転記プログラムの予約コードです。</p>
追加料金コード	追加料金コードは、請求明細取引レベルで勘定される仮の間接労務費を識別します。

結果ビジネスユニット

発生する取引を記録するビジネスユニット。ビジネスユニットを直接指定するか、次の値を使用してください。

ブランク - 得意先マスターのデフォルト収益勘定のビジネスユニットを使用する。

*SRC - 元取引のビジネスユニットを使用する。

*WO - 得意先マスターの請求先ビジネスユニットを使用する。

*HOME - 元取引の所属ビジネスユニットを使用する。所属ビジネスユニットが存在しない場合は、元取引のビジネスユニットが使用されます。

*PROJ - 作業マスターのプロジェクト番号を使用する。

*CO - 元取引の会社番号を使用する。

*HOST - ワークファイル取引の所属ビジネスユニットを使用する。

*EHMCU - 設備マスターの所属ビジネスユニットを使用する。

結果主科目

このフィールドは結果取引に使用される主勘定科目を確定します。次の方法の1つが使用できます。

- ・ 主勘定科目を指定。
- ・ ソース取引に関連する定義に、定位置ワイルドカード(*)を使用。
例えば、ソース取引からの主勘定科目は 3106 です。例えば、ソース取引からの主勘定科目は 3106 です。結果取引の主勘定科目を 4***と定義すると結果主勘定科目は 4106 となります。
- ・ 次の値の1つを使用。

ブランク - 得意先に対するマスター情報のデフォルト収益勘定からの主勘定科目。

*SRC - ソース取引からの主勘定科目を使用します。

結果補助科目

作成する取引の補助科目を決定します。補助科目を直接指定するか、次の値を使用してください。

ブランク - 得意先マスターのデフォルト収益勘定の補助科目を使用する

*BLANK - 作成する取引の補助科目をブランクにする

*SRC - ワークファイル取引の補助科目を使用する

*WO - 作業オーダーマスターの原価コード(補助科目)を使用する

結果補助元帳	<p>取引の補助元帳および補助元帳タイプを示すコード。補助元帳/補助元帳タイプを指定するか、次のいずれかの値を指定します。</p> <p>*SRC = ワークテーブル取引の補助元帳タイプと補助元帳の値</p> <p>*WO = 補助元帳タイプは W、補助元帳の値は作業オーダー番号</p> <p>*CUST = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値は得意先の住所番号</p> <p>*CC = 補助元帳タイプは C、補助元帳の値はワークテーブルのビジネスユニット</p> <p>*EMP = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値はワークテーブルの従業員/仕入先の住所番号</p> <p>*AUTH = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値は税務署の住所番号</p> <p>納税先は、ワークテーブル取引に割り当てられた税率と関連付けられています。</p>
結果補助元帳タイプ	<p>[補助元帳]フィールドと合わせて補助元帳の種類とフィールド形式を指定するユーザー定義コード(00/ST)。〈ユーザー定義コード〉フォームの[記述 2]フィールドの値によってフィールド形式が決まります。ハードコードされているものとユーザーが定義できるものがあります。たとえば次のとおりです。</p> <p>A = 英数字 (検証しない)</p> <p>N = 数字フィールド (右揃え、ゼロ埋め)</p> <p>C = 英数字フィールド (右揃え、ブランク埋め)</p>
記述	ユーザー定義名称または備考。
従業員制御フラグ	<p>仕訳入力時の従業員番号の更新を制御するフラグです。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 仕訳入力の際に従業員番号を更新しない</p> <p>1 仕訳入力の際に従業員番号を更新する</p>
数量制御フラグ	<p>仕訳入力時に数量を記録するかを指定します。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 仕訳に数量を記録しない</p> <p>1 仕訳に数量を記録する</p>
設備制御フラグ	<p>仕訳入力の際の設備番号更新を制御するフラグです。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 仕訳入力の際に設備番号を更新しない</p> <p>1 仕訳入力の際の資産番号の更新に使用設備番号(EQCG)を使用する</p> <p>2 仕訳入力の際の資産番号の更新に作業設備番号(EQWO)を使用する</p>

処理オプション:〈請求 AAI〉プログラム(P48S95)

デフォルト・タブ

フォームにアクセスしたときに最初に表示される AAI テーブルの番号を指定します。

1. AAI テーブル番号

[スキップ先]フィールドに自動入力する AAI テーブル番号を指定します。

セキュリティ・タブ

ユーザーがアクセスできるテーブルのキー・タイプを指定します。

1. キー・タイプ 1 - 作業オーダー

ブランク = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを禁止する

作業オーダー番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

1. キー・タイプ 2 - 作業オーダー・クラス

ブランク = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを禁止する

作業オーダークラス別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

1. キー・タイプ 3 - 契約番号

ブランク = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを禁止する

契約番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

4. キー・タイプ 4 - 親契約番号

ブランク = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを禁止する

親契約番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

5. キー・タイプ 5 - カスタマー番号

ブランク = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを禁止する

得意先番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

6. キー・タイプ 6 - 作業番号

ブランク = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを禁止する

ビジネスユニット(作業)番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

7. キー・タイプ 7 - 作業クラス

ブランク = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを禁止する

ビジネスユニット(作業)クラス別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

8. キー・タイプ 8 - 会社番号

ブランク = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを禁止する

会社番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

9. キー・タイプ 9 - デフォルト

ブランク = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダーAAI 基本規則へのアクセスを禁止する

デフォルト処理用に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

再配賦規則の定義

再配賦規則は、勘定科目間で金額を振り替えるために使用します。再配賦規則は、貸借を一致させるための複数の勘定科目で構成されます。たとえば、最初の勘定科目の項目では、基本規則で設定した仕訳項目の減額を表すことができます。2 番目の項目では、新しい勘定科目の増額を表すことができます。再配賦規則のパーセント基準の合計値を 0(ゼロ)にしてください。貸方の再配賦規則にマイナスのパーセンテージを入力する必要はありません。

4831(未収収益)と 4832(見越売掛金)以外のどの AAI の基本規則についても再配賦規則を定義できます。これは、この 2 つの AAI では、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳作成の制御]で設定した値に応じて、借方と貸方の両方に計上されるので、再配賦規則の借方/貸方フラグが誤解を招くためです。

収益または課税対象売掛金の配賦会計仕訳に再配賦規則を割り当てる場合には、AAI 4811(実績収益)または 4822(課税対象売掛金)を使用することをお勧めします。

▶ 再配賦規則を定義するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求 AAI〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求 AAI〉を選択します。

1. 〈AAI の処理〉で、AAI を選んで[選択]をクリックします。
2. 〈請求 AAI の処理〉で、AAI テーブルを選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft

AAI 基本規則の改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

AAIテーブルNo. 4811 Actual Revenue - Credit

キー・タイプ 3 Contract number 有効開始日 05/01/01

テーブル・キー 5350 Wet and Willy Wilderness Ride 有効終了日 06/12/31

グリッドのカスタマイズ

	相互参照	開始主科目	終了主科目	開始補助科目	終了補助科目	補助元帳	補助元帳タイプ	元帳クラス	追加料金コード	結果ビジネスユニット	結果主科目	備考
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	3400	8499							*SRC	1380	

3. 〈AAI 基本規則の改訂〉で、基本規則を選んで[ロー]メニューから[再配賦規則]を選択します。

注:

基本規則に対して再配賦が存在する場合は、〈AAI 基本規則の改訂〉フォームの[R]フィールドに X が表示されます。

PeopleSoft®

AAI再配賦規則の改訂

OK 検索 削除 キャンセル ロー ツール

テーブル情報

AAIテーブルNo. 4811 Actual Revenue - Credit
 キータイプ 3 Contract number 開始日 05/01/01
 テーブル・キ 5350 Wet and Willy Wilderness Ride 終了日 06/12/31

基本規則情報

主科目範囲 8400 8499 補助科目範囲
 補助元帳タイプ 元帳クラス 追加料金コード

グリッドのカスタマイズ

	元帳 タイプ	結果 ビジネスユニット	結果 主科目	結果 補助科目	結果 補助元帳	補助元帳 タイプ	記述	従業員 制旗フラグ	数量 制旗フラグ
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

4. 〈AAI 再配賦規則の改訂〉で、仕訳を作成する勘定科目を指定するには、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。

- 元帳タイプ

- 結果ビジネスユニット

ビジネスユニットを直接指定するか、次の値のいずれかを使用してください。

- ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からのビジネスユニット。
- *SRC ソース取引のビジネスユニット。
- *WO 顧客マスターの請求先ビジネスユニット。
- *HOME ソース取引からの所属ビジネスユニット。所属ビジネスユニットが存在しない場合は、元取引のビジネスユニットが使用されます。
- *PROJ 作業マスター情報からのプロジェクト番号。
- *CO ソース取引からの会社番号。
- *HOST ワークテーブル取引からの担当ビジネスユニット。
- *EHMCU 設備マスター情報からの担当ビジネスユニット。

- 結果主科目

主科目を指定するか、次のいずれかの方法を使用できます。

ソース取引に関連する定義に、桁ワイルドカードとしてアスタリスク(*)を使用します。たとえば、ソース取引からの主科目が 3106 であるとしします。この主科目を対象取引用に“4***”として定義すると、対象主科目は 4106 となります。

次のどちらかの値を使用します。

- ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からの主科目。
- *SRC ソース取引からの主科目。

- 結果補助科目

補助科目を直接指定するか、次の値のいずれかを使用してください。

- ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からの補助科目。
- *BLANK 対象取引の補助科目はブランクになります。
- *SRC ワークテーブル取引からの補助科目。
- *WO 作業オーダー・マスター情報からの原価コード(補助科目)。

- 結果補助元帳

補助元帳/補助元帳タイプを指定するか、次のいずれかの値を指定します。

- *SRC ワークテーブル取引からの補助元帳と補助元帳タイプが使用されます。
- *WO 作業オーダー番号と補助元帳タイプ W が使用されます。
- *CUST 顧客の住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。
- *CC ワークテーブル取引からのビジネスユニットと補助元帳タイプ C が使用されます。
- *EMP ワークテーブル取引からの従業員または仕入先住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。
- *AUTH 納税先の住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。納税先は、ワークテーブル取引に割り当てられた税率/税域に関連付けられています。

- 補助元帳タイプ

5. 仕訳の記述を追加するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 記述

6. 仕訳の従業員番号を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 従業員制御フラグ

7. 仕訳の数量を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 数量制御フラグ

8. 仕訳の設備を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 設備制御フラグ

9. 仕訳に使用する金額の割合を指定するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 組込パーセント

10. 借方と貸方のうち、どちらの会計仕訳を作成するかを指定するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 貸方/借方

11. [OK]をクリックします。

注:

再配賦規則の貸借を一致させるには、借方と貸方が必要です。貸方の再配賦規則の割合は、借方の再配賦規則の割合と一致させる必要があります。マイナスのパーセントを入力する必要はありません。会計仕訳の金額は、借方/貸方の割当てに基づいて計算されます。

フィールド記述

記述	用語解説
元帳タイプ	AA(実績金額)、BA(予算金額)AU(実績数量)などのレコードの属性(元帳タイプ)を示すユーザー定義コード(09/LT)。1つの取引に対して数量と金額、国内通貨と外貨など、元帳タイプ別に複数のレコードを持つことができるため、柔軟に取引を照会できます。
結果ビジネスユニット	発生する取引を記録するビジネスユニット。ビジネスユニットを直接指定するか、次の値を使用してください。 ブランク - 得意先マスターのデフォルト収益勘定のビジネスユニットを使用する。 *SRC - 元取引のビジネスユニットを使用する。 *WO - 得意先マスターの請求先ビジネスユニットを使用する。 *HOME - 元取引の所属ビジネスユニットを使用する。所属ビジネスユニットが存在しない場合は、元取引のビジネスユニットが使用されます。 *PROJ - 作業マスターのプロジェクト番号を使用する。 *CO - 元取引の会社番号を使用する。 *HOST - ワークファイル取引の所属ビジネスユニットを使用する。 *EHMCU - 設備マスターの所属ビジネスユニットを使用する。

結果主科目	<p>このフィールドは結果取引に使用される主勘定科目を確定します。 次の方法の1つが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主勘定科目を指定。 ・ ソース取引に関連する定義に、定位置ワイルドカード(*)を使用。 例えば、ソース取引からの主勘定科目は 3106 です。例えば、ソース取引からの主勘定科目は 3106 です。結果取引の主勘定科目を 4***と定義すると結果主勘定科目は 4106 となります。 ・ 次の値の1つを使用。 ブランク - 得意先に対するマスター情報のデフォルト収益勘定からの主勘定科目。 *SRC - ソース取引からの主勘定科目を使用します。
結果補助科目	<p>作成する取引の補助科目を決定します。補助科目を直接指定するか、次の値を使用してください。</p> <p>ブランク - 得意先マスターのデフォルト収益勘定の補助科目を使用する</p> <p>*BLANK - 作成する取引の補助科目をブランクにする</p> <p>*SRC - ワークファイル取引の補助科目を使用する</p> <p>*WO - 作業オーダーマスターの原価コード(補助科目)を使用する</p>
結果補助元帳	<p>取引の補助元帳および補助元帳タイプを示すコード。補助元帳/補助元帳タイプを指定するか、次のいずれかの値を指定します。</p> <p>*SRC = ワークテーブル取引の補助元帳タイプと補助元帳の値</p> <p>*WO = 補助元帳タイプは W、補助元帳の値は作業オーダー番号</p> <p>*CUST = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値は得意先の住所番号</p> <p>*CC = 補助元帳タイプは C、補助元帳の値はワークテーブルのビジネスユニット</p> <p>*EMP = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値はワークテーブルの従業員/仕入先の住所番号</p> <p>*AUTH = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値は税務署の住所番号</p> <p>納税先は、ワークテーブル取引に割り当てられた税率と関連付けられています。</p>
補助元帳タイプ	<p>[補助元帳]フィールドと合わせて補助元帳の種類とフィールド形式を指定するユーザー定義コード(00/ST)。〈ユーザー定義コード〉フォームの[記述 2]フィールドの値によってフィールド形式が決まります。ハードコードされているものとユーザーが定義できるものがあります。たとえば次のとおりです。</p> <p>A = 英数字(検証しない)</p> <p>N = 数字フィールド(右揃え、ゼロ埋め)</p> <p>C = 英数字フィールド(右揃え、ブランク埋め)</p>
記述	<p>ユーザー定義名称または備考。</p>

従業員制御フラグ	<p>仕訳入力時の従業員番号の更新を制御するフラグです。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <p> Blank 仕訳入力の際に従業員番号を更新しない</p> <p> 1 仕訳入力の際に従業員番号を更新する</p>
数量制御フラグ	<p>仕訳入力時に数量を記録するかを指定します。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <p> Blank 仕訳に数量を記録しない</p> <p> 1 仕訳に数量を記録する</p>
設備制御フラグ	<p>仕訳入力の際の設備番号更新を制御するフラグです。有効な値は次のとおりです。</p> <p> Blank 仕訳入力の際に設備番号を更新しない</p> <p> 1 仕訳入力の際の資産番号の更新に使用設備番号(EQCG)を使用する</p> <p> 2 仕訳入力の際の資産番号の更新に作業設備番号(EQWO)を使用する</p>
組込パーセント	<p>仕訳入力時の基準額として使用するワークファイル取引金額のパーセントを指定します。</p> <p>パーセントは、小数点を使用した形で入力してください。 例えば、100%は"1.000"、45%は".4500"と入力します。</p> <p>基本規則の場合は、このフィールドが 100%である必要があります。 再配賦規則の場合は、パーセントの合計が 100%である必要があります。</p> <p>生成タイプ 2 の取引では、プラスの収益額の合計パーセントはマイナスの収益額の合計パーセントと等しくなる必要があり、プラスの原価額の合計パーセントはマイナスの原価額の合計パーセントと等しくなる必要があります。</p> <p>パーセントは小数点を使用した形で入力してください。 例えば、100%は"1.000"、45%は".4500"と入力します。</p>
貸方借方	<p>仕訳を書き込むときに AAI テーブルの行に基づいて借方または貸方に 仕訳を書き込むかどうかを指示します。</p>

参照

- AAI の設定については『売掛管理』ガイドの「AAI の処理」
- 売掛金とその他の売掛金 AAI については、『売掛管理』ガイドの「売掛管理の AAI」

請求 AAI テーブル情報の検討

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求 AAI テーブル情報〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈勘定科目決定テーブル一覧〉を選択します。

〈請求 AAI テーブル情報〉プログラム(R48S95)を使用して、サービス請求および契約請求システムに設定した請求 AAI のリストを表示します。このレポートには各請求 AAI について次の情報が含まれます。

- キー・タイプ
- テーブル・キー
- 有効日付
- 主科目
- 補助科目
- 補助元帳と補助元帳タイプ
- 元帳クラス
- 追加料金コード
- 結果勘定
- 結果勘定の記述
- 元帳タイプ
- 再配賦のパーセンテージ
- 設備/従業員/数量の制御
- 会計基準
- 貸方/借方

処理オプション: 請求 AAI テーブル情報(R48S95)

添付

添付を含める

ユーザー定義コードの理解

契約請求システムには、ユーザー定義コードしか入力できないフィールドが数多くあります。たとえば、請求書の作成時には、ユーザー定義コードを使用して請求書に伝票タイプを割り当てます。ユーザー定義コード・テーブルに定義されていない値は受け入れられません。

ビジネス要件を満たすように EnterpriseOne システムをカスタマイズするには、各プログラムの多数のフィールドに有効なコードを定義します。

ユーザー定義コードは、特定のシステムおよびコード・タイプに基づくテーブルにあります。フィールドに関連するテーブル内で設定されていないコードを使用すると、エラーが表示されます。ユーザー定義コードを処理するには、単一の〈ユーザー定義コード〉フォームからアクセスできます。メニューから〈ユーザー定義コード〉フォームを選択した後は、[システム・コード]フィールドと[ユーザー定義コード]フィールドの値を変更し、他のユーザー定義コード・テーブルにアクセスします。

ユーザー定義コードを変更する前に、その細部まで理解しておく必要があります。

参照

- ユーザー定義コードの詳細については、『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コード」

変更状況(52/CH)

変更状況コードでは、契約の現行の変更オーダー状況が識別されます。次に例を示します。

AP	承認済みの変更
OR	当初の契約
PL	計画済みの変更
PN	保留中の変更

契約状況(52/CS)

契約状況コードでは、契約の現在の状況が識別されます。次に例を示します。

10	入札済み
15	契約承認済み
20	リリース済み - 開始待ち
30	仕掛
35	有効な契約

税目コード(00/EX)

さまざまな税計算方法のコードを割り当てることができます。契約請求に有効なコードは、次のとおりです。

C	消費税 + 売上税
S	売上税
V	消費税
E	免税
V+	Vと同じ(税込金額に対する課税)

追加料金コード(48/CM)

追加料金コードは、ワークテーブル取引の生成または改訂時に作成される追加料金のタイプを表します。次に例を示します。

COM	借入費用
DUES	時間単位の組合費
FEE	手数料
FRG	追加給付
OVH	間接費

調整理由(48/AR)

調整理由コードは、ワークテーブル取引の改訂理由を示します。次に例を示します。

DP	問題となっている項目
SP	ワークテーブル取引の分割
R	再アクティブ化

変更オーダー・カテゴリ・コード 1 - 2(52/A1 - A2)

変更オーダー・カテゴリ・コードでは、一部の属性を共有する変更オーダーを分類し、レポートします。

請求行カテゴリ・コード 3 - 5(52/A3 - A5)

請求行カテゴリ・コードでは、一部の属性を共有する請求行を分類し、レポートします。

契約カテゴリ・コード 1 - 5(52/01 - 05)

契約カテゴリ・コードでは、一部の属性を共有する契約を分類し、レポートします。コードは 3 文字です。

契約カテゴリ・コード 11 - 15(52/11 - 15)

契約カテゴリ・コードでは、一部の属性を共有する契約を分類し、レポートします。コードは 10 文字です。

ビジネスユニット(作業)クラス(00/11)

ビジネスユニット・クラスは、ビジネスユニットをグループ化するためのカテゴリ・コードです。このカテゴリ・コードは、すべての J.D. Edwards システムで使用されます。契約請求システムでは、このユーザー定義コードを各種テーブルの設定時に主キーとして使用できます。

たとえば、このカテゴリ・コードを共有するすべてのビジネスユニットに割増規則を適用する場合は、このユーザー定義コードを請求料金/割増テーブル(F48096)内でテーブル・キーとして使用できます。次に例を示します。

112	南東
113	北東
114	北西
115	南西
116	北部中央

原価プール(00/12)

原価プールは、ビジネスユニットをグループ化するためのカテゴリ・コードです。このカテゴリ・コードは、すべての J.D. Edwards システムで使用されます。この種のユーザー定義コードを使用すると、割増情報の適用時に、労務費や設備費など、請求可能な活動をグループ化できます。

たとえば、このカテゴリ・コードを共有するすべての所属ビジネスユニットに割増規則を適用する場合は、このユーザー定義コードを請求料金/割増テーブル(F48096)内で補助キーとして使用できます。次に例を示します。

CA	カリフォルニア
MI	ミシガン
WV	ウェスト・ヴァージニア

作業オーダー・クラス(00/W7)

作業オーダー・クラスは、作業オーダーをグループ化するためのカテゴリ・コードです。このカテゴリ・コードは、すべての J.D. Edwards システムで使用されます。契約請求システムでは、このユーザー定義コードを各種テーブルの設定時に主キーとして使用できます。

たとえば、このカテゴリ・コードを共有するすべての作業オーダーに割増規則を適用する場合は、このユーザー定義コードを請求料金/割増テーブル(F48096)内で主キーとして使用します。次に例を示します。

PER	特別警備
SCR	選抜警備
SUP	監督者

テスト請求書および最終請求書の番号付け

国によっては請求書に連続した番号を付けなければならない場合もあります。契約請求システムで入力した請求書は売掛管理システムで作成される前であれば削除できます。削除すると、請求書番号が連続でなくなります。番号がとばないようにするには、サービス請求システムの設定によって、テスト用の伝票タイプと請求書番号を割り当てることができます。売掛管理システムで最終の請求書仕訳を作成すると、連続した最終の請求書番号が割り当てられます。

テストおよび最終の請求書番号付けを使用するには、テスト伝票タイプと最終伝票タイプを関連付ける必要があります。たとえば、テスト伝票タイプに DF、最終伝票タイプに RI をそれぞれ使用する場合、この 2 つの伝票タイプに関係を設定してください。この情報はテスト/最終請求書伝票テーブル(F48S001)で設定します。

また、この機能を使用するには、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[請求書番号制御]オプションをオンにしてください。

はじめる前に

- 会社別および会計年度別に自動採番を設定し、テスト用と最終用の各伝票タイプについて「次の番号」をセットアップしてください。詳しくは、『一般会計』ガイドの「Setting Up System Next Numbers(システム自動採番の設定)」を参照してください。

▶ テスト請求書および最終請求書の番号付けを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から〈サービス請求固定情報〉を選択します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G5240)から〈契約請求固定情報〉を選択します。

1. 〈請求固定情報〉で、[請求制御]タブを選択し、次のオプションをクリックしてオンにします。

- 請求書番号制御

PeopleSoft®

サービス請求固定情報

OK キャンセル ツール

ワークテーブル生成制御 日付処理 請求制御 仕訳記録制御 債権し制御

顧客No 基準 ☐ 所有者住所No (作業) ☒ 作業オーダーの顧客

請求書日付の一時変更 ☐ 日付変更を許可しない ☒ 日付変更を許可する ☐ 自動的に一時変更する

☐ 請求書集計アクセス・テーブルの作成

☒ 請求書番号制御 関連付け伝票タイプ

ドラフト請求書タイプを自動入力する ☐ RI Invoice

2. [関連付け伝票タイプ]ボタンをクリックします。

PeopleSoft®

関連付けられた下書きおよび最終の伝票タイプ

OK 検索 削除 キャンセル ツール

グリッドのカスタマイズ

	ドラフト伝票タイプ	下書き伝票記述	最終伝票タイプ	最終伝票記述
<input checked="" type="checkbox"/>	01	Contr/Ser Billing	RI	Invoice
<input type="checkbox"/>	R3	Draft Invoice	R4	Final Invoice
<input type="checkbox"/>				

3. 〈関連付けられた下書きおよび最終の伝票タイプ〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - ドラフト伝票タイプ
 - 最終伝票タイプ
4. 〈サービス請求固定情報〉で、[OK]をクリックします。

請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定

請求書の印刷時には、〈請求書印刷バージョン相互参照〉プログラム(P48S58)で設定した情報を使用して、生成済み請求書バッチ内で各請求書の印刷に使用する請求書印刷バージョンを識別します。請求書印刷バージョンは、〈請求書の印刷 - スマート・フィールド〉プログラム(R48507)、そのアプリケーションのバージョン、請求書タイプで構成されます。〈請求書印刷バージョン相互参照〉プログラム(P48S58)での情報の設定は、次の 2 つの方法のどちらを使っても行えます。

- 請求書印刷バージョンには、キー・タイプとテーブル・キーを組み合わせで割り当てることができます。割り当てた情報は、個々の請求書を構成する請求取引の値と突き合わせて検証されます。たとえば、特定の顧客向けに請求書印刷バージョンを設定するとします。このためには、顧客を示すキー・タイプとテーブル・キーを選択し、この組合せを請求書印刷バージョンに割り当てます。システムにより請求書を印刷する際に、この顧客に属するすべての請求書が検索され、指定した請求書印刷バージョンを使用して印刷されます。使用するテーブル・キーはキー・タイプに対応している必要があります。同様に、顧客のキー・タイプを入力したら、テーブル・キーに有効な顧客番号を入力する必要があります。

請求書印刷バージョンの検索には、次の階層が使用されます。

- 作業オーダー番号
- 作業オーダー・クラス
- 契約番号
- 親契約番号
- 顧客
- 作業またはビジネスユニット
- 職務分類
- 会社番号
- 請求書印刷バージョンに請求書フォーマット・コードを割り当てることができます。これらのコードを使用して、請求書集計ワークテーブル(F4822)や契約マスター(F5201 - 契約請求の場合のみ)に保管された請求書フォーマット・コードに基づいて、使用する請求書印刷バージョンが確定します。フォーマット・コードを作成すると、[キー・タイプ]フィールドにデフォルト値の「9」が表示され、[テーブル・キー]フィールドに「*ALL」が表示されます。たとえば、指定した請求書印刷バージョン XJDE0005、タイプ D に、請求書フォーマット・コード (FORMAT) を割り当てることができます。請求書の印刷時には、[請求書フォーマット・コード]フィールドが FORMAT に設定されている請求書のうち、選択されたすべての請求書が、XJDE0005、請求書タイプ D を使用して印刷されます。

請求書の印刷処理

請求書を印刷する際には、システムにより〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)が実行されます。〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)は、印刷する各請求書について、〈請求書の印刷 – スマート・フィールド〉プログラム(R48507)のバージョンを呼び出します。請求書印刷プログラムのデフォルトのバージョンを使用するか、カスタム・バージョンを作成できます。

契約請求システム内のさまざまなフォームから請求書を印刷できます。〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から[請求書の印刷]オプションを選択することで、請求書を直接印刷できます。また、〈バッチの検討〉プログラム(P48221)からも請求書を印刷できます。〈バッチの検討〉プログラム(P48221)では、〈バッチの処理〉フォームから請求書バッチ全体を印刷するか、〈請求書の処理〉フォームで特定の請求書を印刷できます。

使用する請求書印刷バージョンの確定方法

請求書に使用するレポートとバージョンを確定するために、〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)では、最初にこのプログラムの処理オプションの[請求書バージョン UBE]、[請求書バージョン]、[請求書ワークテーブル明細選択]が使用されます。これらの処理オプションに値が入力されていると、指定の請求書印刷プログラムおよびバージョンが印刷用に選択したすべての請求書に使用されます。この場合、その他のテーブルの設定は一時変更されます。

これらの3つの処理オプションに値が入力されていると、[請求書フォーマット名]処理オプションの値を使用して請求書印刷プログラムが、請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)を使用してバージョンが、それぞれ選択されます。

[印刷]タブのいずれの処理オプションも入力されていない場合は、各請求書の特定の情報を使用して、その請求書の請求書印刷プログラムとバージョンが確定します。まずサービス請求システムの場合、請求書集計ワークテーブル(F4822)の請求書フォーマット・コード(INVF)のフィールドに値が入力されているかどうかチェックされます。契約請求システムの場合は、契約マスター(F5201)が使用されます。このフィールドに値が入力されている場合、指定されたフォーマット・コードを使用して請求書印刷プログラムが選択され、請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)によってバージョンも決まります。請求書フォーマット・コードのフィールドがブランクの場合、各請求書のキー・タイプを使用して請求書印刷プログラムが選択され、請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)によってバージョンも決まります。

次の表は、使用する請求書バージョンの確定方法を示します。最初に、テーブルの最初のローで説明されているシナリオが検討されます。そのシナリオが真の場合は、対応する処理が実行されます。そのシナリオが真でない場合は、テーブルの2番目のローで説明されているシナリオが検討されます。以下も同様に続けられます。

注:

特に明記されていない限り、いずれの場合も〈請求書の印刷〉プログラムの処理オプションの[選択]タブで請求書タイプが決まります。請求書タイプと請求書フォーマット名を使用して、使用するプログラムと印刷バージョンが決まります。

条件	結果
請求書印刷バージョンで[請求書バージョン UBE]、[請求書バージョン]、および[請求書ワークテーブル明細選択]処理オプションが入力されている。	[請求書バージョン UBE]、[請求書バージョン]、および[請求書ワークテーブル明細選択]処理オプションを使用します。[請求書フォーマット・タイプ]処理オプションは使用されません。
請求書印刷バージョンで[請求書フォーマット名]処理オプションが入力されている。	[請求書フォーマット名]および[請求書フォーマット・タイプ]処理オプションを使用して、UBE 名、バージョン名、およびワークテーブル明細選択が請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)から検索されます。
サービス請求の請求書集計ワークテーブル(F4822)、または契約請求の契約マスター(F5201)で、[請求書フォーマット・コード]フィールドが更新済みである。	[請求書フォーマット名]および[請求書フォーマット・タイプ]処理オプションを使用して、UBE 名、バージョン名、およびワークテーブル明細選択が請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)から検索されます。
上記のいずれにも当てはまらない。	請求書集計ワークテーブル(F4822)(作業オーダー、作業オーダー・クラス、契約など)の特定の情報を[請求書フォーマット・タイプ]処理オプションと共に使用して、UBE 名、バージョン名、およびワークテーブル明細選択を請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)から検索します。

通貨処理オプション

[通貨]処理オプションは、金額スマート・フィールド(SFAMT)と組み合わせて使用されます。SFAMTを使用して請求明細ワークテーブル(F4812)と請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)から金額を取り込んで印刷した場合、この処理オプションを使用して国内通貨と外貨のどちらを印刷するか、またはレコードのモードに基づいて印刷する値を確定するかを制御できます。

▶ 請求書印刷バージョン相互参照テーブルを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から、〈請求書印刷バージョン相互参照〉を選択します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G5240)から〈請求書印刷バージョン相互参照〉を選択します。

1. 〈請求書印刷バージョン相互参照の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft®

請求書印刷バージョン相互参照の改訂

OK 削除 キャンセル ツール

UBE名 R48507 Invoice Print with Smart Field
 請求書タイプ D Draft Version
 バージョン名 XJDE0002 Generic Sample Invoice #1
 ワークテーブル明細の選択 ☒ Include Base & Burden Only

タビッドのカスタマイズ

	請求書 フォーマット	フォーマット・コード 記述	キー・タ 記述	キー・タイプ 記述	テーブル・キー 記述	契約 タイプ	契約 会社	テーブル・キー 記述
<input checked="" type="checkbox"/>			9	Default	ALL			Default Table
<input type="checkbox"/>								

2. 〈請求書印刷バージョン相互参照の改訂〉で、次のフィールドに情報を入力します。
 - UBE 名
 - 請求書タイプ
 - バージョン名
 - ワークテーブル明細の選択
3. この請求書印刷バージョンをキー・タイプとテーブル・キーの組合せ別に検索する場合は、次のフィールドに情報を入力します。
 - キー・タイプ
 - テーブル・キー
 - 契約タイプ
 - 契約会社

[キー・タイプ記述]と[テーブル・キー記述]フィールドには自動的に情報が入力されます。

キー・タイプとテーブル・キーの組合せを入力した場合、請求書フォーマット・コードとフォーマット・コード記述は使用されません。

契約タイプと契約会社は、キー・タイプ 3(契約番号)とキー・タイプ 4(親契約番号)でのみ使用されます。

4. 請求書印刷バージョンを請求書フォーマット・コード別に検索する場合は、次のフィールドに情報を入力します。

- 請求書フォーマット・コード
- フォーマット・コード記述

[キー・タイプ]と[キー・タイプ記述]、[テーブル・キー]、「テーブル・キー記述」の各フィールドには自動的に情報が入力されます。

注:

キー・タイプとテーブル・キーの組合せ、および請求書フォーマット・コードを使用すると、特定の請求書について同じ請求書印刷バージョンが選択されることがあります。

5. [OK]をクリックします。

請求書フォーマットの設定

請求書を生成したら、カスタマイズした請求書印刷バージョンを使用して顧客用に請求書を印刷できます。

契約請求システムでは、請求書フォーマットは〈レポート設計ツール〉を使用して作成するバージョンを指します。〈請求書印刷バージョン相互参照〉プログラム(P48S58)を使用すると、顧客の請求書を印刷する際の請求書フォーマットを指定できます。

ソフトウェアに用意されているテンプレート以外のフォーマットなど、多様な印刷フォーマットが必要な場合があります。たとえば、次のような場合などです。

- 顧客の要望により、請求書情報を伝票の特定の部分に印刷したい。
- 社内と社外用に異なる請求書フォーマットが必要である。
- 請求タイプごとに異なる請求書フォーマットを使用する。

請求書フォーマット・テンプレート

請求書フォーマット・テンプレートは、請求書のカスタマイズに使用できる特殊フィールドと特性がすべて含まれた基本バージョンです。請求書フォーマットをカスタマイズするには、既存バージョンのテンプレートをコピーして、それを修正します。請求システムは、〈請求書の印刷 - スマート・フィールド〉テンプレート(R48507)と共にインストールされます。このテンプレートと関連バージョンでは、スマート・フィールドが使用されます。スマート・フィールドは、〈レポート設計ツール〉の実行中に請求書フォーマットに挿入できる変数です。スマート・フィールドは、固定情報や計算が関連付けられているビジネス・ビュー・フィールドに似ています。これらのある形式で作成すると、スマート・フィールドで入力が必要とされます。請求書の印刷時には、変更内容と一部のプログラミング・ロジックを使用して、請求書にユーザー定義情報が取り込まれて印刷されます。

レポート設計ツールを使用すると、標準請求書フィールドの表示/非表示を切り替えたり移動して、請求書の体裁を変更できます。レポート設計ツールやイベント・ルールの詳細に関する知識は不要です。

〈スマート・フィールドの印刷〉プログラムの標準バージョンは XJDE0001～XJDE0009 です。XJDE0001 はテンプレート・バージョンです。スマート・フィールドを使用した請求書印刷の場合、請求書にさまざまなフィールドを印刷できますが、請求書に印刷できるすべてのフィールドを組み込むことはできません。〈スマート・フィールドの印刷〉プログラムのテンプレート・バージョンにはフィールドは含まれていないため、請求書フォーマットをカスタマイズできます。ヘッダー・セクション、カラム詳細セクション、およびフッターセクションは、いずれもブランクになっています。

必要な請求書に近い〈スマート・フィールドの印刷〉プログラムの既存バージョンがない場合、XJDE0001 のコピーを作成してからそれをカスタマイズできます。XJDE0001 の詳細セクションには、選択した請求ワークテーブル・レコードがすべて表示されます。希望の請求書フォーマットに詳細レコードの集計や分類が必要な場合、条件セクションを組み込む必要があります。条件セクションにはユーザー定義のレベル区切りを使用します。

はじめる前に

- 請求書印刷バージョン相互参照テーブルを設定します。『契約請求』ガイドの「請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定」を参照してください。

スマート・フィールドを使用した請求書フォーマット・テンプレートの修正

必要な請求書印刷バージョンを作成して、ビジネス・ビュー・フィールド、固定情報およびスマート・フィールドを追加できます。

注意:

製品に用意されているバージョンやテンプレートを変更しないようお勧めします。代わりに、標準バージョンの 1 つをコピーしてから、そのバージョンに変更を加えるようにしてください。

既存のバージョンを基準としない、請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド〉プログラム (R48507) の新規バージョンを作成できます。たとえば、用意されているバージョンでは請求要件に対応できないために、新バージョンの作成が必要となる場合があります。最初に XJDE バージョンをコピーして、独自のバージョンを作成できます。これにより、オリジナルのバージョンはそのまま残り、テンプレート専用として使用することになります。次のリストから必要なバージョンを選択してコピーできます。

- XJDE0001 スマート・フィールドを使用した請求書印刷 (ブランクのテンプレート)
- XJDE0002 汎用サンプル請求書番号 1
- XJDE0003 AIA - 集計テキスト・バージョン
- XJDE0004 AIA - カラム・バージョン
- XJDE0005 - 契約バージョン (支払項目別/変更オーダーあり)
- XJDE0006 作業オーダー請求書 - 作業オーダー 1 件につき 1 行
- XJDE0007 - 主科目または補助科目別勘定科目
- XJDE0008 - 支払項目別
- XJDE0009 - 進捗請求バージョン

請求書印刷バージョンをコピーすると、基本レポート・スペックと同様に、そのバージョンのスペック・レコードはユーザーのワークステーションにのみ存在することになります。バージョンを他のユーザ

ーが使用できるようにするには、そのバージョンをサーバーにチェックインする必要があります。バージョンをチェックインすると、バージョンのスペック・レコードが、現行環境のパス・コードに従ってセン
トラル・オブジェクト・データ・ソース(サーバー)にコピーされます。

請求書印刷スマート・フィールド

請求書の設計時に挿入できるように、80 以上のスマート・フィールドが用意されています。これらのスマート・フィールドは、プレフィックス SF に続いてテーブル番号、A(名称)、C(文字)、D(日付)、N(数値)などのデータ・タイプ ID によって名前がついています。たとえば、ビジネスユニット・マスター(F0006)から数値情報を取り込んで印刷するためのスマート・フィールドの名称は SF0006N です。大多数のスマート・フィールドは、請求書に印刷できる各種テーブルに保管された情報を取り込む際に使用します。請求書関連の情報を含むテーブルごとに、スマート・フィールドを使用して次の操作を実行できます。

- 名称情報の取得と印刷
- 1 文字からなる情報の取込み
- 日付情報の取得
- 数値情報の取込み
- 請求明細ワークテーブル(F4812)と請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)の金額の印刷
- テキスト・ブロックの印刷
- 他のフィールドに基づく値の計算と印刷
- ユーザー定義のメモリ位置に保管されている累計値の印刷

請求書の設計時には、次のスマート・フィールドを使用してテーブル情報を取り込むことができます。

テーブル	テーブル名	名称スマート・フィールド	文字スマート・フィールド	数値スマート・フィールド	日付スマート・フィールド
F0006	ビジネスユニット・マスター	SF0006A	SF0006C	SF0006N	SF0006D
F0014	支払条件	SF0014A	SF0014A	SF0014N	SF0014D
F0101	住所録マスター	SF0101A	SF0101C	SF0101N	SF0101D
F0111	住所録 - 人名録	SF0111A	SF0111C	SF0111N	SF0111D
F0115	住所録 - 連絡先電話番号	SF0115A	SF0115C	SF0115N	SF0115D
F0116	日付別住所	SF0116A	SF0116C	SF0116N	SF0116D
F03012	会社別顧客マスター	SF03012A	SF03012C	SF03012N	SF03012D
F0401	仕入先マスター	SF0401A	SF0401C	SF0401N	SF0401D
F00692	ビジネスユニット補足データ・コード	SF0692A	SF0692C	SF0692N	SF0692D
F0901	勘定科目マスター	SF0901A	SF0901C	SF0901N	SF0901D

テーブル	テーブル名	名称スマート・フィールド	文字スマート・フィールド	数値スマート・フィールド	日付スマート・フィールド
F1201	固定資産マスター	SF1201A	SF1201C	SF1201N	SF1201D
F1721	契約詳細	SF1721A	SF1721C	SF1721N	SF1721D
F4801	作業オーダー・マスター	SF4801A	SF4801C	SF4801N	SF4801D
F4812	請求明細ワークテーブル	SF4812A	SF4812C	SF4812N	SF4812D
F4822	請求書集計ワークテーブル	SF4822A	SF4822C	SF4822N	SF4822D
F48520	請求書集計アクセス	--	--	SF48520N	--
F5201	契約マスター	SF5201A	SF5201C	SF5201N	SF5201D
F5202	契約請求行明細	SF5202A	SF5202C	SF5202N	SF5202D
F5216	マイルストーン/進捗請求情報	SF5216A	SF5216C	SF5216N	SF5216D
F4201	受注見出し			SF4201N	
F00693	ビジネスユニット補足データ・テキスト	SF0693A	--	--	--
F4802	作業オーダー指示	SF4802A	--	--	--
F00165	メディア・オブジェクト	SFABTXT SFCNTTXT SFINVTXT			
F0005	ユーザー定義コード	SF0005A			

テーブルに保存されていない情報を提供する特殊なスマート・フィールドは、次のとおりです。

スマート・フィールド	名称	機能
SFAMT	金額	F4812 テーブルと F4812H テーブルからの金額の印刷に使用します。間接費と追加料金の金額を組み込むか除外するかを選択できます。また、〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)の[通貨]オプションと併用し、必要に応じて外貨金額または国内通貨金額を印刷できます。
SFADD	計算 - 追加	複数のフィールド値を合計して結果値を印刷する際に使用します。
SFSUB	計算 - 減算	フィールド値を引き算して差異を印刷するときに使用します。
SFMUL	計算 - 乗算	フィールド値を掛け算して結果を印刷する際に使用します。
SFDIV	計算 - 除算	フィールド値を割り算して結果を印刷する際に使用します。

スマート・フィールド	名称	機能
SFTOTAL	レジスタ合計	このスマート・フィールドは、フィールドの累積金額を印刷し、必要に応じてレジスタ（請求書設計者がスマート・フィールドの値を保管および累積するために使用できる可変のメモリ位置）を初期化するために使用します。
SFCALC	レジスタ計算	このスマート・フィールドは、複数のレジスタ値を使用して計算を実行し、結果を印刷するために使用します。

▶ スマート・フィールドを請求書フォーマット・テンプレートに追加するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から〈請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド〉を選択します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G5240)から〈請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド〉を選択します。

1. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、バージョンを選択して[コピー]をクリックします。
2. 〈バージョン・コピー〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 新しいバージョン
 - セキュリティ
 - バージョン・タイトル
3. 〈バッチ・バージョンの設計〉で、[ツール]タブを選択し、[レポート設計]ボタンをクリックします。
レポート設計ツールが起動し、請求書バージョンに対して変更や追加を加えることができます。

セクションごとに、バージョン・スペックを一時変更し、イベント・ルール、データ選択または順序設定のレイアウトを修正する必要があります。

4. バージョンのスペックを一時変更するには、セクションを右クリックして[Override Version Specifications(バージョン・スペックの一時変更)]を選択します。
5. 〈Group(グループ)セクション〉で、変更する項目のオプションをクリックし、[OK]をクリックします。
6. 〈レポート設計ツール〉で、スマート・フィールドに含めるセクションを検索し、[挿入]メニューから[スマート・フィールド]を選択します。
7. 〈新規スマート・フィールドの作成〉で、追加するスマート・フィールドを選択し、[次へ]をクリックします。

このリストには、請求書印刷に使用可能なスマート・フィールドが表示されます。

8. 〈Smart Field Name(スマート・フィールド名)〉で、スマート・フィールド変数名を指定します。
後で参照しやすいようにデフォルト名を変更できます。
9. [次へ]をクリックします。

選択したスマート・フィールドに基づいて、このスマート・フィールドで取り込んで表示する情報の定義に関連するプロンプトが表示されます。

10. 各質問について解答を入力し、[次へ]をクリックします。

注:

テーブル・フィールド記述には、すべて大文字で入力します。テーブル・フィールド記述入力した内容については、検証は実行されません。[次へ]をクリックする前に、入力する情報の精度を確認します。

すべてのプロンプトに回答を入力すると、最後にクリックした箇所の隣にスマート・フィールドが表示されます。

11. スマート・フィールドが正しい位置に表示されない場合は、スマート・フィールドをドラッグし、セクション内の適切な部分に配置してください。
12. 修正が終わったら、変更内容を保存して〈レポート設計ツール〉を終了します。
13. 〈バッチ・バージョンの設計〉で、[キャンセル]をクリックします。

参照

- ニーズに応じて新規バージョンを修正できるようにするための既存バージョンのコピーについては、『基本操作』ガイドの「Copying a Batch Version (バッチ・バージョンのコピー)」
- レポート設計で修正するためのバージョンのチェックアウトについては、『基本操作』ガイドの「Checking Out or Checking In a Batch Version (バッチ・バージョンでのチェックアウトまたはチェックイン)」
- バージョンをチェックアウトして、それに変更を加えない場合は、『基本操作』ガイドの「Erasing the Check-Out Record of a Version (バージョンのチェックアウト・レコードの消去)」
- スマート・フィールドの使用、配置、および名前の指定については、『契約請求』ガイドの「請求書の設計」複数のスマート・フィールドを請求書処理する計算の作成については、『エンタープライズ・レポート・ライティング』ガイドの「計算カラムの定義」
- レポート・オブジェクトの外観と動作の修正については、『エンタープライズ・レポート・ライティング』ガイドの「レポート・オブジェクトの外観の修正」処理用のカスタム・ロジックの挿入については、『エンタープライズ・レポート・ライティング』ガイドの「イベント・ルールの処理」
- 請求書の印刷に関連するスマート・フィールドおよびパラメータについては、『契約請求』ガイドの「スマート・フィールド」

▶ 新しい請求書印刷バージョンをチェックインするには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から〈請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド〉を選択します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G5240)から〈請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド〉を選択します。

1. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、修正したバージョンをハイライトして[選択]をクリックします。

2. 〈バージョン・プロンプト〉で、[フォーム]メニューから[上級]を選択します。
3. 〈上級バージョン・プロンプト〉で、[バージョン・スペックのみを投入]オプションをオンにします。
4. [OK]をクリックします。
5. 〈バージョン・プロンプト〉で[投入]をクリックします。
6. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、[フォーム]メニューから[投入済みジョブ]を選択します。
7. 〈投入済みジョブの検索〉で、ジョブに完了(D)状況が関連付けられるまで、[検索]をクリックし、関連付けられたら[閉じる]をクリックします。
8. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、作成した新しいバージョンを選んで[ロー]メニューから[上級]をクリックします。
9. 〈上級操作〉で、作成したバージョンをサーバーにチェックインするには、バージョンをハイライトして[ロー]メニューから[バージョンのチェックイン]を選択します。

多通貨の設定

グローバルな顧客のネットワークを確立するためには、多通貨処理を理解する必要があります。ここでは、請求システムでの多通貨取引の処理を理解する際に役に立つ概念を説明します。

参照

- 多通貨用のシステムのセットアップについては、「Multicurrency Overview (多通貨処理の概要)」

通貨モード

請求システムでは、外貨モードと国内モードのどちらかを選択する必要があります。通貨モードにより、請求システムでの金額の計算方法と保存方法を管理します。他の固定情報と同様に、通貨モードは請求システム固定情報で設定するため、モードを設定した後は変更しないことをお勧めします。一括の設定内容は、サービス請求の場合は元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)で一時変更できます。また、契約請求の場合、契約マスター(F5201)で一時変更が可能です。請求システム固定情報で通貨モードが外貨に設定されているが、特定の作業を国内通貨で管理する必要がある場合、元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)でその作業の通貨モードを国内通貨に設定します。

固定金額と非固定金額

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値がYまたはZで、取引に2つの通貨がある場合、金額は両方の通貨で計算され、請求システムに保管されます。国内通貨金額のフィールドは、常に作業を所有する会社の通貨で表示されます。外貨金額のフィールドは、契約マスター(F5201)で一時変更されない限り、顧客の通貨で表示されます(契約請求システムの場合のみ)。これらの通貨のうちどれか1つは、請求システム固定情報で指定した通貨モードに基づいて、「固定」として定義する必要があります。固定通貨がワークテーブル取引の制御通貨となり、システムにより管理されます。固定金額は変動しませんが、非固定金額は為替の変動に影響を受けることがあります。

請求書の通貨モード

請求書処理の場合、顧客との請求のやりとりを管理するために、使用する通貨を決定する必要があります。たとえば、会社が米国にあって米ドル(USD)を国内通貨として使用している場合を考えます。営業担当がカナダでのプロジェクト契約を締結し、顧客が全請求書をカナダ・ドル(CAD)で受け取りたいとします。為替レートの変動に関係なく、特定のサービスに対してカナダ・ドル建ての料金を支払うことに顧客は合意しています。この場合、請求書システムで外貨モードにより処理をすることになり、外貨金額は固定です。逆に、顧客の通貨に関係なく、取引の大半を米ドルで処理する場合、請求システムを国内通貨に設定し、国内通貨が固定となります。

多通貨取引

多通貨環境では、取引は多くの異なる通貨で作成されます。〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈総勘定元帳取引の選択〉プログラム(P48124)では、最初に取りが入力された通貨に関係なく、取引明細テーブル(F0911)の実績金額(AA)元帳から原価金額を読み込み、この金額がワークテーブルの[国内通貨原価]フィールドに入力されます。

これとは対照的に、EnterpriseOne の給与計算取引は、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)から読み込まれます。従業員は所属ビジネスユニットの通貨で支払われます。この通貨は、請求対象の作業や作業オーダーの通貨、および顧客の通貨と比較されます。

たとえば、作業の通貨が米ドルで顧客の通貨が仏フラン、所属ビジネスユニットの通貨が米ドルだとします。この場合、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)に記録されている原価金額(米ドル)が国内通貨での原価金額として使用され、外貨金額に換算されます。逆に、所属ビジネスユニットが仏フランなら、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)からの原価金額(仏フラン)が外貨の原価金額として使用され、国内通貨の原価金額はこの金額を基に換算されます。所属ビジネスユニットの通貨がベルギー・フラン(BEF)の場合、費用はまず米ドル(国内通貨)に換算され、外貨金額はこの国内通貨金額から換算されます。

請求明細ワークテーブル(F4812)で原価金額が更新されると、請求システム固定情報で指定した日付基準の為替レート・テーブルを使用して、非固定金額が計算されます。続いてプログラムにより、請求システム固定情報で定義した固定通貨によるレコードの割増情報が読み込まれます。割増情報は固定通貨の場合にのみ読み込まれます。固定原価金額と割増金額の合計が、この取引の課税対象金額となります。非固定の課税対象金額は、為替レートを使用して固定課税対象金額について計算されます。さらに、各通貨について税率および割引率がそれぞれ別々に計算されます。

給与計算以外の取引の場合、国内通貨および外貨での金額の計算は次の数式に基づいて行われます。計算の順序は表示されているものとは異なる場合があります。

国内通貨モードの計算

次の等式は、国内通貨モードで各種金額がどのように計算されるかを示します。

- 国内通貨原価金額 + 割増金額 = 国内通貨課税対象額
- 国内通貨課税対象額 × 税率 = 国内通貨税額
- 国内通貨課税対象額 + 国内通貨税額 = 国内通貨請求書総額
- 国内通貨課税対象額 × 割引率 = 国内通貨値引額
- 国内通貨原価金額 × 為替レート = 外貨原価金額
- 国内通貨課税対象額 × 為替レート = 外貨課税対象額

- 外貨課税対象額 × 税率 = 外貨税額
- 外貨課税対象額 + 外貨税額 = 外貨請求書総額
- 外貨課税対象額 × 割引率 = 外貨値引額

外貨モードの計算

次の等式は、外貨モードで各種金額がどのように計算されるかを示します。

- 国内通貨原価金額 × 為替レート = 外貨原価金額
- 外貨原価金額 + 割増金額 = 外貨課税対象額
- 外貨課税対象額 × 税率 = 外貨税額
- 外貨課税対象額 + 外貨税額 = 外貨請求書総額
- 外貨課税対象額 × 割引率 = 外貨値引額
- 外貨課税対象額 × 為替レート = 国内通貨課税対象額
- 国内通貨課税対象額 × 税率 = 国内通貨税額
- 国内通貨課税対象額 + 国内通貨税額 = 国内通貨請求書総額
- 国内通貨課税対象額 × 割引率 = 国内通貨値引額

請求書金額の計算(国内通貨モード)

次の等式は、国内通貨モードで請求書金額がどのように計算されるかを示します。すべてのフィールドは、請求明細ワークテーブル(F4812)にあります。

- 原価(AA) + 割増金額(ADCI) = 課税対象額(ITXA)
- 課税対象額(ITXA) × 税率 = 税額(ITAM)
- 課税対象額(ITXA) + 税額(ITAM) = 合計金額(ITOL)
- 原価(AA) × 為替レート = 外貨金額(AA2)
- 課税対象額(ITXA) × 為替レート = 外貨課税対象額(CITA)
- 外貨課税対象額(CITA) × 税率 = 外貨税額(CITX)
- 外貨課税対象額(CITA) + 外貨税額(CITX) = 外貨合計金額(CITL)
- 課税対象額(ITXA) × 割引率 = 値引額(IDSC)
- 外貨課税対象額(CITA) × 割引率 = 外貨値引額(CIDS)
- 原価(AA) ÷ 数量 = 単価(PRIG)
- 外貨金額(AA2) ÷ 数量 = 外貨単価(PRIF)

注:

これらの等式は、給与計算取引の所属ビジネスユニットが作業と同じ通貨を持つという前提に基づいています。

請求書金額の計算(外貨モード)

次の等式は、外貨モードで請求書金額がどのように計算されるかを示します。すべてのフィールドは、請求明細ワークテーブル(F4812)にあります。

- 原価(AA) x 為替レート = 外貨金額(AA2)
- 外貨金額(AA2) + 割増金額(ADCI) = 外貨課税対象額(CITA)
- 外貨課税対象額(CITA) x 為替レート = 課税対象額(ITXA)
- 課税対象額(ITXA) x 税率 = 税額(ITAM)
- 課税対象額(ITXA) x 税額(ITAM) = 合計金額(ITOL)
- 外貨課税対象額(CITA) x 税率 = 外貨税額(CITX)
- 外貨課税対象額(CITA) x 外貨税額(CITX) = 外貨合計金額(CITL)
- 課税対象額(ITXA) x 割引率 = 値引額(IDSC)
- 外貨課税対象額(CITA) + 割引率 = 外貨値引額(CIDS)
- 原価(AA) ÷ 数量 = 単価(PRIC)
- 外貨金額(AA2) ÷ 数量 = 外貨単価(PRIF)

多通貨固定情報の設定

〈請求固定情報〉フォーム(W48091A)で、次の 2 つのオプションが正しく設定されていることを確認してください。

- 為替レート基準日

この日付は、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)と〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)の実行時にワークテーブル・レコードに適用される為替レートを制御します。

- 外貨

このオプションでは、請求処理でどの通貨を固定とするかを制御します。このオプションをオンにした場合、顧客の通貨は固定通貨であり、ビジネスユニットまたは会社通貨は非固定と見なされます。この場合は、割増しが顧客の通貨で計算され、計算された外貨金額に基づいて国内通貨金額が再計算されます。

このオプションをオフにした場合、請求プロセスの国内通貨または会社通貨は固定です。この場合は、割増しが会社通貨で計算され、計算された国内通貨金額に基づいて外貨金額が再計算されます。このフィールドでは、〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)に適用されるモードも制御されます。

多通貨の請求料金/割増しテーブルの設定

PeopleSoft
請求料金/割増しテーブルの処理

選択 検索 追加 コピー 削除 開く レポート ロー ツール

キー・タイプ
テーブル・キー

レコード 1 - 10

	作成 タイプ	作成タイプ 記述	キー・タイ 記述	テーブル・キー 記述	通貨 コード	開始 日付	終了 日付		
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	2	Work order class	C01	コンコース・セキュリティ	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	2	Work order class	PER	周辺部ガード	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	2	Work order class	SCR	スクリーン・ガード	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	2	Work order class	SUP	監督者	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	3	Contract number	3	BC Highway	CAD	05/01/01	05/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	3	Contract number	5350	Wet and Willy Wilderness	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	3	Contract number	5351	Baseball Ballpark Build	USD	05/01/01	05/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	5	Customer	150	Property Management C	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	5	Customer	12388	Compagnie Provencale	FRF	05/01/01	05/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InvRevComp Amounts	6	Job or Business Unit	50	Project Management Cc	USD	05/01/01	08/12/31

〈請求料金/割増しテーブル〉プログラム(P48096)で、次のコントロールが正しく設定されていることを確認します。

- 通貨コード

通貨コードは、フォームでの小数点の表示を制御し、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)の実行時にキーの一部として使用されます。[通貨コード]フィールドは、〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値がYまたはZの場合のみ表示されます。

通貨コードは、マスターのレコードから次のテーブルに基づいて以下のキー・タイプについて読み込まれます。ただし、新しい割増テーブルを追加する際には一時変更が可能です。

1 - 作業オーダー	作業オーダー・マスター(F4801)
3 - 契約	契約マスター(F5201)
4 - 親契約	契約マスター(F5201)
5 - 顧客	顧客マスター(F0301)
6 - ビジネスユニット(作業)	ビジネスユニット・マスター(F0006)
8 - 会社	会社固定情報(F0010)

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値が Y または Z の場合は、次のキー・タイプの通貨コードを入力する必要があります。

- 2 - 作業オーダー・クラス(WR07)
- 7 - 作業クラス(RP11)
- 9 - デフォルト

例: 請求料金/割増テーブルの処理

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)の実行時に選択される割増テーブルは、次のプログラムで設定したモードと、請求料金/割増テーブル(F48096)のキー・フィールドによって決定されます。

〈請求固定情報〉プログラム(P48091)

〈元帳クラス/留保金テーブル〉プログラム(P48128)(サービス請求の場合)

〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)(契約請求の場合)

[通貨]フィールドの値は、原価取引に適用する割増規則を請求料金/割増テーブル(F48096)から検索する際にキー・フィールドとして使用されます。次の表でこのプロセスについて説明します。

- ビジネスユニット 1234 は会社 0062 に属する。通貨コードはベルギー・フラン(BEF)です。
- 顧客(番号 3333)の通貨は仏フラン(FRF)である。
- 顧客番号 3333 は、ビジネスユニット 1234 に所有者として添付される。
- 300 ベルギー・フラン(BEF)の取引が請求対象勘定 1234.1350.02200 に転記されています。

請求料金/割増テーブル(F48128)には次の 2 つの割増規則が設定されています。

表 1

生成タイプ	1 - 請求書
キー・タイプ	5 - 顧客
テーブル・キー	3333
通貨コード	FRF
日付範囲	2005/01/01 から 2005/12/31 まで
主科目の範囲	1340 から 1399
割増率(パーセント)	150

表 2

生成タイプ	1 - 請求書
キー・タイプ	6 - 作業
テーブル・キー	1234
通貨コード	BEF
日付範囲	2005/01/01 から 2005/12/31 まで
主科目の範囲	1340 から 1399
割増率(パーセント)	150

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値が N で、通貨コードが入力されていない場合、通貨コードは検索キーの一部ではないため、表 1 が割増しとして使用されます。したがって、残りの主キーのうちで階層の順にキー・タイプ 5 が最初に見つかります。

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値が Y または Z で、システム固定情報が外貨モードに設定されている場合、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)は表 1 を使用して取引の請求金額を計算します。これは、外貨または顧客の通貨で設定されています。

システム固定情報が国内通貨モードの場合、取引の請求金額は〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)の実行時に表 2 を使用して計算されます。この金額は国内通貨または会社通貨で設定します。

サービス請求システムの場合、表の通貨がシステム固定情報で定義した固定通貨と一致しなかったり、通貨モードが〈元帳クラス/留保金テーブル〉プログラム(F48128)で一時変更されていれば、システム固定情報で設定したデフォルトの割増率が使用されます。

契約請求では、テーブルの通貨がシステム固定情報または〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定した固定通貨と一致しない場合、固定情報で設定したデフォルトの割増率が使用されます。

注:

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値が N の場合、[通貨コード]フィールドは〈請求料金/割増しの改訂〉フォームに表示されません。追加した任意のテーブルでは、[通貨コード]フィールドの値がブランクになります。後で[多通貨換算]オプションの値を Y または Z に変更し、有効な通貨コードが添付されている取引を入力した場合、〈ワークテーブルの生成〉プログラム (R48120)により、ブランクの値を持つ請求料金/割増テーブル(F48096)に対して一致する値は検索されません。

逆の場合も同様です。[多通貨換算]オプションの値が Y または Z のときに請求料金/割増テーブル (F48096)を有効な通貨コードで作成し、取引を入力する前にオプションを N に変更した場合、[取引通貨]フィールドはブランクになり、割増テーブルはブランクになりません。この場合も該当するレコードはシステムにより検索されません。このため、[多通貨換算]値を変更する必要はありません。

多通貨の追加料金の設定

	追加料金 テーブル	記述	通貨コード	開始 日付	終了 日付
<input checked="" type="radio"/>	2.5% FEE	G & A 2.5% Fee	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="radio"/>	G&AADDONS	G&A with Additional Burden	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="radio"/>	LABOR	Labor Markup Components	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="radio"/>	OHCOM	OHCOM	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="radio"/>	OHMU	Overhead & Markup	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="radio"/>	OVH & COM	Overhead & Cost of Money	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="radio"/>	SUR	Surcharge	CAD	05/01/01	05/12/31
<input type="radio"/>	UNIONDUES	Hourly Cost of Union Dues	USD	05/01/01	06/12/31

〈追加料金テーブルの処理〉プログラム(P4860)で、通貨コードが添付元の請求料金/割増テーブル (F48096)の通貨コードと一致する必要があります。

追加料金テーブルの通貨コードは、このフォームでの小数点の表示を制御し、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈ワークテーブルの再作成〉プログラム(R481202)でこのテーブルを処理するときにキーの一部として使用されます。[通貨コード]フィールドは、〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値が Y または Z の場合のみ表示されます。

多通貨の契約の設定

新規契約を追加した場合、基本通貨は関連する作業から取得されます。請求通貨は顧客レコードから取得されます。通貨モードは請求システム固定情報から取得されます。

請求通貨とモードは、変更オーダーおよび請求行を追加するまでは変更が可能です。請求行を追加すると、通貨コードおよびモードの変更はできません。契約マスター(F5201)の為替レートが、契約の当初の変更オーダーに関連する日付のレートに基づいて読み込まれます。〈契約マスターの改訂〉フォームに入力した請求通貨を使用して、ワークテーブル取引のすべての外貨金額が計算されます。

契約マスターの最小規定金額は、固定モードでのみ更新できます。最低金額の代替モードは、当初の変更オーダーの変更日付の為替レートを使用して計算されます。

契約マスター・レコードを設定した後で、変更オーダーと請求行を設定する必要があります。最初の請求行を追加した後に、契約マスターと請求行テーブルの為替レートが更新されます。予定金額を入力できるのは固定モードのときのみです。取り込まれた為替レートを使用して代替モードが計算されます。

注:

為替レートは、当初の変更オーダーの変更日付に基づいて、為替レート・テーブルから取り込まれます。新しい日付とレートを持つ変更オーダーを入力した場合は、為替レートは更新されません。一度取り込んだ為替レートは、契約が失効するまで変わりません。

請求書印刷バージョン相互参照の多通貨処理用の設定

〈請求書印刷バージョン相互参照〉プログラム(P48S58)で、次のフィールドに適切な値を入力します。

- 請求書タイプ

このフィールドを使用して、印刷する請求書フォーマットの国内通貨や外貨を一時変更できます。ここが請求書処理中に一時変更を設定しない場合、請求取引で指定されたモードに基づいて請求書が印刷されます。新規の請求書フォーマットを設定した場合は、請求書が国内通貨と外貨の両方で必要になる場合もあるため注意してください。

ワークテーブル生成の多通貨処理

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)は、〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値に影響されません。同様に、〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)の[フォーム]メニューから[元帳取引選択]を選択する場合も、多通貨処理用の設定/データ選択は必要ありません。多通貨処理に対する変更は、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)、請求料金/割増テーブル(F48096)、サービス請求の場合は〈元帳クラス/留保金テーブル〉プログラム(P48128)、契約請求の場合は〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)によって決定されます。

ワークテーブル改訂の多通貨処理

〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)では、〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値が Y または Z の場合、次の例に示すように、初期明細表示の点検には国内通貨金額と外貨金額の両方を使用できます。

PeopleSoft
ワークテーブルの処理

選択 検索 追加 削除 閉じる フォーム ロー ツール

タブを選択: 一般

顧客
作業No.
元帳日付範囲
補助元帳タイプ

レコード 1 - 10

収益 (含追加)	請求 通貨	外貨 原価	外貨 (含追加)	外貨 請求額	外貨請求額 (含追加料金)	外貨 収益	外貨収益 (含追加)	通貨性 コード	
935.00 CAD								0	N
935.00 CAD								0	N
19.97 USD								0	Y
19.97 USD								0	Y
1,338.48 CAD		1,727.49	2,072.99	1,853.60	2,224.32	1,727.49	2,072.99 0		Y
1,338.48 CAD		1,727.49	2,072.99	1,853.60	2,224.32	1,727.49	2,072.99 0		Y
669.24 CAD		863.75	1,036.50	926.80	1,112.16	863.75	1,036.50 0		Y
1,375.00 USD								0	Y
660.00 USD								0	Y
831.60 USD								0	Y

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨換算]オプションの値が N の場合は、国内通貨金額のみ表示されます。

注:

作業と顧客の通貨コードが同じ場合、請求固定情報で設定したモードに関係なく、請求プロセスが終了するまでモードは国内通貨となります。〈ワークテーブルの処理〉フォームの詳細域に表示されるのは国内通貨金額のみで、外貨金額フィールドはブランクになります。

〈ワークテーブルの処理〉フォームで取引を選択すると、その取引の情報は〈作業/金額の改訂〉フォームに請求固定情報、相手科目、およびサービス請求の〈元帳クラス/留保金テーブル〉プログラム(P48128)または契約請求の〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)の値に基づいて設定されたモードで表示されます。[外貨]オプションをオンにすると、代替モード(外貨または国内通貨)を参照することができます。[割増%]フィールドに、固定通貨の割増率のみが表示されます。金額のフィールドは、取引のモードと同じ場合にのみ変更可能です。原価フィールドは、どちらの通貨のフィールドも更新できません。

PeopleSoft®

作業/金額の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

元帳日付 05/06/30 計算プレビュー

適格性コード 0 再計算オプション ☐

☐ 外貨 再計算調整理由 ☐

請求書金額 取替額 作業/報告 印刷 通貨

通貨コード CAD

当初為替レート

請求書為替レート

為替レート基準日 1

為替レート日付 05/05/31

非固定モードでは割増金額は表示されません。また、すべての金額フィールドは変更不可になります。

請求書生成の多通貨処理

〈請求書の生成〉プログラム（サービス請求システムでは R48121、契約請求では R52121）を実行する際は、次の処理オプションを正しく設定してください。

- 為替レート基準日

請求書日付と処理オプションで指定した元帳日付のどちらに基づいて為替レート・テーブル検索するかを指定します。為替レート・テーブルを毎日変更し、すべての取引を月末日に転記する場合、請求書日付の為替レート・テーブルを選択します。

逆に、すべての通貨取引を転記日付に基づいて計算する場合、元帳日付を基準にして為替レートを読み込みます。請求固定情報の[ワークテーブル生成制御]タブの[為替レート基準日]処理オプションの指定は、請求書をバッチ形式と対話形式のどちらの方法で作成する場合でも必要です。[為替レート基準日]を指定しない場合、デフォルトとして1（請求書日付）が使用されます。〈請求書の生成〉プログラムで使用される為替レートは、請求明細ワークテーブル(F4812)の[請求書為替レート]フィールドで指定できます。

〈請求書の生成〉プログラムで印刷されるレポートでは、会社通貨または国内通貨での請求書金額を表します。

請求書改訂の多通貨処理

〈請求書の処理〉フォームに表示される合計金額は、常に国内通貨です。ただし、〈請求書の処理〉ではそれぞれの通貨で両方の金額が表示されます。バッチに異なる通貨を持つ複数の請求書がある場合、このフォームには合計が表示されません。

PeopleSoft®

請求書の処理

選択 検索 削除 開じる フォーム ロー ツール

バッチ No. 5984 新しVバッチNo.

バッチ日付 02/04/03

グリッドのカスタマイズ

	契約 No.	契約 タイプ	請求 No.	伝票 タイプ	顧客	顧客 名称	元帳日付	総合計	基本 通貨	外貨	請求 通貨	限界
<input type="checkbox"/>	5351	R2	3073	RI	3334	Lewis Enterprises	05/06/30	25,020.31	USD		USD	
<input type="checkbox"/>	Σ					合計		25,020.31				

次に示す例では、〈契約請求行の照会〉で、詳細域に国内通貨金額と外貨金額の両方が表示されることに注意してください。

PeopleSoft®

契約請求行照会

選択 検索 開く フォーム ロー ツール

契約No. 5351 R2 Baseball Ballpark Build パッチNo. 5984
顧客 3334 Lewis Enterprises 請求書No. 3073
送付先住所 開始 05/06/01
請求日付 05/07/11 終了 05/06/30
請求書修正 1 元帳日付 05/06/30

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

	請求行	請求行記述	変更No.	数量	計量単位	価格タイプ	基本通貨	予定金額	現行正味額
<input type="checkbox"/>	134X	Labor	000			T	USD		7,569.00
<input type="checkbox"/>	1350-GENERAL	Materials	000			T	USD		
<input type="checkbox"/>	1350-SEATING	Seating	000	11.00	PC	U	USD	2,000,000.00	5,500.00
<input type="checkbox"/>	1355	Equipment	000			T	USD		
<input type="checkbox"/>	1360	Subcontract	000			L	USD	2,500,000.00	
<input type="checkbox"/>	ADMIN	Administrative	000			F	USD		1,135.35
<input type="checkbox"/>	001	Draw	000			D	USD	25,000.00-	2,300.00-
<input type="checkbox"/>	002	Progress	000			P	USD	100,000.00	10,000.00
<input type="checkbox"/>	003	Rated Draw	000			R	USD	1,000.00-	100.00-
<input type="checkbox"/>	004	Milestone	000			M	USD	92,000.00	2,300.00

タイム・アンド・マテリアル請求行の請求書改訂

請求書に含まれるタイム・アンド・マテリアル取引の請求明細には、〈作業/金額の改訂〉フォームでアクセスします。

〈作業/金額の改訂〉フォームで、[通貨]タブの次のフィールドを検討してください。

- 当初為替レート
ワークテーブル生成または直前の再計算の際にこのレートが使用されます。
- 請求書為替レート
請求書の生成にこのレートが使用されます。
- 為替レート基準日/為替レート日付
ワークテーブルの生成または再計算の際にこれらのフィールドが更新されます。これらは当初為替レートの基準となります。

〈請求書の生成〉プログラムを実行中に為替レートが変わった場合、最初に請求書に含まれるレコードの履歴金額のフィールドには非固定金額がコピーされます。続いて、新しい為替レートを使用して非固定金額が再計算されます。これらの非固定金額は〈請求書の検討〉フォームに累計されます。請求書にアクセスして個々の取引を監査する場合、請求書為替レートに基づいて再計算された金額が表示されます。当初の金額はワークテーブルの履歴金額のフィールドに保存されます。これにより、請求書が削除されても、履歴フィールドにコピーされた金額から現行の非固定金額を更新することができます。

金額および割増しの変更は、〈ワークテーブルの生成〉を実行した後の〈ワークテーブルの改訂〉フォームと同じように、取引が作成されたモードと同じモードでしかできません。[外貨]ボックスをオンにして非固定モードに変更すると、金額のフィールドは無効になり、入力ができなくなります。

削除の処理中には、非固定金額は履歴フィールドから更新されます。こうすることにより、請求明細ワークテーブル(F4812)の取引の金額が〈請求書の生成〉プログラムの実行前と同じになります。

請求書印刷の多通貨処理

顧客用に印刷する請求書の通貨による希望のバージョンを設定できます。次の 3 つの方法のいずれかを選択できます。

- 〈契約請求行の照会〉フォームで、特定の請求書に印刷するバージョンと請求書タイプを一時変更できます。
- 処理オプション:〈請求書の印刷〉プログラムを使用して、データ選択に基づいて、請求書に印刷する金額を一時変更できる。
- 特定のキー・タイプとテーブル・キーに設定する請求書印刷バージョン相互参照テーブルで、バージョンと請求書タイプを選択できる。

印刷処理中には、システムまず最初に請求書レコードに請求書タイプがあるかどうかを判断します。請求書タイプが存在しない場合は、実行しているプログラムのバージョンの処理オプションが参照され、次に相互参照テーブルが参照されます。印刷用の請求書タイプがない場合、請求書取引のモードに基づいて請求書が印刷されます。タイプが D に設定されている場合は、国内通貨金額が印刷されます。タイプが F に設定されている場合は、外貨金額が印刷されます。

請求書仕訳自動作成の多通貨処理

〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の実行時に生成されるレポート(請求書レジスタを含む)は、通貨モードに関係なく国内通貨で印刷されます。

売掛金仕訳/総勘定元帳仕訳の作成の多通貨処理

この処理では、〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の実行時と同じレポートが作成されます。これらのレポートは、通貨処理の設定に関係なく国内通貨で作成されます。

〈請求書仕訳の検討〉プログラム(P0011)から請求書バッチにアクセスすると、合計金額は国内通貨で表示され、外貨金額フィールドには請求書の外貨金額が表示されます。

転記プログラムの多通貨処理

取引を転記すると、国内通貨金額は AA 元帳に転記され、外貨金額が作成されます。この後で外貨金額は CA 元帳に転記されます。この 2 つの元帳は、バッチが転記を行う前に貸借が一致している必要があります。

請求書無効化の多通貨処理

請求書が作成された後に入金が記録されていなければ、その請求書を無効にすることができます。請求書を無効にすると、直前の再計算時または当初のワークテーブル生成時のどちらか新しい方の為替レートを使用して計算された金額と共に、履歴から請求明細ワークテーブル(F4812)内の関連する取引が読み込まれます。

請求時の会計処理

請求時の会計処理は、請求 AAI で指定した規則により制御されます。この規則を使用して次の処理が実行されます。

- ワークテーブル取引の識別と処理
- 相手科目への仕訳項目の自動作成

仕訳の処理は、次の規則を使って行われます。

- 基本規則。請求および収益認識処理の仕訳作成時に使用される勘定科目を指定します。基本規則を使用して、基本金額および追加料金の合計金額に対する仕訳が作成されます。
- 再配賦規則。勘定科目間で金額を振り替えます。再配賦規則は、貸借を一致させるための複数の仕訳項目で構成されます。最初の相手科目の仕訳項目は、基本勘定科目からの減額を意味します。2 番目の仕訳項目は、新しい勘定科目の増額を表します。

契約請求固定情報の[仕訳作成の制御]オプションによって、次のプロセスに対して定義する請求 AAI 規則のタイプが制御されます。

- 請求（請求書のみ）のみ。収益調整は適用できません。
- 収益認識のみ。収益調整は適用できません。
- 収益認識および請求は、次のタイプが含まれます。
- 見越売掛金勘定から請求済み収益および売掛金勘定への調整なし。見越売掛金勘定の金額はゼロになりません。見越売掛金と実際の売掛金を異なる金額にすることができます。
- 未収収益および見越売掛金から請求済み収益および売掛金勘定への調整あり。見越収益および見越売掛金の金額は、請求書の生成後にゼロになる必要があります。見越勘定のコスト差異は認められません。

基本規則

3 種類の請求 AAI が収益認識および請求書仕訳の作成に使用されます。請求固定情報で選択した[仕訳作成の制御]オプションにより、使用する請求 AAI キー・タイプが制御されます。各キー・タイプごとに基本規則を含める必要があります。基本規則により、システムによる仕訳の作成方法を定義します。

次の表は、請求固定情報の[仕訳作成の制御]オプションと請求 AAI テーブル番号の関係を示します。

処理	仕訳作成の制御設定	請求 AAI 番号情報
請求書のみ	1	4811（貸）実績収益
収益認識のみ	2	<ul style="list-style-type: none">4832 見越売掛金 4811（貸）実績収益
収益調整なしの請求書と収益認識	3	<ul style="list-style-type: none">4832 見越売掛金 4811（貸）実績収益

処理	仕訳作成の制御設定	請求 AAI 番号情報
収益調整ありの請求書と収益認識	4	<ul style="list-style-type: none"> • 4831 見越収益 • 4832 見越売掛金 4811 (貸)実績収益

注:

請求書を生成する際は、売掛金 AAI である RC AAI が使用されます。収益認識のみを処理する場合は、RC AAI は適用されません。

基本規則は、仕訳の作成時に次のように使用されます。金額基準は、請求書作成と収益認識のどちらかにより決まります。

仕訳作成の制御	テーブル番号	処理	借方/貸方	システム生成
1 請求書	4811 (貸)実績収益	請求書	貸方	実績収益
	RC AAI	請求書	借方	売掛管理
2 収益認識	4832 見越売掛金	収益認識	貸方	実績収益
	4811 (貸)実績収益	収益認識	借方	見越売掛金
3 収益調整なしの請求書/収益認識	4832 見越売掛金	収益認識	貸方	実績収益
	4811 (貸)実績収益	収益認識	借方	見越売掛金
	4811 (貸)実績収益	請求書	貸方	見越売掛金
	RC AAI	請求書	借方	売掛管理
4 収益調整ありの請求書/収益認識	4832 見越売掛金	収益認識	貸方	見越収益
	4811 (貸)実績収益	収益認識	借方	見越売掛金
	4811 (貸)実績収益	請求書	貸方	実績収益
	4831 見越収益	請求書	借方	見越収益
	4832 見越売掛金	請求書	貸方	見越売掛金
	RC AAI	請求書	借方	売掛管理

例:請求書のみ

請求書のみ処理する場合は、次の情報が真になります。

- [仕訳作成の制御]は1(請求書のみ)
- 収益認識は適用しない
- 実績収益と売掛金は同額
- 実績収益と売掛金は同時に計算
- 売掛金科目は RC AAI により決定される

たとえば、ワークテーブル取引の費用が 100 ドルで、割増率が 15% の場合、請求書金額(実績収益)と売掛金の金額は 115 ドルになります。仕訳は次のようになります。

売掛金	115.00	
実績収益		(115.00)

総勘定元帳の T 勘定形式で表すと、次のようになります。

売掛金		実績収益	
借方	貸方	借方	貸方
115			115

売掛金科目は、RC AAI の指定により決まります。4811(実績収益科目の基本規則を設定)

例:収益認識のみ

収益認識のみ処理する場合は、次の情報が真になります。

- [仕訳作成の制御]は2(収益のみ)
- 請求書は適用しない
- 実績収益と見越売掛金は同額で計算される。
- 実績収益と見越売掛金は同時に計算される。
- 請求書は存在しないため RC AAI は適用しない

たとえば、ワークテーブル取引の原価が 100 ドルで割増率が 25% の場合、見越売掛金と実績収益の金額は 125 ドルになります。仕訳は次のようになります。

見越売掛金	125.00	
実績収益		(125.00)

総勘定元帳の T 勘定形式で表すと、次のようになります。

見越売掛金		実績収益	
借方	貸方	借方	貸方
125			125

仕訳は、次の 2 つの請求 AAI 番号を使用して作成されます。

- 4811(実績収益科目の基本規則を設定)
- 4832(見越売掛金科目の基本規則を設定)

例:収益調整なしの収益認識および請求書処理

請求書と認識した収益の間に差異を許可すると都合がよい場合があります。たとえば、毎月収益を計上するが、作業の完了までは請求書を生成しない場合、次のように収益や見越売掛金、請求書勘定を処理することができます。

- 請求書仕訳が作成されるまで差異を持たせる。
- 完了したプロジェクトの請求書仕訳が生成されて取引明細テーブル(F0911)に転記されるまで、金額を調整する。

収益認識を処理し、調整なしで請求書を生成する場合は、次の情報が真になります。

- [仕訳作成の制御]オプションが 3(調整なしの請求書/収益)に設定されている。
- 収益計上の処理をする際に請求書処理が適用されない。
- 実績収益と見越売掛金は同額で計算される。
- 実績収益と見越売掛金は同時に計算される。

作業が完了し、請求書を処理する場合は、次の処理が実行されます。

- 見越売掛金および売掛金について同じ金額が計算される。
- 見越売掛金および売掛金について金額が同時に計算される。
- 売掛金科目が RC AAI により決定される。

たとえば、6 月 15 日にプロジェクトを開始して、90 日後に完了したとします。プロジェクトの合計費用は 1,000.00 ドルです。15 パーセントの費用への割増しを入れてワークテーブル取引を毎週生成します。収益の認識は 6 月から毎月末に処理します。請求書は 9 月 25 日に処理されます。

システムにより、プロジェクトで発生した費用について次の仕訳が作成されます。

06/30/05	プロジェクト原価	350.00	
	買掛金		(350.00)
07/31/05	プロジェクト原価	500.00	

	買掛金	(500.00)
09/30/05	プロジェクト原価	150.00
	買掛金	(150.00)

総勘定元帳の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

プロジェクト原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	350.00		350.00
07/31/05	500.00		850.00
08/31/05			850.00
09/30/05	150.00		1,000.00

次の 2 つの請求 AAI 番号により、システムが使用する仕訳の基本規則が決まります。

- 請求 AAI 番号 4811 により、実績収益の基本規則が設定される。
- 請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定される。

6 月の収益認識

6 月 30 日に収益を計上します。ワークテーブルには 402.50 ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 350.00 × 割増し 15% = 52.50
- 原価 350.00 + 52.50 = 402.50

収益認識の仕訳は次のようになります。

06/30/05	見越売掛金	402.50
	実績収益	(402.50)

総勘定元帳の 6 月の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

実績収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)

請求 AAI 番号 4811 により、実績収益の基本規則が設定されます。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

7 月の収益認識

7 月 31 日に収益を計上します。ワークテーブルには 575.00 ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 500.00 x 割増し 15% = 75.00
- 原価 500.00 + 75.00 = 575.00

収益認識の仕訳は次のようになります。

07/31/05	見越売掛金	575.00	
	実績収益		(575.00)

総勘定元帳の 7 月の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/31/05	575.00		977.50

請求 AAI 番号 4811 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

実績収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/31/05		575.00	(977.50)

請求 AAI 番号 4832 により、実績収益の基本規則が設定されます。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

8月の収益認識

8月にはプロジェクトについて新規の費用がありませんでした。プロジェクトには新規ワークテーブル取引はありません。総勘定元帳の8月の残高は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/31/05	575.00		977.50
08/31/05			977.50

実績収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/31/05		575.00	(977.50)
08/31/05			(977.50)

9月の請求処理

9月25日に請求書を処理します。ワークテーブルには172.50ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 150.00 × 割増し 15% = 22.50
- 原価 150.00 + 22.50 = 172.50

システムにより、請求書について次の仕訳が作成されます。

09/25/05	売掛金	1,150.00	
	実績収益		(1,150.00)

6月、7月、9月のワークテーブル取引は、まだ請求書に反映されていません。この3ヵ月分の請求書金額が追加されて、請求書金額は1,150.00ドルとなります。

請求書仕訳が転記された後の総勘定元帳の 9 月の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/31/05	575.00		977.50
08/31/05			977.50
09/25/05		1,150.00	(172.50)

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。仕訳が作成されると、請求書金額が見越売掛金勘定の貸方に計上されます。見越売掛金には、未調整の残高 172.50 ドルが含まれます。

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			0
07/31/05			0
08/31/05			0
09/25/05	1,150.00		1,150.00

売掛金には実際の請求書金額が含まれます。RC AAI を使用して売掛金の仕訳が作成されます。

9 月の収益認識の調整

請求書仕訳を生成する際には、収益認識の調整仕訳も生成されます。請求書バッチのワークテーブル取引を使用して、前回の収益認識の仕訳に対して調整を加えるかどうかが決まります。調整は次のような場合に作成します。

- 現行のバッチの請求済みワークテーブル取引を前回の収益仕訳に含めていなかった。
- 主科目や費用勘定、適格性コードなどのワークテーブル取引の情報が、最初に収益バッチに含めた時点から変更になった。

請求書は月末より前に処理されています。請求書金額に含まれた 172.50 ドルのワークテーブル取引については収益は計算されていません。収益認識の調整仕訳は次のようになります。

09/25/05	見越売掛金	172.50	
	実績収益		(172.50)

調整仕訳を転記すると、実績収益が売掛金と等しくなり、見越売掛金の差異は自動的に調整されます。総勘定元帳の 9 月の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

実績収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/31/05		575.00	(977.50)
08/31/05			(977.50)
09/25/05		172.50	(1,150.00)

請求 AAI 番号 4811 により、実績収益の基本規則が設定される。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/31/05	575.00		977.50
08/31/05			977.50
09/25/05		1,150.00	(172.50)
09/25/05	172.50		0

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定される。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

注:

企業では各月に複数の請求書バッチを処理するのが一般的です。会社の方針に応じて、月に 2 回以上収益の認識処理を行う場合もあります。収益認識と請求書処理の間には常に時間が空きます。このため、見越売掛金勘定には差異金額が含まれ、毎月残高がゼロになるとは限りません。

例: 収益調整ありの収益認識および請求書処理

請求書と計上した収益金額に差異があるのは望ましくありません。こういう場合、収益と売掛金は見込まれる見積金額です。実際の収益と売掛金は請求書金額に等しくなります。請求書を処理すると、見積金額はすべて調整されます。

たとえば、収益を月次で計上するが、請求書は作業の完了を待ってから生成する場合、その請求書の実績収益と売掛金の処理が終わってから見越収益と見越売掛金が調整されます。

収益調整を必要とする請求書进行处理する場合は、[仕訳作成の制御]オプションで4(調整ありの請求書/収益認識)を選択します。

収益認識进行处理する場合は、次の情報が真になります。

- 月末に収益を計上する場合に請求書処理は適用されない。
- 見越収益と見越売掛金は同額になる。
- 見越収益と見越売掛金は同時に計算される。
- 仕訳が次の2つの請求AAI(自動仕訳)番号を使用して作成される。
 - 請求AAI番号4811により、実績収益の基本規則が設定される。
 - 請求AAI番号4832により、見越売掛金の基本規則が設定される。

後日作業を完了して請求書进行处理すると、次の処理が行われます。

- 見越売掛金および売掛金について同じ金額が計算される。
- 見越売掛金および売掛金が同時に計算される。
- 売掛金科目がRC AAIにより決定される。
- 請求AAI規則とAAIを使用して仕訳が作成される。請求AAI番号4832を使用して見越売掛金の基本規則が、RC AAIを使用して売掛金の情報がそれぞれ設定される。

また、次のアクションも実行されます。

- 収益調整仕訳が処理される。
- 未収収益および見越売掛金が調整される。
- 実績収益金額が作成される。
- 次の3種類のテーブル・タイプの請求AAI規則を使用して仕訳が作成される。
 - AAI番号4811によって実績収益金額が調整される。
 - AAI番号4831によって見越収益金額が貸方に計上される。
 - AAI番号4832によって見越売掛金が調整される。

たとえば、6月15日にプロジェクトを開始して、30日後に完了したとします。プロジェクトの合計費用は1,000.00ドルです。15パーセントの費用への割増しを入れてワークテーブル取引を毎週生成します。収益の認識は6月から毎月末に処理します。請求書は7月25日に処理されます。

システムにより、プロジェクトで発生した費用について次の仕訳が作成されます。

06/25/05	プロジェクト原価	350.00	
	買掛金		(350.00)
07/25/05	プロジェクト原価	650.00	
	買掛金		(650.00)

総勘定元帳の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

プロジェクト原価			
日付	借方	貸方	残高
06/25/05	350.00		350.00
07/25/05	650.00		1,000.00

6 月の収益認識

6 月 30 日に収益を計上します。ワークテーブルには 402.50 ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 350.00 x 割増し 15% = 52.50
- 原価 350.00 + 52.50 = 402.50

見越収益と見越売掛金について、次の収益認識仕訳が作成されます。

06/30/05	見越売掛金	402.50	
	実績収益		(402.50)

総勘定元帳の 6 月の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)

請求 AAI 番号 4811 により、見越収益の基本規則が設定されます。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

7 月の請求処理(6 月分を含む)

7 月 25 日に請求書を処理します。ワークテーブルには 747.50 ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 650.00 x 割増し 15% = 97.50
- 原価 650.00 + 97.50 = 747.50

請求書に充当される 402.50 と 747.50 を合計することにより、6 月と 7 月のワークテーブル取引の仕訳が次のように作成されます。

07/25/05	売掛金	1,150.00	
	見越売掛金		(1,150.00)

総勘定元帳の 7 月の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/25/05		1,150.00	(747.50)

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。請求書金額が貸方に記録されます。

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			0
07/25/05	1,150.00		1,150.00

売掛金科目は、RC AAI の指定により決まります。請求書金額を使用して、借方に売掛金が計上されます。

7 月の収益認識

請求書金額に含まれた 747.50 ドルのワークテーブル取引については、見越収益および見越売掛金は計算されていません。収益認識金額の調整仕訳は次のようになります。

07/25/05	見越売掛金	747.50	
	見越収益		(747.50)

総勘定元帳の転記額と残高は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/25/05		1,150.00	(747.50)

07/25/05	747.50		0
----------	--------	--	---

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定される。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/25/05		747.50	(1,150.00)

請求 AAI 番号 4831 により、見越収益の基本規則が設定されます。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

7 月の収益金額の収益調整

請求処理では見越売掛金が収益認識のための仮勘定として、また収益調整処理では請求書金額が同じ目的で使用されます。

収益認識金額の調整仕訳は次のようになります。

07/25/05	見越収益	1,150.00	
	見越売掛金		(1,150.00)

総勘定元帳の転記額と残高は次のようになります。

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/25/05		747.50	(1,150.00)
07/25/05	1,150.00		0

請求 AAI 番号 4831 により、見越収益の基本規則が設定されます。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

収益			
日付	借方	貸方	残高
07/25/05		1,150.00	(1,150.00)

請求 AAI 番号 4811 により、実績収益の基本規則が設定されます。請求書金額が貸方に記録されます。

すべての仕訳が転記された後で、見越勘定が調整されます。実際の収益勘定および売掛金勘定のみが請求済みワークテーブル取引の金額を含みます。

再配賦規則

サービス請求システムまたは契約請求システムにより仕訳を転記するときに必要な仕訳を分析することにより、再配賦規則が必要かどうかを判断できます。

例: 請求書のみ

1,200ドルの請求書を作成するとします。数量 100 に対する単価は 10ドルです。1 個ずつの原価は仕掛勘定に記録します。数量を請求した後、原価は仕掛勘定から売上原価に振り替えられます。1 個の販売価格を 12ドルとします。

仕訳は次のようになります。

06/30/05	仕掛勘定	1,000.00	
	買掛金		(1,000.00)
07/31/05	売掛管理	1,200.00	
	売上		(1,200.00)
07/31/05	売上原価	1,000.00	
	仕掛勘定		(1,000.00)

請求 AAI 番号 4811 により、請求金額 1,200.00ドルが売上原価に計上されます。AAI を使用して、仕訳の売掛金勘定レコードが作成されます。続いて、請求 AAI 番号 4841 により、仕掛勘定から原価分の金額が差し引かれ、請求 AAI 番号 4842 によって同じ金額で売上原価が計上されます。

総勘定元帳の 6 月の転記額と残高は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	1,000.00		1,000.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		1,000.00	(1,000.00)

総勘定元帳の 7 月の転記額と残高は次のようになります。

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	1,200.00		1,200.00

売上			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05		1,200.00	(1,200.00)

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	1,000.00		1,000.00
07/31/05		1,000.00	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	1,000.00		1,000.00

注:

たとえば、請求固定情報の[仕訳作成の制御]で[請求書のみ]が選択されているとします。収益レコードの作成に必要な請求 AAI は 4811 のみです。再配賦仕訳は、請求 AAI 番号 4841 および 4842 から作成されます。

請求 AAI テーブル規則

請求書処理のみを行う場合は、請求 AAI テーブル規則を次のように設定します。

AAI テーブル番号	勘定科目	借方/貸方	必須/任意
4811	(貸)実績収益	WDUTAM	必須
RC + 元帳クラス	売掛金	WDITOL	必須
4841	(貸)仕掛勘定	WDAA	任意
4842	(借)売上原価	WDAA	任意

注:

RC AAI によって、借方に計上する売掛金勘定情報が指示されます。

例:収益認識のみ

1,200.00ドルの収益を計上するとします。数量 100 に対する単価は 10ドルです。1 個ずつの原価は仕掛勘定に記録します。数量分の収益を計上した後、原価は仕掛勘定から売上原価に振り替えられます。1 個あたりの収益は 12ドルとして計上されます。割増しは 200 です。

仕訳は次のようになります。

06/30/05	仕掛勘定	1,000.00	
	買掛金		(1,000.00)
07/31/05	見越売掛金	1,200.00	
	収益		(1,200.00)
07/31/05	売上原価	1,000.00	
	仕掛勘定		(1,000.00)

請求 AAI 番号 4811 により、請求金額 1,200.00ドルが収益勘定に計上されます。請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金 1,200.00ドルが見越売掛金勘定に計上されます。続いて、請求 AAI 番号 4841 により、仕掛勘定から原価分の金額が差し引かれ、請求 AAI 番号 4842 によって同じ金額で売上原価が計上されます。

総勘定元帳の 6 月の転記額と残高は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	1,000.00		1,000.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		1,000.00	(1,000.00)

総勘定元帳の 7 月の転記額と残高は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	1,200.00		1,200.00

収益			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05		1,200.00	(1,200.00)

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	1,000.00		1,000.00
07/31/05		1,000.00	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	1,000.00		1,000.00

請求 AAI テーブル規則

収益認識のみを行う場合は、請求 AAI テーブル規則を次のように設定します。

AAI テーブル番号	勘定科目	借方/貸方	必須/任意
4811	(貸)実績収益	WDBTOL	必須
4832	見越売掛金	WDBTOL	必須
4841	(貸)仕掛勘定	WDAA	任意
4842	(借)売上原価	WDAA	任意

例:収益調整なしの収益認識および請求書処理

2 ヶ月で 1,200 ドルの収益を計上するとします。2 ヶ月目に 1,200 ドルの請求書を 1 件処理します。数量 100 に対する単価は 10 ドルです。1 個ずつの原価は仕掛勘定に記録します。数量分の収益を計上した後、原価は仕掛勘定から売上原価に振り替えられます。1 個あたりの収益は 12 ドルとして計上されます。割増しはそれぞれ 6 月が 120 ドル、7 月が 80 ドルです。

仕訳は次のようになります。

06/30/05	仕掛勘定	600.00	
	買掛金		(600.00)
06/30/05	見越売掛金	720.00	
	収益		(720.00)
06/30/05	売上原価	600.00	
	仕掛勘定		(600.00)
07/31/05	仕掛勘定	400.00	
	買掛金		(400.00)
07/31/05	売掛管理	1,200.00	
	見越売掛金		(1,200.00)
07/31/05	見越売掛金	480.00	
	収益		(480.00)
07/31/05	売上原価	400.00	
	仕掛勘定		(400.00)

6月の収益認識処理の際に、請求 AAI 番号 4811(実績収益)によって収益 720ドルが収益勘定に計上されます。請求 AAI 番号 4832(見越売掛金)により、見越売掛金 720ドルが見越売掛金勘定に計上されます。

7月の請求処理(収益認識あり)では、RC AAI を使用して請求書の金額が売掛金勘定の借方に計上されます。続いて、請求 AAI 番号 4832(見越売掛金)によって、1,200ドルが貸方に計上されます。

また、1,200ドルの請求書を構成するワークテーブル取引に調整が必要かどうか、システムにより決定されます。この例では、請求書の作成前には 480ドルのワークテーブル取引は収益バッチに含まれていません。ワークテーブル取引に適用可能な収益調整に対して、仕訳があと 2 件作成されます。

請求 AAI 番号 4811(実績収益)によって、収益バッチに含まれなかった 480ドルが調整され、貸方に収益が計上されます。続いて、請求 AAI 番号 4832(見越収益)を使用して、見越売掛金に 480ドルの調整が加えられ、借方に見越売掛金が計上されます。

注:

この例では、収益認識と請求処理の間に時間があいているため、見越売掛金勘定はゼロに調整されました。通常は、見越残高を調整するための調整仕訳は作成されないため、差異が毎月発生します。

最後に、請求 AAI 番号 4841 により、仕掛勘定から原価勘定が毎月差し引かれ、請求 AAI 番号 4842 によって同じ金額で売上原価が毎月計上されます。

総勘定元帳の 6 月の転記額と残高は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		600.00	(600.00)

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	720.00		720.00

収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		720.00	(720.00)

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
06/30/05		600.00	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00

総勘定元帳の 7 月の転記額と残高は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	400.00		400.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		600.00	(600.00)
07/31/05		400.00	(1,000.00)

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	720.00		720.00
07/31/05		1,200.00	(480.00)

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			
07/31/05	1,200.00		1,200.00

収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		720.00	(720.00)
07/31/05		480.00	(1,200.00)

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	720.00		720.00
07/31/05		1,200.00	(480.00)
07/31/05	480.00		0

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	400.00		400.00
07/31/05		400.00	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
07/31/05	400.00		1,000.00

請求 AAI テーブル規則

収益調整なしで収益認識と請求書処理を行う場合は、請求 AAI テーブル規則を次のように設定します。

AAI テーブル番号	勘定科目	借方/貸方	必須/任意
4811	(貸)実績収益	WDBTOL	必須
4832	見越売掛金	WDBTOL / WDITOL	必須
4841	(貸)仕掛勘定	WDAA	任意
4842	(借)売上原価	WDAA	任意

注:

売掛金科目は、RC AAI の指定により決まります。請求書金額を使用して、借方に売掛金が計上されます。

例: 収益調整ありの収益認識および請求書処理

2 ヶ月で 1,200 ドルの収益を計上するとします。2 ヶ月目に 1,200 ドルの請求書を 1 件処理します。数量 100 に対する単価は 10 ドルです。1 個ずつの原価は仕掛勘定に記録します。数量分の収益を計上した後、原価は仕掛勘定から売上原価に振り替えられます。1 個あたりの収益は 12 ドルとして計上されます。割増しはそれぞれ 6 月が 120 ドル、7 月が 80 ドルです。

6 月の仕訳は次のようになります。

06/30/05	仕掛勘定	600.00	
	買掛金		(600.00)
06/30/05	見越売掛金	720.00	
	収益		(720.00)

06/30/05	売上原価	600.00	
	仕掛勘定		(600.00)

総勘定元帳の6月の転記額と残高(収益認識)は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		600.00	(600.00)

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	720.00		720.00

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		720.00	(720.00)

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
06/30/05		600.00	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00

6 月には、請求 AAI 番号 4811(実績収益)によって収益 720 ドルが収益勘定に計上されます。請求 AAI 番号 4831(見越売掛金)により、見越収益 720 ドルが見越収益勘定に計上されます。

7 月の仕訳は次のようになります。

07/31/05	見越売掛金	480.00	
	見越収益		(480.00)
07/31/05	売上原価	400.00	
	仕掛勘定		(400.00)
07/31/05	売掛管理	1,200.00	
	見越売掛金		(1,200.00)
07/31/05	見越収益	1,200.00	
	収益		(1,200.00)

総勘定元帳の 7 月の転記額と残高(請求処理および収益認識)は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
07/31/05	400.00		1,000.00
07/31/05		(400.00)	600.00
07/31/05		(600.00)	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
07/31/05	400.00		1,000.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		600.00	(600.00)
07/31/05		400.00	(1,000.00)

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		720.00	(720.00)
07/31/05		480.00	(1,200.00)
07/31/05	1,200.00		0

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	720.00		720.00
07/31/05	480.00		1,200.00
07/31/05		1,200.00	0

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			
07/31/05	1,200.00		1,200.00

収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			
07/31/05		1,200.00	(1,200.00)

請求 AAI テーブル規則

収益調整ありで収益認識と請求書処理を行う場合は、請求 AAI テーブル規則を次のように設定します。

AAI テーブル番号	勘定科目	借方/貸方	必須/任意
4811	(貸)実績収益	WDBTOL	必須
4831	見越収益	WDBTOL / WDITOL	必須
4832	見越売掛金	WDBTOL / WDITOL	必須
4841	(貸)仕掛勘定	WDAA	任意
4842	(借)売上原価	WDAA	任意

注:

売掛金科目は、RC AAI の指定により決まります。請求書金額を使用して、借方に売掛金が計上されます。

請求料金/割増規則の検索

割増しは、間接費と利益を確保するために費用に追加する金額です。割増金額は、請求システムのセットアップ時に定義した割増規則に基づいて、ワークテーブル取引を生成したり改訂する際に計算されます。

割増規則を定義するには、主キーと補助キーの値を指定します。これらの値を組み合わせ、個々のソース取引に適用する特定の割増規則が識別されます。適切な割増規則を識別するために、次の処理が実行されます。

- 割増規則にアクセスする。
- 特定のソース取引で指定した値と一致する主キーの情報を検索する。
- 補助キー情報をソース取引で指定した値と突き合わせて検索を絞り込む。
- 適用可能な割増計算規則に基づいて、個々の取引の割増金額が計算される。
- ワークテーブル取引が該当する割増金額で更新されます。

識別された結果、最も限定的な規則を使用して、取引の割増しが計算されます。

主キーの値

割増テーブルに定義した主キーの情報は、システムによって請求可能なワークテーブル取引の情報と突き合わせられます。

次の表は、主キーについて使用可能な検索方法を示します。

検索レベル	キー・タイプ	検索条件	検証に使用されるテーブル
1 番目	1	作業オーダー	作業オーダー・マスター(F4801)
2 番目	2	作業オーダー・クラス	ユーザー定義コード(00/W7)
3 番目	3	契約番号	契約マスター(F5201)
4 番目	4	親契約番号	契約マスター(F5201)
5 番目	5	顧客番号	住所録マスター(F0101)
6 番目	6	作業/ビジネスユニット	ビジネスユニット・マスター(F0006)
7 番目	7	職務分類	ユーザー定義コード(00/11)
8 番目	8	会社	会社固定情報(F0010)
9 番目	9	システム・デフォルト	検証なし

上記のいずれかのレベルで該当がなければ、キー・タイプ 9 が使用されます。残りの適格な取引が、このキー・タイプを持つテーブルに充当されます。キー・タイプ 9 に該当がなければ、システム固定情報で指定したデフォルトの割増率が使用されます。

補助キーの値

給与計算取引

給与計算取引は、伝票タイプ T2、T4、T5 を使用して識別します。T2、T4、T5 の伝票を指定すると、システムは 2 つの方法により関連の補助キー値を検索します。

第 1 レベル検索

最初の検索の第 1 レベルで、従業員番号、職階、職務タイプ、支払タイプを含む取引の該当レコードが検索されます。

これらの検索は特定のキーから汎用キーの順で実行されることに注意してください。

検索レベル	検索条件 従業員 (AN8)	職階(JBST)	職務タイプ(JBCD)	支払タイプ(PDBA)
1 番目	X	X	X	X
2 番目	X	X	X	
3 番目	X	X		X
4 番目	X	X		
5 番目	X		X	X
6 番目	X		X	
7 番目	X			X
8 番目	X			

第 2 レベル検索

最初のレベルの検索で割増テーブル・レコードが見つからない場合は、検索が続行されます。給与計算取引の第 2 検索では、職階、職務タイプ、支払タイプ、所属ビジネスユニット、原価プールが使用されます。

注:

従業員番号、所属ビジネスユニット、原価プールはそれぞれ単独でしか使用できないため、第2検索では使用しません。

検索レベル	検索条件 職階(JBST)	職務タイプ (JBCD)	支払タイプ (PDBA)	所属ビジネス ユニット(HMCU)	原価プール (RP12)
1 番目	X	X	X	X	
2 番目	X	X	X		X
3 番目	X	X	X		
4 番目	X	X		X	
5 番目	X	X			X
6 番目	X	X			
7 番目	X		X	X	
8 番目	X		X		X
9 番目	X		X		
10 番目	X			X	
11 番目	X				X
12 番目	X				
13 番目		X	X	X	
14 番目		X	X		X
15 番目		X	X		
16 番目		X		X	
17 番目		X			X
18 番目		X			
19 番目				X	

検索レベル	検索条件 職階(JBST)	職務タイプ (JBCD)	支払タイプ (PDBA)	所属ビジネス ユニット(HMCU)	原価プール (RP12)
20 番目			X		X
21 番目			X		
22 番目			X	X	
23 番目					X
24 番目					

設備用の非給与計算取引

設備用の非給与計算取引は、伝票タイプ TE を使用して識別されます。伝票タイプ TE の取引には次の検索条件が適用されます。

注:

設備番号、所属ビジネスユニット、原価プールはそれぞれ単独でしか使用できません。

検索レベル	検索条件 設備 (NUMB)	レート・グループ (ACL0)	レート・コード (ERC)	所属ビジネス ユニット(HMCU)	原価プール (RP12)
1 番目	X		X		
2 番目	X				
3 番目		X	X	X	
4 番目		X	X		X
5 番目		X	X		
6 番目		X		X	
7 番目		X			X
8 番目		X			
9 番目			X	X	

検索レベル	検索条件 設備 (NUMB)	レート・グループ (ACL0)	レート・コード (ERC)	所属ビジネス ユニット(HMCU)	原価プール (RP12)
10 番目			X		X
11 番目			X		
12 番目				X	
13 番目					X
14 番目					

その他のすべての取引

残りの適格な取引(伝票タイプ T2、T4、T5、TE 以外)については、補助キー値が次のように検索されます。

注:

この検索では、設備番号、所属ビジネスユニット、原価プールは共に使用できます。

検索レベル	検索条件 従業員 (AN8)	職階(JBST)	所属ビジネスユニット (HMCU)	原価プール(RP12)
1 番目	X	X	X	
2 番目	X	X		X
3 番目	X	X		
4 番目	X		X	
5 番目	X			X
6 番目	X			
7 番目		X	X	
8 番目		X		X
9 番目		X		
10 番目			X	

検索レベル	検索条件 従業員 (AN8)	職階(JBST)	所属ビジネスユニット (HMCU)	原価プール(RP12)
11 番目				X
12 番目				

主科目と補助科目の検索

補助キー値と請求する取引に該当レコードがあった場合、割増テーブル規則と請求対象の取引から主科目と補助科目の情報が検索されます。

検索レベル	検索条件 OBJ (主科目)	SUB (補助科目)
1 番目	X	X
2 番目	X	
3 番目		X
4 番目		

設備情報を持つ給与計算取引 T2

割増規則にレート・グループ(ACL0)や設備番号(EQCG)、レート・コード(ERC)が含まれる場合、設備情報を持つ伝票タイプ T2 の給与計算取引は、割増テーブル規則の設備情報と一致する必要があります。情報が一致しないと、システムは正しい規則の検索を続けます。次の 3 つの例で、この検索について説明します。

- 割増テーブル規則で設備番号を 180 と指定し、給与計算取引 T2 に設備番号 100 が含まれるとします。設備番号が一致しないため、システムは検索を続行します。
- 割増テーブルで設備番号を 180 と指定し、給与計算取引 T2 に設備番号が含まれないとします。この場合、設備番号が一致しないため、システムは続けて別の規則を検索します。
- 割増規則で設備番号を指定せず、給与計算取引 T2 に設備番号 100 が含まれるとします。規則で設備番号を指定しないと、設備番号を含むかどうかに関係なく、すべての給与計算取引 T2 が適用されます。この場合、システムは検索を停止してこの規則を使用します。

請求書の設計

この付録には、請求システムで請求書の設計や修正を行う場合に必要な重要な情報が含まれます。具体的には、スマート・フィールドの使用方法や配置、名称設定、セクション・サイズおよびフォント・サイズのフォーマット設定の重要な情報について説明します。

SF4812*スマート・フィールドを使用せずに、請求明細ワークテーブル(F4812)からヘッダー・セクションと詳細セクションに直接ビジネス・ビュー・フィールドを挿入できますが、フッター・セクションにはSF4812*スマート・フィールドを使用する必要があります。請求書設計プロセスを簡素化するには、ビジネス・ビュー・フィールドを使用せずに、スマート・フィールドを使用してください。

J.D. Edwards では、スマート・フィールドを挿入する際に変数名をより特定のものに変更するようお勧めします。デフォルトの変数名は、データ辞書に定義されたスマート・フィールド名です。この名称を変更しないと、特に同じスマート・フィールドを複数の請求書フィールドに使用する場合に、混同する恐れがあります。また、同じフィールドを複数のセクション(ヘッダーとフッター、詳細セクションなど)に配置する場合、セクションの参照情報を変数名に含めると便利です。

選択した変数名は、関連テキストとして変数と共に印刷されます。したがって、変数と共にテキストを請求書に表示する場合は、表示するテキストを変数名として指定する必要があります。テキストを表示するが、変数名を同じにしなくてもよい場合は、後でテキストの[プロパティ]で名称を変更し、関連テキストを修正できます。関連テキストを変数と共に表示しない場合は、請求書にスマート・フィールドを配置した後で、テキストを分離して削除できます。関連テキストを削除すると、スマート・フィールドのパラメータを変更できなくなるため、この方法は最善ではありません。ただし、関連テキストを表示せずにスマート・フィールドのみを表示する場合、J.D. Edwards では関連テキストの名称を 1 文字のブランク・フィールドに変更するようお勧めします。

すべての名称スマート・フィールドは、最初は 40 文字のフィールドとして挿入されます。後でスマート・フィールドの[プロパティ]で[表示長]を変えれば、文字数を変更できます。すべての数値スマート・フィールドは、最初は小数点以下 2 桁の 15 桁のフィールドとして挿入されます。非通貨の数値フィールドの場合は、いずれも後でスマート・フィールドの[プロパティ]の[表示長]と[表示小数点以下桁数]を変更し、桁数と小数点以下桁数の設定を変更できます。通貨数値フィールドを修正する必要はありません。適切な通貨のプロパティの設定に従って印刷されます。

デフォルト行のセクション・サイズやフォント・サイズを修正する際、請求書ヘッダー・セクションの[Initialize section]で次の 3 つの変数の変更が必要になることがあります。

```
// Set the number of detail lines that can print on a page that DOES NOT have the
// Total Section print
VA rpt_MaxDetailLines_MATH01 = "45"

// Set the number of detail lines that can print on a page that DOES have the
// Total Section print
VA rpt_MaxDetLinesWithTots_MATH01 = "25"

// Set the number of lines (detail and blank lines) that are between the Detail
// Heading and the Total Section
```



```
VA rpt_LinesBeforeTotals_MATH01 = "30"
```

BlankLine 変数を表示可能な式に設定する代入行を有効にすると、修正を含む行をテストできます。次のコード・セクションで示すように、使用不可の代入行は Blank Line セクションの Do セクションにあります。

```
// This value to be set to <blank>, but can be set to something visible (i.e.
```

```
// blankline) for testing purposes.
```

```
! RV Blank Line = "BlankLineeeeeeeeeeeeeeeeeeeee"
```

スマート・フィールド

次の表は、請求書の設計時に請求書に挿入できるスマート・フィールドを示します。また、請求書設計者がこれらのスマート・フィールドの挿入時に回答する必要のあるパラメータ・プロンプトも示しています。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SF0006x (x は A(名称)、C(文字)、D (日付)、または N(数値))	ビジネスユニット・マスター (F0006)	1	R01PCC。このパラメータを使用して、ビジネスユニット・マスター (F0006)から情報を取り込みます。
SF0014x (x は A、C、D または N)	支払条件 (F0014)	1	R01PPT。支払条件テーブル (F0014)から情報を取り込みます。
SF0101x (x は A、C、D または N)	住所録マスター (F0101)	1	R01PAB。住所録マスター (F0101) から情報を取り込みます。
SF0111x (x は A、C、D または N)	人名録 (F0111)	1	R01PWW。人名録テーブル (F0111) から情報を取り込みます。
SF0115x (x は A、C、D または N)	住所録 - 連絡先電話番号 (F0115)	1	R01PPN。このパラメータを使用し て、住所録 - 連絡先電話番号テー ブル (F0115) から情報を取得しま す。
		5	R22P。請求電話番号の表示方法を 指定します。
SF0116x (x は A、C、D または N)	日付別住所 (F0116)	1	R01PAD。日付別住所テーブル (F0101)から情報を取り込みます。
		5	R23P。前回入力したデータ項目を 一時変更して、指定した詳細な住 所のフォーマットを表示するかのう かを指定します。
SF03012x (x は A、C、D または N)	会社別顧客マスター (F03012)	1	R01PCM。会社別顧客マスター (F03012)からの情報を取り込みま す。
SF0401x (x は A、C、D または N)	仕入先マスター (F0401)	1	R01PSP。仕入先マスター (F0401) から情報を取り込みます。
SF0692x (x は A、C、D または N)	ビジネスユニット補足データ・コ ード (F00692)	1	R01PSC。ビジネスユニット補足デ ータ・コード・テーブル (F00692) から 情報を取り込みます。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
		5(SF0692Nのみ)	R25P。取込コード情報を保管するレジスタを識別します。
SF0901x (x は A、C、D または N)	勘定科目マスター(F0901)	1	R01PAM。勘定科目マスター(F0901)から情報を取り込みます。
SF0693A	ビジネスユニット補足データ・テキスト(F00693)	1	R05P。作業に関連するビジネスユニットや所属ビジネスユニットの情報、作業マスターに入力されたプロジェクトを印刷するかどうかを指定します。
		2	R26P。取り込む補足データの最初のカラムに関連するデータ・タイプを入力する際に使用します。
		3	R18P。取り込む補足データの最初のカラムに関連する値を入力する際に使用します。
		4	R27P。テキスト中の位置に関連する数値を指定します。請求書のこの行で印刷される最初の文字になります。このパラメータは R28P と共に使用されます。
		5	R28P。請求書でのテキストの印刷を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SF1201x (x は A、C、D または N)	資産マスター(F1201)	1	R01PEQ。固定資産マスター(F1201)から情報を取り込みます。
SF1721x (x は A、C、D または N)	CSMS 契約詳細 (F1721)	1	R01PCD。CSMS 契約詳細テーブル(F1721)から情報を取り込みます。
SF4201N	前払取引(F004201)	1	R29P。特定の行番号の CSMS サービス契約、または請求書全体のうちどちらの前払金額を印刷するかを指定します。
		2	R25P。取込コード情報を保管するレジスタを指定します。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SF4801x (x は A、C、D または N)	作業オーダー・マスター(F4801)	1	R01PWO。作業オーダー・マスター(F4801)から情報を取り込みます。
SF4802A	作業オーダー指示(F4802)	1	R06P。作業オーダーの記述を、作業オーダーのレコード・タイプに関連付ける際に使用します。
		2	R27P。テキスト中の位置に関連する数値を指定します。請求書のこの行で印刷される最初の文字になります。このパラメータは R28P と共に使用されます。
		3	R28P。請求書でのテキストの印刷を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SF4812x (x は A、C、D または N)	サービス請求ワークテーブル(F4812) 請求ワークテーブル履歴(F4812H)	1	R01PBD。請求明細ワークテーブル(F4812)から情報を取り込みます。
SF4822x (x は A、C、D または N)	請求書集計ワークテーブル(F4822)	1	R01PIS。請求書集計ワークテーブル(F4822)から情報を取り込みます。
SF48520N	請求書集計アクセス(F48520)	1	R01PSA。請求書集計アクセス・テーブル(F48520)から情報を取り込みます。
		2	R12P。累計請求金額を集計するかどうかを指定します。金額を集計するよう指定した場合、契約番号、変更オーダー、所有者支払項目のどれを基準にしてソートするかも指定することができます。
		3	R13P。勘定科目別の集計レベルを指定します。この集計レベルを使用して、累計請求金額の合計が集計されます。
		4	R14P。従業員番号または仕入先番号を、累計請求金額を集計する際の基準に含めるかどうかを指定します。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
		5	R16P。特定の追加料金コードに関連する金額を印刷するかどうかを指定します。
		6	R25P。取込コード情報を保管するレジスタを識別します。
SF5201x (x は A、C、D または N)	契約マスター (F5201)	1	R01PCBM。契約マスター (F5201) から情報を取り込みます。
SF5202x (x は A、C、D または N)	契約請求行明細テーブル (F5202)	1	R01PCBD。契約請求行明細テーブル (F5202) から情報を取り込みます。
SF5216x (x は A、C、D または N)	マイルストーン/進捗請求行明細 (F5216) マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細 (F52161)	1	R01PMP。マイルストーン/進捗請求情報テーブル (F5216) から情報を取り込みます。
SFAMT Amounts	ソース・テーブルなし	1	R04P。単価や収益合計、課税対象額、割引可能金額などさまざまな金額を請求書に含めるかどうかを指定します。
		2	R08P。印刷する金額が明細行を集計した結果である場合、このパラメータを使用して、合計に含まれる労務費または間接労務費追加料金を印刷するかどうかを指定します。
		3	R16P。特定の追加料金コードに関連する金額を印刷するかどうかを指定します。
		4	R25P。取込コード情報を保管するレジスタを指定します。
SFABTXT	メディア・オブジェクト (F00165)	1	R02P。住所録の情報を取り込む際に使用する住所番号を指定します。
		2	R03P。代替住所番号を使用するかどうかを指定します。使用する場合は、代替住所番号を指定できません。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
		3	R27P。テキスト中の位置に関連する数値を指定します。請求書のこの行で印刷される最初の文字になります。このパラメータは R28P と共に使用されます。
		4	R28P。請求書でのテキストの印刷を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SFCNTTXT	メディア・オブジェクト(F00165)	1	R30P。印刷するテキストのレベルを指定します。(このパラメータは契約請求でのみ使用されます。)
		2	R27P。テキスト中の位置に関連する数値を指定します。請求書のこの行で印刷される最初の文字になります。このパラメータは R28P と共に使用されます。
		3	R28P。請求書でのテキストの印刷を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SFINVTXT	メディア・オブジェクト(F00165)	1	R15P。請求書バッチ内でどのレベルのテキストを印刷するかを指定します。
		2	R27P。テキスト中の位置に関連する数値を指定します。請求書のこの行で印刷される最初の文字になります。このパラメータは R28P と共に使用されます。
		3	R28P。請求書でのテキストの印刷を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SFADD SFSUB SFMUL SFDIV	ソース・テーブルなし	1-4	R24P。以前に定義したレポートの変数を指定します。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
加算/減算/乗算/除算 計算式			
SFTOTAL レジスタ合計	ソース・テーブルなし	1	R10P。99 のレジスタ(繰越合計金額)のうちどれを印刷するかを指定します。
		2	R11P。選択したレジスタをクリアしてゼロにするかどうかを制御します。
		3	R25P。取込コード情報を保管するレジスタを識別します。
SF005A	ユーザー定義コード(F0005)	1	R31P。使用するユーザー定義コード・テーブルを指定します。ユーザー定義コードのテーブル・タイプに関連するパラメータと共に使用します。
		2	R32P。使用するユーザー定義コード・テーブルを指定します。ユーザー定義コードの製品コードに関連するパラメータと共に使用します。
		3	R33P。以前に定義したレポート変数を、ドロップ・ダウン・リストを使用して選択する際に使用します。選択したレポート変数は、定義した UDC テーブルに関連する有効な値を含む必要があります。
		4	R35P。関連付けられたユーザー定義製品コードとレコード・タイプを使用してユーザー定義コード・テーブルを取り込むための、データ辞書項目を指定します。
SFCALC レジスタ計算結果	ソース・テーブルなし	1	R34P。複数のレジスタに保管されている値について操作を実行することにより、計算および表示する際に使用される等式を指定します。
		2	R25P。取込コード情報を保管するレジスタを識別します。

多通貨の時間会計処理

多通貨の時間会計処理には、システム・セットアップ、時間入力、およびワークテーブルの生成が含まれます。

人事管理システムの〈会社オプション〉の設定の考慮事項

多通貨の時間会計を有効にするには、〈会社オプション〉プログラム(P05001C)のデフォルトの会社00000 に対して次のフィールドを入力する必要があります。

- 多通貨機能の有効化。フィールドに“N”と入力します。
- 総勘定元帳インテグレーション。このフィールドには“T”(時間会計)と入力します。

これらの設定により、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)が更新されます。

参照

- 『Workforce Management Foundation(人事管理基本操作)』ガイドの「Setting Up Company Options(会社オプションの設定)」

設定に関する考慮事項

多通貨の時間会計を有効にするには、〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)の次のフィールドに入力する必要があります。

- 多通貨換算。“Y”(多通貨勘定科目乗数を使用)または“Z”(多通貨勘定科目除数を使用)を入力します。
- 多通貨会社間取引の許可。このオプションをオンにします。
- 会社間決済。2(任意勘定科目を使用。ハブなしで会社間決済仕訳を作成)を入力します。

参照

- 『一般会計』ガイドの「一般会計固定情報の設定」

為替レートの設定に関する考慮事項

会社の基本通貨と顧客および仕入先の通貨間の為替レートを設定する必要があります。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「為替レート」

ユーザー定義コード(48/MT - 割増生成タイプ)の設定に関する考慮事項

ユーザー定義生成タイプを作成して、給与計算の振替請求レート(P)の値を UDC 48/MT に追加することにより、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)から給与計算請求料金を取り込む必要があります。

次の値を UDC 48/MT に追加します。

コード	P
記述 01	給与計算の再請求レート
ハードコード	N

参照

- 『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードの変更」

〈時間入力 MBF 処理オプション〉の設定の考慮事項

〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)のバージョンの処理オプションの[振替請求]タブで、次の値を入力します。

- 多通貨機能の有効化。多通貨機能を有効にするには“1”を入力します。
- 基本金額のビジネスユニット通貨。振替請求ビジネスユニット通貨を指定するには“1”を入力し、従業員マスター(F060116)の所属ビジネスユニット通貨を使用するには“0”を入力します。

この処理オプションにより、請求料金または外貨請求料金が基本料金と見なされるかどうかを決定できます。したがって、どの料金が換算されるかを決定できます。選択内容に応じて、タイムカード上の特定の多通貨フィールドが有効になります。1 を選択して、振替請求ビジネスユニットの通貨を固定通貨として使用することを指定した場合、有効になる多通貨タイムカード・フィールドは[外貨請求料金]のみです。このオプションをブランク(デフォルト)のままにした場合、従業員の所属ビジネスユニットの通貨は固定通貨と見なされ、有効になる多通貨タイムカード・フィールドは[請求料金]フィールドだけです。

たとえば、カナダの会社で働くアメリカ人従業員の請求料金を US ドルまたはカナダ・ドルで計算できるとします。請求料金が US ドルで計算される場合、この料金がカナダ・ドルに換算されて外貨請求料金が決定されます。このシナリオでは、[基本金額]処理オプションのビジネスユニット通貨は 0 に設定され、従業員マスター(F060116)からの所属ビジネスユニット通貨が固定通貨または基本通貨として使用されます。外貨請求料金がカナダ・ドルで計算される場合、この料金が US ドルに換算されて請求料金が決定されます。このシナリオでは、[基本金額]処理オプションのビジネスユニット通貨は 1 に設定され、振替請求ビジネスユニット通貨が固定通貨または基本通貨として使用されます。

- 従業員の所属ビジネスユニットが 9 (US ドル会社 00001) の場合、請求料金/割増テーブル (F48096) は US ドルで定義する必要がある。
- カナダ・ドルの通貨を使用する会社で振替請求ビジネスユニットがビジネスユニット 77 (労務費) の場合、請求料金/割増テーブル (F48096) にカナダ・ドルを定義する必要がある。
- 料金検索に請求料金/割増テーブル (F48096) を使用する。“1”を入力して料金の取り込みに請求料金/割増テーブル (F48096) を使用します。
- 料金検索の生成タイプ。“P” (振替請求レート) を入力します。
- 請求割増料金の処理なし。“1”を入力して従業員原価レートを使用します。

- 〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)バージョン。“ZJDE0001”を入力します。
- 勘定科目の自動作成の強制(任意)。“1”を入力して勘定科目を自動的に作成します。

勘定科目の自動作成処理によって、システムで無効な勘定科目コードを含むタイムカードを入力すると、有効な勘定科目が作成されます。ただし、勘定科目コードはモデル・ビジネスユニットに存在する必要があります。勘定科目を自動的に作成しても請求料金/割増テーブル(F48096)にはレコードは作成されません。

参照

- 処理オプションの設定については、『基本操作』ガイドの「対話型バージョンの処理」

請求料金と割増テーブルの設定に関する考慮事項

次のいずれかのアプローチを使用して、請求料金/割増テーブル(F48096)に請求料金を設定できます。

- レート一時変更
- 原価割増し

請求のレート一時変更を作成するには、通常の従業員レートよりも高い請求料金を定義します。原価割増しを定義するには、通常のレートに追加されるパーセント値を入力します。

- 見出し域に次の情報を入力します。
- 生成タイプ。“P”(振替請求レート)を入力します。
- キー・タイプ。“6”(作業またはビジネスユニット)、またはその他の有効なキー・タイプを入力します。
- テーブル・キー。振替請求ビジネスユニット、またはその他の有効なテーブル・キー。
- 開始日付
- 終了日付
- グリッドの次のフィールドに値を入力します。
 - [開始主科目]および[終了主科目]
 - [割増金額]、[割増率]、[割増料金一時変更]のうち業務要件に応じて必要なフィールド

注:

〈追加料金テーブル〉プログラム(P4860)には〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)からアクセスできますが、多通貨の時間会計では〈追加料金テーブル〉プログラム(P4860)は使用されません。

参照

- 『契約請求』ガイドの「請求料金/割増規則の定義」

従業員給与計算情報の設定の考慮事項

選択した各従業員について、次の従業員給与計算情報を設定します。

- [レコード・タイプ]フィールドに入力する。“2”(給与計算および振替請求処理)または“3”(振替請求処理のみ)を入力します。

注:

従業員レコードでのこのオプションの設定は任意です。タイムカードを入力する際に[レコード・タイプ]フィールドに、“2”(給与計算および振替請求処理)または“3”(振替請求処理のみ)と入力できます。

- 配賦料金を追加するか、レコードにレートがあることを確認する。

参照

- 『Workforce Management Foundation(人事管理基本操作)』ガイドの「Entering Payroll Information for Employees(従業員の給与計算情報の入力)」

タイムカードの多通貨入力に関する考慮事項

- 処理オプション: <従業員別時間入力>プログラム(P051121)または<スピード時間入力>プログラム(P051121)で、<時間入力 MBF 処理オプション>プログラム(P050002A)について設定したバージョンを、[時間入力]タブの[時間入力バージョン]処理オプションに入力します。
- 1. <個別時間入力の改訂>または<スピード時間入力の改訂>で、次の必須フィールドに情報を入力します。
 - 日付
 - バッチ
- 2. 再請求タイムカードの処理を完了するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 従業員 No.
 - 支払
 - 時間
 - 勘定科目 No.
 - 勘定科目コードが確実でない場合は、[フォーム]メニューから[マークアップ(割増し)・テーブル]を選択して、QBE の[生成タイプ]フィールドに“P”と入力し、[検索]をクリックして振替請求する項目用に設定した勘定科目を検索します。
 - 作業日
 - レコード・タイプ

従業員レコードのレコード・タイプに“2”と入力した場合、タイムカードの[レコード・タイプ]フィールドを変更する必要はありません。レコード・タイプに“2”と入力しなかった場合は、タ

タイムカードのレコード・タイプを“2”(給与計算および振替請求処理)に一時変更してください。再請求取引に使用できるのはレコード・タイプ 2 および 3 のみです。

3. グリッドの次のフィールドの値を検討します。

- 外貨請求レート

請求料金は、請求料金/割増テーブル(F48096)に設定された情報から、処理オプション:
〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)の設定および従業員マスター・レコードの所属ビジネスユニットの通貨と、請求料金のビジネスユニットを基に生成されます。

- 基本通貨

従業員の所属ビジネスユニットの通貨です。

- 通貨コード

時間を請求する作業の通貨です。

- 請求料金

請求料金は、請求料金/割増テーブル(F48096)に設定された情報から、処理オプション:
〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)の設定および従業員マスター・レコードの所属ビジネスユニットの通貨と、請求料金のビジネスユニットを基に生成されます。

注:

振替請求料金または請求料金が正しくない場合、請求料金/割増テーブル(F48096)の勘定科目の開始および終了日付を検討してください。タイムカードの日付が有効期間内になれば、従業員マスター・レコードからデフォルトのレート情報が使用されます。

- 請求レートを検証します。次の例では、カナダドル(CAD)を US ドル(USD)に換算します。会社固定情報の多通貨オプションでは、除数として 0.66666667 を使用するよう設定してあります。250.00 を 0.66666667 で割ると 375.00 となります。

請求料金	外貨請求レート	基本通貨コード	再請求通貨コード
375.000	250.000	USD	CA

次のフィールドは、[多通貨時間会計]オプションがオンの場合のみ表示されます。

- 請求料金
- 外貨請求レート
- 基本通貨コード
- 再請求通貨コード
- バッチ No.を記入してください。

4. [OK]をクリックすると、従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)にレコードが作成されます。

参照

- 『Time Accounting(時間会計)』ガイドの「Entering Timecards for Employees(従業員のタイムカードの入力)」

タイムカード仕訳の作成に関する考慮事項

〈タイムカード転記/履歴更新〉メニュー(G05BT11)から、〈タイムカード仕訳の作成〉を選択します。

次の手順を実行してください。

1. 処理オプションの元帳日付を確認します。
2. データ選択で、バッチ番号テーブル(F06116)にタイムカードのバッチ番号を指定します。
3. レポートを検討して、元帳のバッチ番号を記録します。

バッチの承認と転記に関する考慮事項

バッチを転記すると、従業員トランザクション履歴(F0618)および取引明細(F0911)が更新され、従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)がクリアされます。

参照

- 『Time Accounting(時間会計)』ガイドの「Posting Journal Entries for Payroll or Time Accounting(給与計算または時間会計の仕訳の転記)」

タイムカードのワークテーブル取引生成に関する考慮事項

データ選択で、バッチ番号テーブル(F06116)に元帳のバッチ番号を指定します。

参照

- 『契約請求』ガイドの「ワークテーブルの生成」

ワークテーブル取引の検討に関する考慮事項

元帳日付、会社、顧客、または伝票タイプを検索します。請求明細ワークテーブル(F4812)が次のように更新されます。

データ項目	記述
AA	外貨建ての取引の作業原価
U	時間入力で入力された数量
PRIC	単価。請求料金/割増テーブル(F48096)で設定されたレートと同じになります。生成タイプはPです。
CRCD	作業の通貨コード
CRCF	顧客の通貨コード
CRCE	従業員の所属ビジネスユニットの通貨コード

AA2	顧客の通貨による取引の作業原価
PRIF	顧客の通貨による単価
BRT および BRTI	モードの通貨での割増レート

請求書および収益金額は、その他の多通貨取引の場合と同じように計算されます。

注:

取引明細テーブル(F0911)の仕訳に 2 行の項目がある場合でも、T4 の取引が 1 件のみ作成されます。

参照

- 『契約請求』ガイドの「ワークテーブル取引の検討」

例:タイムカードの多通貨入力

設定

従業員情報

時給 (PHRT、従業員の基本給・諸手当フォームの時間給) = 25.00

配賦料金 (PBRT - 従業員給与計算フォーム) = 45.00

所属ビジネスユニット = 9 (会社 00001 に関連付けられており、通貨は US ドル)

為替レート

USD からカナダ通貨 (CAD) への換算

日付	乗数	除数
01/01/05	2.0	.50
02/01/05	1.50	.6666667
03/01/05	1.50	.6666667

CAD から USD への換算

日付	乗数	除数
04/01/05	1.50	.6666667
05/01/05	1.50	.6666667
06/01/05	1.1764706	.85

一般会計固定情報

多通貨の換算 = Y(乗数)

外貨 x 為替レート = 国内通貨

国内通貨 / 為替レート = 外貨

労務費勘定科目

ビジネスユニット、CAD(カナダドル)

注:

ビジネスユニット 77 は会社 00077 に属します。これは、通貨コード CAD を使用するために<会社名および番号>プログラム(P0010)で設定されます。

テスト・ケース

次の例は、従業員(USD)の所属ビジネスユニットを使用した場合に基づいています。

<時間入力 MBF 処理オプション>プログラム(P050002A)の[再請求]タブの[基本金額のビジネスユニット通貨]オプション = 0(従業員の所属ビジネスユニット)

請求料金/割増テーブル

生成タイプ	キー・タイプ	テーブル・キー	通貨コード	開始日付	終了日付	割増料金一時変更	割増率	割増金額
P	6	9	USD	01/01/05	01/31/05	250.00		
P	6	9	USD	02/01/05	02/28/05		150.00	
P	6	9	USD	03/01/05	03/31/05			100.00

一時変更レートありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求レート	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属ビジネスユニット
01/01/05	1	1	77.1341	500.00	USD	CAD	250.00	9

請求料金 = 請求料金/割増テーブル(F48096)からの割増料金一時変更

外貨請求レート = 国内通貨請求レート x 為替レート乗数(USD から CAD)

$$250.00 \times 2.0 = 500.00$$

注:

為替レート乗数の値は、元帳日付の為替レートが作業日付の為替レートと異なる場合に
変更されます。

パーセントありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求 レート	基本 通貨	通貨 コード	請求料金	所属ビジネス ユニット
02/01/05	1	1	77.1341	93.75	USD	CAD	62.50	9

請求レート = 時給(PHRT) + 割増し

$$25 + 150\% \text{ 割増し} = 62.50$$

外貨請求レート = 国内通貨請求レート × 為替レート乗数 (USD から CAD)

$$62.50 \times 1.50 = 93.75$$

注:

為替レート乗数の値は、元帳日付の為替レートが作業日付の為替レートと異なる場合に
変更されます。

金額ありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求 レート	基本 通貨	通貨 コード	請求料金	所属ビジネス ユニット
03/01/05	1	1	77.1341	187.50	USD	CAD	125.00	9

請求レート = 時給(PHRT) + 割増金額

$$25 + 10 = 125.00$$

外貨請求レート = 国内通貨請求レート × 為替レート乗数 (USD から CAD)

$$125.00 \times 1.50 = 187.50$$

注:

為替レート乗数の値は、元帳日付の為替レートが作業日付の為替レートと異なる場合に
変更されます。

次の例は、再請求ビジネスユニットを使用した場合に基づいています。

〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)の[再請求]タブの[基本金額のビジネスユニット通貨]オプション = 1(再請求ビジネスユニット)

請求料金/割増テーブル

生成タイプ	キー・タイプ	テーブル・キー	通貨コード	開始日付	終了日付	割増料金一時変更	割増率	割増金額
P	6	77	CAD	04/01/05	04/31/05	250.00		
P	6	77	CAD	05/01/05	05/28/05		150.00	
P	6	77	CAD	06/01/05	06/31/05			100.00

一時変更レートありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求レート	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属ビジネスユニット
04/01/05	1	1	77.1341	250.00	USD	CAD	375.00	9

外貨請求料金は固定で、請求料金は〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)の設定に基づいて計算されます。

請求レート = 外貨請求レート x 為替レート乗数(CAD から USD)

$$250.00 \times 1.50 = 375.00$$

注:

為替レート乗数の値は、元帳日付の為替レートが作業日付の為替レートと異なる場合に変更されます。

パーセントありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求レート	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属ビジネスユニット
05/01/05	1	1	77.1341	62.50	USD	CAD	93.75	9

外貨請求レート = 時給(PHRT) + 割増し

$$25 + 150\% \text{ 割増し} = 62.50$$

請求レート = 外貨請求レート x 為替レート乗数(CAD から USD)

$$62.50 \times 1.50 = 93.75$$

注:
為替レート乗数の値は、元帳日付の為替レートが作業日付の為替レートと異なる場合に
変更されます。

金額ありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求 レート	基本 通貨	通貨 コード	請求料金	所属ビジネス ユニット
06/01/05	1	1	77.1341	125.00	USD	CAD	147.059	9

外貨請求レート = 時給(PHRT) + 割増金額
 $25 + 10 = 125.00$

請求レート = 外貨請求レート x 為替レート乗数 (CAD から USD)
 $125.00 \times 1.1764706 = 147.06$

注:
為替レート乗数の値は、元帳日付の為替レートが作業日付の為替レートと異なる場合に
変更されます。

留保金の例

このセクションには、さまざまな状況での留保金の計算例が示されています。

例 1 – 複数の留保金規則

この例では、変更オーダーのレベル 000 と 001、および請求行レベルで 3 つの留保金規則が設定されています。計算は、契約が 100 パーセント完了したことを前提にしています。制御フラグはブランクに設定し、売掛管理システムで留保金を作成して繰延税は発生しません。

注:

計算には、前渡金の直接相殺請求行と按分相殺請求行は含まれません。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
A	10%留保金 / 100%完了
B	15%留保金 / 100%完了
C	5%留保金 / 100%完了

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	A	RETN		S	D1 -3.5 %
変更オーダー000、 請求行 001	B	RETN		S	D1 -3.5%
変更オーダー001	C	RETN		S	D1 -3.5%

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダーNo.	予定値	現行正味金額	現行税額	現行合計金額	現行留保金額
001	一括	000	12,000.00	3,000.00	105.00	3,105.00	450.00
002	数量	000	15,000.00	78.00	2.73	80.73	7.80
003	出来高	000	2,500.00	275.00	9.63	284.63	27.50
004	進捗状況	000	3,500.00	455.00	15.93	470.93	45.50
005	前渡金の直接相殺 *	000	1,500.00-	275.00-	9.63-	284.63-	
006	前渡金の按分相殺**	000	1,000.00-	130.00-	4.55-	134.55-	
007	タイム・アンド・マテリアル	000		750.00	26.25	776.25	75.00
変更オーダー000 合計			30,500.00	4,153.00	145.36	4,298.36	605.80
001	一括	001	6,000.00	100.00	3.50	103.50	5.00
変更オーダー001 合計			6,000.00	100.00	3.50	103.50	5.00
契約合計			36,500.00	4,253.00	148.86	4,401.86	610.80

* 直接相殺請求行は出来高請求行に相互参照が設定されています。

** 按分相殺請求行は進捗請求行に相互参照が設定されています。

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

変更オーダー000、請求行 001

正味金額 x	留保金テーブル B =	留保金額
3,000.00 x	.15 =	450.00

変更オーダー000、請求行 002 - 004 および 007

正味金額 x	留保金テーブル A =	留保金額
78.00 x	.10 =	7.80
275.00 x	.10 =	27.50
455.00 x	.10 =	45.50
750.00 x	.10 =	75.00

変更オーダー001

正味金額 x	留保金テーブル B =	留保金額
100.00 x	.05 =	5.00

テーブル

次の表は、留保金に関連するフィールドで、請求書の生成プログラム(R52121)と仕訳の生成プログラム(R48131)を実行した時に値が自動入力されるものを示します。

サービス請求ワークテーブル(F4812)

TCLS	JTAX	ITOL	ITXA	ITAM	RGLC
8	105.00	3,105.00	3,000.00	105.00	RETN
8	2.73	80.73	78.00	2.73	RETN
8	9.63	284.63	275.00	9.63	RETN
8	15.93	470.93	455.00	15.93	RETN
8	9.63-	284.63-	275.00-	9.63-	RETN
8	4.55-	134.55-	130.00-	4.55-	RETN
8	26.25	776.25	750.00	26.25	RETN
8	3.50	103.50	100.00	3.50	RETN

請求書集計ワークテーブル(F4822)

THPD	STAM	ATXA	RTNG	RGLC	RTNR
3,105.00	105.00	3,000.00	450.00	RETN	B
80.73	2.73	78.00	7.80	RETN	
284.63	9.63	275.00	27.50	RETN	
470.93	15.93	455.00	45.50	RETN	
284.63-	9.63-	275.00-		RETN	
134.55-	4.55-	130.00-		RETN	
776.25	26.25	750.00	75.00	RETN	
103.50	3.50	100.00	5.00	RETN	

請求明細仕訳テーブル(F48S910)

TCLS	AA
8	3,105.00-
8	80.73-
8	284.63-
8	470.93-
8	284.63
8	134.55
8	776.25
8	103.50-

集計済み仕訳テーブル(F48S911)

AA
4,401.86-

売掛金仕訳の作成

〈バッチの検討〉プログラム(P48221)から〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、売掛金元帳に次の仕訳が作成されます。

	借方	貸方
売掛金	3,791.06	
収益		4,401.86-
留保金	610.80	

顧客元帳

次の表は、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行した後に、〈顧客元帳照会〉プログラム(P03B2002)でこの契約における顧客との取引を照会した場合の結果の一部を示します。

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	備考
RI	001	11/15/2005	3,105.00	3,105.00	A	適用 1、調整 0
RI	002	11/15/2005	450.00-	450.00-	A	留保金
RI	003	11/15/2005	450.00	450.00	H	留保金
RI	004	11/15/2005	80.73	80.73	A	適用 1、調整 0
RI	005	11/15/2005	7.80-	7.80-	A	留保金
RI	006	11/15/2005	7.80	7.80	H	留保金
RI	007	11/15/2005	284.63	284.63	A	適用 1、調整 0
RI	008	11/15/2005	27.50-	27.50-	A	留保金
RI	009	11/15/2005	27.50	27.50	H	留保金
RI	010	11/15/2005	470.93	470.93	A	適用 1、調整 0
RI	011	11/15/2005	45.50-	45.50-	A	留保金
RI	012	11/15/2005	45.50	45.50	H	留保金
RI	013	11/15/2005	284.63-	284.63-	A	適用 1、調整 0
RI	014	11/15/2005	134.55-	134.55-	A	適用 1、調整 0
RI	015	11/15/2005	776.25	776.25	A	適用 1、調整 0
RI	016	11/15/2005	75.00-	75.00-	A	留保金

RI	017	11/15/2005	75.00	75.00	H	留保金
RI	018	11/15/2005	103.50	103.50	A	適用 1、調整 0
RI	019	11/15/2005	5.00-	5.00-	A	留保金
RI	020	11/15/2005	5.00	5.00	H	留保金
			4,401.86	4,401.86		

例 2 - 売掛管理システムでの繰延税なしの留保金

この例では、留保金規則が 1 つだけ契約レベルで設定されています。計算は、契約が 100 パーセント完了したことを前提にしています。制御フラグは 1 に設定し、売掛管理システムで留保金を作成して繰延税は発生しません。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
A	10%留保金 / 100%完了

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	A	RETN	1	S	D1 -3.5 %

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダーNo.	予定値	現行正味金額	現行税額	現行合計金額	現行留保金額
001	タイム・アンド・マテリアル	000		2,000.00	63.00	2,063.00	200.00
002	一括	000	12,000.00	1,000.00	31.50	1,031.50	100.00
変更オーダー合計			12,000.00	3,000.00	94.50	3,094.50	300.00

契約合計		12,000.00	3,000.00	94.50	3,094.50	300.00
------	--	-----------	----------	-------	----------	--------

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

変更オーダー000

正味金額 x	留保金テーブル A =	留保金額
2,000.00 x	.10 =	200.00
1,000.00 x	.10 =	100.00

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

正味金額 x 税率 = 課税対象金額
2,000.00 x 0.035 = 70.00
1,000.00 x 0.035 = 35.00

課税対象金額 x 留保金% = 繰延税
70.00 x 0.10 = 7.00
35.00 x 0.10 = 3.50

税額 - 繰延税額 = 現行税額
70.00 - 7.00 = 63.00
35.00 - 3.50 = 31.50

仕訳編集レジスタ(R48300)

〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行すると、売掛金元帳に次の仕訳が作成されます。

	借方	貸方	相殺金額
売掛金	2,749.50		

収益		3,105.00-	
留保金	300.00		10.50

テーブル

次の表は、留保金に関連するフィールドで、〈請求書の生成〉プログラムと〈仕訳の生成〉プログラムを実行した時に値が自動入力されるものを示します。

サービス請求ワークテーブル(F4812)

TCLS	JTAX	ITOL	ITXA	ITAM	RGLC
	70.00	2,070.00	2,000.00	70.00	RETN
8	35.00	1,035.00	1,000.00	35.00	RETN

請求書集計ワークテーブル(F4822)

THPD	STAM	ATXA	RTNG	RGLC	RCTL	DDTR
2,063.00	63.00	2,000.00	200.00	RETN	1	7.00
1,031.50	31.50	1,000.00	100.00	RETN	1	3.50

請求明細仕訳テーブル(F48S910)

TCLS	AA
	2,070.00-
8	1,035.00-

集計済み仕訳テーブル(F48S911)

AA
3,105.00-

売掛金仕訳の作成

〈バッチの検討〉プログラム(P48221)から〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、売掛金元帳に次の仕訳が作成されます。

	借方	貸方
売掛金	2,794.50	
収益		3,105.00-
留保金	310.50	

顧客元帳

次の表は、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行した後に、〈顧客元帳照会〉プログラム(P03B2002)でこの契約における顧客との取引を照会した場合の結果の一部を示します。

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	備考
RI	001	11/15/2005	2,063.00	2,063.00	A	適用 1、調整 0
RI	002	11/15/2005	200.00-	200.00-	A	留保金
RI	003	11/15/2005	200.00	200.00	H	留保金
RI	004	11/15/2005	7.00	7.00	H	留保金
RI	005	11/15/2005	1,031.50	1,031.50	A	適用 1、調整 0
RI	006	11/15/2005	100.00-	100.00-	A	留保金
RI	007	11/15/2005	100.00	100.00	H	留保金
RI	008	11/15/2005	3.50	3.50	H	留保金
			3,105.00	3,105.00		

例 3 - 元帳での繰延税なしの留保金

この例では、留保金規則が 1 つだけ契約レベルで設定されています。計算は、契約が 100 パーセント完了したことを前提にしています。制御フラグは 2 に設定し、元帳で留保金を作成して繰延税は発生しません。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
A	10%留保金 / 100%完了

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	A	RETN	2	S	D1 -3.5 %

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダーNo.	予定値	現行正味金額	現行税額	現行合計金額	現行留保金額
001	タイム・アンド・マテリアル	000		2,000.00	70.00	2,070.00	200.00
002	一括	000	12,000.00	1,000.00	35.00	1,035.00	100.00
変更オーダー合計			12,000.00	3,000.00	105.50	3,105.00	300.00
契約合計			12,000.00	3,000.00	105.50	3,105.00	300.00

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

変更オーダー000

正味金額 x	留保金テーブル A =	留保金額
2,000.00 x	.10 =	200.00
1,000.00 x	.10 =	100.00

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

正味金額 x 税率 = 課税対象金額
2,000.00 x 0.035 = 70.00
1,000.00 x 0.035 = 35.00

仕訳編集レジスタ(R48300)

〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行すると、売掛金元帳に次の仕訳が作成されます。

	借方	貸方
売掛金	2,805.00	
収益		3,105.00-
留保金	300.00	

テーブル

次の表は、留保金に関連するフィールドで、〈請求書の生成〉プログラムと〈仕訳の生成〉プログラムを実行した時に値が自動入力されるものを示します。

サービス請求ワークテーブル(F4812)

TCLS	JTAX	ITOL	ITXA	ITAM	RGLC
	70.00	2,070.00	2,000.00	70.00	RETN
8	35.00	1,035.00	1,000.00	35.00	RETN
R		200.00-	200.00-		RETN
R		100.00-	100.00-		RETN

請求書集計ワークテーブル(F4822)

THPD	STAM	ATXA	RTNG	RGLC	RCTL
2,070.00	70.00	2,000.00	200.00	RETN	2
1,035.00	35.00	1,000.00	100.00	RETN	2

請求明細仕訳テーブル(F48S910)

TCLS	AA
	2,070.00-
8	1,035.00-
R	200.00
R	100.00

集計済み仕訳テーブル(F48S911)

AA
3,105.00-
300.00

売掛金仕訳の作成

〈バッチの検討〉プログラム(P48221)から〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、売掛金元帳に次の仕訳が作成されます。

	借方	貸方
売掛金	2,805.00	
収益		3,105.00-
留保金	300.00	

顧客元帳

次の表は、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行した後に、〈顧客元帳照会〉プログラム(P03B2002)でこの契約における顧客との取引を照会した場合の結果の一部を示します。

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	備考
RI	001	11/15/2005	2,070.00	2,070.00	A	適用 1、調整 0
RI	002	11/15/2005	200.00-	200.00-	A	留保金
RI	003	11/15/2005	1,035.00	1,035.00	A	適用 1、調整 0
RI	004	11/15/2005	100.00-	100.00-	A	留保金
			2,805.00	2,805.00		

例 4 - 元帳での繰延税ありの留保金

この例では、留保金規則が 1 つだけ契約レベルで設定されています。計算は、契約が 100 パーセント完了したことを前提にしています。制御フラグは 3 に設定し、元帳で留保金を作成して繰延税が発生します。繰延税用の AAI は RTVATD です。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
A	10%留保金 / 100%完了

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	A	RETN	3	S	D1 -3.5 %

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダーNo.	予定値	現行正味金額	現行税額	現行合計金額	現行留保金額
001	タイム・アンド・マテリアル	000		2,000.00	63.00	2,063.00	200.00
002	一括	000	12,000.00	1,000.00	31.50	1,031.50	100.00
変更オーダー合計			12,000.00	3,000.00	94.50	3,094.50	300.00
契約合計			12,000.00	3,000.00	94.50	3,094.50	300.00

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

変更オーダー000

正味金額 x	留保金テーブル A =	留保金額
2,000.00 x	.10 =	200.00
1,000.00 x	.10 =	100.00

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

正味金額 x 税率 = 課税対象金額
2,000.00 x 0.035 = 70.00
1,000.00 x 0.035 = 35.00

課税対象金額 x 留保金% = 繰延税
70.00 x 0.10 = 7.00
35.00 x 0.10 = 3.50

税額 - 繰延税額 = 現行税額
70.00 - 7.00 = 63.00
35.00 - 3.50 = 31.50

仕訳編集レジスタ(R48300)

〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行すると、売掛金元帳に次の仕訳が作成されます。

	借方	貸方
繰延税	10.50	
売掛管理	2,794.50	

収益	3,105.00-
留保金	300.00

テーブル

次の表は、留保金に関連するフィールドで、〈請求書の生成〉プログラムと〈仕訳の生成〉プログラムを実行した時に値が自動入力されるものを示します。

サービス請求ワークテーブル(F4812)

TCLS	JTAX	ITOL	ITXA	ITAM	RGLC
	70.00	2,070.00	2,000.00	70.00	RETN
8	35.00	1,035.00	1,000.00	35.00	RETN
R	7.00-	207.00-	200.00-	7.00-	RETN
R	3.50-	103.50-	100.00-	3.50-	RETN

請求書集計ワークテーブル(F4822)

THPD	STAM	ATXA	RTNG	RGLC	RCTL	DDTR
2,063.00	63.00	2,000.00	200.00	RETN	3	7.00
1,031.50	31.50	1,000.00	100.00	RETN	3	3.50

請求明細仕訳テーブル(F48S910)

TCLS	AA
	2,070.00-
8	1,035.00-
R	200.00
R	7.00
R	100.00
R	3.50

集計済み仕訳テーブル(F48S911)

AA
3,105.00-
300.00
10.50

売掛金仕訳の作成

〈バッチの検討〉プログラム(P48221)から〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、売掛金元帳に次の仕訳が作成されます。

	借方	貸方
繰延税	10.50	
売掛金	2,794.50	
収益		3,105.00-
留保金	300.00	

顧客元帳

次の表は、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行した後に、〈顧客元帳照会〉プログラム(P03B2002)でこの契約における顧客との取引を照会した場合の結果の一部を示します。

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	備考
RI	001	11/15/2005	2,063.00	2,063.00	A	適用 1、調整 0
RI	002	11/15/2005	200.00-	200.00-	A	留保金
RI	003	11/15/2005	1,031.50	1,031.50	A	適用 1、調整 0
RI	004	11/15/2005	100.00-	100.00-	A	留保金
			2,794.50	2,794.50		

例 5 - 一部完了した契約でタイム・アンド・マテリアル行に予定値がない場合の留保金

この例では、留保金規則が 1 つだけ契約レベルで設定されています。計算は、契約が 30 パーセント完了したことを前提にしています。制御フラグはブランクに設定し、売掛管理システムで留保金を作成して繰延税は発生しません。タイム・アンド・マテリアル行には予定値はありません。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
D	10%留保金 / 30%完了

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	D	RETN		S	D1 -3.5 %

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダー No.	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計 金額	現行留保 金額
001	タイム・アンド・ ド・マテリアル	000		1,200.00	42.00	1,242.00	66.00
002	一括	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	330.00
変更オーダー合計			12,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	396.00
契約合計			12,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	396.00

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

完了率の計算

正味金額	予定値 + 正味金額	完了率
7,200.00 /	12,000.00 + 1,200.00 = 13,200.00	.545454

留保金合計の計算

予定値	留保金完了	留保金パーセント	留保金額
13,200.00 x	0.30 x	.10 =	396.00

請求行ごとの留保金の計算

請求行	正味金額 / 合計正味金額 x 留保金額	請求行の留保金額
001	1,200.00 / 7,200.00 x 396.00 =	66.00
002	6,000.00 / 7,200.00 x 396.00 =	330.00

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

正味金額 x 税率 = 課税対象金額
1,200.00 x 0.035 = 42.00
6,000.00 x 0.035 = 210.00

例 6 - 一部完了した契約でタイム・アンド・マテリアル行に予定値がある場合の留保金

この例では、留保金規則が 1 つだけ契約レベルで設定されています。計算は、契約が 30 パーセント完了したことを前提にしています。制御フラグはブランクに設定し、売掛管理システムで留保金を作成して繰延税は発生しません。タイム・アンド・マテリアル行には予定値があります。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
D	10%留保金 / 30%完了

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	D	RETN		S	D1 -3.5 %

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダーNo.	予定値	現行正味金額	現行税額	現行合計金額	現行留保金額
001	タイム・アンド・マテリアル	000	5,000.00	1,200.00	42.00	1,242.00	85.00
002	一括	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	425.00
変更オーダー合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	510.00
契約合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	510.00

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

完了率の計算

正味金額	予定値 + 正味金額	完了率
7,200.00 /	17,000.00	.423529411

留保金合計の計算

予定値	留保金完了	留保金パーセント	留保金額
17,000.00 x	0.30 x	.10 =	510.00

請求行ごとの留保金の計算

請求行	正味金額 / 合計正味金額 x 留保金額	請求行の留保金額
001	$1,200.00 / 7,200.00 \times 510.00 =$	85.00
002	$6,000.00 / 7,200.00 \times 510.00 =$	425.00

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

正味金額 x 税率 = 課税対象金額
$1,200.00 \times 0.035 = 42.00$
$6,000.00 \times 0.035 = 210.00$

例 7 - 複数の完了率がある契約でタイム・アンド・マテリアル行に予定値がない場合の留保金

この例では、留保金規則が 1 つだけ契約レベルで設定されています。計算は、契約に 2 つの異なる完了率がある場合を前提にしています。制御フラグはブランクに設定し、売掛管理システムで留保金を作成して繰延税は発生しません。タイム・アンド・マテリアル行には予定値があります。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
E	完了率に複数の RETN %あり

留保金のパーセンテージ	完了率
10 %	20.00
15 %	38.00

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	E	RETN		S	D1 -3.5 %

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダーNo.	予定値	現行正味金額	現行税額	現行合計金額	現行留保金額
001	タイム・アンド・マテリアル	000	5,000.00	1,200.00	42.00	1,242.00	133.17
002	一括	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	665.83
変更オーダー合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	799.00
契約合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	799.00

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

完了率の計算

正味金額	予定値 + 正味金額	完了率
7,200.00 /	17,000.00	.423529411

留保金合計の計算

予定値	留保金完了	留保金パーセント	留保金額
17,000.00 x	20 x	.10 =	340.00
17,000.00 x	0.18 x *	.15 =	459.00
			合計 799.00

* 38% - 20% = 18% (18%が完了で残りについては別途計算)

請求行ごとの留保金の計算

請求行	正味金額 / 合計正味金額 x 留保金額	請求行の留保金額
001	$1,200.00 / 7,200.00 \times 799.00 =$	133.17
002	$6,000.00 / 7,200.00 \times 799.00 =$	665.83

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

正味金額 x 税率 = 課税対象金額
$1,200.00 \times 0.035 = 42.00$
$6,000.00 \times 0.035 = 210.00$

例 8 - 複数の完了率がある契約でタイム・アンド・マテリアル行に予定値がある場合の留保金

この例では、留保金規則が 1 つだけ契約レベルで設定されています。計算は、契約に 3 つの異なる完了率がある場合を前提にしています。制御フラグはブランクに設定し、売掛管理システムで留保金を作成して繰延税は発生しません。タイム・アンド・マテリアル行には予定値があります。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
F	完了率に複数の RETN %あり

留保率	完了率
10 %	20.00
15 %	38.00
25 %	60.00

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	F	RETN		S	D1 -3.5 %

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダー —No.	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計 金額	現行留保 金額
001	タイム・アンド・ マテリアル	000	5,000.00	1,200.00	42.00	1,242.00	164.00
002	一括	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	820.00
変更オーダー合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	984.00
契約合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	984.00

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

完了率の計算

正味金額	予定値 + 正味金額	完了率
7,200.00 ÷	17,000.00	.423529411

留保金合計の計算

予定値	留保金完了	留保金パーセント	留保金額
17,000.00 x	0.20 x	.10 =	340.00
17,000.00 x	0.18 x *	.15 =	459.00
17,000.00 x	.043529411 **	.25 =	185.00

合計 984.00

* 38% - 20% = 18% (18%が完了で残りについては別途計算)

** 契約の完了率 0.423529411 から 0.13 を差し引いて 0.043529411

請求行ごとの留保金の計算

請求行	正味金額 / 合計正味金額 x 留保金額	請求行の留保金額
001	1,200.00 / 7,200.00 x 984.00 =	164.00
002	6,000.00 / 7,200.00 x 984.00 =	820.00
		984.00

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

正味金額 x 税率 = 課税対象金額
1,200.00 x 0.035 = 42.00
6,000.00 x 0.035 = 210.00

例 9 - 完了率が複数あり、請求行に留保金規則があってタイム・アンド・マテリアル行に予定値がある場合

この例では、留保金規則は契約および契約請求行の両レベルに設定してあります。計算は、契約に 3 つの異なる完了率がある場合を前提にしています。制御フラグはブランクに設定し、売掛管理システムで留保金を作成して繰延税は発生しません。タイム・アンド・マテリアル行には予定値があります。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
F	完了率に複数の RETN %あり

留保率	完了率
10 %	20.00

15 %	38.00
25 %	60.00

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	F	RETN		S	D1 -3.5 %

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダー No.	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計 金額	現行留保 金額
001	タイム・アンド・ マテリアル	000	5,000.00	1,200.00	42.00	1,242.00	130.00
002	一括	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	924.00
変更オーダー合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	1,054.00
契約合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	1,054.00

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

請求行ごとの完了率の計算

請求行	現行正味金額 / 予定値 =	完了率
001	1,200.00 ÷ 5,000.00 =	.24
002	6,000.00 ÷ 12,000.00 =	.50

留保金合計の計算

請求行ごとの留保金の計算

請求行	予定値 × 完了率 × 留保%	請求行の留保金額
001	$5,000.00 \times 0.20 \times 0.10 =$	100.00
001	$5,000.00 \times 0.04 \times 0.15 =$	30.00
		130.00

請求行	予定値 × 完了率 × 留保%	請求行の留保金額
002	$12,000.00 \times 0.20 \times 0.10 =$	240.00
002	$12,000.00 \times 0.18 * \times 0.15 =$	324.00
002	$12,000.00 \times 0.12 ** \times 0.25 =$	360.00
		924.00

* 0.18 = 完了率 0.38 - 0.20

** 0.12 = 請求行の完了率 0.50 - 0.38 (計算済みの留保完了)

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

正味金額 × 税率 = 課税対象金額
$1,200.00 \times 0.035 = 42.00$
$6,000.00 \times 0.035 = 210.00$

例 10 – 割引ありの留保金

この例では、契約レベルで割引ありの支払条件と留保金規則が 1 つ設定されています。計算は、契約が 100 パーセント完了したことを前提にしています。制御フラグはブランクに設定し、売掛管理システムで留保金を作成して繰延税は発生しません。タイム・アンド・マテリアル請求行に予定値はありませんが、25.00 の割増しが設定されています。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
A	10%留保金 / 100%完了

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域	支払条件
契約	A	RETN		S	D1 -3.5 %	1/10、30 日以内支払 (10 以内に支払った場合 1%割引)

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダーNo.	予定値	現行正味金額	現行税額	現行合計金額	現行留保金額
001	タイム・アンド・マテリアル	000		1,225.00	42.88	1,267.88	122.50
002	一括	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	600.00
変更オーダー合計			12,000.00	7,200.00	252.88	7,477.88	722.50
契約合計			12,000.00	7,225.00	252.88	7,477.88	722.50

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

請求行	費用金額 + 割増金額 × 税率 = 課税対象金額
001	(1,200.00 +25.00) × 0.035 = 42.88
002	(6,000.00 + 0.00) × 0.035 = 210.00

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

請求行ごとの留保金の計算

請求行	費用金額 + 割増金額 × 留保金額 =	請求行の留保金額
001	(1,200.00 + 25.00) × 0.10 =	122.50
002	(6,000.00 + 00.00) × 0.10 =	600.00

請求行ごとの割引の計算

請求行	費用金額 + 割増金額 × 割引率 =	割引額
001	(1,200.00 + 25.00) × 0.01 =	11.03
002	(6,000.00 + 00.00) × 0.01 =	54.00

例 11 – 割引、部分完了ありの留保金

この例では、契約レベルで割引ありの支払条件と留保金規則が 1 つ設定されています。計算は、契約が 30 パーセント完了したことを前提にしています。制御フラグはブランクに設定し、売掛管理システムで留保金を作成して繰延税は発生しません。タイム・アンド・マテリアル請求行に予定値はありませんが、25.00 の割増しが設定されています。

留保金テーブル

次の留保金規則が〈留保金規則テーブル〉プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	記述
D	10%留保金 / 30%完了

契約の設定

次の契約が〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)で設定されています。

	留保金規則	元帳クラス	制御フラグ	税目	税率/税域	支払条件
契約	D	RETN		S	D1 -3.5 %	1/10、30 日以内支払 (10 以内に支払った場合 1%割引)

請求書の生成

〈請求書の生成〉プログラム(R52121)により、次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更オーダー No.	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計 金額	現行留保 金額
001	タイム・アンド・ マテリアル	000		1,225.00	42.88	1,267.88	67.49
002	一括	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	329.48.55
変更オーダー合計			12,000.00	7,200.00	252.88	7,477.88	396.75
契約合計			12,000.00	7,225.00	252.88	7,477.88	396.75

税額の計算

次の表は、税額の計算処理を示します。

請求行	費用金額 + 割増金額 x 税率 = 課税対象金額
001	$(1,200.00 + 25.00) \times 0.035 = 42.88$
002	$(6,000.00 + 0.00) \times 0.035 = 210.00$

留保金の計算

次の表は、留保金額の計算処理を示します。

完了率の計算

正味金額	予定値 + 正味金額	完了率
7,200.00 ÷	12,000.00 + 1,225.00 = 13,225.00	.54442344

留保金合計の計算

予定値 + 割引金額	留保金完了	留保金パーセント	留保金額
13,200.00 + 25.00	0.30 x	.10 =	396.75

請求行ごとの留保金の計算

請求行	正味金額 + 割増し / 合計正味金額 + 割増し x 合計留保金額	請求行の留保金額
001	$1,200.00 + 25.00 \div 7,200.00 + 25.00 \times 396.75 =$	67.27
002	$6,000.00 + 00.00 \div 7,200.00 + 25.00 \times 396.75 =$	329.48

請求行ごとの割引の計算

請求行	費用金額 + 割増金額 - 留保金 x 割引率 =	割引額
001	$(1,200.00 + 25.00 - 67.27) \times 0.01 =$	11.58
002	$(6,000.00 + 00.00 - 329.48) \times 0.01 =$	56.71

請求明細ワークテーブル(F4812)のフィールド導出

次の表は、請求明細ワークテーブル(F4812)の各フィールドの情報ソースを示します。多くのフィールドの場合、ソースは特定の条件や他の取込み情報に応じて決定されます。

次のテーブル ID と名称のリストを参考にして、後述の表で指定されているソースを識別してください。

F0005	ユーザー定義コード
F0006	ビジネスユニット・マスター
F0014	支払条件
F0101	住所録マスター
F0411	買掛金元帳
F06116	従業員トランザクション詳細テーブル
F0618	従業員トランザクション履歴
F0724	間接費配賦テーブル
F069116	給与計算トランザクション固定情報
F0901	勘定科目マスター
F0911	取引明細
F1201	固定資産マスター
F4111	品目元帳
F4311	購買明細
F4801	作業オーダー・マスター
F48091	請求システム固定情報
F48096	請求料金/割増テーブル
F4812	請求明細ワークテーブル
F48127	税額決定基準情報
F5201	契約マスター
F5202	契約請求行明細
F5212	T&M 相互参照勘定科目

請求明細ワークテーブル(F4812)のデータ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDAA(金額)	デフォルト	GLAA/F0911
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2 が含まれます。	YTGPA(総支払)/F0618 または F06116
	F0911 レコードの GLDCT フィールドには T2 が含まれます。間接費の再調整に関連する取引です。	J#BDA(間接費金額)/F06116
	F0911 レコードの GLDCT フィールドには T4 が含まれます。	YTRCPY(再請求金額)/F0618 または F06116
	F0911 レコードの GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTEQGR(総設備)/F0618 または F06116
WDAA2(外貨建て原価金額)		計算済み
WDACL0(料金グループ)	F0911 レコードの GLASID(シリアル番号)フィールドはブランクではありません。	FAACL0/F1201
WDADCI(請求書割増金額)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ)フィールドには 1 が含まれます。	WQAA(金額)/F48096
WDADCR(収益割増し)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ)フィールドには 2 が含まれます。	WQAA(金額)/F48096
WDAGS(年齢調べ停止)		未使用
WDAID(勘定科目 ID)	デフォルト	GLAID/F0911
WDAID5(勘定科目 ID)	CSMS F5202 レコードの G6ACCO(勘定科目一時変更フラグ)フィールドはブランクです。	G6MCU、G6OBJ、G6SUB(ビジネスユニット、主科目、補助科目)/F5202
WDAID6(勘定科目 ID)		未使用
WDAN8(住所番号)	デフォルト	GLAN8/F0911
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2、T4 または T5 が含まれます。	YTAN8/F0618 または F06116

WDAN80 (顧客/売掛金住所番号)	デフォルト	関連ビジネスユニット/F0006 の MCAN80
	F0911 レコードの GLMCU(ビジネスユニット) フィールド	
	F0911 レコードの GLSBL(補助元帳)フィ ールドはブランクではありません。 F0911 レコードの GLSBLT(補助元帳タイプ) フィールドには W が含まれます。 F48091 レコードの WZCNBS(顧客番号基準) フィールドには 1 が含まれます。	関連の補助元帳/F4801 の WAAN8(住 所番号)
	契約請求	G4AN80/F5201
WDAREX(支払時に請求から免税)	契約請求	WDAREX/F4812
WDBCI(請求制御 ID)		自動採番機能(48/02)により自動的に 割り当てられます。
WDBDPN(間接費保留)		自動割当て
WDBLKK(複合キーのブロック)		未使用
WDBRT(収益率)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ) フィールドには 2 が含まれます。	WQBRT(請求レート)/F48096
WDBRTI(請求書レート)	F48096 レコードの WQGTYP フィールドに は 1 が含まれます。	WQBRT/F48096
WDBTOL(請求済み金額合計)		自動計算
WDCAP(キャップまたは一時変 更レート)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ) フィールドには 2 が含まれます。	WQCAP/F48096
WDCAP1(キャップまたは一時変 更レート)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ) フィールドには 1 が含まれます。	WQCAP/F48096
WDCBLC(コーディング・ブロック 変更)		自動割当て
WDCCOD(追加料金コード)		AFCCOD/F4860
WDCCR(追加料金の原価レー ト・テーブル)	F48096 レコードの WQCCR フィールドはブ ランクではありません。	WQCCR/F48096

WDCIDS(外貨建て請求書割引)		計算済み
WDCINR(追加料金の請求書レート・テーブル)	F48096 レコードの WQCINR フィールドは ブランクではありません。	WQCINR/F48096
WDCITA(外貨建て請求書の課 税額)		計算済み
WDCITL(外貨建て請求額)		計算済み
WDCITX(外貨建て請求書の税額)		計算済み
WDCLNK(追加料金リンク)	追加料金あり	自動割当て
WDCO(会社)		GLCO/F0911
WDCOCH(契約変更オーダー番号)	契約請求	G6COCH/F5202
WDCRCD(通貨コード)	F0911 レコードの GLCO(会社)フィールド	会社/F0010 関連の CCCRCO
WDCRCE(通貨コード)		未使用
WDCRCF(通貨コード)		請求通貨 CRDC/F0301 CRCF/F5202
WDCRR(為替レート)		自動割当て
WDCRRD(為替レート - 分母)		自動割当て
WDCRRM(モード F)		自動割当て/CRRM/F5202
WDCRVR(追加料金の収益レート)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ) フィールドには 2 が含まれます。	WQCRVR/F48096
WDCTRY(世紀)		GLCTRY/F0911
WDDAGO(年齢一時変更日付 - B)		WDDAGO
WDDC(記述比較)	F0618 または F06116 レコードの YTAN8 (住所番号)フィールド	ABDC/F0101
WDDCP(割引率)	WDAN80 F4812 レコードの(顧客/売掛管理住所番 号)フィールド	PMDCP/F0014

	F0101 の ABATR(売掛管理 Y/N)フィールドには Y が含まれます。	
WDDCT(伝票タイプ)		GLDCT/F0911
WDDCT1(伝票タイプ)	契約請求	〈請求書の生成〉プログラム(R52121)の処理オプション
	サービス請求	〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の処理オプション
WDDCTO(オーダー・タイプ)	契約請求	G6DCTO/F5202
WDDEJ(入力日付)		自動割当て
WDDGJ(元帳日付)	契約請求	〈請求書の生成〉プログラム(R52121)の処理オプション
	サービス請求	〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の処理オプション
WDDGL(元帳日付)		GLDGJ(元帳日付)/F0911
WDDI(請求書日付)	F0911 レコードの GLICUT(バッチ・タイプ)フィールドには V または W が含まれます。	RPDGJ(元帳日付)/F0411
WDDOC(伝票番号)		GLDOC/F0911
WDDOCM(支払/品目番号)		未使用
WDDOCO(オーダー番号)	契約請求	G6DOCO/F5202
WDDOCZ(オーダー番号)		自動採番機能(03/01)により自動的に割り当てられます。
WDDSVJ(サービス/税日付)	デフォルト	GLDSVJ/F0911
	GLICUT フィールドには V が含まれています。	RPDSVJ/F0411
	GLDSVJ および RPDSVJ フィールドはブランクです。	ILTRDJ(オーダー日付)/F4111
WDDWNL(ダウンロード・フラグ)		自動割当て
WDELGC(適格性コード)	デフォルト	GMBILL(請求可能 Y/N)/F0901

	F0911 レコードの GLMCU、GLOBJ、GLSUB(ビジネスユニット、主科目、補助科目)フィールド	
	間接費 F0624 レコードの J#MCU、J#OBJ、および J#SUB(ビジネスユニット、主科目および補助科目)フィールド	GMBILL/F0901
	F48091 レコードの WZPRRR(仕訳生成制御)フィールドには 3 または 4 が含まれます。F0901 レコードの GMBILL フィールドには 1、2、3 または 4 が含まれます。	GMBILL/F0901
	WZPRRR フィールドには 3 または 4 が含まれます。	GMBILL/F0901
	F48091 レコードの WZPRRR フィールドには 3 または 4 は含まれません。	WZPRRR/F48091
WDEQCG(使用設備)	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには TE が含まれます。	GLASID(シリアル番号)/F0911
	GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTEQCG/F0618 または F06116
	GLDCT フィールドには TE、T2、T4、T5 は含まれていません。	ブランク
WDEQWO(作業設備)	GLDCT フィールドに TE が含まれます。	ブランク
	GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTEQWO/F0618 または F06116
	GLDCT フィールドには TE、T2、T4、T5 は含まれていません。	GLASID(シリアル番号)/F0911
WDERC(設備料金コード)	GLDCT フィールドに TE が含まれます。	GLALTY(ID タイプ)/F0911
	GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTERC/F0618 または F06116
	GLDCT フィールドには TE、T2、T4、T5 は含まれていません。	ブランク
WDEXA(説明 - 名称 A)	デフォルト	GLEXA/F0911
	GLDCT フィールドに T2、T4 または T5 が含まれます。	ABALPH(名称)/F0101

	F0618 または F06116 レコードの YTAN8 (住所番号)フィールド	
WDEXR(説明 - 備考)	F48096 レコードの WQEXR フィールドはブランクです。 GLDCT フィールドに T2、T4、T5 は含まれません。	GLEXR/F0911
	F48096 レコードの WQEXR フィールドはブランクです。 GLDCT フィールドに T2、T4 または T5 が含まれます。	YTEXR/F0618 または F06116
	F48096 レコードの WQEXR フィールドはブランクではありません。	WQEXR/F48096
	間接費次の条件のうち、最初に検出された条件によってソースが決定されます。 A) F0624 レコードの J#FRTY(追加給付タイプ)フィールドにFB が含まれている場合。 B) F0624 レコードの J#PTAX(税タイプ)フィールドがブランクでない場合。 C) F0624 レコードの J#PDBA(PDBA コード)フィールドの値が 0 より大きい場合。 F069116 レコードの YCDL01 フィールドはブランクではありません。 F069116 レコードの YCDL01 フィールドはブランクです。	追加給付タイプ/F0005 に関連する DRDL01(記述) 税タイプ/F0005 に関連する DRDL01 YCDL01/F069116 YCEXA(説明 - 名称 A)/F069116
WDEXR1(税目コード)	契約請求	G6EXR1/F5202 または処理オプション
	サービス請求	WOEXR1/F48127
WDFRTN(外貨留保可能)		計算済み
WDFTOL(外貨建ての請求済み合計)		計算済み
WDFY(会計年度)		GLFY/F0911

WDGLC(元帳クラス)		F48127/F5202
WDHBT(収益金額 - 履歴)		計算済み 請求通貨コードと基本通貨コードが異なり、ワークテーブル為替レートと請求書為替レートが異なる場合は、新規為替レートで請求書を計算する前に、ワークテーブル金額が HBT、HITL、HITX、および HTAM に自動入力されます。
WDHITL(請求済み金額合計 - 履歴)		計算済み 請求通貨コードと基本通貨コードが異なり、ワークテーブル為替レートと請求書為替レートが異なる場合は、新規為替レートで請求書を計算する前に、ワークテーブル金額が HBT、HITL、HITX、および HTAM に自動入力されます。
WDHITX(請求書の課税対象金額 - 履歴)		計算済み 請求通貨コードと基本通貨コードが異なり、ワークテーブル為替レートと請求書為替レートが異なる場合は、新規為替レートで請求書を計算する前に、ワークテーブル金額が HBT、HITL、HITX、および HTAM に自動入力されます。
WDHLD(保留コード)		ユーザー割当て
WDHMCU(所属ビジネスユニット)	デフォルト	GLHMCU/F0911
	GLHMCU フィールドは空白です。 F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2、T4、T5 は含まれません。 GLMCU フィールドは空白です。 F0911 レコードの GLASID(シリアル番号)フィールド	シリアル番号/F1201 に関連する FAMCU(ビジネスユニット)
	GLHMCU フィールドは空白です。 GLICUT フィールドには V または W が含まれます。 GLDOC、GLDCT、および GLKCO フィールド	RPMC/F0411

	GLHMCU フィールドはブランクです。 GLICUT フィールドには G が含まれます。 F0911 レコードの GLMCU フィールド	MCMCUS(プロジェクト番号)/F0006
	GLDCT フィールドには T2、T4 または T5 が含まれます。	YTHMCU/F0618 または F06116
WDHTAM(履歴税情報)		計算済み 請求通貨コードと基本通貨コードが異なり、ワークテーブル為替レートと請求書為替レートが異なる場合は、新規為替レートで請求書を計算する前に、ワークテーブル金額が HBTL、HITL、HITX、および HTAM に自動入力されます。
WDICU(バッチ番号)		自動採番機能(00/01)により自動的に割り当てられます。
WDICUA(アクティブ・バッチ番号)		自動採番機能(00/01)により自動的に割り当てられます。
WDICUJ(収益バッチ番号)		自動採番機能(00/01)により自動的に割り当てられます。
WDIDSC(請求書割引金額)		自動計算
WDIJST(請求書仕訳状況)		自動計算
WDITAM(請求書の税)		自動計算
WDITOL(請求済み金額合計)		自動計算
WDITXA(請求書の課税額)		自動計算
WDIVD(請求書日付)		自動計算
WDJB CD(職務タイプ)	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2、T4、T5 は含まれません。	GLJB CD/F0911
	GLDCT フィールドに T2、T4 または T5 が含まれます。	YTJB CD/F0618 または F06116
WDJBST(職階)	GLDCT フィールドに T2、T4、T5 は含まれません。	GLJST/F0911

	GLDCT フィールドに T2、T4、T5 は含まれません。	YTJBST/F0618 または F06116
WDJELN(仕訳行番号)		GLJELN/F0911
WDJMCU(担当ビジネスユニット)	デフォルト	MCMCUS(プロジェクト番号)/F0006
	契約請求システム F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2、T4 または T5 が含まれます。 契約の F5201 レコードの G4JMCU フィールドはブランクではありません。 契約は存在しません。	G4JMCU/F5201 MCMCUS/F0006
WDJOBN(ワークステーション ID)		プログラム状況データ構造体からのジョブ名
WDJRSP(仕訳状況コード)		自動割当て
WDJRST(仕訳状況コード)		自動割当て
WDJTAX(仕訳対象税)	F4812 レコードの WDEXR1(税目コード)フィールドには C、E、または V が含まれます。	自動割当て
	WDEXR1 フィールドには、C、E、V は含まれません。	自動割当て
WDJTXF(仕訳対象税)		未使用
WDKCO(伝票会社)		GLKCO/F0911
WDKCOI(伝票会社)	契約請求	G6KCOO/F5202
	サービス請求	請求書の伝票 GLCO/F0911
WDKCOO(受注番号/伝票会社)	契約請求	G6KCOO/F5202
	サービス請求	GLCO/F0911
WDLNID(行番号)	契約請求	G6LNID/F5202
WDLSPM(支払完了)	収益は計上済みです。	自動割当て
WDLSSQ(最終順序)	請求処理は完了しています。	自動割当て

WDLT(元帳タイプ)		GLLT/F0911/"AA"(非タイム・アンド・マテリアル契約請求)
WDMCU(ビジネスユニット)	デフォルト	GLMCU/F0911
	間接費	J#MCU/F0724
WDOBJ(主科目)	デフォルト	GLOBJ/F0911
	間接費	J#OBJ/F0724
WDODCT(当初伝票タイプ)		GLODCT/F0911
WDODOC(当初伝票タイプ)		GLODOC/F0911
WDOGNO(当初行番号)		GLLNID(行番号)/F0911
WDOKCO(当初オーダー伝票)		GLOKCO/F0911
WDOPIM(契約請求行)	契約請求	G6OPIM/F5202
WDOPSQ(作業順序)		GLOPSQ/F0911
WDOSFX(当初支払項目)		GLOSFY/F0911
WDPCFG(間接費フラグ)	デフォルト	ブランク
	間接費レコードは F0624 テーブルにあります。	自動的に 1 が割り当てられます。
WDPCIM(パーセント)	生成タイプは 1 です。	WQPERT(パーセンテージ)/F48096
WDPCKO(伝票会社)		GLPKCO(購買オーダーの伝票会社)/F0911
WDPCTN(親契約番号)	契約請求	G4PCTN/F5201
WDPCTT(親契約タイプ)	契約請求	G4PCTT/F5201
WDPDBA(PDBA コード)	デフォルト	ブランク
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2、T4 または T5 が含まれます。	YTPDBA/F0618 または F06116
	間接費	J#PDBA/F0724
WDPDCT(購買オーダー伝票)		GLPDCT/F0911

WDPERT (パーセント)	生成タイプは 2 です。	WQPERT (パーセンテージ)/F48096
WDPID (プログラム ID)		プログラム名
WDPKCO (購買オーダー伝票会社)		GLPKCO/F0911
WDPSMQ (支払順序番号)		未使用
WDPN (元帳期間番号)		GLPN/F0911
WDPO (購買オーダー番号)		GLPO/F0911
WDPRET (留保率)	サービス請求	WIPRET/F48127
WDPRIC (単価)		自動計算
WDPRSQ (親順序番号)		自動割当て
WDPRTF (印刷済みフラグ)		自動割当て
WDPRTTR (取引番号)	F0911 レコードの GLDCT (伝票タイプ) フィールドには T2、T4 または T5 が含まれます。	YTPRTTR/F0618 または F06116
WDPSFX (購買オーダー・サフィックス)		GLPSFX/F0911
WDPTAX (税タイプ)	デフォルト	ブランク
	間接費	J#PTAX/F0724
WDPTFG (パス・スルー請求)		未使用
WDRDJ (リリース日付)		WDRDJ
WDRGLC (留保元帳クラス)		WIRGLC/F48128
WDRP11 (カテゴリ・コード 011)	F4812 レコードの WDMCU (ビジネスユニット) フィールド	MCRP11/F0006
WDRP12 (カテゴリ・コード 012)	F4812 レコードの WDHMCU (所属ビジネスユニット) フィールド	MCRP12/F0006
WDRPNG (留保金)		自動計算
WDRTPS (前期留保金)		自動計算
WDR001 (請求項目コード)		ソース取引/F0901 の勘定科目コードの GMR001

WDR002(カテゴリ・コード 002)		ソース取引/F0901 の勘定科目コードの GMR002
WDR003(事業所)		ソース取引/F0901 の勘定科目コードの GMR003
WDSBAR(理由コード)	UDC 48/AR 再作成および NTE 理由コード	WDSBAR
WDSBL(補助元帳)	サービス請求	GLSBL/F0911
	契約請求	G6SBL/F5202
WDSBLT(補助元帳タイプ)	サービス請求	GLSBLT/F0911
	契約請求	G6SBLT/F5202
WDSBL5(補助元帳)	契約請求	G6SBL/F5202
WDSBL6(補助元帳)		未使用
WDSBSK(集計キー)		自動割当て
WDSBSQ(順序番号)		自動割当て
WDSBT5(補助元帳タイプ)	契約請求	G6SBLT/F5202
WDSBT6(補助元帳タイプ)		未使用
WDSCSQ(第 2 順序番号)		自動割当て
WDSFX(支払項目)		自動割当て
WDSLNK(分割リンク)		自動割当て
WDSUB(補助科目)	デフォルト	GLSUB/F0911
	間接費	J#SUB/F0724
WDTBDT(テーブル基準日付)	F48091 レコードの WZEBAS(有効基準日付)フィールドに 1 が含まれます。	GLDGL(元帳日付)/F0911

	WZEBAS フィールドに 2 が含まれます。	GLDSVJ(サービス/税日付)/F0911
WDTCLS(分類)	追加料金(暫定間接費)	0
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには、T2 または T4 が含まれます。	1
	間接費	2
	GLDCT フィールドに TE が含まれます。	3
	GLDCT フィールドに T2、T4、T5 は含まれません。	
	A) 関連レコードが F0911 および F1202 テーブルにあります。どちらのレコードにも同じシリアル番号(それぞれ GLASID と FAASID)が付いています。	3
	B) F0911 レコードの GLICUT(バッチタイプ)フィールドに N が含まれます。	4
	F0911 レコードの GLDOC、GLDCT、GLKCO、GLDGL(伝票番号、タイプ、会社、元帳日付)フィールド	
	C) GLICUT フィールドに V または W が含まれます。F0911 レコードの GLDOC、GLDCT、および GLKCO フィールド。	5
	D) GLICUT フィールドには G が含まれます。関連レコードが F0006 テーブルにあります。	6
	前述の条件はいずれも満たされず、F0911 レコードの GLPO(購買オーダー番号)フィールドはブランク以外の値。	値は 5 です。
	CSMS C = サービス契約 D = サービス・オーダー E = 保証請求 F = コール	
WDTOG(課税または総額)	契約請求	値は 1 です。

	F4812 レコードには税率/税域および税目コードが含まれます。	
	サービス請求 F48127 レコードには税率/税域および税目コードが含まれます。	値は 1 です。
	前述の条件はどちらも存在しません。	ブランク
WDTX(購買課税)	契約請求 F4812 レコードには税率/税域および税目コードが含まれます。	値は Y です。
	サービス請求 F48127 レコードには税率/税域および税目コードが含まれます。	値は Y です。
	前述の条件はどちらも存在しません。	値は N です。
WDTXA1(税率/税域)	契約請求	G6TXA1/F5202
	サービス請求	WOTXA1/F48127
WDTYKY(キー・タイプ)		未使用
WDU(数量)	デフォルト	GLU/F0911
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには、T2 または T4 が含まれます。	YTPHRW(月次標準勤務時間)/F0618 または F06116
	GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTEQHR(設備時間)/F0618 または F06116
WDUM(計量単位)	デフォルト	GLUM/F0911
	GLDCT フィールドに T2、T4 または T5 が含まれます。	HR
WDUPMJ(更新日付)		自動割当て
WDUPMT(最終更新時刻)		自動割当て
WDUSER(ユーザーID)		自動割当て

WDINV(請求書番号)		GLVINV/F0911
WDVOID(無効 - V)		自動割当て
WDWR01(フェーズ)		GLWR01/F0911
WDWR07(サービス・タイプ)	F0911 レコードの GLSBL(補助元帳)フィールドはブランクです。 GLSBLT(補助元帳タイプ)フィールドには W が含まれます。	WAWR07/F4801
VGCSF(出荷元 Geocode)		MCU の Geocode(ブランク)
		MCU の AN8 の Geocode(ブランク)
		MCU の会社の住所番号の Geocode(ブランク)
VGCOA(オーダー検収 Geocode)		VGCSF の値
VVTY(Vertex 取引タイプ)	サービス請求	VVTY/F48127
	契約請求	VVTY/F5202
VVTC(Vertex 製品カテゴリ)	サービス請求	VVTC/F48127
	契約請求	VVTC/F5202
WDVINV(仕入先請求書番号)	伝票タイプが PV の場合	GLVINV/F0911
WDDGJ(請求書元帳日付)	請求書の作成時に割り当てられた請求書元帳日付	
WDITM(品目番号(略式))		未使用
WDPAID(合計原価/価格)		未使用
WDFEA(外貨合計価格)		未使用
WDERDB(為替レート基準日)	通貨がオンの場合	WZERDB/F48091
WDERDT(為替レート日付)	通貨がオンの場合	為替レート基準日に基づいて割当て
WDSUBA(代替補助科目)	MCU、OBJ、SUB を使用して勘定科目マスターから取込み	GMSUBA/F0901

WDBCTK(バッチ制御キー)		未使用
WDPARS(親作業オーダー番号)	補助元帳の完了時に作業オーダー・マスターから取込み	WAPARS/F4801
WDPRGR(品目価格グループ)		未使用
WDCPGP(顧客価格グループ)		未使用
WDBBF(請求基準フラグ)	DD から 1 にデフォルト設定	未使用
WDMKRP(手数料率)		未使用
WDFBAS(請求書金額基準)		未使用
WDTKM1(キー・タイプ - 割増テーブル・タイプ 1)	使用される割増テーブルから	WQTYKY/F48096
WDTKM2(キー・タイプ - 割増テーブル・タイプ 2)	使用される割増テーブルから	WQTYKY/F48096
WDTKM3(キー・タイプ - 割増テーブル・タイプ 3)	使用される割増テーブルから	WQTYKY/F48096
WDTKA1(キー・タイプ - 勘定科目決定基準テーブル 1)		未使用
WDTKA2(キー・タイプ - 勘定科目決定基準テーブル 2)		未使用
WDTKA3(キー・タイプ - 勘定科目決定基準テーブル 3)		未使用
WDTKG1(キー・タイプ - 元帳クラス・テーブル)	使用される元帳クラス・テーブルから	WITYKY/F48128
WDTKT1(キー・タイプ - 税決定基準テーブル)	使用される税決定基準テーブルから	WOTYKY/F48127
WDPRIF(単価 - 外貨)	通貨がオンで通貨コードが異なる場合	計算済み
WDNCTL(上限(NTE)制御フラグ)		未使用

WorldSoftware から EnterpriseOne 8.9 へのアップグレード

WorldSoftware の A7.3 または A8.1 から EnterpriseOne 8.9 (J.D. Edwards 5) へのアップグレード・パスが用意されています。

WorldSoftware から J.D. Edwards 5 へのアップグレードでは、テーブル変換プログラムを使用して請求テーブルを変換する必要があります。これらのテーブルを変換するテーブル変換プログラムが用意されています。

次の場合を除き、WorldSoftware テーブルのデータは J.D. Edwards 5 テーブルに直接コピーできます。

日付フィールド

WorldSoftware テーブルの日付データはユリウス暦形式のため、JDE 日付形式に変換してから J.D. Edwards 5 テーブルにコピーされます。

数値データ・フィールド

WorldSoftware では、数値データは小数点位置データが保管されません。たとえば、数値 12.34 は 1234 として保管されます。同じ数値が J.D. Edwards 5 では 12.34 として保管されます。テーブル変換プログラムでは、次のシナリオを使用して、数値データ・フィールドの小数点以下の桁数を管理します。

	A7.3	A8.1
データ・クラスが通貨でなく、表示小数点以下桁数 = 0 の場合	変換はありません。WorldSoftware のデータを J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。	変換はありません。WorldSoftware のデータを J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
データ・クラスが通貨でなく、表示小数点以下桁数 > 0 の場合	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。
データ・クラスが通貨で、WorldSoftware で多通貨処理を使用していない場合	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。
データ・クラスが通貨で、WorldSoftware で多通貨処理を使用している場合	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。	通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換。国内通貨の場合は CRCD、外貨の場合は CRCF の通貨コードが使用されます。

変換されないフィールド

J.D. Edwards 5 テーブルのフィールドに対応する WorldSoftware テーブルのフィールドが存在しない場合があります。たとえば、Vertex は WorldSoftware ではサポートされていなかったため、Vertex 関連フィールドは存在しません。この場合、J.D. Edwards 5 テーブルのフィールドはブランクになります。

その他の例外フィールドについては各テーブル変換プログラムの欄を参照してください。

変換されない契約請求のテーブル

次の契約請求のテーブルは、WorldSoftware から J.D. Edwards 5 には変換されません。

所有者支払項目テキスト・テーブル(F52024)	このテーブルは、J.D. Edwards 5 にはありません。所有者支払項目に関連付ける必要があるテキストは、メディア・オブジェクトとしてユーザーが入力してください。J.D. Edwards では F52024 テーブルを添付メディア・オブジェクトに変換する予定はありません。
契約ログ・テキスト・テーブル(F52034)	契約ログ・アプリケーションは、J.D. Edwards 5 では複製されないため、契約ログに関連付けられているテーブルを変換する必要はありません。J.D. Edwards では、F52034 テーブルを ERP 8.0 に変換する予定はありません。
契約収益集計テーブル(F5280)	このテーブルは、〈契約収益集計の再作成〉プログラム(R52809)を実行することにより J.D. Edwards 5 で再作成できます。

はじめる前に

- WorldSoftware 環境を有効な J.D. Edwards 5 環境として設定し、各テーブル変換プログラムの入出力環境をマッピングします。『テーブル・コンバージョン』ガイドの「データ変換」を参照してください。

参照

- テーブル変換プログラムの設定と使用については、『テーブル・コンバージョン』ガイドの「Setting Up a Table Conversion and Running a Table Conversion (テーブル変換の設定とテーブル変換の実行)」

WorldSoftware A7.3 契約請求からのテーブル変換プログラム

J.D. Edwards では、WorldSoftware A7.3 の契約請求テーブルを J.D. Edwards 5 に変換する次のプログラムを提供しています。

F5201 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G52321)から〈F5201 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895201A

変換するテーブル: 契約マスター (F5201)

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 76

J.D. Edwards 5 のカラム数: 80

	フィールド記述	A7.3 データ項目	JDE 5 データ項目	変換ロジック
1	伝票（オーダー番号、請求書など）	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社（オーダー番号）	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	収益バッチ番号		ICUJ	J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
6	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	記述 02	DL02	DL02	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	記述 03	DL03	DL03	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	所有者契約番号	ODCM	ODCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	所有者契約番号（略式）	OCNC	OCNC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	作業(A/R)の住所番号	AN8O	AN8O	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	最低契約請求書金額 - 外貨		MCIF	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
14	上限金額 - 外貨		NTEF	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
15	留保金税計算フラグ		RCTL	J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
16	住所番号 - 所有者請求	ANOB	ANOB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	建築士契約番号	ADCM	ADCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	住所番号 - 建築士	AN8K	AN8K	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	住所番号 3 - ユーザー	USA3	USA3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	住所番号 - 送金先	USA4	USA4	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	住所番号 1 - ユーザー	USA1	USA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	住所番号 2 - ユーザー	USA2	USA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	住所番号 - 送付先	USA5	USA5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	契約状況	DS	DS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

25	契約タイプ	CT	CT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
32	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
33	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	保管資材の留保金規則	RTN1	RTN1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	税率/税域	TAX1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
37	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
38	AIA 請求フォーム Y/N	AIAB	AIAB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
39	契約一時変更規則	CTOV	CTOV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
40	支払条件コード	PTC	PTC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
41	支払後請求	BLWP	BLWP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
42	給与(支払済み)	PYWP	PYWP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
43	間接費一時変更規則	BROV	BROV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
44	手数料集計レベル	FSLV	FSLV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
45	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
46	当初通貨コード	CRCF	CRCF	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
47	通貨モード		CRRM	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
	再計算基準フラグ	RSBF		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。
48	上限金額 - 外貨	NTEX	NTEX	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

49	上限金額 - 再計算済み	RNTE	RNTE	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
50	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
51	上限超過フラグ	LMEX	LMEX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
52	最低契約請求書金額	MCIA	MCIA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
53	契約開始日付	CSDT	CSDT	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
54	契約完了日付	CDTE	CDTE	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
55	ユーザー日付 1	USD1	USD1	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
56	ユーザー日付 2	USD2	USD2	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
57	ユーザー日付 3	USD3	USD3	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
58	ユーザー日付 4	USD4	USD4	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
59	契約カテゴリ・コード 1	AI01	AI01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
60	契約カテゴリ・コード 2	AI02	AI02	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
61	契約カテゴリ・コード 3	AI03	AI03	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	契約カテゴリ・コード 4	AI04	AI04	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
63	契約カテゴリ・コード 5	AI05	AI05	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
64	契約カテゴリ・コード 11	AI11	AI11	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	契約カテゴリ・コード 12	AI12	AI12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
66	契約カテゴリ・コード 13	AI13	AI13	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
67	契約カテゴリ・コード 14	AI14	AI14	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
68	契約カテゴリ・コード 15	AI15	AI15	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
69	為替レート (乗数)	CRR	CRR	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには "0" を入力します。
70	為替レート (除数)	CRRD	CRRD	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには "0" を入力します。
71	制御フラグ 2	CTF2	CTF2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
72	進捗相互参照フラグ	CTF3	CTF3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

73	制御フラグ 4	CTF4	CTF4	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
74	制御フラグ 5	CTF5	CTF5	WorldSoftware の英文字の値を次のように J.D. Edwards 5 の数値に変換します。 ブランク = ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
75	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
76	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
78	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
79	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
80	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F5202 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards への変換〉メニュー (G52321) から 〈F5202 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895202A

変換するテーブル: 契約請求行明細テーブル (F5202)

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 85

J.D. Edwards 5 のカラム数: 82

	フィールド記述	A7.3 データ項目	JDE 5 データ項目	変換ロジック
1	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	計画開始日付	SD1	SD1	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
9	計画完了日付	SD3	SD3	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
10	変更日付	CHD	CHD	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
11	契約条件のみ	TRMO	TRMO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	変更状況	CHST	CHST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	保管資材の留保金規則	RTN1	RTN1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	留保金規則 - 変更オーダー	RTNC	RTNC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	契約の価格設定タイプ	PRTP	PRTP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	予定値	SCOF	SCOF	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
26	予定値 - 外貨	FSOF	FSOF	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
27	予定値 - 再計算済み	RSOF	RSOF	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

28	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
29	計量単位	UM	UM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	単価	UP	UP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
31	外貨単価	FUP	FUP	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
32	単価 - 再計算済み	RUP	RUP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
33	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	税額	STAM	STAM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
36	課税対象外金額	ATXN	ATXN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
37	課税対象額	ATXA	ATXA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
38	上限金額 - 外貨	NTEX	NTEX	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
39	上限金額 - 外貨	FNTE	FNTE	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
40	上限金額 - 再計算済み	RNTE	RNTE	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
41	上限金額 - 変更オーダー	NTEC	NTEC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
42	上限金額 - 変更オーダー - 外貨	FNTO	FNTO	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。

43	上限金額 - 変更オーダー - 再計算済み	RNTO	RNTO	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
44	上限数量	NTEU	NTEU	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
45	定期請求コード	RRBC	RRBC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
46	定期請求金額	RRBA	RRBA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
47	定期請求金額 - 外貨	FRBA	FRBA	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
48	定期請求金額 - 再計算済み	RRRA	RRRA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
49	上限超過規則の免除	EXMP	EXMP	WorldSoftware の英文字の値を次のように J.D. Edwards 5 の数値に変換します。有効な値は次のとおりです。 ブランク = ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
50	代替順序コード	ALSQ	ALSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
51	請求一時停止	BLSP	BLSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
52	支払後請求	BLWP	BLWP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
53	給与(支払済み)	PYWP	PYWP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
54	現行請求方法	MCBL	MCBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
55	割増し率	MKRP	MKRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
56	請求書金額基準	FBAS	FBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

57	収益金額基準		RFBS	このフィールドは WorldSoftware にはありません。 J.D. Edwards 5 テーブルにデフォルト値の 1 が読み込まれます。
58	レート・コード	RACD	RACD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
59	数量の積上げ	ROLU	ROLU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
60	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
61	勘定科目一時変更フラグ	ACCO	ACCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	変更オーダー・カテゴリ・コード 1	AD01	AD01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
63	変更オーダー・カテゴリ・コード 2	AD02	AD02	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
64	契約カテゴリ・コード 3	AD03	AD03	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	契約カテゴリ・コード 4	AD04	AD04	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
66	契約カテゴリ・コード 5	AD05	AD05	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
67	制御フラグ 1	CTF1	CTF1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
68	制御フラグ 2	CTF2	CTF2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
69	進捗相互参照フラグ	CTF3	CTF3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
70	制御フラグ 4	CTF4	CTF4	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
71	制御フラグ 5	CTF5	CTF5	WorldSoftware の英文字の値を次のように J.D. Edwards 5 の数値に変換します。有効な値は次のとおりです。 ブランク = ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
72	備考	RMK	RMK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
73	参照タグ	TAG	TAG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
74	為替レート(乗数)	CRR	CRR	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

75	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
76	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
78	通貨モード		CRRM	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
	再計算基準フラグ	RSBF		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。
79	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
80	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
81	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
82	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
83	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
84	Vertex 取引タイプ		VVTY	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
85	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。

F5204 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52321)から〈F5204 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895204A

変換するテーブル: 留保金規則情報(F5204)

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 10

J.D. Edwards 5 のカラム数: 10

	フィールド記述	A7.3 データ項目	JDE 5 データ項目	変換ロジック
1	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

4	完了率	PC	PC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F5212 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52321)から〈F5212 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895212A

変換するテーブル: T&M 相互参照勘定科目テーブル(F5212)

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 25

J.D. Edwards 5 のカラム数: 29

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	行番号(一般)	LIN	LIN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
7	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

8	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	請求基準フラグ		BBF	データ辞書のデフォルト値 1 を取り込む。
22	品目番号(略式)		ITM	J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
23	品目価格グループ		PRGR	J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
24	顧客価格グループ		CPGP	J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
25	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
29	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F5213 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52321)から〈F5213 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895213A

変換するテーブル: 手数料請求行相互参照詳細テーブル(F5213)

注意:

F5213 テーブルを変換する前に、契約請求行明細テーブル(F5202)を変換する必要があります。

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 11

J.D. Edwards 5 のカラム数: 14

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	行番号(一般)	LIN	LIN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
7	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
	記述	DL01		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。
	価格設定タイプ	PRTP		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。
	予定値	SCOF		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。
8	相互参照契約変更番号	RCOC	RCOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	相互参照行番号		LNIX	関連する F5202 レコードの行番号です(LNID)。この情報は WorldSoftware では保存されません。この参照表の後の「注」を参照してください。
10	プログラム ID		PID	J.D. Edwards 5 テーブルには「R895213A」を入力します。
11	ユーザーID		USER	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のユーザー名。
12	ワークステーション ID		JOBN	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のワークステーション・ユーザーID。
13	更新日付		UPMJ	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の日付。
14	最終更新時刻		UPMT	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の時刻。

注:

J.D. Edwards 5 の F5213 テーブルの LNIX の値には、関連する F5202 レコードの行番号(LNID)が含まれるようにしてください。この行番号は WorldSoftware のテーブルには保存されませんが、WorldSoftware のテーブルには多くのキー情報が含まれるため、行番号は WorldSoftware の F5202 テーブルから取り込むことができます。WorldSoftware の F5202 の固有レコードには、J.D. Edwards 5 の F5213 テーブルの次のフィールドを使用してアクセスします。

- DOCO
- DCTO
- KCOO
- COCH
- OPIM

J.D. Edwards 5 の F5213 テーブルの LNIX フィールドには、WorldSoftware の F5202 レコードの LNID フィールドを使用して自動的に値が入力されます。F5202 レコードは上記のキー・フィールドを使用して検索します。

F5213 を変換する前に WorldSoftware から J.D. Edwards 5 用に F5202 テーブルを変換する場合、J.D. Edwards 5 の F5202 テーブルから LNIX の値が読み込まれます。

F52131 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G52321)から〈F52131 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8952131A

変換するテーブル: レート・コード定義情報 (F52131)

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 6

J.D. Edwards 5 のカラム数: 11

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	レート・コード	RACD	RACD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	開始日付	DTFR	DTFR	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	終了日付	DTTO	DTTO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換

5	割増し率	MKRP	MKRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
7	プログラム ID		PID	J.D. Edwards 5 テーブルには“R8952131A”を入力します。
8	ユーザーID		USER	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のユーザー名。
9	ワークステーション ID		JOBN	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のワークステーション・ユーザーID。
10	更新日付		UPMJ	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の日付。
11	最終更新時刻		UPMT	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の時刻。

F5214 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52321)から〈F5214 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895214A

変換するテーブル: 追加料金コード/間接労務費相互参照テーブル(F5214)

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 7

J.D. Edwards 5 のカラム数: 14

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	DBA コード		PDBA	J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
9	税タイプ		PTAX	J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。

10	ユーザーID		USER	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のユーザー名。
11	ワークステーション ID		JOBN	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のワークステーション・ユーザーID。
12	プログラム ID		PID	J.D. Edwards 5 テーブルには“R895214A”を入力します。
13	更新日付		UPMJ	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の日付。
14	最終更新時刻		UPMT	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の時刻。

F5215 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52321)から〈F5215 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895215A

変換するテーブル: 追加料金/間接労務費請求行相互参照詳細 (F5215)

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 13

J.D. Edwards 5 のカラム数: 16

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
	行番号	LIN		表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware の値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards5 テーブルの LINX フィールドに書き込みます。
7	相互参照契約変更		RCOC	このフィールドには World の COCH の値が自動入力されます。

8	相互参照行番号		LNIX	このフィールドには WorldSoftware の LIN の値が自動入力されます。WorldSoftware の LIN の値にデータ辞書の小数点変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
9	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	DBA コード		PDBA	J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
11	税タイプ		PTAX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
16	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F5216 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52321)から〈F5216 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895216A

変換するテーブル: マイルストーン/進捗請求行明細(F5216)

注意:

F5216 テーブルを変換する前に、契約請求行明細テーブル(F5202)を変換する必要があります。

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 25

J.D. Edwards 5 のカラム数: 33

	フィールド記述	A7.3	JDE5	変換ロジック
1	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	請求イベント	EVNT	EVNT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
	完了率	PC		表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware の値に変換係数を掛け、結果を J.D. Edwards 5 テーブルの PERS フィールドに入力します。
8	2 次記述	SDSC	SDSC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	金額/パーセント		APER	World ではパーセントにのみ対応していました。J.D. Edwards 5 テーブルに 0(パーセント)が入力されます。
10	予定値パーセント		PERS	このフィールドには WorldSoftware テーブルの PC の値 が自動入力されます。WorldSoftware の PC フィールドは、 データ辞書の表示小数点以下桁数に応じて調整してある 必要があります。
11	金額(マイルストーン金額)		AA	マイルストーン請求行の場合、このフィールドは予定値パ ーセント(PERS)に F5202 テーブルの予定金額(SCOF)を 掛けて計算されます。進捗請求行の場合、J.D. Edwards 5 テーブルに“0”が入力されます。下記の注意事項を参 照してください。
12	金額(外貨マイルストー ン金額)		AA2	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テー ブルには“0”を入力します。
13	換算元通貨コード		CRCO	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テー ブルにはブランクを入力します。
14	当初通貨コード		CRCF	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テー ブルにはブランクを入力します。
15	為替レート(除数)		CRRD	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テー ブルには“0”を入力します。
16	通貨モード		CRRM	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テー ブルにはブランクを入力します。
17	イベント完了フラグ	CMFL	CMFL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	イベント請求済みフラグ	BILF	BILF	J.D. Edwards 5 にコピーします (WorldSoftware の Y が J.D. Edwards 5 の 1 に変更されます)。
19	完了予定日付(ユリウス暦)	DECO	DECO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
20	完了日付(ユリウス暦)	DTCO	DTCO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換

21	伝票（オーダー番号、請求書など）	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	伝票タイプ（請求書のみ）	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	伝票会社（請求書）	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	収益バッチ番号		ICUJ	J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
27	順序番号	SEQ	SEQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
28	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001（ユリウス暦から JDE 日付へ）を使った変換
32	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
33	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

注:

進捗請求行相互参照レコードおよびマイルストーン請求行相互参照レコードは、どちらも F5216 テーブルに保存されます。ただし、AA フィールドはマイルストーン請求行相互参照レコードについてのみ自動入力されます。関連する F5202 レコードがシステムにより読み込まれ、F5216 レコードが進捗とマイルストーンのどちらの請求行かが識別されます。関連の F5202 レコードには、F5216 テーブルの次のフィールドを使用してアクセスします。

- DOCO
- DCTO
- KCOO
- COCH
- LNID

関連する F5202 レコードの価格設定タイプ(PCTP)が M または 6 の場合、請求行はマイルストーン行であり、F5216 テーブルの AA フィールドに値が自動入力されます。AA フィールドの金額は、予定値パーセント(PERS)に F5202 テーブルの関連レコードからの予定金額(SCOF)を掛けて計算されます。

関連する F5202 レコードの価格設定タイプが M および 6 でない場合、請求書は進捗行です。AA および AA2 フィールドには“0”が自動的に入力されます。

F5216 より先に F5202 テーブルを WorldSoftware から J.D. Edwards 5 用に変換してください。これにより、J.D. Edwards 5 用の F5202 テーブルから予定金額(SCOF)が取り込まれます。

F52161 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G52321)から〈F52161 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8952161A

変換するテーブル: マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細(F52161)

WorldSoftware A7.3 テーブルのカラム数: 17

J.D. Edwards 5 のカラム数: 17

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCX	COCH	J.D. Edwards 5 の COCH フィールドに WorldSoftware から COCX の値が読み込まれます。
5	行番号	LNIX	LNID	J.D. Edwards 5 の LNID フィールドに WorldSoftware から LNIX の値が読み込まれます。LNIX の表示小数点以下桁数を取り込み、WorldSoftware の値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込むようにしてください。
6	契約変更番号 - 相互参照	COCH	COCX	J.D. Edwards 5 の COCX フィールドに WorldSoftware から COCH の値が読み込まれます。
7	相互参照行番号	LNID	LNIX	J.D. Edwards 5 の LNIX フィールドに WorldSoftware から LNID の値が読み込まれます。LNID の表示小数点以下桁数を取り込み、WorldSoftware の値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込むようにしてください。
8	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

11	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
17	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

注:

F52161 テーブルへ情報を保管する方法は、WorldSoftware と J.D. Edwards 5 とで異なります。次の表に示すように、特定の WorldSoftware データ項目の情報は、対応する J.D. Edwards 5 データ項目に変換されます。

WorldSoftware	J.D. Edwards 5
COCH	COCX
LNID	LNIX
COCX	COCH
LNIX	LNID

F4805 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー (G48S321) から 〈F4805 の変換 - World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894805

変換するテーブル: 請求書の順序/集計テーブル見出し (F4805)

WorldSoftware テーブルのカラム数 7

J.D. Edwards 5 のカラム数: 7

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	集計キー	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	記述	DESC	DESC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

4	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
7	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F48051 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48051 の変換 - World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R8948051

変換するテーブル: 請求書の順序/集計テーブル詳細(F48051)

WorldSoftware テーブルのカラム数 10

J.D. Edwards 5 のカラム数: 10

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	データ項目	DTAI	DTAI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	データ項目サイズ	DTAS	DTAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	行番号(一般)	LIN	LIN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
5	集計コード(サービス請求)	SBSC	SBSC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F48091 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48091 の変換 - World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R8948091

変換するテーブル: 請求システム固定情報(F48091)

WorldSoftware テーブルのカラム数 27

J.D. Edwards 5 のカラム数: 28

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	制御フラグ 3	BCT3	BCT3	1 で J.D. Edwards 5 テーブルを更新します。
2	間接労務費の請求フラグ	BBDR	BBDR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	有効日付基準	EBAS	EBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	労務有効日基準	LBAS	LBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	顧客番号基準	CNBS	CNBS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
7	個別請求フラグ	INDI	INDI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	未転記請求フラグ	BUNP	BUNP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	仕訳作成の制御	PRRR	PRRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	請求書集計アクセス制御	ISAC	ISAC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	契約収益フラグ	CNTM	CNTM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	請求書日付一時変更制御	INDO	INDO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	仕訳振替制御	JRNL	JRNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	PDBA コード一時変更	PDBO	PDBO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	請求書番号制御	ICTL	ICTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	サービス日付基準	DSVB	DSVB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	複数のバッチ生成制御フラグ	MBGC	MBGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	データ項目	DTAI	DTAI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	通貨モード		CRRM	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしません。
22	制御フラグ 1	BCT1	BCT1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	制御フラグ 2	BCT2	BCT2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

25	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
28	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F48096 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48096 の変換 - World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R8948096

変換するテーブル: 請求料金/割増テーブル(F48096)

WorldSoftware テーブルのカラム数 33

J.D. Edwards 5 のカラム数: 37

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	テーブル・キー	TKEY	TKEY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	終了主科目	OBJT	OBJT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	終了補助科目	SUBT	SUBT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	生成タイプ	GTYP	GTYP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
14	上限料金の適用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

15	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
16	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
17	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	カテゴリ・コード - ビジネスユ ニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	資産番号	NUMB	NUMB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	カテゴリ・コード - F/A 10(料 金グループ)	ACL0	ACL0	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	品目価格グループ		PRGR	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力 されません。
23	顧客価格グループ		CPGP	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしません。
24	請求基準フラグ		BBF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしません。
25	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	制御フラグ 1	CTF1	CTF1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	制御フラグ 2	CTF2	CTF2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
32	固有キーID(内部)		UKID	固有キー・テーブル(F00022)から次に使用可能な 固有キーを取得
33	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使って変 換します。
37	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F4812 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4812 の変換 – World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894812

変換するテーブル: サービス請求ワークテーブル(F4812)

WorldSoftware テーブルのカラム数 168

J.D. Edwards 5 のカラム数: 193

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	伝票 (伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	元帳日付	DGL	DGL	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
5	仕訳行番号	JELN	JELN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	略式 ID	AID	AID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	カテゴリ・コード – ビジネスユニット 11	RP11	RP11	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	Object Account (主科目)	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
14	作業オーダー・カテゴリ・コード 1 (フェーズ)	WR01	WR01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	作業オーダー・カテゴリ・コード 7 (JDE サービス・タイプ)	WR07	WR07	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	元帳タイプ	リットル	リットル	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	西暦上 2 桁	CTRY	CTRY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

18	会計年度	FY	FY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	会計期間 - 総勘定元帳	PN	PN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	当初伝票タイプ	ODCT	ODCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	購買オーダー	PO	PO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
30	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	カテゴリ・コード - G/L 2	R002	R002	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
32	カテゴリ・コード - G/L 3	R003	R003	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
38	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
39	作業設備	EQWO	EQWO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
40	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACLO	ACLO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
41	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
42	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
43	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
45	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
48	経過日付一時変更	DAGO	DAGO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
49	経過計算停止	AGS	AGS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
50	備考/摘要	EXA	EXA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
51	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
52	労務間接費フラグ	PCFG	PCFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
53	基本単位あたり単価	PRIC	PRIC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
54	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
55	計量単位	UM	UM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
56	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
57	照合伝票(入金伝票/項目)	DOCM	DOCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
58	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
60	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
61	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

63	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
64	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
66	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
68	順序番号	SBSQ	SBSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
69	2 次順序番号	SCSQ	SCSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
70	請求制御 ID	BCI	BCI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
72	支払順序番号	PMSQ	PMSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
74	取引分類	TCLS	TCLS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
78	請求書日付	IVD	IVD	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
79	保留コード(サービス請求)	HLD	HLD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
81	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
82	活動中バッチ番号	ICUA	ICUA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
83	前回仕訳状況コード	JRSP	JRSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
84	労務間接費保留	BDPN	BDPN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
85	分割リンク	SLNK	SLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
86	追加料金リンク	CLNK	CLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
88	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

89	追加料金の請求書レート・テーブル	CINR	CINR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
90	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
92	テーブル比較基準日(ユリウス暦)	TBDT	TBDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
93	上限レートの使用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
95	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
96	収益割増金額	ADCR	ADCR	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
97	上限レートの使用(請求書)	CAPI	CAPI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
98	請求書一時変更割増レート	BRTI	BRTI	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
99	請求書割増パーセント	PCIM	PCIM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
100	請求書割増金額	ADCI	ADCI	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
101	課税対象(購買時)	TX	TX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
102	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
103	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
105	割引率(支払条件)	DCP	DCP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

106	仕訳税額	JTAX	JTAX	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
107	仕訳税額(外貨)	JTXF	JTXF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
108	収益金額	BTOL	BTOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
109	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
110	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
111	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
112	請求済み合計(外貨)	FTOL	FTOL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
114	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
115	請求書の税額	ITAM	ITAM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
116	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
117	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
118	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
119	請求書の課税対象額(外貨)	CITX	CITX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
120	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
121	請求書仕訳状況コード	IJST	IJST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
122	印刷済みフラグ	PRTF	PRTF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
123	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

124	作業(A/R)の住所番号	AN8O	AN8O	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
126	請求書日付	DI	DI	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
127	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
131	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
132	複合キー・ブロック	BLKK	BLKK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
133	略式 ID	AID5	AID5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
136	略式 ID	AID6	AID6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
139	入金時請求規則の一時変更	AREX	AREX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
140	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
141	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
142	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
143	留保金	RTNG	RTNG	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
144	保管資材の前回留保金	RTPS	RTPS	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
145	留保金額(外貨)	FRTN	FRTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

146	ダウンロード・フラグ(サービス請求)	DWNL	DWNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
147	内部コード・チェック	CBLC	CBLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
148	入力日付	DEJ	DEJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
149	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
150	通貨コード(換算元)	CRCE	CRCE	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
151	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
152	金額	AA2	AA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
154	元帳日付(ユリウス暦)	DGJ	DGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
155	請求書の元帳日付(ユリウス暦)	IDGJ	IDGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
156	パス・スルー請求フラグ	PTFG	PTFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
	再計算基準フラグ	RSBF		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。
157	品目番号(略式)	ITM	ITM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
158	合計原価/価格	PAID	PAID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
161	為替レート日付		ERDT	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
163	パッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
164	親作業オーダー番号		PARS	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
165	品目価格グループ		PRGR	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。

166	顧客価格グループ		CPGP	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
167	請求基準フラグ		BBF	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
168	割増し率		MKRP	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
169	請求書金額基準		FBAS	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
170	収益金額基準		RFBS	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
171	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 1)		TKM1	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
172	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 2)		TKM2	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
173	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 3)		TKM3	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
174	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 1)		TKA1	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
175	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 2)		TKA2	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
176	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 3)		TKA3	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
177	キー・タイプ(元帳クラス・テーブル)		TKG1	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
178	キー・タイプ(税決定基準テーブル)		TKT1	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
179	収益金額(履歴)		HBTL	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
180	請求書金額(履歴)		HITL	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
181	請求書の課税対象金額(履歴)		HITX	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
182	請求書の税額(履歴)		HTAM	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
183	基本単位あたり単価(外貨)		PRIF	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。

184	上限(NTE)制御フラグ		NCTL	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
185	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
186	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
187	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
190	出荷元地理コード		VGCSF	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
191	オーダー承認地理コード		VGCOA	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
192	Vertex 取引タイプ		VVTY	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
193	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。

F4812H テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4812H の変換 - World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894812H

変換するテーブル: 請求ワークテーブル履歴(F4812H)

WorldSoftware テーブルのカラム数 168

J.D. Edwards 5 のカラム数: 193

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	伝票 (伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	元帳日付	DGL	DGL	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	仕訳行番号	JELN	JELN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	略式 ID	AID	AID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 11	RP11	RP11	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
14	作業オーダー・カテゴリ・コード 1(フェーズ)	WR01	WR01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	作業オーダー・カテゴリ・コード 7(JDE サービス・タイプ)	WR07	WR07	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	元帳タイプ	LT	LT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	西暦上 2 桁	CTRY	CTRY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	会計年度	FY	FY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	会計期間 - 総勘定元帳	PN	PN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	当初伝票タイプ	ODCT	ODCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	購買オーダー	PO	PO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
30	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	カテゴリ・コード - G/L 2	R002	R002	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

32	カテゴリ・コード - G/L 3	R003	R003	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
38	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
39	作業設備	EQWO	EQWO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
40	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACLO	ACLO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
41	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
42	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
43	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
45	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
48	経過日付一時変更	DAGO	DAGO	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
49	経過計算停止	AGS	AGS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
50	備考/摘要	EXA	EXA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
51	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
52	労務間接費フラグ	PCFG	PCFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
53	基本単位あたり単価	PRIC	PRIC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
54	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
55	計量単位	UM	UM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

56	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
57	照合伝票(入金伝票/項目)	DOCM	DOCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
58	伝票(オーダー番号、請求書 など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
60	オーダー会社(オーダー番 号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
61	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
63	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
64	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
66	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
68	順序番号	SBSQ	SBSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
69	2 次順序番号	SCSQ	SCSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
70	請求制御 ID	BCI	BCI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
72	支払順序番号	PMSQ	PMSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
74	取引分類	TCLS	TCLS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
78	請求書日付	IVD	IVD	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
79	保留コード(サービス請求)	HLD	HLD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
81	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
82	活動中バッチ番号	ICUA	ICUA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
83	前回仕訳状況コード	JRSP	JRSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
84	労務間接費保留	BDPN	BDPN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
85	分割リンク	SLNK	SLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
86	追加料金リンク	CLNK	CLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
88	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
89	追加料金の請求書レート・テーブル	CINR	CINR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
90	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
92	テーブル比較基準日(ユリウス暦)	TBDT	TBDT	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
93	上限レートの使用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
95	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
96	収益割増金額	ADCR	ADCR	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
97	上限レートの使用(請求書)	CAPI	CAPI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
98	請求書一時変更割増レート	BRTI	BRTI	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
99	請求書割増パーセント	PCIM	PCIM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

100	請求書割増金額	ADCI	ADCI	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
101	課税対象(購買時)	TX	TX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
102	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
103	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
105	割引率(支払条件)	DCP	DCP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
106	仕訳税額	JTAX	JTAX	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
107	仕訳税額(外貨)	JTXF	JTXF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
108	収益金額	BTOL	BTOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
109	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
110	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
111	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
112	請求済み合計(外貨)	FTOL	FTOL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
114	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
115	請求書の税額	ITAM	ITAM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
116	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
117	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
118	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

119	請求書の課税対象額(外貨)	CITX	CITX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
120	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
121	請求書仕訳状況コード	IJST	IJST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
122	印刷済みフラグ	PRTF	PRTF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
123	パッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
124	作業(A/R)の住所番号	AN8O	AN8O	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
126	請求書日付	DI	DI	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
127	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
131	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
132	複合キー・ブロック	BLKK	BLKK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
133	略式 ID	AID5	AID5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
136	略式 ID	AID6	AID6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
139	入金時請求規則の一時変更	AREX	AREX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
140	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
141	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
142	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
143	留保金	RTNG	RTNG	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

144	保管資材の前回留保金	RTPS	RTPS	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
145	留保金額(外貨)	FRTN	FRTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
146	ダウンロード・フラグ(サービス請求)	DWNL	DWNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
147	内部コード・チェック	CBLC	CBLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
148	入力日付	DEJ	DEJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
149	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
150	通貨コード(換算元)	CRCE	CRCE	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
151	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
152	金額	AA2	AA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
154	元帳日付(ユリウス暦)	DGJ	DGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
155	請求書の元帳日付(ユリウス暦)	IDGJ	IDGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
156	パス・スルー請求フラグ	PTFG	PTFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
157	品目番号(略式)	ITM	ITM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
158	合計原価/価格	PAID	PAID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
161	為替レート日付		ERDT	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
164	親作業オーダー番号		PARS	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
165	品目価格グループ		PRGR	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。

166	顧客価格グループ		CPGP	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
167	請求基準フラグ		BBF	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
168	割増し率		MKRP	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
169	請求書金額基準		FBAS	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
170	収益金額基準		RFBS	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
171	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 1)		TKM1	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
172	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 2)		TKM2	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
173	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 3)		TKM3	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
174	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 1)		TKA1	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
175	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 2)		TKA2	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
176	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 3)		TKA3	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
177	キー・タイプ(元帳クラス・テーブル)		TKG1	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
178	キー・タイプ(税決定基準テーブル)		TKT1	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
179	収益金額(履歴)		HBTL	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
180	請求書金額(履歴)		HITL	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
181	請求書の課税対象金額(履歴)		HITX	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
182	請求書の税額(履歴)		HTAM	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
183	基本単位あたり単価(外貨)		PRIF	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。

184	上限(NTE)制御フラグ		NCTL	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
185	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
186	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
187	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
190	出荷元地理コード		VGCSF	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
191	オーダー承認地理コード		VGCOA	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
192	Vertex 取引タイプ		VVTY	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
193	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。

F4822 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4822 の変換 - World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894822

変換するテーブル: 請求書集計ワークテーブル(F4822)

WorldSoftware テーブルのカラム数 95

J.D. Edwards 5 のカラム数: 103

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	契約請求書番号	APPL	APPL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

8	調整番号	ADJN	ADJN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
11	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	契約の価格設定タイプ	PRTP	PRTP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	請求一時停止	BLSP	BLSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	作業(A/R)の住所番号	AN8O	AN8O	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	住所番号 - 代替受取人	AN8J	AN8J	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	支払条件コード	PTC	PTC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	請求期間開始日		BTFR	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
23	請求期間終了日		BTDT	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
24	元帳日付	DGL	DGL	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
25	支払期日	DDJ	DDJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
26	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
27	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	伝票 (オーダー番号、請求書 など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	伝票タイプ (請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	伝票会社 (請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
32	契約請求書日付	APDT	APDT	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換

33	契約請求書の転記済みコード	APPO	APPO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	請求書タイプ	INTY	INTY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
37	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
38	計量単位	UM	UM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
39	単価	UP	UP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
40	外貨単価	FUP	FUP	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
41	前回請求数量(当期)	PUHP	PUHP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
42	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
43	外貨建て金額	ACR	ACR	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
44	現行期間	THPD	THPD	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
45	現行期間(外貨)	FHPD	FHPD	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
46	現行期間(再計算)	RTHP	RTHP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
47	当期請求済み金額	PTHP	PTHP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
48	当期請求済み外貨金額	FTHP	FTHP	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
49	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
50	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

51	税額	STAM	STAM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
52	税額(外貨)	CTAM	CTAM	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
53	前回税額	PTAM	PTAM	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
54	前回税額(外貨)	FPTA	FPTA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
55	課税対象額	ATXA	ATXA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
56	課税対象額(外貨)	CTXA	CTXA	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
57	前回課税対象額	PATX	PATX	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
58	前回課税対象額(外貨)	FATX	FATX	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
59	課税対象外金額	ATXN	ATXN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
60	課税対象外金額(外貨)	CTXN	CTXN	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
61	留保金リリース・フラグ	RTRE	RTRE	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
63	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
64	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	留保金税計算フラグ	RCTL	RCTL	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
66	留保金	RTNG	RTNG	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

67	留保金額(外貨)	FTNG	FTNG	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
68	前回留保金額	RTNP	RTNP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
69	前回留保金額(外貨)	FTNP	FTNP	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
70	繰延税額(国内通貨)		DDTR	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
71	繰延税額(外貨)		FDTR	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
72	保存資材の未払/繰延費用	STML	STML	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
73	保存資材の未払/繰延費用 (外貨)	FTML	FTML	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
74	保管資材の請求済み金額	PSMA	PSMA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
75	保管資材の請求済み金額 (外貨)	FSMA	FSMA	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
76	保管資材の留保金規則	RTN1	RTN1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	保管資材の留保金	SMRT	SMRT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
78	保管資材の留保金(外貨)	SMRF	SMRF	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
79	保管資材の前回留保金	SMRP	SMRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
80	保管資材の前回留保金(外 貨)	SMPF	SMPF	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
81	労務費合計	TLAB	TLAB	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
82	労務費合計(外貨)	FLAB	FLAB	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。

83	労務間接費合計	TBUR	TBUR	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
84	労務間接費合計(外貨)	FBUR	FBUR	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
85	割引可能額	ADSC	ADSC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
86	割引可能額(外貨)	CDS	CDS	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
	再計算基準フラグ	RSBF		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。
87	通貨モード		CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
88	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
89	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
90	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
91	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
92	備考	RMK	RMK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
93	入力値モード	MIVL	MIVL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
94	保管資材の入力モード	MISM	MISM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
95	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
96	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
97	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
98	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
99	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
100	出荷元地理コード		VGCSF	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
101	オーダー承認地理コード		VGCOA	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
102	Vertex 取引タイプ		VVTY	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
103	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。

F48520 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48520 の変換 – World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R8948520

変換するテーブル: 請求書集計アクセス (F48520)

WorldSoftware テーブルのカラム数 21

J.D. Edwards 5 のカラム数: 23

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	元帳日付	DGL	DGL	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
2	住所番号	AN8	AN9	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	オーダー会社	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
11	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	通貨コード		CRCD	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
13	当初通貨コード		CRCF	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力されません。
14	請求書金額	ITOL	ITOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
15	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

16	請求書の税額	ITAM	ITAM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
17	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
18	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
19	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
20	請求書の税額(外貨)	CITX	CITX	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
21	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	A7.3 では外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
22	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
23	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

F4860 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4860 の変換 - World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894860

変換するテーブル: 追加料金テーブル・マスター(F4860)

WorldSoftware テーブルのカラム数 10

J.D. Edwards 5 のカラム数: 10

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F4861 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4861 の変換 – World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894861

変換するテーブル: 追加料金明細テーブル(F4861)

WorldSoftware テーブルのカラム数 12

J.D. Edwards 5 のカラム数: 13

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
3	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	順序番号	SEQ	SEQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	追加料金パーセント	CRTP	CRTP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	追加料金レート基準	UORC	UORC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	固有キーID		UKID	同じ CTBL、CRCD、EFTB の組合せをもつレコード数を記録します。最初の場合は 1、2 回目の場合は 2 が割り当てられます。

F4862 テーブルの A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4862 の変換 – World A7.3 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894862

変換するテーブル: 追加料金相互参照(F4862)

WorldSoftware テーブルのカラム数 5

J.D. Edwards 5 のカラム数: 5

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	基準追加料金コード	CBSS	CBSS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

WorldSoftware A8.1 契約請求からのテーブル変換プログラム

J.D. Edwards では、WorldSoftware A8.1 の契約請求テーブルを J.D. Edwards 5 に変換する次のプログラムを提供しています。

F5201 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52322)から〈F5201 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895201B

変換するテーブル: 契約マスター(F5201)

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 80

J.D. Edwards 5 のカラム数: 80

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

4	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	記述 02	DL02	DL02	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	記述 03	DL03	DL03	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	所有者契約番号	ODCM	ODCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	所有者契約番号(略式)	OCNC	OCNC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	作業(A/R)の住所番号	AN8O	AN8O	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	最低契約請求書金額 - 外貨	MCIF	MCIF	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRDF フィールドで指定された外貨通貨から変換する。
14	上限金額 - 外貨	NTEF	NTEF	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRDF フィールドで指定された外貨通貨から変換する。
15	留保金税計算フラグ	RCTL	RCTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	住所番号 - 所有者請求	ANOB	ANOB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	建築士契約番号	ADCM	ADCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	住所番号 - 建築士	AN8K	AN8K	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	住所番号 3 - ユーザー	USA3	USA3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	住所番号 - 送金先	USA4	USA4	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	住所番号 1 - ユーザー	USA1	USA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	住所番号 2 - ユーザー	USA2	USA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	住所番号 - 送付先	USA5	USA5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	契約状況	DS	DS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	契約タイプ	CT	CT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

27	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
32	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
33	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	保管資材の留保金規則	RTN1	RTN1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	税率/税域	TAX1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
37	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
38	AIA 請求フォーム Y/N	AIAB	AIAB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
39	契約一時変更規則	CTOV	CTOV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
40	支払条件コード	PTC	PTC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
41	支払後請求	BLWP	BLWP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
42	給与(支払済み)	PYWP	PYWP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
43	間接費一時変更規則	BROV	BROV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
44	手数料集計レベル	FSLV	FSLV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
45	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
46	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
47	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
48	上限金額 - 外貨	NTEX	NTEX	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
49	上限金額 - 再計算済み	RNTE	RNTE	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
50	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

51	上限超過フラグ	LMEX	LMEX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
52	最低契約請求書金額	MCIA	MCIA	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
53	契約開始日付	CSDT	CSDT	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
54	契約完了日付	CDTE	CDTE	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
55	ユーザー日付 1	USD1	USD1	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
56	ユーザー日付 2	USD2	USD2	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
57	ユーザー日付 3	USD3	USD3	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
58	ユーザー日付 4	USD4	USD4	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
59	契約カテゴリ・コード 1	AI01	AI01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
60	契約カテゴリ・コード 2	AI02	AI02	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
61	契約カテゴリ・コード 3	AI03	AI03	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	契約カテゴリ・コード 4	AI04	AI04	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
63	契約カテゴリ・コード 5	AI05	AI05	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
64	契約カテゴリ・コード 11	AI11	AI11	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	契約カテゴリ・コード 12	AI12	AI12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
66	契約カテゴリ・コード 13	AI13	AI13	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
67	契約カテゴリ・コード 14	AI14	AI14	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
68	契約カテゴリ・コード 15	AI15	AI15	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
69	為替レート(乗数)	CRR	CRR	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
70	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
71	制御フラグ 2	CTF2	CTF2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
72	進捗相互参照フラグ	CTF3	CTF3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
73	制御フラグ 4	CTF4	CTF4	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

74	制御フラグ 5	CTF5	CTF5	WorldSoftware の英文字の値を次のように J.D. Edwards 5 の数値に変換します。 ブランク = ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
75	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
76	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
78	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
79	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
80	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F5202 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52322)から〈F5202 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895202B

変換するテーブル: 契約請求行明細テーブル(F5202)

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 83

J.D. Edwards 5 のカラム数: 85

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

7	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	計画開始日付	SD1	SD1	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
9	計画完了日付	SD3	SD3	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
10	変更日付	CHD	CHD	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
11	契約条件のみ	TRMO	TRMO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	変更状況	CHST	CHST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	保管資材の留保金規則	RTN1	RTN1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	留保金規則 - 変更オーダー	RTNC	RTNC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	契約の価格設定タイプ	PRTP	PRTP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	予定値	SCOF	SCOF	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
26	予定値 - 外貨	FSOF	FSOF	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRDF フィールドで指定された外貨通貨から変換する。
27	予定値 - 再計算済み	RSOF	RSOF	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。

28	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
29	計量単位	UM	UM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	単価	UP	UP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。 注: このデータ項目は通貨データ・クラスには属しません。
31	外貨単価	FUP	FUP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。 注: このデータ項目は通貨データ・クラスには属しません。
32	単価 - 再計算済み	RUP	RUP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。 注: このデータ項目は通貨データ・クラスに属しません。
33	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	税額	STAM	STAM	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示 小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処 理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以 下桁数を使用して変換する。
36	課税対象外金額	ATXN	ATXN	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示 小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処 理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以 下桁数を使用して変換する。
37	課税対象額	ATXA	ATXA	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示 小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処 理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以 下桁数を使用して変換する。
38	上限金額 - 外貨	NTEX	NTEX	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示 小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処 理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以 下桁数を使用して変換する。

39	上限金額 - 外貨	FNTE	FNTE	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRDF フィールドで指定された外貨通貨から変換する。
40	上限金額 - 再計算済み	RNTE	RNTE	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
41	上限金額 - 変更オーダー	NTEC	NTEC	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
42	上限金額 - 変更オーダー - 外貨	FNTO	FNTO	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRDF フィールドで指定された外貨通貨から変換する。
43	上限金額 - 変更オーダー - 再計算済み	RNTO	RNTO	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
44	上限数量	NTEU	NTEU	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
45	定期請求コード	RRBC	RRBC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
46	定期請求金額	RRBA	RRBA	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
47	定期請求金額 - 外貨	FRBA	FRBA	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRDF フィールドで指定された外貨通貨から変換する。
48	定期請求金額 - 再計算済み	RRRA	RRRA	A8.1 で通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。

49	上限超過規則の免除	EXMP	EXMP	WorldSoftware の英文字の値を J.D. Edwards 5 の数値に変換します。 ブランク = ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
50	代替順序コード	ALSQ	ALSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
51	請求一時停止	BLSP	BLSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
52	支払後請求	BLWP	BLWP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
53	給与(支払済み)	PYWP	PYWP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
54	現行請求方法	MCBL	MCBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
55	割増し率	MKRP	MKRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
56	請求書金額基準	FBAS	FBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
57	収益金額基準	RFBS	RFBS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
58	レート・コード	RACD	RACD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
59	数量の積上げ	ROLU	ROLU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
60	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
61	勘定科目一時変更フラグ	ACCO	ACCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	変更オーダー・カテゴリ・コード 1	AD01	AD01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
63	変更オーダー・カテゴリ・コード 2	AD02	AD02	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
64	契約カテゴリ・コード 3	AD03	AD03	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	契約カテゴリ・コード 4	AD04	AD04	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
66	契約カテゴリ・コード 5	AD05	AD05	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
67	制御フラグ 1	CTF1	CTF1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
68	制御フラグ 2	CTF2	CTF2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
69	進捗相互参照フラグ	CTF3	CTF3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

70	制御フラグ 4	CTF4	CTF4	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
71	制御フラグ 5	CTF5	CTF5	WorldSoftware の英文字の値を J.D. Edwards 5 の数値に変換します。 ブランク = ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
72	備考	RMK	RMK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
73	参照タグ	TAG	TAG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
74	為替レート(乗数)	CRR	CRR	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
75	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
76	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
78	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
79	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
80	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
81	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
82	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
83	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
84	Vertex 取引タイプ		VVTY	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
85	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。

F5204 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52322)から〈F5204 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895204B

変換するテーブル: 留保金規則情報(F5204)

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 10

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 10

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
4	完了率	PC	PC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F5212 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52322)から〈F5212 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895212B

変換するテーブル: T&M 相互参照勘定科目テーブル(F5212)

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 29

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 29

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票（オーダー番号、請求書など）	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社（オーダー番号）	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	行番号（一般）	LIN	LIN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
7	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	Object Account（主科目）	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	職務タイプ（技能）コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	カテゴリ・コード - F/A 10（料金グループ）	ACL0	ACL0	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	請求基準フラグ	BBF	BBF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	品目番号（略式）	ITM	ITM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	品目価格グループ	PRGR	PRGR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

24	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
29	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F5213 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52322)から〈F5213 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895213B

変換するテーブル: 手数料請求行相互参照詳細テーブル (F5213)

注意:

F5213 テーブルを変換する前に、契約請求行明細テーブル(F5202)を変換する必要があります。

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 11

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 14

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	行番号 (一般)	LIN	LIN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
7	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
	記述	DL01		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。

	価格設定タイプ	P RTP		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。
	予定値	SCOF		J.D. Edwards 5 にはコピーしません。
8	相互参照契約変更番号	RCOC	RCOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	相互参照行番号		LNIX	これは、関連の F5202 レコードの行番号(LNID)である必要があります。この情報は WorldSoftware では保存されません。この参照表の後の「注」を参照してください。
10	プログラム ID		PID	J.D. Edwards 5 テーブルには「R895213B」を入力します。
11	ユーザーID		USER	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のユーザー名。
12	ワークステーション ID		JOBN	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のワークステーション・ユーザーID。
13	更新日付		UPMJ	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の日付。
14	最終更新時刻		UPMT	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の時刻。

注:

J.D. Edwards 5 の F5213 テーブルの LNIX の値には、関連する F5202 レコードの行番号(LNID)が含まれるようにしてください。この行番号は WorldSoftware のテーブルには保存されませんが、WorldSoftware のテーブルには多くのキー情報が含まれるため、行番号は WorldSoftware の F5202 テーブルから取り込むことができます。WorldSoftware の F5202 の固有レコードには、J.D. Edwards 5 の F5213 テーブルの次のフィールドを使用してアクセスします。

- DOCO
- DCTO
- KCOO
- COCH
- OPIM

J.D. Edwards 5 の F5213 テーブルの LNIX フィールドには、WorldSoftware の F5202 の LNID フィールドを使用して自動的に値が入力されます。F5202 テーブルは上記のキー・フィールドを使用して検索します。

F5213 を変換する前に WorldSoftware から J.D. Edwards 5 用に F5202 テーブルを変換する場合、J.D. Edwards 5 の F5202 テーブルから LNIX の値が読み込まれます。

F52131 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52322)から〈F52131 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8952131B

変換するテーブル: レート・コード定義情報 (F52131)

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 6

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 11

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	レート・コード	RACD	RACD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	開始日付	DTFR	DTFR	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	終了日付	DTTO	DTTO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	割増し率	MKRP	MKRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
7	プログラム ID		PID	J.D. Edwards 5 テーブルには“R8952131B”を入力します。
8	ユーザーID		USER	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のユーザー名
9	ワークステーション ID		JOBN	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のワークステーション・ユーザーID
10	更新日付		UPMJ	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の日付。
11	最終更新時刻		UPMT	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の時刻。

F5214 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52322)から〈F5214 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895214B

変換するテーブル: 追加料金コード/間接労務費相互参照テーブル(F5214)

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 7

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 14

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票（オーダー番号、請求書など）	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社（オーダー番号）	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	DBA コード		PDBA	J.D. Edwards 5 テーブルには“0”を入力します。
9	税タイプ		PTAX	J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
10	ユーザーID		USER	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のユーザー名
11	ワークステーション ID		JOBN	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)のワークステーション・ユーザーID
12	プログラム ID		PID	J.D. Edwards 5 テーブルには“R895214B”を入力します。
13	更新日付		UPMJ	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の日付。
14	最終更新時刻		UPMT	ビジネス関数 B9800100(監査情報の取得)の時刻。

F5215 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G52322)から〈F5215 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895215B

変換するテーブル: 追加料金/間接労務費請求行相互参照詳細 (F5215)

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 13

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 16

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票（オーダー番号、請求書など）	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	行番号	LIN		表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware の値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルの LINX フィールドに書き込みます。
8	相互参照契約変更		RCOC	このフィールドには World の COCH の値が自動入力されます。
9	相互参照行番号		LNIX	このフィールドには WorldSoftware の LIN の値が自動入力されます。WorldSoftware の LIN の値にデータ辞書の 小数点変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
10	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	DBA コード		PDBA	J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
12	税タイプ		PTAX	J.D. Edwards 5 テーブルにはブランクを入力します。
13	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
17	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F5216 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards への変換〉メニュー(G52322)から〈F5216 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R895216B

変換するテーブル: マイルストーン/進捗請求行明細(F5216)

注意:

マイルストーン/進捗請求行明細(F5216)を変換する前に、契約請求行明細テーブル(F5202)を変換してください。

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 25

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 33

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware の値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	請求イベント	EVNT	EVNT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
	完了率	PC		表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware の値に変換係数を掛け、結果を J.D. Edwards 5 テーブルの PERS フィールドに入力します。
8	2 次記述	SDSC	SDSC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	金額/パーセント		APER	WorldSoftware ではパーセントにのみ対応していました。J.D. Edwards 5 テーブルに“0”(パーセント)が入力されます。
10	予定値パーセント		PERS	このフィールドには WorldSoftware テーブルの PC の値が自動入力されます。WorldSoftware の PC フィールドは、データ辞書の表示小数点以下桁数に応じて調整してある必要があります。
11	金額(マイルストーン金額)		AA	マイルストーン請求行の場合、このフィールドは予定値パーセント(PERS)に F5202 テーブルの予定値(SCOF)を掛けて計算されます。進捗請求行の場合、J.D. Edwards 5 テーブルに“0”が入力されます。下記の注意事項を参照してください。

12	金額(外貨マイルストーン金額)		AA2	進捗請求行の場合、J.D. Edwards 5 テーブルに“0”が入力されます。 マイルストーン請求行の場合： A8.1 の通貨オプションがオフの場合、J.D. Edwards 5 テーブルに“0”が入力されます。A8.1 の通貨オプションがオンの場合、このフィールドには外貨マイルストーン金額が入力されます。この金額は、予定値パーセント(PERS)に F5202 テーブルの外貨予定金額(FSOF)を掛けて計算されます。下記の注意事項を参照してください。
13	換算元通貨コード		CRCD	A8.1 の通貨オプションがオフの場合、J.D. Edwards 5 テーブルは空白になります。A8.1 の通貨オプションがオンの場合、J.D. Edwards 5 のテーブルには関連の F5202 レコードから“CRCD”の値が入力されます。
14	当初通貨コード		CRCF	A8.1 の通貨オプションがオフの場合、J.D. Edwards 5 テーブルは空白になります。A8.1 の通貨オプションがオンの場合、J.D. Edwards 5 のテーブルには関連の F5202 レコードから“CRCF”の値が入力されます。
15	為替レート(除数)		CRRD	A8.1 の通貨オプションがオフの場合、J.D. Edwards 5 テーブルに“0”が入力されます。A8.1 の通貨オプションがオンの場合、J.D. Edwards 5 のテーブルには関連の F5202 レコードから“CRRD”の値が入力されます。
16	通貨モード		CRRM	A8.1 の通貨オプションがオフの場合、J.D. Edwards 5 テーブルは空白になります。A8.1 の通貨オプションがオンの場合、J.D. Edwards 5 のテーブルには関連の F5202 レコードから“CRRM”の値が入力されます。
17	イベント完了フラグ	CMFL	CMFL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	イベント請求済みフラグ	BILF	BILF	J.D. Edwards 5 にコピーします (WorldSoftware の Y が J.D. Edwards 5 の 1 に変更されます)。
19	完了予定日付(ユリウス暦)	DECO	DECO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
20	完了日付(ユリウス暦)	DTCO	DTCO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
21	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

26	収益バッチ番号		ICUJ	J.D. Edwards 5 テーブルには"0"を入力します。
27	順序番号	SEQ	SEQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware で値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
28	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
32	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
Tha	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

注:

進捗請求行相互参照レコードおよびマイルストーン請求行相互参照レコードは、どちらも F5216 テーブルに保管されます。ただし、AA フィールドはマイルストーン請求行相互参照レコードについてのみ自動入力されます。関連する F5202 レコードがシステムにより読み込まれ、F5216 レコードが進捗とマイルストーンのどちらの請求行かが識別されます。関連の F5202 レコードには、F5216 テーブルの次のフィールドを使用してアクセスします。

- DOCO
- DCTO
- KCOO
- COCH
- LNID

関連する F5202 レコードの価格設定タイプ(PCTP)が M または 6 の場合、請求行はマイルストーン行であり、F5216 テーブルの AA フィールドに値が自動入力されます。AA フィールドの金額は、予定値パーセント(PERS)に F5202 テーブルの関連レコードからの予定値(SCOF)を掛けて計算されます。

関連する F5202 レコードの価格設定タイプが M および 6 でない場合、請求書は進捗行です。AA および AA2 フィールドには"0"が自動的に入力されます。

F5216 より先に F5202 テーブルを WorldSoftware から J.D. Edwards 5 用に変換してください。これにより、J.D. Edwards 5 用の F5202 テーブルから予定値(SCOF)が取り込まれます。

F52161 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G52322)から〈F52161 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8952161B

変換するテーブル: マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細(F52161)

WorldSoftware A8.1 テーブルのカラム数: 17

J.D. Edwards 5 のカラム数: 17

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	契約変更番号	COCX	COCH	J.D. Edwards 5 の COCH フィールドに WorldSoftware から COCX の値が読み込まれます。
5	行番号	LNIX	LNID	J.D. Edwards 5 の LNID フィールドに WorldSoftware から LNIX の値が読み込まれます。LNIX の表示小数点以下桁数を取り込み、WorldSoftware の値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込むようにしてください。
6	契約変更番号 - 相互参照	COCH	COCX	J.D. Edwards 5 の COCX フィールドに WorldSoftware から COCH の値が読み込まれます。
7	相互参照行番号	LNID	LNIX	J.D. Edwards 5 の LNIX フィールドに WorldSoftware から LNID の値が読み込まれます。LNID の表示小数点以下桁数を取り込み、WorldSoftware の値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込むようにしてください。
8	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

15	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
17	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

注:

F52161 テーブルへの情報の保管方法は、WorldSoftware バージョンのテーブルと J.D. Edwards 5 バージョンのテーブルとで異なります。次の表に示すように、特定の WorldSoftware データ項目の情報は、対応する J.D. Edwards 5 データ項目に変換されます。

WorldSoftware	J.D. Edwards 5
COCH	COCX
LNID	LNIX
COCX	COCH
LNIX	LNID

F4805 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー (G48S322) から 〈F4805 の変換 - World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894805B

変換するテーブル: 請求書の順序/集計テーブル見出し (F4805)

WorldSoftware テーブルのカラム数 7

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 7

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	集計キー	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	記述	DESC	DESC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	ユーザー ID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
7	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F48051 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48051 の変換 – World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R8948051B

変換するテーブル: 請求書の順序/集計テーブル詳細(F48051)

WorldSoftware テーブルのカラム数 10

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 10

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	データ項目	DTAI	DTAI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	データ項目サイズ	DTAS	DTAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	行番号(一般)	LIN	LIN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
5	集計コード(サービス請求)	SBSC	SBSC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F48091 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48091 の変換 – World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R8948091B

変換するテーブル: 請求システム固定情報(F48091)

WorldSoftware テーブルのカラム数 28

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 28

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	制御フラグ 3	BCT3	BCT3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	間接労務費の請求フラグ	BBDR	BBDR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

3	有効日付基準	EBAS	EBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	労務有効日基準	LBAS	LBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	顧客番号基準	CNBS	CNBS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
7	個別請求フラグ	INDI	INDI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	未転記請求フラグ	BUNP	BUNP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	仕訳作成の制御	PRRR	PRRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	請求書集計アクセス制御	ISAC	ISAC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	契約収益フラグ	CNTM	CNTM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	請求書日付一時変更制御	INDO	INDO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	仕訳振替制御	JRNL	JRNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	PDBA コード一時変更	PDBO	PDBO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	請求書番号制御	ICTL	ICTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	サービス日付基準	DSVB	DSVB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	複数のバッチ生成制御フラグ	MBGC	MBGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	データ項目	DTAI	DTAI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	制御フラグ 1	BCT1	BCT1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	制御フラグ 2	BCT2	BCT2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
28	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F48096 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48096 の変換 – World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R8948096B9

変換するテーブル: 請求料金/割増テーブル(F48096)

WorldSoftware テーブルのカラム数 37

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 37

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	テーブル・キー	TKEY	TKEY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
4	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
5	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	終了主科目	OBJT	OBJT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	終了補助科目	SUBT	SUBT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	生成タイプ	GTYP	GTYP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
14	上限料金の適用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

16	金額	AA	AA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
17	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	資産番号	NUMB	NUMB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	品目価格グループ	PRGR	PRGR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	請求基準フラグ	BBF	BBF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	制御フラグ 1	CTF1	CTF1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	制御フラグ 2	CTF2	CTF2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
32	固有キーID(内部)	UKID	UKID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
33	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
37	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F4812 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4812 の変換 – World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894812B

変換するテーブル: サービス請求ワークテーブル(F4812)

WorldSoftware テーブルのカラム数 189

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 193

	フィールド記述	A7.3	JDE 5	変換ロジック
1	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	伝票 (伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	元帳日付	DGL	DGL	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
5	仕訳行番号	JELN	JELN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	略式 ID	AID	AID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	カテゴリ・コード – ビジネスユニット 11	RP11	RP11	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
14	作業オーダー・カテゴリ・コード 1 (フェーズ)	WR01	WR01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	作業オーダー・カテゴリ・コード 7 (JDE サービス・タイプ)	WR07	WR07	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	元帳タイプ	リットル	リットル	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	西暦上 2 桁	CTRY	CTRY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	会計年度	FY	FY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

19	会計期間 - 総勘定元帳	PN	PN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	当初伝票タイプ	ODCT	ODCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	購買オーダー	PO	PO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
30	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	カテゴリ・コード - G/L 2	R002	R002	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
32	カテゴリ・コード - G/L 3	R003	R003	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
33	トランザクション番号 - 給与 計算	PRTR	PRTR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
38	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
39	作業設備	EQWO	EQWO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
40	カテゴリ・コード - F/A 10(料 金グループ)	ACLO	ACLO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
41	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
42	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
43	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

45	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
48	経過日付一時変更	DAGO	DAGO	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
49	経過計算停止	AGS	AGS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
50	備考/摘要	EXA	EXA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
51	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
52	労務間接費フラグ	PCFG	PCFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
53	基本単位あたり単価	PRIC	PRIC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
54	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
55	計量単位	UM	UM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
56	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
57	照合伝票(入金伝票/項目)	DOCM	DOCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
58	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
60	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
61	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
63	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
64	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
66	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
68	順序番号	SBSQ	SBSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
69	2 次順序番号	SCSQ	SCSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
70	請求制御 ID	BCI	BCI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
72	支払順序番号	PMSQ	PMSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
74	取引分類	TCLS	TCLS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
78	請求書日付	IVD	IVD	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
79	保留コード (サービス請求)	HLD	HLD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
80	リリース日付 (ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
81	無効 (V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
82	活動中バッチ番号	ICUA	ICUA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
83	前回仕訳状況コード	JRSP	JRSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
84	労務間接費保留	BDPN	BDPN	次のように WorldSoftware の値を J.D. Edwards 5 の値に変換します。 <ul style="list-style-type: none"> Y = 1 Y 以外の値をそのままコピー
85	分割リンク	SLNK	SLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
86	追加料金リンク	CLNK	CLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
88	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
89	追加料金の請求書レート・テーブル	CINR	CINR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
90	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

91	調整理由コード	SBAR	SBAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
92	テーブル比較基準日(ユリウス暦)	TBDT	TBDT	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
93	上限レートの使用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
95	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
96	収益割増金額	ADCR	ADCR	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
97	上限レートの使用(請求書)	CAPI	CAPI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
98	請求書一時変更割増レート	BRTI	BRTI	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>

99	請求書割増パーセント	PCIM	PCIM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
100	請求書割増金額	ADCI	ADCI	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示 小数点以下桁数を使用して変換されます。多通貨 処理がオンの場合、通貨モードの値により表示 小数点以下桁数が決まります。 CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数 点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定さ れた国内通貨から変換されます。 CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点 以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管され た外貨から変換されます。
101	課税対象(購買時)	TX	TX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
102	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
103	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
105	割引率(支払条件)	DCP	DCP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
106	仕訳税額	JTAX	JTAX	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表 示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小 数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管 された国内通貨から変換されます。
107	仕訳税額(外貨)	JTXF	JTXF	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表 示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小 数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管 された国内通貨から変換されます。
108	収益金額	BTOL	BTOL	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表 示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小 数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管 された国内通貨から変換されます。
109	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
110	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
111	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

112	請求済み合計(外貨)	FTOL	FTOL	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
114	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
115	請求書の税額	ITAM	ITAM	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
116	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
117	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
118	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
119	請求書の課税対象額(外貨)	CITX	CITX	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。

120	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
121	請求書仕訳状況コード	IJUST	IJUST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
122	印刷済みフラグ	PRTF	PRTF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
123	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
124	作業(A/R)の住所番号	AN80	AN80	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
126	請求書日付	DI	DI	B9100001(ユリウス暦からJDE 日付へ)を使った変換
127	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
131	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
132	複合キー・ブロック	BLKK	BLKK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
133	略式 ID	AID5	AID5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
136	略式 ID	AID6	AID6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
139	入金時請求規則の一時変更	AREX	AREX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
140	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
141	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
142	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

143	留保金	RTNG	RTNG	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
144	保管資材の前回留保金	RTPS	RTPS	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
145	留保金額(外貨)	FRTN	FRTN	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
146	ダウンロード・フラグ(サービス請求)	DWNL	DWNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
147	内部コード・チェック	CBLC	CBLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
148	入力日付	DEJ	DEJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
149	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
150	通貨コード(換算元)	CRCE	CRCE	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
151	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
152	金額	AA2	AA2	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
154	元帳日付(ユリウス暦)	DGJ	DGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
155	請求書の元帳日付(ユリウス暦)	IDGJ	IDGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
156	パス・スルー請求フラグ	PTFG	PTFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
157	品目番号(略式)	ITM	ITM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
158	合計原価/価格	PAID	PAID	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。

159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
161	為替レート日付	ERDT	ERDT	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
164	親作業オーダー番号	PARS	PARS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
165	品目価格グループ	PRGR	PRGR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
166	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
167	請求基準フラグ	BFF	BBF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
168	割増し率	MKRP	MKRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
169	請求書金額基準	FBAS	FBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
170	収益金額基準	RFBS	RFBS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
171	キー・タイプ(割増テーブル・ タイプ 1)	TKM1	TKM1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
172	キー・タイプ(割増テーブル・ タイプ 2)	TKM2	TKM2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
173	キー・タイプ(割増テーブル・ タイプ 3)	TLM3	TKM3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
174	キー・タイプ(勘定科目決定 基準テーブル 1)	TKA1	TKA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
175	キー・タイプ(勘定科目決定 基準テーブル 2)	TKA2	TKA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
176	キー・タイプ(勘定科目決定 基準テーブル 3)	TKA3	TKA3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
177	キー・タイプ(元帳クラス・テ ーブル)	TKG1	TKG1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
178	キー・タイプ(税決定基準テ ーブル)	TKT1	TKT1	このカラムは J.D. Edwards 5 テーブルに自動入力 されません。

179	収益金額(履歴)	HBTL	HBTL	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
180	請求書金額(履歴)	HITL	HITL	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
181	請求書の課税対象金額(履歴)	HITX	HITX	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
182	請求書の税額(履歴)	HTAM	HTAM	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>

183	基本単位あたり単価(外貨)	PRIF	PRIF	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
184	上限(NTE)制御フラグ	NCTL	NCTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
185	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
186	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
187	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
190	出荷元地理コード		VGCSF	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。
191	オーダー承認地理コード		VGCOA	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。
192	Vertex 取引タイプ		VVTY	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。
193	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。

F4812H テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4812H の変換 - World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894812HB

変換するテーブル: 請求ワークテーブル履歴(F4812H)

WorldSoftware テーブルのカラム数 189

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 193

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	伝票(伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	元帳日付	DGL	DGL	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	仕訳行番号	JELN	JELN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

6	略式 ID	AID	AID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 11	RP11	RP11	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
14	作業オーダー・カテゴリ・コード 1 (フェーズ)	WR01	WR01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	作業オーダー・カテゴリ・コード 7 (JDE サービス・タイプ)	WR07	WR07	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	元帳タイプ	LT	LT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	西暦上 2 桁	CTRY	CTRY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	会計年度	FY	FY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
19	会計期間 - 総勘定元帳	PN	PN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	当初伝票タイプ	ODCT	ODCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
24	伝票会社 (当初オーダー)	OKCO	OKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
25	購買オーダー	PO	PO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
27	伝票会社 (購買オーダー)	PKCO	PKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

30	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	カテゴリ・コード - G/L 2	R002	R002	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
32	カテゴリ・コード - G/L 3	R003	R003	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
38	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
39	作業設備	EQWO	EQWO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
40	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACLO	ACLO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
41	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
42	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
43	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
45	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
48	経過日付一時変更	DAGO	DAGO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
49	経過計算停止	AGS	AGS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
50	備考/摘要	EXA	EXA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
51	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
52	労務間接費フラグ	PCFG	PCFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
53	基本単位あたり単価	PRIC	PRIC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

54	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
55	計量単位	UM	UM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
56	金額	AA	AA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
57	照合伝票(入金伝票/項目)	DOCM	DOCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
58	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
60	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
61	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
63	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
64	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
66	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
68	順序番号	SBSQ	SBSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
69	2 次順序番号	SCSQ	SCSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
70	請求制御 ID	BCI	BCI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
72	支払順序番号	PMSQ	PMSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
74	取引分類	TCLS	TCLS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

76	仕訳状況コード	JRST	JRST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
78	請求書日付	IVD	IVD	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
79	保留コード (サービス請求)	HLD	HLD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
80	リリース日付 (ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
81	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
82	活動中バッチ番号	ICUA	ICUA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
83	前回仕訳状況コード	JRSP	JRSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
84	労務間接費保留	BDPN	BDPN	次のように WorldSoftware の値を J.D. Edwards 5 の値に変換します。 <ul style="list-style-type: none"> Y = 1 Y 以外の値をそのままコピー
85	分割リンク	SLNK	SLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
86	追加料金リンク	CLNK	CLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
88	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
89	追加料金の請求書レート・テーブル	CINR	CINR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
90	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
92	テーブル比較基準日 (ユリウス暦)	TBDT	TBDT	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
93	上限レートの使用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
95	収益割増パーセント	PERT	PERT	<p>表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。</p>
96	収益割増金額	ADCR	ADCR	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
97	上限レートの使用(請求書)	CAPI	CAPI	<p>J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。</p>
98	請求書一時変更割増レート	BRTI	BRTI	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
99	請求書割増パーセント	PCIM	PCIM	<p>表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。</p>

100	請求書割増金額	ADCI	ADCI	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
101	課税対象(購買時)	TX	TX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
102	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
103	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
105	割引率(支払条件)	DCP	DCP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
106	仕訳税額	JTAX	JTAX	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。</p>
107	仕訳税額(外貨)	JTXF	JTXF	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。</p>
108	収益金額	BTOL	BTOL	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。</p>
109	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
110	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
111	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

112	請求済み合計(外貨)	FTOL	FTOL	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
114	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
115	請求書の税額	ITAM	ITAM	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
116	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
117	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
118	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。

119	請求書の課税対象額(外貨)	CITX	CITX	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
120	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
121	請求書仕訳状況コード	IJST	IJST	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
122	印刷済みフラグ	PRTF	PRTF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
123	パッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
124	作業(A/R)の住所番号	AN80	AN80	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
126	請求書日付	DI	DI	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
127	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
131	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
132	複合キー・ブロック	BLKK	BLKK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
133	略式 ID	AID5	AID5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
136	略式 ID	AID6	AID6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
139	入金時請求規則の一時変更	AREX	AREX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
140	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

141	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
142	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
143	留保金	RTNG	RTNG	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
144	保管資材の前回留保金	RTPS	RTPS	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
145	留保金額(外貨)	FRTN	FRTN	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CROF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
146	ダウンロード・フラグ(サービス請求)	DWNL	DWNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
147	内部コード・チェック	CBLC	CBLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
148	入力日付	DEJ	DEJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
149	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
150	通貨コード(換算元)	CRCE	CRCE	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
151	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
152	金額	AA2	AA2	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CROF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
154	元帳日付(ユリウス暦)	DGJ	DGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換

155	請求書の元帳日付(ユリウス暦)	IDGJ	IDGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
156	パス・スルー請求フラグ	PTFG	PTFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
157	品目番号(略式)	ITM	ITM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
158	合計原価/価格	PAID	PAID	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
161	為替レート日付	ERDT	ERDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
164	親作業オーダー番号	PARS	PARS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
165	品目価格グループ	PRGR	PRGR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
166	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
167	請求基準フラグ	BBF	BBF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
168	割増し率	MKRP	MKRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
169	請求書金額基準	FBAS	FBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
170	収益金額基準	RFBS	RFBS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
171	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 1)	TKM1	TKM1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
172	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 2)	TKM2	TKM2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
173	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 3)	TKM3	TKM3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

174	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 1)	TKA1	TKA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
175	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 2)	TKA2	TKA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
176	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 3)	TKA3	TKA3	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
177	キー・タイプ(元帳クラス・テーブル)	TKG1	TKG1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
178	キー・タイプ(税決定基準テーブル)	TKT1	TKT1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
179	収益金額(履歴)	HBTL	HBTL	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
180	請求書金額(履歴)	HITL	HITL	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
181	請求書の課税対象金額(履歴)	HITX	HITX	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>

182	請求書の税額(履歴)	HTAM	HTAM	<p>A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM の値が D の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換されます。</p> <p>CRRM の値が F の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された外貨から変換されます。</p>
183	基本単位あたり単価(外貨)	PRIF	PRIF	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
184	上限(NTE)制御フラグ	NCTL	NCTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
185	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
186	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
187	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
190	出荷元地理コード		VGCSF	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。
191	オーダー承認地理コード		VGCOA	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。
192	Vertex 取引タイプ		VVTY	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。
193	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。

F4822 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4822 の変換 – World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894822B

変換するテーブル: 請求書集計ワークテーブル(F4822)

WorldSoftware テーブルのカラム数 99

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 103

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	契約請求書番号	APPL	APPL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	調整番号	ADJN	ADJN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
11	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	契約の価格設定タイプ	PRTP	PRTP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	請求一時停止	BLSP	BLSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	作業(A/R)の住所番号	AN8O	AN8O	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
15	住所番号 - 代替受取人	AN8J	AN8J	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
16	支払条件コード	PTC	PTC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
17	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
18	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

19	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
20	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
21	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
22	請求期間開始日	BTFR	BTFR	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
23	請求期間終了日	BTDT	BTDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
24	元帳日付	DGL	DGL	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
25	支払期日	DDJ	DDJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
26	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
27	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
28	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
29	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
30	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
31	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
32	契約請求書日付	APDT	APDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
33	契約請求書の転記済みコード	APPO	APPO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
34	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
35	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
36	請求書タイプ	INTY	INTY	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
37	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
38	計量単位	UM	UM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
39	単価	UP	UP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
40	外貨単価	FUP	FUP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
41	前回請求数量(当期)	PUHP	PUHP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。

42	金額	AA	AA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
43	外貨建て金額	ACR	ACR	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
44	現行期間	THPD	THPD	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
45	現行期間(外貨)	FHPD	FHPD	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
46	現行期間(再計算)	RTHP	RTHP	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
47	当期請求済み金額	PTHP	PTHP	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
48	当期請求済み外貨金額	FTHP	FTHP	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
49	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
50	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
51	税額	STAM	STAM	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。

52	税額(外貨)	CTAM	CTAM	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
53	前回税額	PTAM	PTAM	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
54	前回税額(外貨)	FPTA	FPTA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
55	課税対象額	ATXA	ATXA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
56	課税対象額(外貨)	CTXA	CTXA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
57	前回課税対象額	PATX	PATX	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
58	前回課税対象額(外貨)	FATX	FATX	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
59	課税対象外金額	ATXN	ATXN	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。

60	課税対象外金額(外貨)	CTXN	CTXN	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
61	留保金リリース・フラグ	RTRE	RTRE	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
62	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
63	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
64	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
65	留保金税計算フラグ	RCTL	RCTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
66	留保金	RTNG	RTNG	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
67	留保金額(外貨)	FTNG	FTNG	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
68	前回留保金額	RTNP	RTNP	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
69	前回留保金額(外貨)	FTNP	FTNP	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
70	繰延税額(国内通貨)	DDTR	DDTR	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。

71	繰延税額(外貨)	FDTR	FDTR	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
72	保存資材の未払/繰延費用	STML	STML	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
73	保存資材の未払/繰延費用(外貨)	FTML	FTML	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
74	保管資材の請求済み金額	PSMA	PSMA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
75	保管資材の請求済み金額(外貨)	FSMA	FSMA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
76	保管資材の留保金規則	RTN1	RTN1	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
77	保管資材の留保金	SMRT	SMRT	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
78	保管資材の留保金(外貨)	SMRF	SMRF	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
79	保管資材の前回留保金	SMRP	SMRP	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。

80	保管資材の前回留保金 (外貨)	SMPF	SMPF	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
81	労務費合計	TLAB	TLAB	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
82	労務費合計(外貨)	FLAB	FLAB	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
83	労務間接費合計	TBUR	TBUR	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
84	労務間接費合計(外貨)	FBUR	FBUR	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
85	割引可能額	ADSC	ADSC	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
86	割引可能額(外貨)	CDS	CDS	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
87	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
88	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
89	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
90	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
91	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

92	備考	RMK	RMK	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
93	入力値モード	MIVL	MIVL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
94	保管資材の入力モード	MISM	MISM	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
95	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
96	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
97	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
98	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
99	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
100	出荷元地理コード		VGCSF	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。
101	オーダー承認地理コード		VGCOA	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。
102	Vertex 取引タイプ		VVTY	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。
103	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルではブランクになります。

F48520 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48520 の変換 – World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R8948520B

変換するテーブル: 請求書集計アクセス(F48520)

WorldSoftware テーブルのカラム数 23

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 23

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	元帳日付	DGL	DGL	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
2	住所番号	AN8	AN9	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

6	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	オーダー会社	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
10	行番号	LNID	LNID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
12	通貨コード	CRCO	CRCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
14	請求書金額	ITOL	ITOL	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCO フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
15	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCO フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
16	請求書の税額	ITAM	ITAM	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCO フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
17	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCO フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
18	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
19	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。

20	請求書の税額(外貨)	CITX	CITX	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
21	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。
22	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
23	金額	AA	AA	A8.1 で多通貨処理がオフの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換されます。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保管された国内通貨から変換されます。

F4860 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4860 の変換 - World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894860B

変換するテーブル: 追加料金テーブル・マスター(F4860)

WorldSoftware テーブルのカラム数 10

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 10

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F4861 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4861 の変換 - World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894861B

変換するテーブル: 追加料金明細テーブル(F4861)

WorldSoftware テーブルのカラム数 13

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 13

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
3	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
4	順序番号	SEQ	SEQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	追加料金パーセント	CRTP	CRTP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。 WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込みます。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
11	追加料金レート基準	UORC	UORC	次のように WorldSoftware の値を J.D. Edwards 5 の値に変換します。 <ul style="list-style-type: none"> C = 1 U = 2
12	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
13	固有キーID	UKD	UKID	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

F4862 テーブルの A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4862 の変換 – World A8.1 から J.D. Edwards 5〉を選択します。

変換プログラム: R894862B

変換するテーブル: 追加料金相互参照(F4862)

WorldSoftware テーブルのカラム数 5

J.D. Edwards 5 テーブルのカラム数 5

	フィールド記述	A8.1	JDE 5	変換ロジック
1	基準追加料金コード	CBSS	CBSS	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
2	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。
5	通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピーします。

Vertex 社の Quantum Sales & Use Tax

次のシステムでは、Vertex 社の Quantum for Sales & Use Tax と連動して売上税/消費税を自動計算できます。

- 一般会計
- 売掛管理
- 買掛管理
- 受注管理
- 調達管理
- カスタマー・サービス管理(CSMS)
- 契約請求
- サービス請求

注意:

J.D. Edwards 給与計算システムを使用している場合は、Quantum for Payroll Tax System を使用する必要があります。『Payroll(給与計算)』ガイドの「Setting Up Tax Information(税情報の設定)」を参照してください。

参照

- Vertex 社の Quantum for Sales & Use Tax 製品の使用については、『Interface to Vertex Quantum for Sales and Use Tax(Vertex 社の Quantum for Sales & Use Tax とのインターフェイス)』ガイド

